

番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 灰原	39	鬼瓦	5.5	-	-	3.6+	-	-	表面：10YR 6/3	表面：ナデ 裏面：剥離 部位：不明	H-007	25-1
2	3号窯跡	16	棟平瓦	4.4+	17.9+	-	-	12.0+	3.2+	瓦当面表：10YR 5/1 瓦当面裏：N 5/0	瓦当面：縄叩き→笵、ヘラ描き波状文、下端面圧痕、ヘラケズリ 瓦当面裏：ナデ、下端面圧痕 頸面：縄叩き→ヘラ描き波状文	H-008	25-5
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調		成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
3	3号窯跡	39	土師器 甕	-	(6.6)	(4.3)	-	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR6/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	底部：回転糸切り	D-001	25-6	
4	3号窯跡	32	須恵器 坏	(15.0)	(6.2)	5.5	-	外面：5Y7/1 内面：5T7/1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	底部：回転糸切り	E-002	25-7	
5	3号窯跡	5	須恵器 坏	-	(6.2)	(1.8)	-	外面：10YR4/1 内面：10YR4/1	外面：ロクロナデ→下半手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	底部：回転糸切り	E-003	25-8	

第80図 3号窯跡出土遺物(21)

床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は残存していない。

【 窯 体 構 造 】 半地下式有階無段の竈窯である。

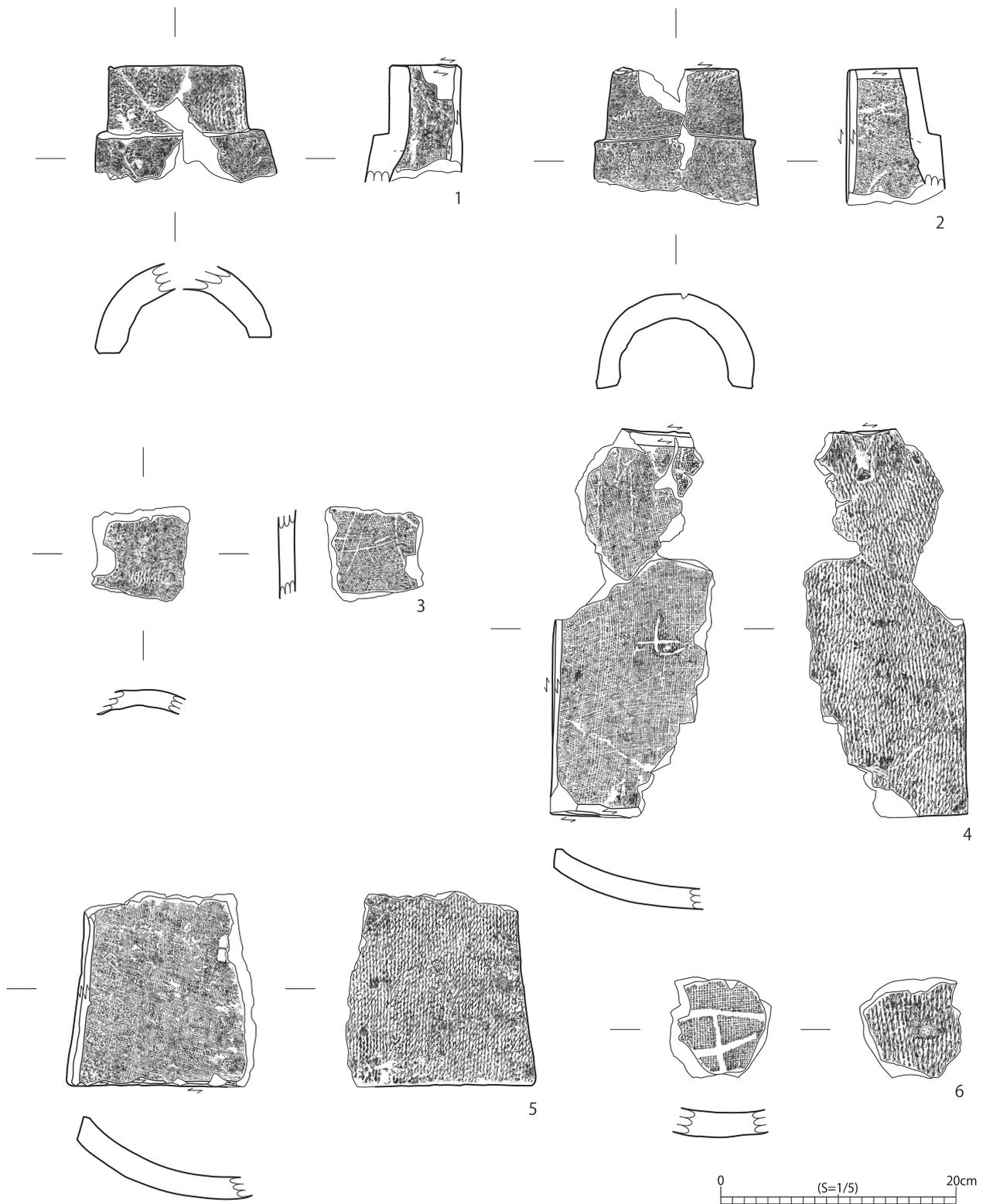
【 規 模 】 全長 5.25m、幅 65cm、残存壁高 50cmである。

【 中 軸 線 の 方 向 】 N - 56° - E

【 操 業 面 数 】 3面 (A期：構築時床面、B期：細別6層上面、C期：細別4層上面)

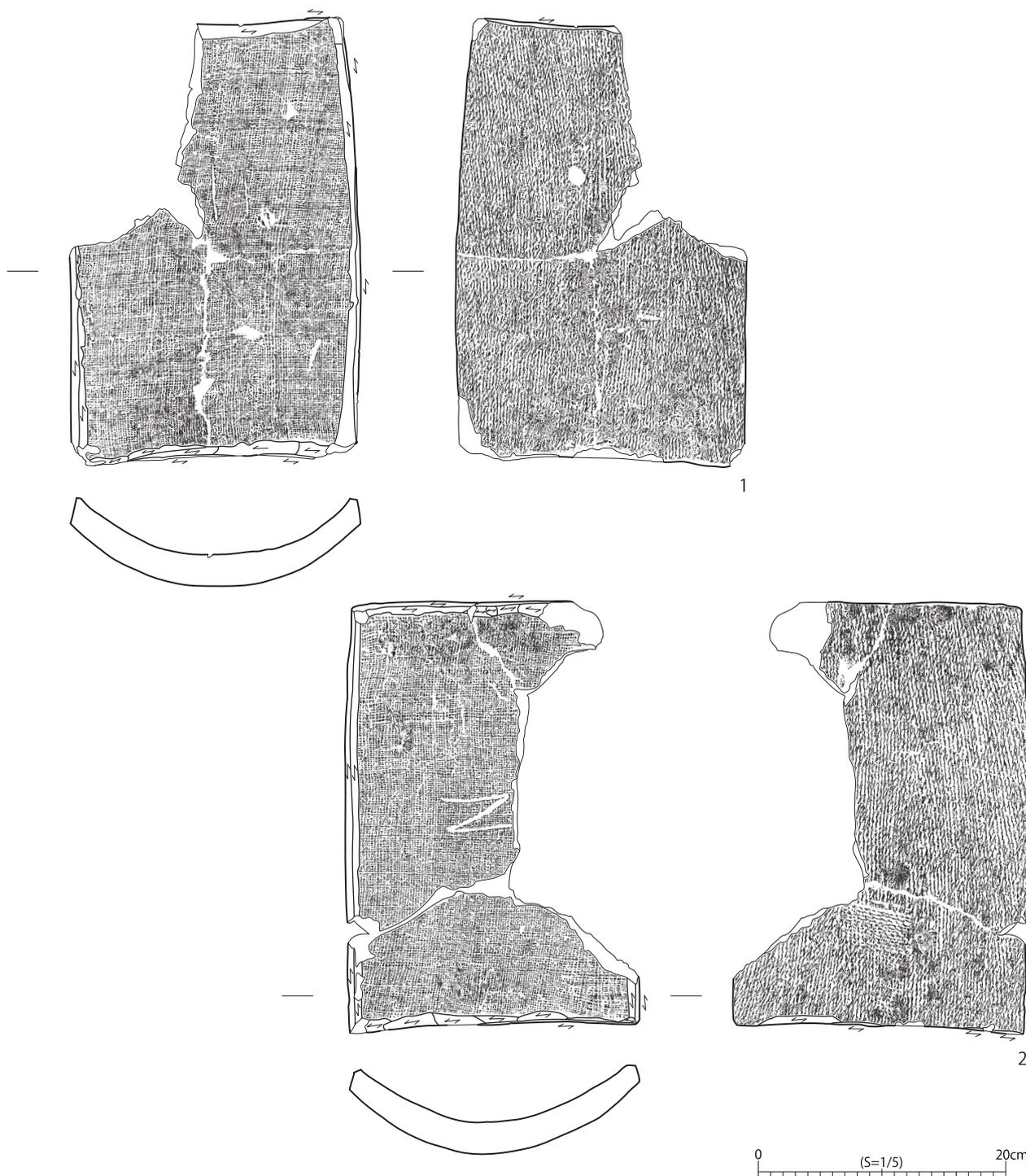
【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

【 焼 成 部 】 長さは 3.0m、最大幅は 65cm、残存する壁高は 40cmで、平面形は、長方形である。床面には、凹凸は認められず、奥壁側では 8°、燃烧部側では 25°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部で明瞭な屈曲を持たずやや開き、北側奥壁では床面から 118°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	丸瓦	10.0+ 玉5.3	- 玉11.9	14.2 玉11.3	2.7	-	-	凹面：7.5YR 6/4 凸面：7.5YR 5/4	凹面：粘土組織→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-025	25-9
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	丸瓦	11.8+ 玉5.7	- 玉11.9	13.6 玉10.6	2.4	-	-	凹面：5YR 6/3 凸面：5YR 7/4	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-026	25-10
3	3号窯跡 排水溝(3号溝)	1	丸瓦	8.1+ 玉-	8.4+ 玉-	-	1.4 玉-	-	-	凹面：7.5YR 7/6 凸面：7.5YR 6/4	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ	F-027	25-11 106
4	3号窯跡 排水溝(3号溝)	4	平瓦	33.4	6.6+	5.7+	1.9	-	-	凹面：5YR 5/2 凸面：5YR 5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ	G-102	25-12 104
5	3号窯跡 排水溝(3号溝)	4	平瓦	16.8+	14.8+	-	2.1	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：10YR 6/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	G-103	25-16 98
6	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	平瓦	8.7+	8.6+	-	2.2	-	-	凹面：10YR 6/3 凸面：10YR 6/4	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ	G-104	25-15 106

第81図 3号窯跡出土遺物(22)・排水溝(3号溝)出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	平瓦	36.6	17.5 (23.2)	11.9 (22.5)	2.6	-	-	凹面：7.5YR 5/2 凸面：5YR 6/3	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「11」	G-105	25-17 102
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	平瓦	35.3	23.2	17.9 (23.6)	2.6	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：7.5YR 6/3	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「Z」	G-106	26-1 102

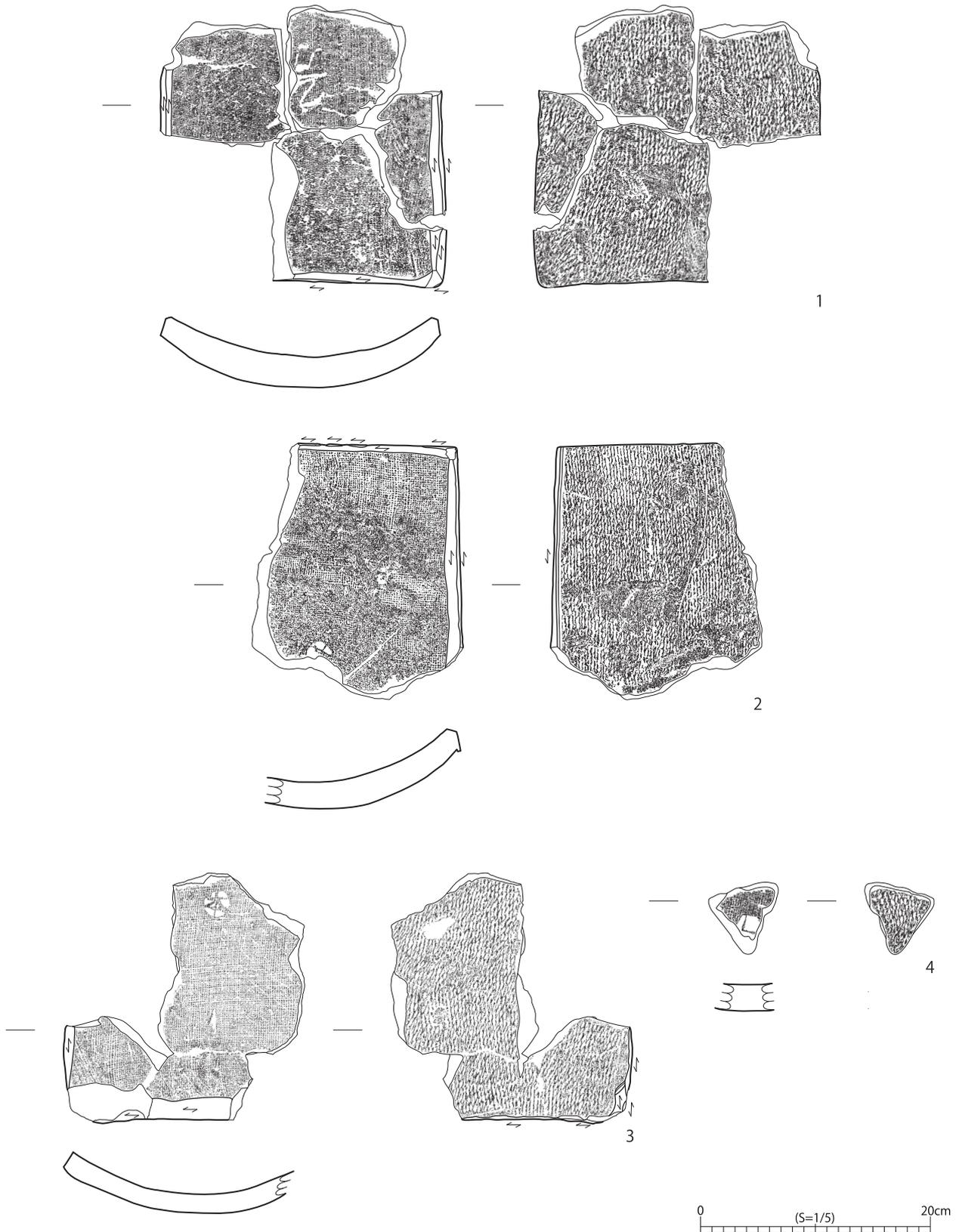
第82図 3号窯跡出土遺物(23)・排水溝(3号溝)出土遺物(2)

平瓦を2～3枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.6mの間に9列が確認されている(写真11-4・7)。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

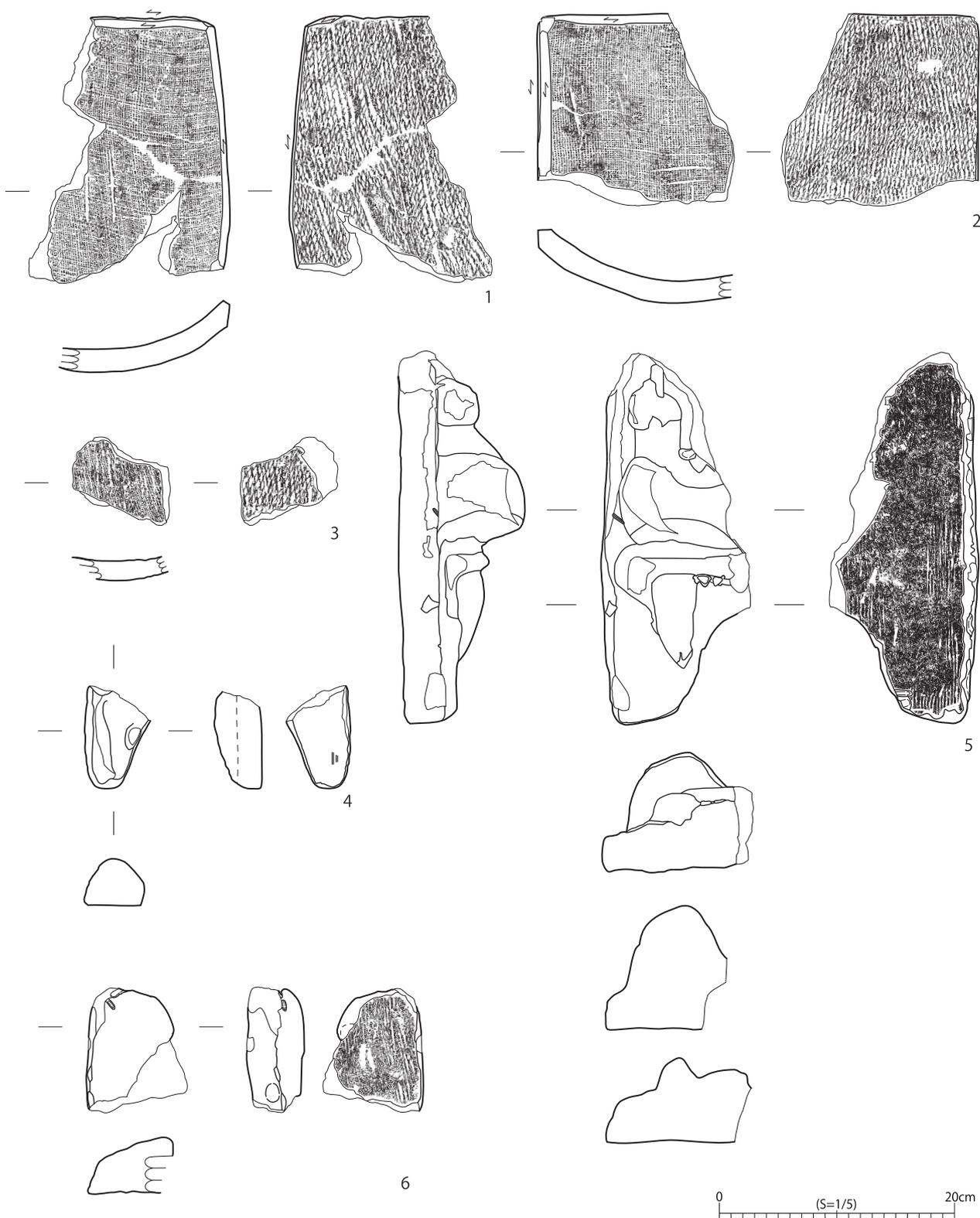
焼成部に伴う構架材は、19ヶ所で検出した(写真11-9)。構架材は全て壁外で確認しており、西側で11ヶ所、東側で8ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【 燃 焼 部 】 長さは70cm、最大幅は45cm、残存する壁高は50cmで、平面形は長方形である。床面には凹



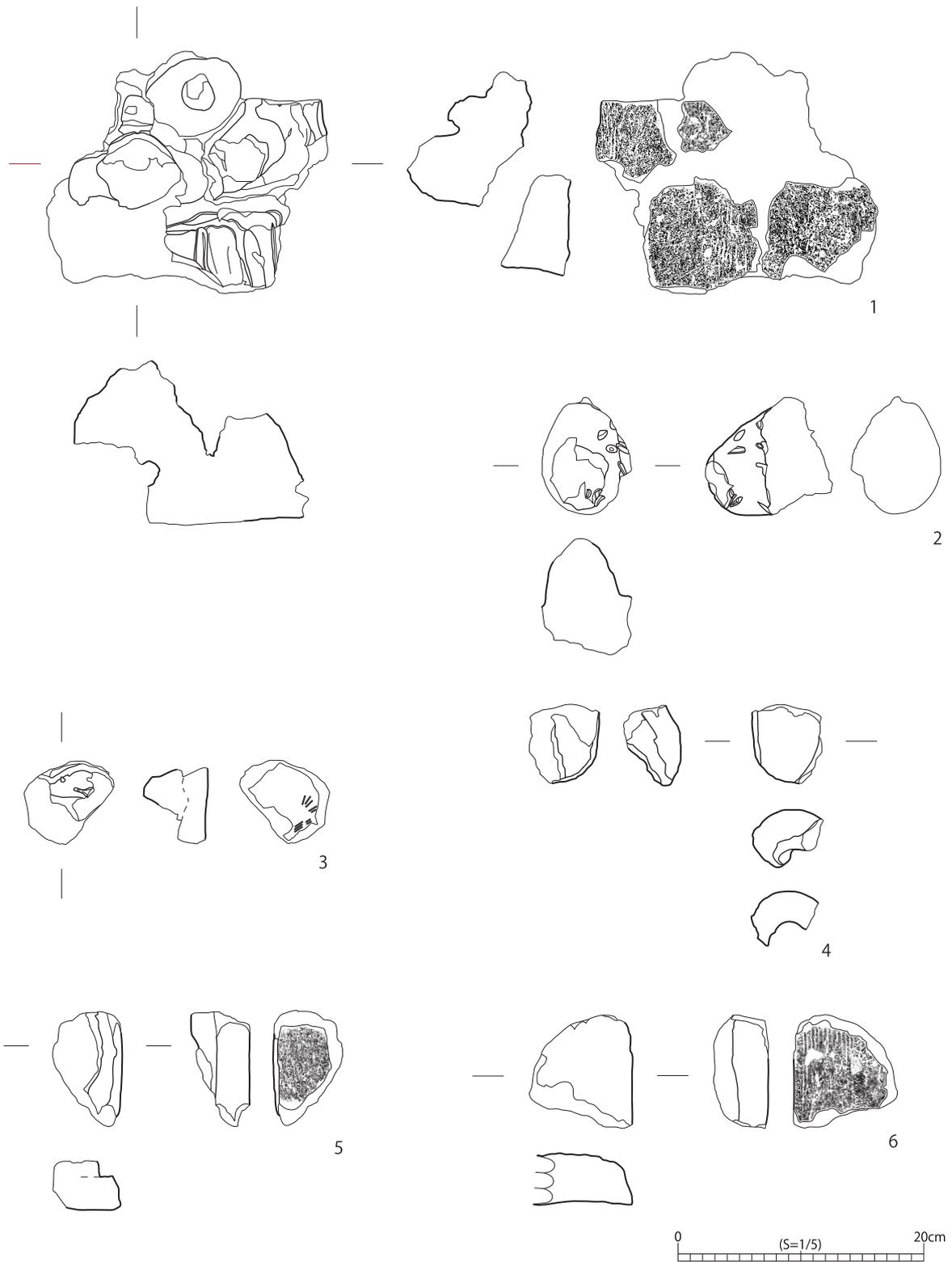
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	平瓦	24.9+	12.5+	-	2.9	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：5YR 5/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「岩カ」	G-107	26-3 103
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	平瓦	22.5+	-	13.8+	2.5	-	-	凹面：2.5YR 5/4 凸面：2.5YR 5/4	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→一部ナデ 凹型台庄痕 周縁：側面・狭端面ヘラケズ 凹面：押印㊦カ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-108	25-13 99
3	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	平瓦	22.0+	11.8+	-	1.8	-	-	凹面：7.5YR 7/4 凸面：7.5YR 6/3	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：押印㊦	G-109	26-5 99
4	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	平瓦	6.3+	6.1+	-	2.4	-	-	凹面：7.5YR 6/3 凸面：7.5YR 6/3	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 凹面：押印㊦	G-110	25-14 100

第83図 3号窯跡出土遺物(24)・排水溝(3号溝)出土遺物(3)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	平瓦	22.9+	-	10.5+	2.0	-	-	凹面：10YR 4/1 凸面：2.5Y 4/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「11」	G-111	26-6 102
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	1	平瓦	16.5+	-	10.7+	2.0	-	-	凹面：2.5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「ㄗ」	G-112	26-2 104
3	3号窯跡 排水溝(3号溝)	1	平瓦	7.5+	8.3+	-	1.6	-	-	凹面：7.5YR 7/3 凸面：7.5YR 7/4	凹面：縄叩き→布目痕 凸面：布目痕→縄叩き	G-113	26-4
4	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	鬼瓦	8.8+	5.4	-	4.2+	-	-	表面：10YR 7/3 裏面：10YR 7/4	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ナデ 部位：牙	H-009	26-8
5	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	31.9+	12.6+	-	11.5+	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：7.5YR 7/4	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ナデ 粘土板に粘土貼付 部位：右顔面	H-010	26-7
6	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	10.7+	8.6+	-	4.9	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：7.5YR 6/3	表面：ヘラナデ 裏面：ハケメ→ナデ、上端粘土貼り合せ 側面：ナデ→圧痕 部位：不明	H-011	26-9

第84図 3号窯跡出土遺物(25)・排水溝(3号溝)出土遺物(4)

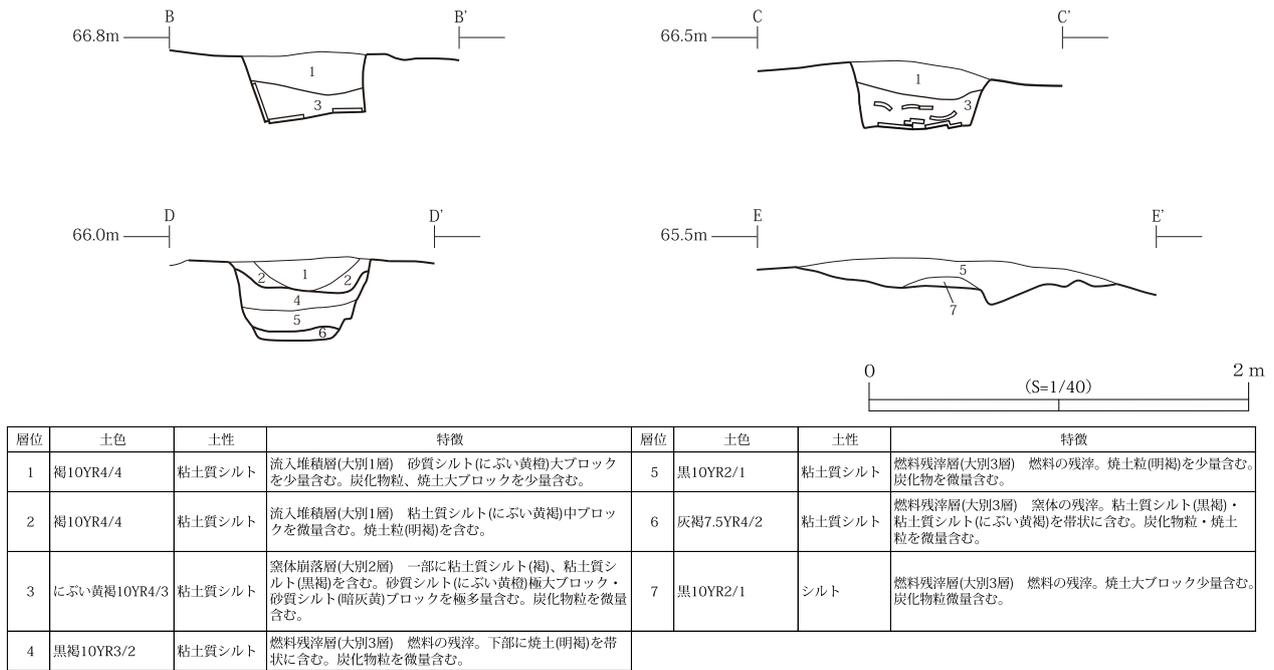


番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	鬼瓦	19.9+	19.8+	-	13.3	-	-	表面：10YR6/3 裏面：7.5YR6/4	表面：ナデ→ヘラ工具痕、一部ケズリ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ナデ 粘土板に粘土貼付 部位：顔	H-012	27-1
2	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	9.7	7.3	-	9.5+	-	-	表面：10YR 5/4	表面：ナデ、一部ケズリ、刺突痕 裏面：欠損 側面：ナデ 部位：眼	H-013	27-2
3	3号窯跡 排水溝(3号溝)	3	鬼瓦	6.8+	-	-	5.2	-	-	表面：10YR6/3 裏面：10YR6/4	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ 粘土板に粘土貼付 部位：不明	H-014	27-3
4	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	6.5+	5.6+	-	4.7+	-	-	表面：10YR 5/3 孔内：5Y 3/1	表面：ナデ 孔内：ユビナデ 部位：鼻	H-015	27-4
5	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	9.4+	4.7+	-	4.2	-	-	表面：10YR 7/3 裏面：7.5YR 7/3	表面：ナデ 裏面：ナデ 側面：ナデ 部位：牙	H-016	27-5
6	3号窯跡 排水溝(3号溝)	2	鬼瓦	9.1+	8.4+	-	4.1	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：10YR 5/3	表面：ナデ 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ハケメ→ナデ 部位：不明	H-017	27-6

第85図 3号窯跡出土遺物(26)・排水溝(3号溝)出土遺物(5)



第86図 4号窯跡平面図・土層断面図(1)



第87図 4号窯跡土層断面図(2)

凸は認められず、3°の角度で傾斜する。A期は構築時床面、B期はA期の堆積層(6層)の上面を床面とし、C期はB期の堆積層(4層)上面を床面としている。焼成部との間に、20cmの階を有している。東西両側壁は中位から上部で、明瞭な屈曲を持たずにやや開いている。

前庭部との境に僅かな括れを有し、両側壁外のⅢ層の被熱痕跡が確認できなくなる部分が焚口である。床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、焼成部における状況と同様であり、赤褐色化・灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材は、5ヶ所で検出した。構架材は西側壁外で3ヶ所、東側壁外で1ヶ所、床面中央部で1ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【前庭部】 燃焼部で確認している焚口の南側が前庭部にあたる。長さは1.55m、幅は50cm、残存する壁高は45cmの長方形である。床面に凹凸は認められない。

前庭部からは、構架材は3ヶ所で検出した。構架材は西側壁内で1ヶ所、東側壁外で2ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

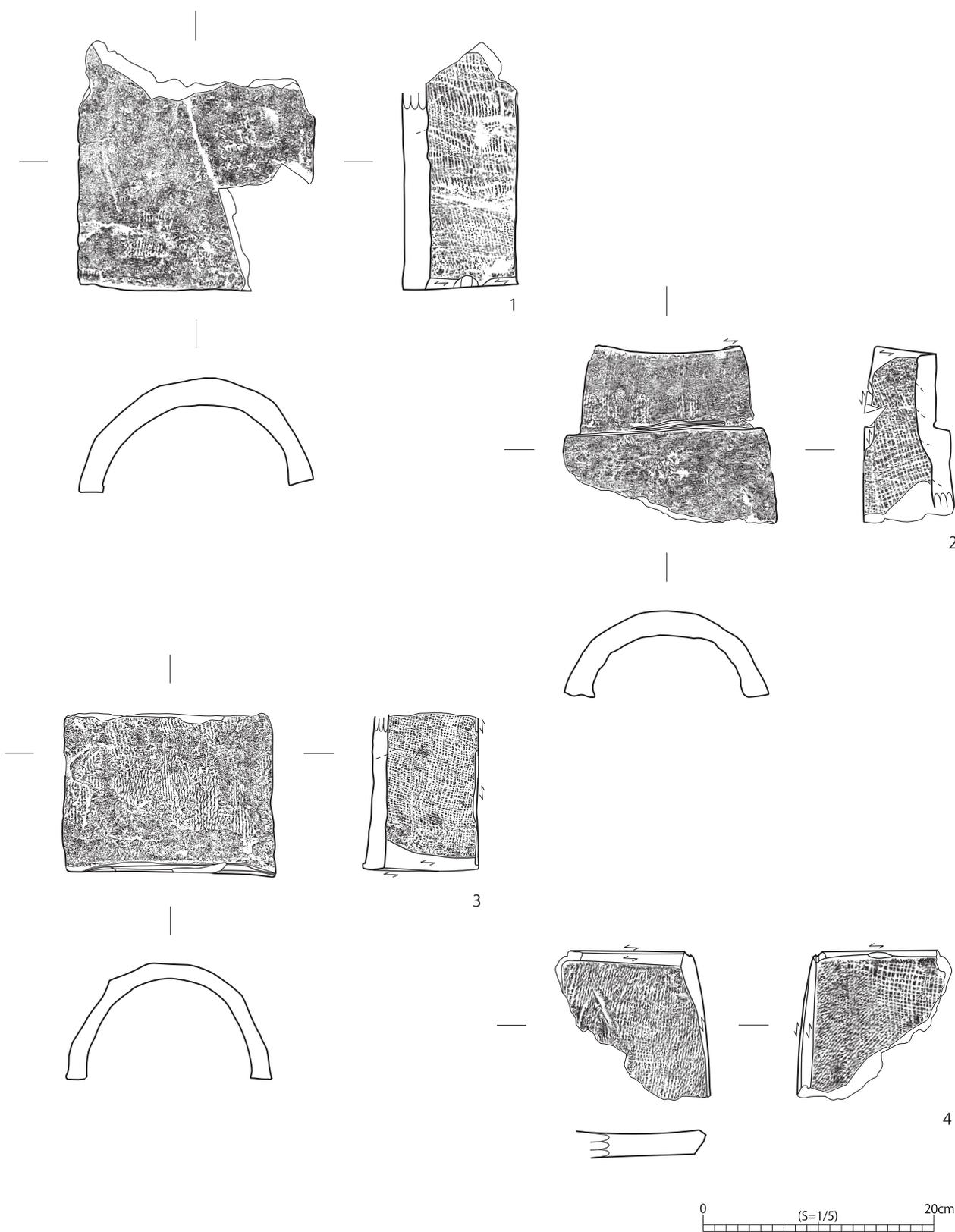
【堆積層】 大別3層、細別で8層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：窯体崩落層。大別3層：B・A期の燃焼部から灰原に広がる燃料残滓層。

【灰原】 前庭部の南側斜面に認められ、長さは4.4m、幅は2.9mである。A・B期の燃料残滓層である。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、土師器、須恵器が出土している。総破片数は75点で、6点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦・須恵器、大別2層から丸瓦・平瓦、大別3層から丸瓦・平瓦・土師器が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

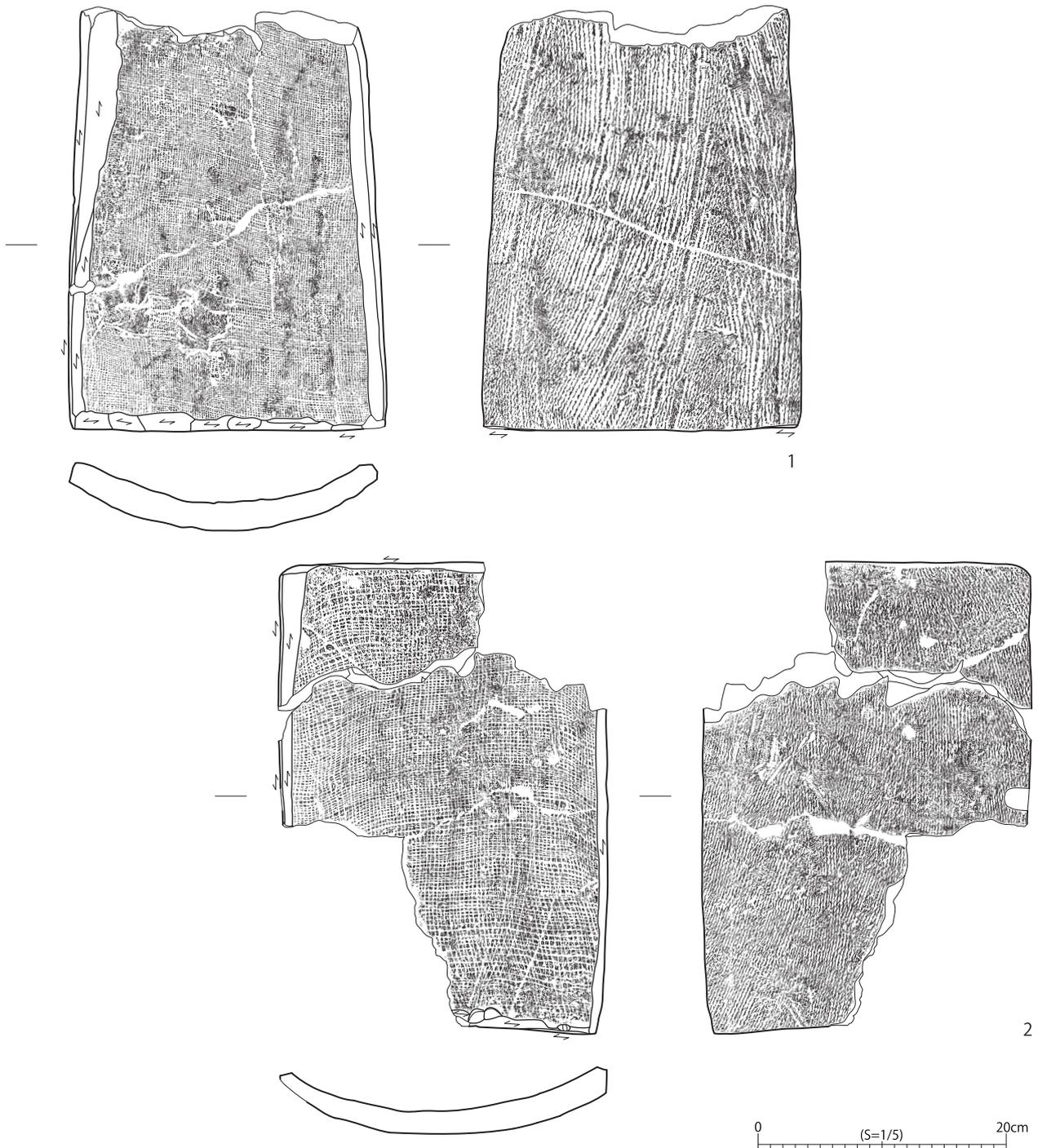
5号窯跡(SO5)(第90～93図・第6表)

【確認状況】 調査区北部の南側斜面、C-6、D-5・6グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好で、焼成部・燃焼部・前庭部・灰原を確認した。本窯跡に伴う灰原は東側で、4号窯跡に伴う灰原の西側上部を覆っていることから、4号窯跡よりも新しい。本窯跡と、東側に隣接する4号窯跡の窯体の間隔は2.85m、西側に隣接する6号窯跡の窯体との間隔は8.25mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	4号窯跡	床面 直上	丸瓦	21.9+ 玉-	13.9 (20.3) 玉-	-	2.4 玉-	-	-	凹面：7.5YR 6/3 凸面：10YR 6/2	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	F-028	27-7
2	4号窯跡	3	丸瓦	15.6+ 玉7.1	- 玉15.0	16.9 玉12.3	1.9 玉1.8	-	-	凹面：2.5Y 6/1 凸面：7.5YR 6/2	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-029	27-8
3	4号窯跡	3	丸瓦	14.3+ 玉-	18.1 玉-	-	1.8 玉-	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：10YR 7/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	F-030	27-9
4	4号窯跡	床面 直上	平瓦	13.1+	-	9.4+	2.2	-	-	凹面：5Y 7/1 凸面：10YR 6/1	凹面：縄叩き→布目痕→ナデ 凸面：布目痕→縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	G-114	27-10

第88図 4号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名 クリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	4号窯跡	床面 直上	平瓦	35.5+	25.2	-	2.3	-	-	凹面：7.5YR 6/3 凸面：5YR 6/3	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	G-115	28-4
2	4号窯跡	1	平瓦	38.4	10.2 (25.5)	16.2 (25.8)	2.3	-	-	凹面：7.5YR 6/4 凸面：7.5YR 6/3	凹面：糸切り痕→布目痕→圧痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：ヘラケズリ→広端面圧痕	G-116	28-1

第89図 4号窯跡出土遺物(2)

前庭部西側及び、窯尻付近の西側には、Ⅲ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。整地層の厚さ、堆積状況は不明である。

【窯体構造】 半地下式有階無段の窖窯である。

【規模】 全長 6.0m、幅 70cm、残存壁高 60cmである。

【中軸線の方向】 N - 56° - E

【作業面数】 3面 (A期：構築時床面、B期：細別6層上面、C期：細別4層上面)

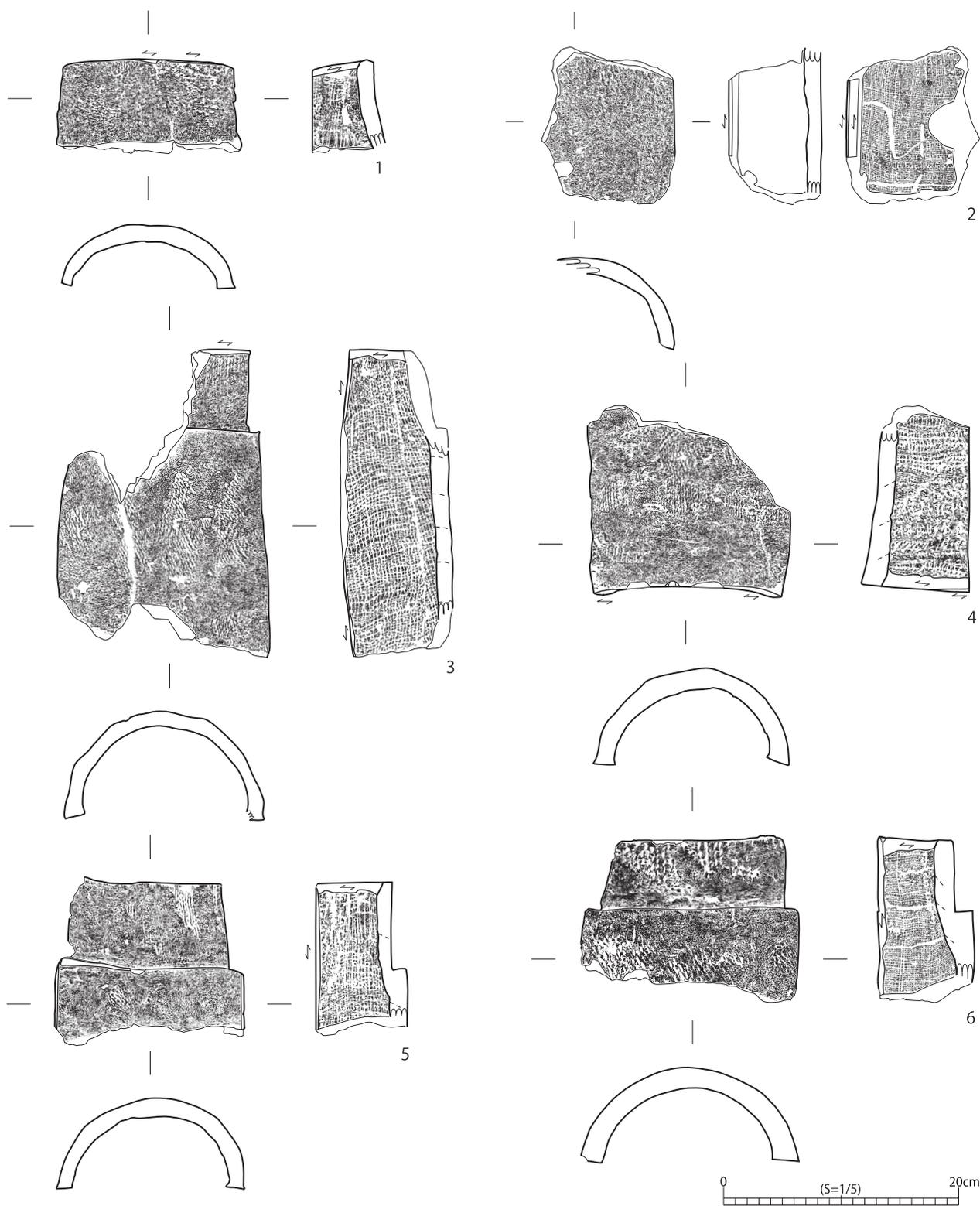
- 灰白色硬化範囲
- 赤褐色化範囲
- 構築材
- にぶい黄褐色整地層範囲
- 確認トレンチ

- サンプル採取地点
- テフラ(火山灰)分析
  - ▲ 放射性炭素年代測定
  - 樹種同定
  - ◆ 蛍光X線分析
  - ★ 植物珪酸体分析



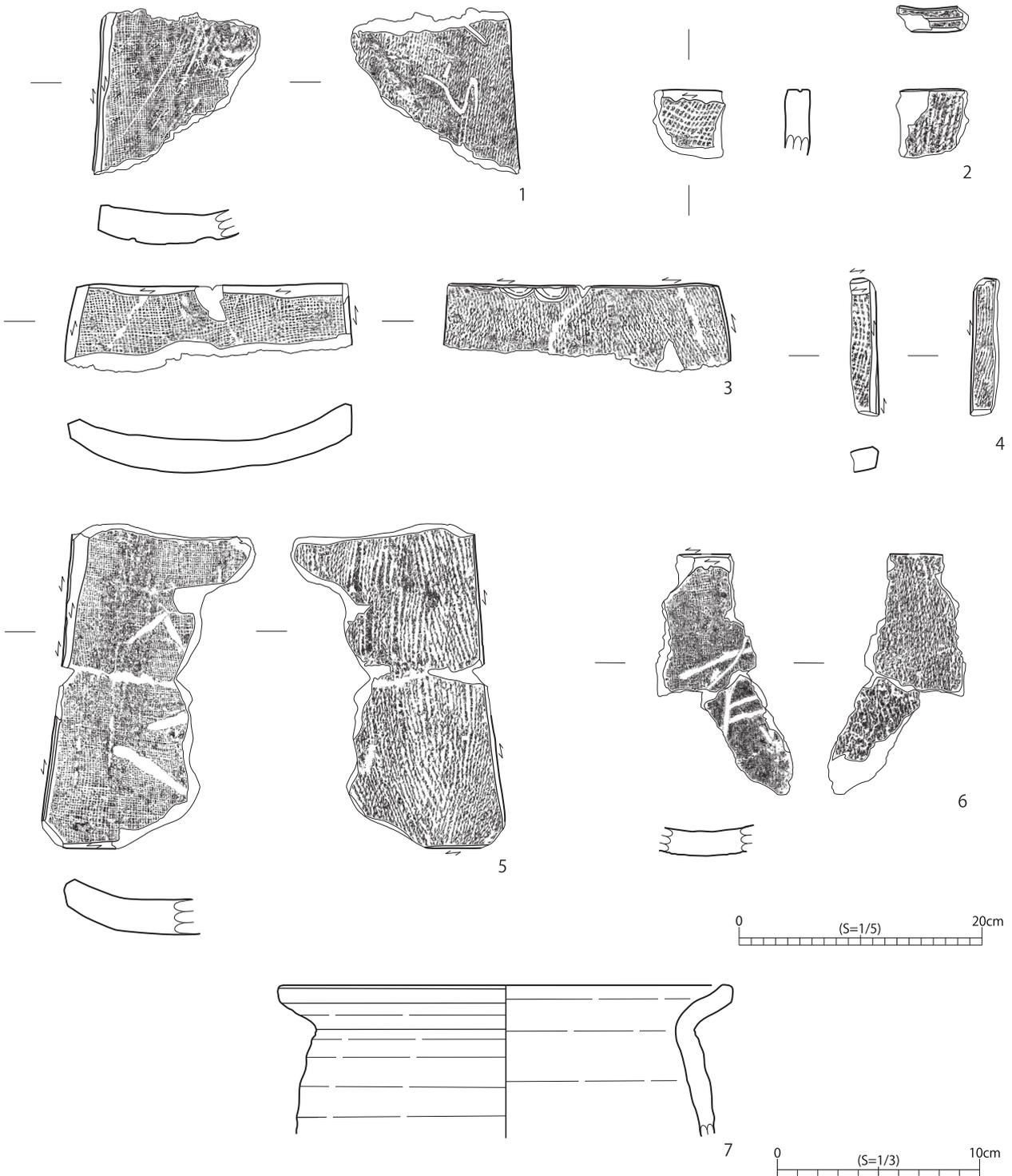
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土質シルト(明黄褐)を帯状に含む。焼土粒を含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。
2	明黄褐10YR6/6	砂質シルト	竈体前落層(大別2層) 砂質シルト(黄褐)をブロック状に極多量含む。粘土質シルト(褐)大ブロックを少量含む。	6	暗褐10YR3/3	砂質シルト	燃料残滓層(大別3層) 竈体の残滓。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。焼土を帯状に含む。
3	黒10YR1.7/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。砂質シルト(黒褐)大ブロックを少量含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。	7	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土質シルト(明黄褐)を帯状に含む。焼土粒を含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。
4	黒褐10YR3/2	砂質シルト	燃料残滓層(大別3層) 竈体の残滓。砂質シルト(にぶい黄褐)大ブロックを極多量含む。焼土粒を微量含む。	8	にぶい黄橙10YR6/4	粘土質シルト	整地層 上部~中部に砂質シルト(黒)大ブロックを多量含む。灰白色火山灰(にぶい黄橙10YR6/4)大ブロックを含む。

第90図 5号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	5号窯跡	底面直上	丸瓦	- 玉8.1	- 玉15.5	玉14.4	1.7	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-031	28-3
2	5号窯跡 灰原	7	丸瓦	13.4+ 玉- 玉7.0	8.3+ 玉- 玉5.4+	- 玉4.4+	1.5 玉- 玉1.7	-	-	凹面：7.5YR 5/3 凸面：7.5YR 5/4	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ナデ 周縁：側面ヘラケズリ	F-032	28-2 106
3	5号窯跡	2	丸瓦	26.4+ 玉7.0	- 玉5.4+	6.2+ 玉4.4+	1.7 玉- 玉1.7	-	-	凹面：N 4/0 凸面：10YR 5/1	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-033	28-7
4	5号窯跡	2	丸瓦	16.4 玉-	16.0 玉-	-	2.0 玉-	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-034	28-8
5	5号窯跡	2	丸瓦	14.5+ 玉7.6	- 玉13.9	15.4 玉10.7 (12.6)	1.6 玉1.2	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：粘土紐痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-035	28-5
6	5号窯跡	2	丸瓦	14.3+ 玉6.5	- 玉15.7	17.5 玉13.5	2.3 玉1.8	-	-	凹面：N3/0 凸面：10YR 5/1	凹面：粘土紐痕→布目痕→ナデ 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-036	28-9

第91図 5号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	5号窯跡	底面 直上	平瓦	13.7+	-	-	2.7	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：2.5Y 6/1	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ→圧痕 周縁：側面ヘラケズリ 凸面：ヘラ書き「スカ」	G-117	28-6 105
2	5号窯跡 灰原	7	平瓦	5.7+	-	5.1+	2.0	-	-	凹面：2.5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：狭端面ヘラケズリ→ヘラ描き沈線	G-118	28-10
3	5号窯跡 灰原	7	平瓦	7.4+	-	22.3	2.7	-	-	凹面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y 4/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→狭端面圧痕	G-119	29-1
4	5号窯跡 灰原	7	平瓦	11.4+	-	1.0+	1.9	-	-	凹面：10YR 6/3 凸面：10YR 6/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 左側面：粘土剥離痕	G-120	28-11
5	5号窯跡 灰原	7	平瓦	27.0+	4.3+	-	2.9	-	-	凹面：5YR 4/2 凸面：2.5YR 4/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-121	29-2 106
6	5号窯跡 灰原	7	平瓦	11.8+	-	4.2+	2.0	-	-	凹面：7.5YR 5/1 凸面：N 5/0	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「有」	G-122	28-12 102
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版		
7	5号窯跡	7	土師器 甕	(22.0)	-	(7.6)	-	外面：5YR6/3 内面：5YR6/3	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	D-002	29-3		

第92図 5号窯跡出土遺物(2)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	5号窯跡	2	平瓦	31.4+	-	25.1	2.2	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ→圧痕 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→圧痕	G-123	29-4
2	5号窯跡	2	平瓦	35.5	8.7+	4.1+	1.6	-	-	凹面：N 3/0 凸面：N 4/0	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	G-124	29-5

第93図 5号窯跡出土遺物(3)

【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

【 焼 成 部 】 長さは3.2m、最大幅は70cm、残存する壁高は50cmで、平面形は、長方形である。床面に凹凸は認められず、17°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部でやや開き、北側奥壁では床面から121°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を3～5枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.4mの間に8列が確認されている（写真12-1）。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、4ヶ所で検出した。構架材は全て壁外で確認しており、西側で2ヶ所、東側で2ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【 燃 焼 部 】 長さは1.1m、最大幅は50cm、残存する壁高は60cmで、平面形は、長方形である。A期は構築時床面、B期はA期の堆積層（6層）上面、C期はB期の堆積層（4層）上面を床面としている。床面には凹凸

は認められず、10°の角度で傾斜する。焼成部との境に40cmの階を有している（写真12-6）。東側壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁中位で屈曲し、上部ではやや開いている。西側壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。焼成部との段差部分には丸瓦・平瓦を横位に差し込み、あるいは貼り付けて壁としている。また、両側壁には、平瓦を垂直に立てて、壁として用いている。

前庭部との境に僅かな括れを有し、Ⅲ層の被熱痕跡が確認できなくなる部分が焚口であると考えられる。

床面・壁面及び窠体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材及び構架材痕跡は、確認されなかった。

【前庭部】 燃焼部で確認されている焚口の南側である。長さは1.7m、幅は70cm、残存する壁高は40cmの長方形である。床面には凹凸が認められる。

【堆積層】 大別3層、細別7層と整地層・流出層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：崩落した天井材・壁材を多量に含む窠体崩落層。大別3層：A～C期の燃焼部に広がる燃料残滓層。細別7層：灰原からの流出層。細別8層：整地層。

【灰原】 前庭部の延長線上、南側斜面に認められ、長軸は8.1m、短軸は6.9m、厚さは40cmである。細別7層は灰原からの流出層であり、その下に整地層が認められる。整地層中には灰白色火山灰を含んでいる。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、土師器が出土している。総破片数は362点で、15点を図示した。大別1・2層から丸瓦・平瓦、大別3層から丸瓦・平瓦・土師器が出土している。そのうち細別11・12層から、遺物は出土していない。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

6号窯跡（S06）（第94～99図・第6表）

【確認状況】 調査区北部の南側斜面、C-4・5グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好で、焼成部・燃焼部・前庭部・灰原を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と、東側に隣接する5号窯跡の窠体との間隔は8.25mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。焼成部上部から中央部付近の全面と燃焼部下部及び燃焼部の西側には、Ⅲ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。焼成部下部及び、燃焼部西側では褐色の整地層を検出した。両整地層の関係、厚さ、堆積状況は不明である。

【窠体構造】 半地下式有階無段の窖窠である。

【規模】 全長6.3m、幅70cm、残存壁高60cmである。

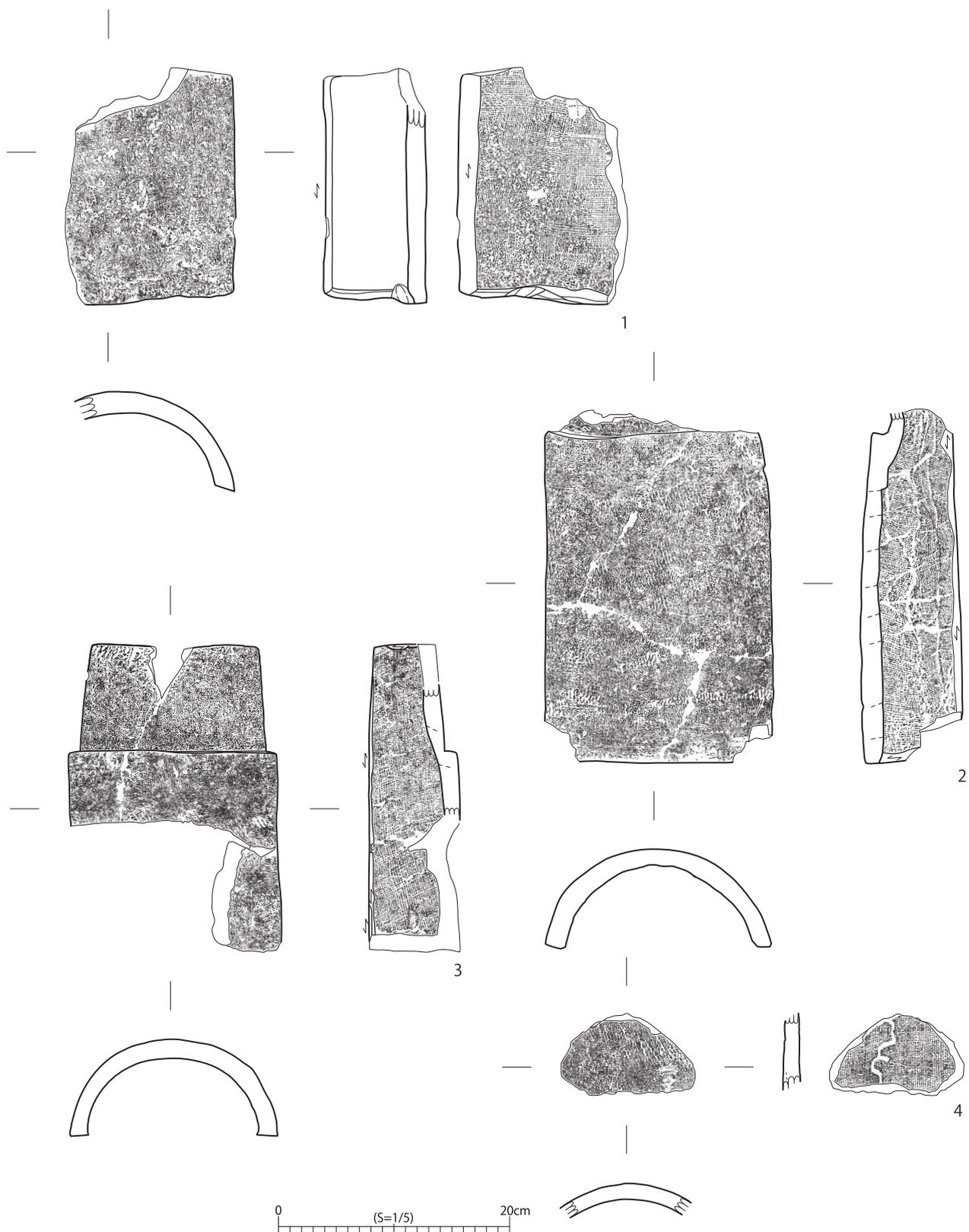
【中軸線の方向】 N - 61° - E

6号窯跡土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐7.5YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 一部に粘土質シルト(にぶい黄褐色)を少量含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	12	明赤褐5YR5/8	砂質シルト	燃料残滓層(大別5層) 燃料の残滓。灰(褐灰)小ブロックを含む。炭化物粒を極微量含む。
2	黒10YR2/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物粒を少量含む。焼土を極微量含む。	13	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 窠体の残滓。焼土中ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。
3	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルト(にぶい黄褐色)大ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。	14	褐7.5YR4/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 燃料の残滓。南半部に炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。
4	灰黄褐10YR4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 灰白色火山灰(にぶい黄褐色)中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。	15	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 窠体の残滓。炭化物層 最下部に粘土質シルト(褐)を帯状に含む。炭化物粒を含む。焼土中ブロックを少量含む。
5	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物粒を微量含む。	16	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 窠体の残滓。炭化物粒を少量含む。焼土粒を極微量含む。
6	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。粘土質シルト(明黄褐)大ブロックを少量含む。炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。	17	黄褐2.5Y5/3	シルト	流入堆積層(大別6層) 一部中ブロックをなす。
7	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 下部に粘土質シルト(にぶい黄褐10YR5/4)大ブロックを含む。炭化物粒少量含む。焼土小ブロックを微量含む。	18	褐7.5YR4/3	シルト	流入堆積層(大別6層) シルト(黄褐2.5Y5/3)小ブロックを少量含む。砂質シルト(黄褐10YR5/6)小ブロックを微量含む。炭化物粒を極微量含む。
8	明褐7.5YR5/6	砂質シルト	窠体崩落層(大別4層) 焼土を多量含む。礫を少量含む。	19	黄褐2.5Y5/3	シルト	流入堆積層(大別6層) 一部中ブロックをなす。
9	黄褐10YR5/6	砂質シルト	窠体崩落層(大別4層) 焼土大ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。下部にシルト(黄褐2.5Y5/3)を帯状に含む。	20	褐7.5YR4/3	シルト	流入堆積層(大別6層) シルト(黄褐)小ブロックを少量含む。炭化物粒を極微量含む。
10	灰オリバー5Y5/2	砂質シルト	窠体崩落層(大別4層)	21	暗灰黄2.5Y4/2	砂質シルト	流入堆積層(大別6層)
11	暗褐7.5YR3/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 燃料の残滓。シルト(黄褐2.5Y5/3)中ブロック・砂質シルト(黄褐10YR5/6)中ブロック少量含む。焼土大ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。				

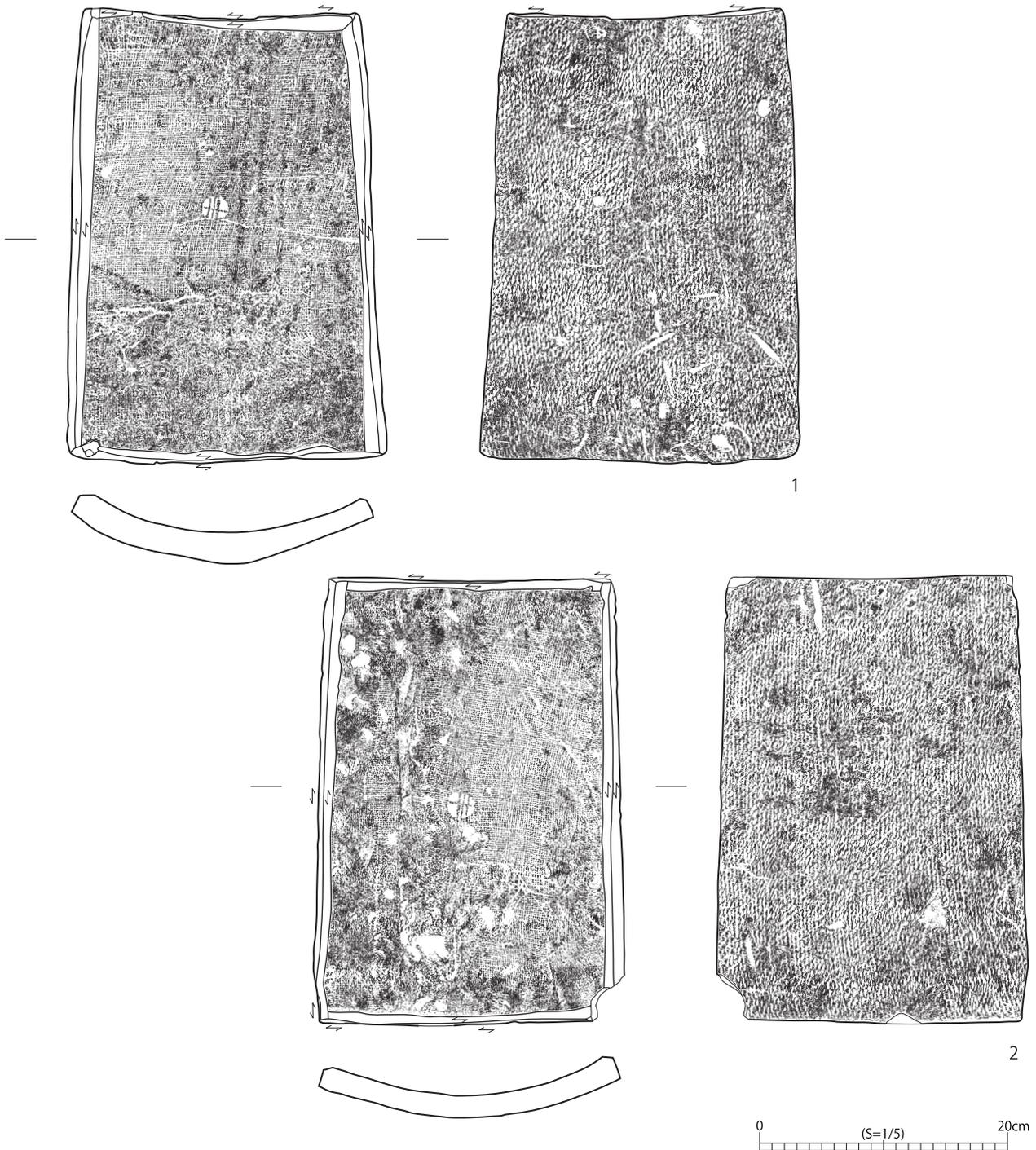


第94図 6号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡	床面 直上	丸瓦	20.7+ 玉-	12.7+ 玉-	-	2.0 玉-	-	-	凹面：5Y 6/1 凸面：5Y 7/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面ヘラケズリ、広端面圧痕 凹面：押印⊕	F-037	29-6 99
2	6号窯跡	11	丸瓦	30.8+ 玉2.3+	13.2 (19.7) 玉-	18.2 玉-	1.8 玉-	-	-	凹面：N 4/0 凸面：10GY 4/1	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	F-038	29-8
3	6号窯跡 灰原	9	丸瓦	26.9+ 玉9.3	- 玉16.0	18.0 玉14.3	1.6 玉1.6	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 6/0	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-039	29-7
4	6号窯跡 灰原	3	丸瓦	6.9+ 玉-	11.5 玉-	-	1.4 玉-	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 凹面：ヘラ書き解読不明	F-040	29-9 106

第95図 6号窯跡出土遺物(1)



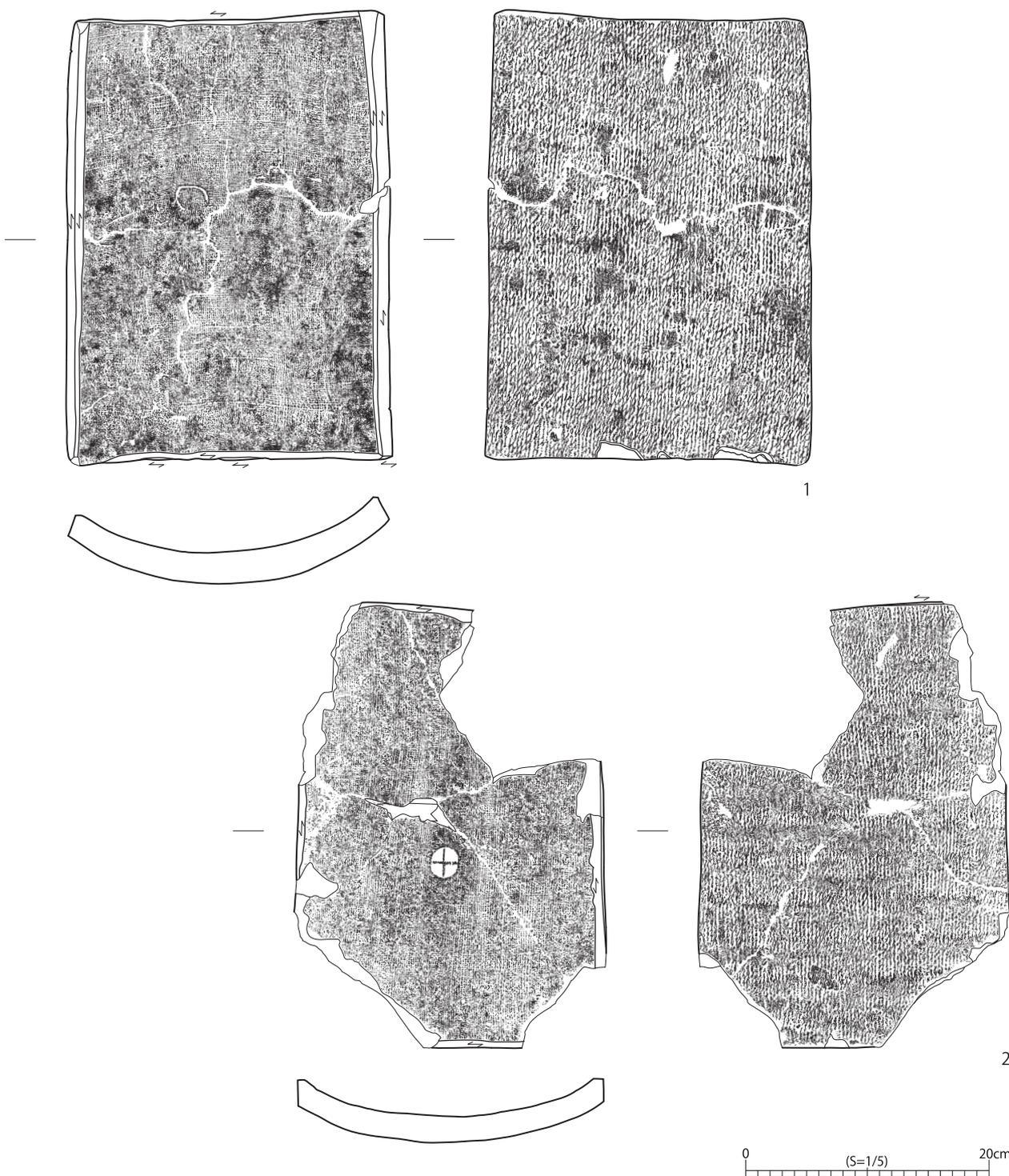
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡	16	平瓦	37.2	25.5	22.1	2.6	-	-	凹面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y 5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：押印㊦	G-125	30-1 100
2	6号窯跡	16	平瓦	36.5	22.1 (24.6)	22.8	2.2	-	-	凹面：7.5YR 5/1 凸面：2.5Y 6/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ 凹面：押印㊦	G-126	30-2 100

第96図 6号窯跡出土遺物(2)

【 操 業 面 数 】 4面 (A期：構築時床面、B期：細別15層上面、C期：細別13層上面、D期：細別11層上面)

【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

【 焼 成 部 】 長さは4m、最大幅は60cm、残存する壁高は50cmで、平面形は長方形である。床面は2面確認し、双方とも凹凸は認められない。床面は中央部付近で傾斜が変化しており、上部は24°、下部が13°の角度で傾斜する。東西両側壁は中位から上部でやや開き、奥壁では床面から126°の角度で外傾して立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を3～4枚横的に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.4mの間に6列が確認され



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡	11	平瓦	37.7	26.5	25.3	2.6	-	-	凹面：N 4/0 凸面：N 4/0	凹面：布目痕 凸面：縄目き 周縁：ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：ヘラ書き「のカ」	G-127	30-3 104
2	6号窯跡	10	平瓦	36.9	8.1 (25.7)	9.2 (24.7)	2.3	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：2.5Y 5/1	凹面：布目痕 凸面：縄目き 周縁：ヘラケズリ 凹面：押印⊕	G-128	31-8 99

第97図 6号窯跡出土遺物(3)

ている（写真 12-7）。奥壁には平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている（写真 13-5）。

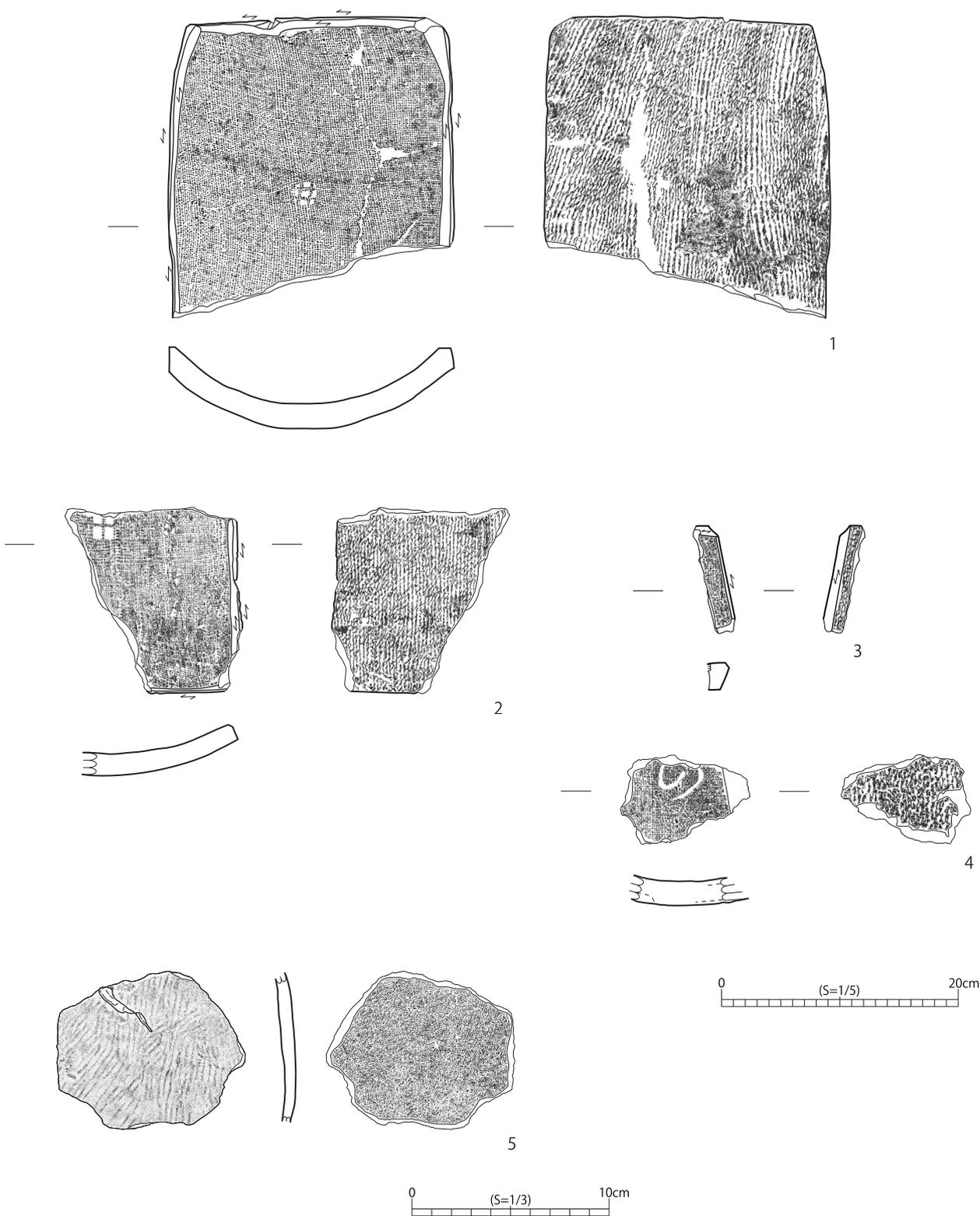
床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、19ヶ所で検出した。構架材は、平面検出のみの調査である。構架材は西側壁外で5ヶ所、西側壁内で10ヶ所、北側奥壁外で1ヶ所、東側壁内で2ヶ所、東側壁外で5ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡 灰原	6	平瓦	20.9+	-	22.5	2.7	-	-	凹面：2.5YR5/2 凸面：2.5YR4/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→圧痕 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→棒状圧痕 凹面：ヘラ書き「岩カ」	G-129	31-3 103
2	6号窯跡 灰原	6	平瓦	33.5+	23.5	-	2.8	-	-	凹面：10YR 5/2 凸面：7.5YR 5/2	凹面：布目痕→圧痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：押印㊶	G-130	31-5 100
3	6号窯跡 灰原	6	平瓦	18.1+	15.7+	-	2.3	-	-	凹面：N 6/0 凸面：10YR 6/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→圧痕 周縁：側面・広端面ヘラケズリ→側面圧痕 凹面：押印㊶	G-131	31-7 100

第98図 6号窯跡出土遺物(4)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	6号窯跡 灰原	6	平瓦	25.7+	-	20.2 (21.6)	2.1	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→狭端面棒状圧痕 凹面：押印㊦	G-132	31-2 100
2	6号窯跡 灰原	3	平瓦	15.9+	6.7+	-	1.8	-	-	凹面：2.5Y 5/1 凸面：10YR 5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：押印㊦	G-133	31-4 98
3	6号窯跡 灰原	3	平瓦	9.1+	1.0+	-	2.4	-	-	凹面：10YR 4/1 凸面：10YR 4/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 断面：粘土貼付痕	G-134	31-6
4	6号窯跡	3	平瓦	7.6+	10.9+	-	2.1	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：10YR 5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：ヘラ書き「の」	G-135	31-1 104
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版		
5	6号窯跡	10	須恵器 甕	-	-	-	-	外面：N5/O 内面：N5/O	外面：平行タタキ 内面：当具痕 瓦と融着、焼台転用	E-004	31-9		

第99図 6号窯跡出土遺物(5)

【 燃 焼 部 】 長さは1.2m、最大幅は55cm、残存する壁高は60cmで、平面形は、長方形である。床面には凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。床面はA期は構築面、B期はC期の堆積層（15層）上面、C期はB期の堆積層（13層）上面、D期はC期の堆積層（12層）上面である。焼成部との境に20cmの階を有している。東西両側壁は、床面から開いて立ち上がる。両側壁には平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている（写真13-6～8）。

前庭部との境に括れを有し、床面に段が認められる部分が、焚口であると考えられる。

床面・壁面の被熱状況は、現存する壁面の一部が灰白色硬化している。その他のほとんどの床面・壁面及び窠体周囲は、赤褐色化している。

燃焼部に伴う構架材は、確認されなかった。

【 前 庭 部 】 前庭部と燃焼部の境は括れており、比較的明瞭に区別できる。長さは1.1m、幅は70cm、残存する壁高は30cm、平面形は不整形である。床面には凹凸は認められない。前庭部に伴う構架材は、確認されなかった。

【 堆 積 層 】 大別4層、細別で21層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：燃焼部から灰原に広がる燃料残滓層。大別3層：流入堆積層。大別4層：崩落した天井材・壁材を多量に含む窠体崩落層。大別5層：D～A期の燃焼部に広がる燃料残滓層。

【 灰 原 】 前庭部の延長線上、南側斜面に認められ、長軸は6.3m、短軸は5.8m、厚さは50cmである。堆積土は堆積層の大別1・2層で、窠体からの流出堆積層及び燃料残滓層である。

【 出 土 遺 物 】 丸瓦・平瓦及び、須恵器が出土している。総破片数は652点である。16点を図示した。大別1・2層から丸瓦・平瓦・須恵器、大別3～6層から丸瓦・平瓦が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦・平瓦が出土している。

#### 7号窠跡（S07）（第100・101図・第6表）

【 確 認 状 況 】 調査区北部の南斜面、A・B-3グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好であるが、焼成部の一部と燃焼部は調査区外へ延びる。他の遺構との重複関係は認められない。本窠跡の南側に隣接する8号窠跡の窠体との間隔は3.5mである。本窠跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は、残存していない。本窠跡から10号窠跡にかけてⅢ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窠跡及びその周囲では、焼成部上部の南西側、燃焼部南西側で認められる。焼成部上部・中央部の北東側では褐色の整地層を検出した。一連の整地層に構築されていることから考えて、本窠跡から10号窠跡の4基の窠跡は一連の窠跡と考えられるが、詳細は不明確である。

【 窠 体 構 造 】 半地下式無階無段の窖窠である。

【 規 模 】 全長4.8m以上、幅50cm、残存壁高40cmである。

【中軸線の方向】 N - 66° - W

【 操 業 面 数 】 1面（構築面）

【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

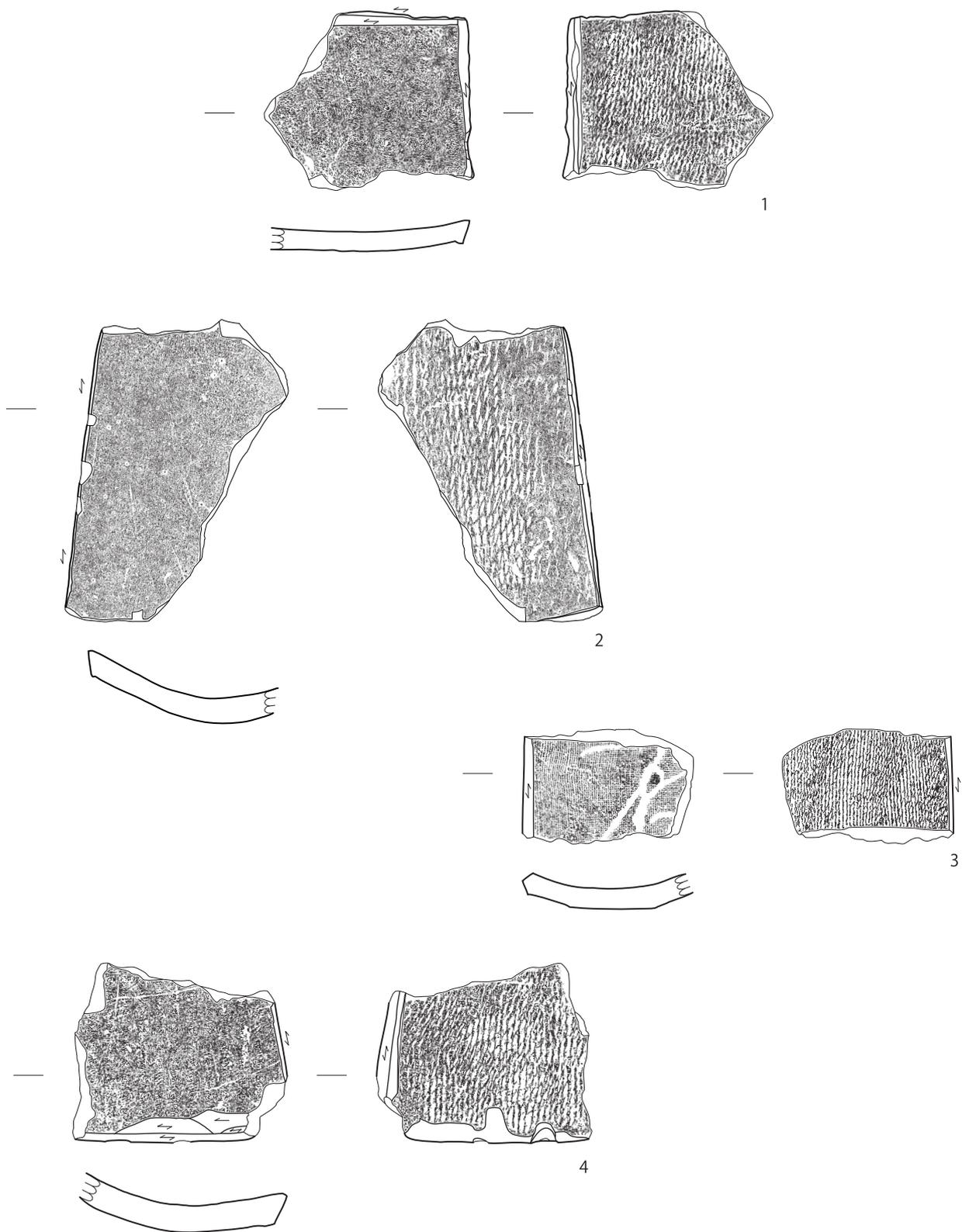
【 焼 成 部 】 長さは4.35m、最大幅は50cm、残存する壁高は40cmである。平面形は、長方形である。床面に凹凸は認められず、22°の角度で傾斜する。南北両側壁は燃焼部に近い東側では垂直に立ち上がっているが、奥壁に向かうに従い、中位から上部で開く。奥壁は床面から135°の角度で外傾して立ち上がり、中位から上部で垂直に立ち上がっている（写真14-7）。焼台は、凸面を上にした平瓦を3～4枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ4.3mの間に6列が確認されている（写真14-4）。

床面・壁面及び窠体周囲の被熱状況は、赤褐色化・灰白色硬化している。



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルト(明黄褐)中ブロック・焼土粒を多量含む。礫を少量含む。	5	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	窯体崩落層(大別2層) 焼土大ブロックを多量含む。
2	灰黄褐10YR4/2	シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土ブロックを少量含む。上部にシルト(にぶい黄褐)を帯状に含む。	6	明黄褐10YR6/6	シルト	窯体崩落層(大別2層) 焼土大ブロックを多量含む。
3	褐10YR4/4	シルト	流入堆積層(大別1層) 礫を微量含む。	7	黄灰2.5Y4/1	シルト	窯体崩落層(大別2層) 上部にシルト(明黄褐)を帯状に含む。酸化鉄を微量含む。
4	明赤褐5YR5/6	シルト	窯体崩落層(大別2層) 焼土層 礫を少量含む。				

第100図 7号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	7号窯跡	1	平瓦	15.4+	-	11.3+	1.9	-	-	凹面：5Y 7/1 凸面：N 5/0	凹面：布目痕 自然釉 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	G-136	32-1
2	7号窯跡	1	平瓦	25.9+	7.1+	-	2.2	-	-	凹面：N 6/0 凸面：7.5R 5/1	凹面：布目痕→ナデ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：側面ヘラケズリ	G-137	32-2
3	7号窯跡	1	平瓦	9.7+	14.2+	-	2.0	-	-	凹面：7.5YR 5/1 凸面：7.5YR 5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面ヘラケズリ	G-138	32-4 102
4	7号窯跡	1	平瓦	15.4+	15.3+	-	2.5	-	-	凹面：10YR 6/1 凸面：5YR 6/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：側面・広端面ヘラケズリ→広端面圧痕	G-139	32-6

第101図 7号窯跡出土遺物

焼成部に伴う構架材は、確認されなかった。

【 燃 焼 部 】 ほとんどが調査区外に延びている。長さは45cm以上、最大幅は50cm、残存する壁高は40cmで、平面形は長方形である。構築面を床面としている。床面に凹凸は認められず、10°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がっている。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、赤褐色化しており、一部が灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材は、確認されなかった。

【 前 庭 部 】 調査区内では確認できなかった。

【 堆 積 層 】 大別で2層、細別で7層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：焼成部に見られる窯体崩落層。

【 灰 原 】 調査区内では確認できなかった。1号灰原の一部が、本窯跡に伴う灰原の可能性はある。

【 出 土 遺 物 】 平瓦及び、須恵器が出土している。総破片数は39点である。4点を図示した。大別1層から平瓦・須恵器、大別2層から平瓦が出土している。床面直上からは、焼台として使用した平瓦が出土している。

#### 8号窯跡 (S08) (第102～104図・第6表)

【 確 認 状 況 】 調査区西部の東側斜面、B-2・3グリッドに位置する。整地層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃焼部・前庭部を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡の南側に隣接する9号窯跡の窯体との間隔は5.1m、北側に隣接する7号窯跡の窯体との間隔は3.5mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、そのまま床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は、残存していない。前述した通り、7号窯跡から10号窯跡にかけてⅢ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡の周囲では、焼成部上部の南側と北側、中央部から下部の北側、燃焼部・前庭部のほぼ全面に認められる。

【 窯 体 構 造 】 半地下式無階無段の窖窯である。

【 規 模 】 前庭部を除いた全長6.9m、幅80cm、残存壁高60cmである。

【中軸線の方向】 N - 64° - W

【 操 業 面 数 】 2面 (A期：構築時床面、B期：細別20層上面)

【 煙 出 部 】 削平され、残存していない。

【 焼 成 部 】 長さは5.1m、最大幅は80cm、残存する壁高は60cmである。平面形は、長方形である。床面には凹凸は認められず、21°の角度で傾斜する。南北両側壁は奥壁付近では床面から垂直に立ち上がり、燃焼部に向かうに従い中位から上部で外傾気味に開いている。奥壁は、床面から108°の角度で立ち上がっている。現存する床面で焼台は、確認されなかった。奥壁に平瓦の凹面を壁面に密着させて立てている (写真15-5)。奥壁部最下部の構造を示していると考えられる。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、床面の一部が赤褐色化しているが、殆どの床面・壁面は、灰白色硬化している。

焼成部に伴う構架材は、8ヶ所で検出した (写真15-8)。構架材は、全て壁外で確認した。南側で6ヶ所、北側で1ヶ所、西側で1ヶ所である。構架材は炭化し、残存していた構架材の直径は1cm前後であり、横断面は円形である。

【 燃 焼 部 】 長さは1.8m、最大幅は70cm、残存する壁高は60cmである。平面形は、長方形である。A期は構築面、B期はA期の堆積層 (20層) 上面を床面としている。床面に凹凸は認められず、3°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で外傾気味に開いている。北側壁には丸瓦・平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている。南側壁の焚口先端部分と推定される壁構築土内から、補強材として用いられ

たとえられる軒平瓦を確認した（写真 15-7）。

床面・壁面及び窯体周囲の被熱状況は、床面は赤褐色化し、壁面は灰白色硬化している。

燃焼部に伴う構架材は、床面で4ヶ所で検出した。構架材は炭化し、残存していた構架材の直径は1cm前後であり、横断面は円形である。

【前庭部】 焚口前面で確認された、長軸3.2m、短軸2.5m、深さ50cm、不整形の土坑状の落ち込みである。東側に隣接する1号灰原の堆積土と類似しており、位置関係が近いことから前庭部とした。

【堆積層】 大別3層、細別16層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：窯体崩落層。大別3層：A・B期の燃焼部前庭部に見られる燃料残滓層。

【灰原】 前庭部の堆積土及び1号灰原の堆積土と類似しており、相互の位置関係が近接していることから、1号灰原の一部が本窯跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】 丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土している。総破片数は61点で、4点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦、大別2層から平瓦、大別3層から丸瓦・軒平瓦・平瓦が出土している。A期の床面直上からは、遺物は出土していない。

#### 9号窯跡（S09）（第105・106図・第6表）

【確認状況】 調査区西部の東側斜面、B-2・3、C-3グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃焼部・前庭部を確認した。焼成部の奥壁側上部は、後の攪乱により削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と南側に隣接する10号窯跡の窯体との間隔は1.9m、北側に隣接する8号窯跡の窯体との間隔は5.1mである。本窯跡はⅢ層を掘り込み、そのまま床面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っているが、断ち割り調査していないために詳細は不明である。天井部は残存していない。前述した通り、7号窯跡から10号窯跡にかけてⅢ層を主体するにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡では焼成部・燃焼部南側、前庭部のほぼ全面に認められる。

【窯体構造】 半地下式無階無段の窯である。

【規模】 前庭部を除いた全長5.3m以上、幅70cm、残存壁高55cmである。

【中軸線の方向】 N - 66° - W

【作業面数】 4面（A期：構築時床面、B期：14層上面、C期：11層上面、D期：6層上面）

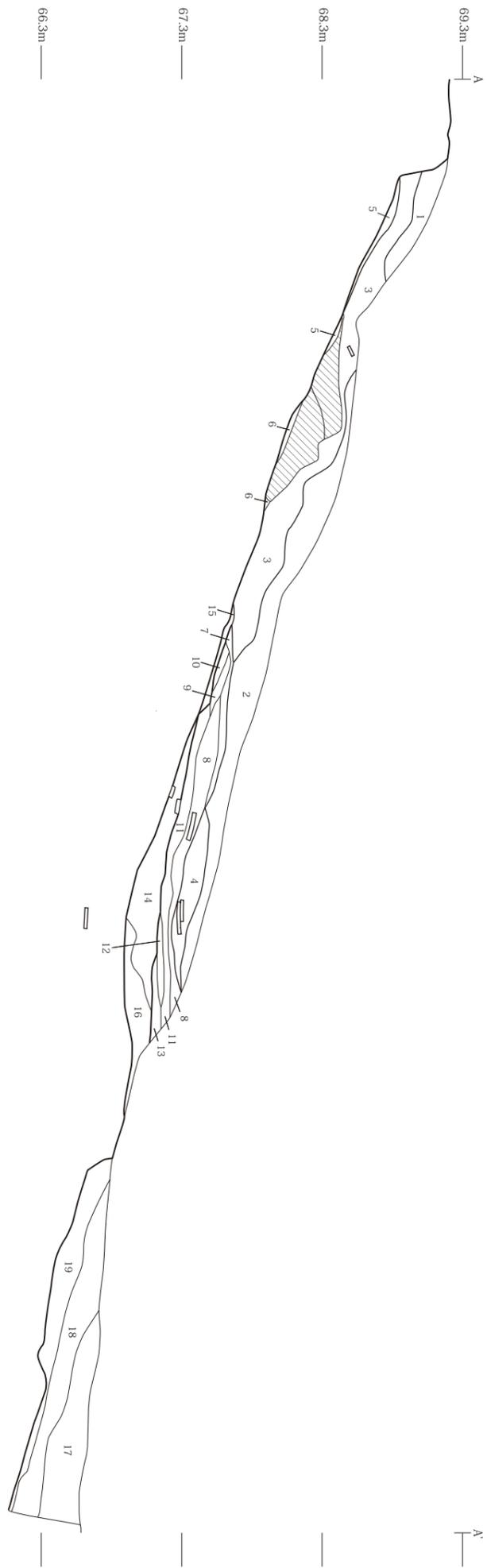
【煙出部】 削平され、残存していない。

【焼成部】 長さは3.9m以上、最大幅は60cm、残存する壁高は55cmである。床面に凹凸は認められない。焼成部の床面は中央部付近で傾斜が変化しており、上部は20°、下部は14°の角度で傾斜する。側壁は奥壁に近い部分では外傾しており、燃焼部に向かうに従って垂直に立ち上がる。焼台は、凸面を上にした平瓦を2～3枚横位に並べ、1列としている。焼台の列は長さ1.8mの間に7列が確認されている。

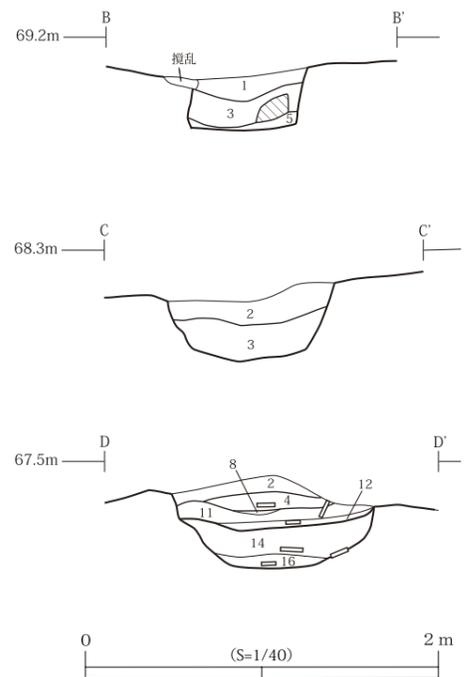
床面・壁面の被熱状況は全面が灰白色硬化し、窯体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。

焼成部に伴う構架材は、9ヶ所で検出した。構架材は、南側壁外で3ヶ所、南側壁内で1ヶ所、北側壁外で5ヶ所である。構架材は炭化し、直径は1cm前後で、横断面は円形である。

【燃焼部】 長さは1.4m、最大幅は70cm、残存する壁高は50cmで、平面形は、長方形である。A期は構築面、B期はA期の堆積層（14層）上面、C期はB期の堆積層（13層）上面、D期はC期の堆積層（10層）上面、E期はD期の堆積層（8層）上面を床面としている。床面に凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で外傾気味に開いている。南側壁には平瓦を二重にして、北側壁には丸瓦・平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている（写真 16-2）。

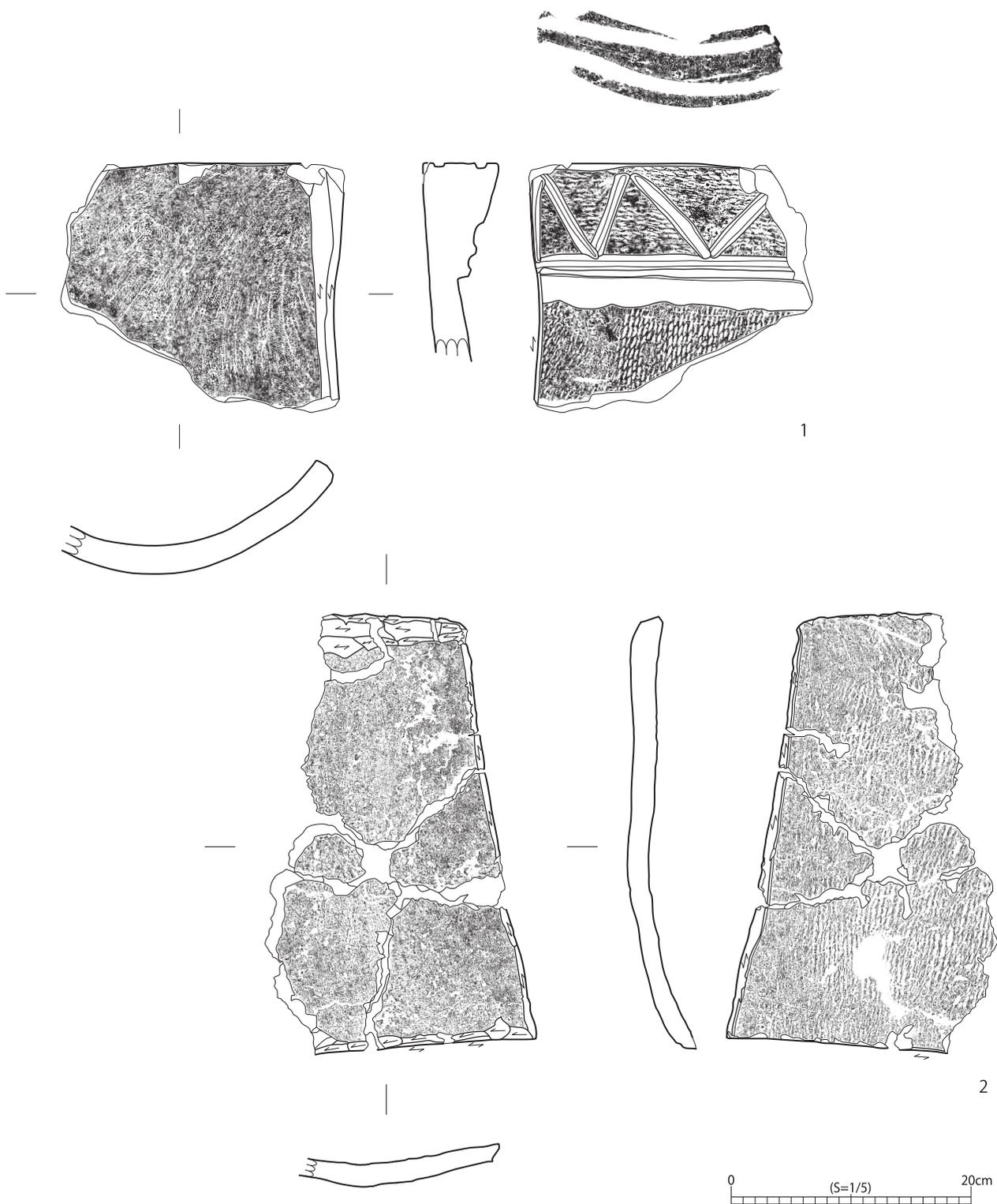


- 灰白色硬化範囲
- 構築材
- ◆ 蛍光X線分析
- ▨ 赤褐色化範囲
- にぶい黄褐色整地層範囲
- ★ 植物珪酸体分析
- ▨ 窯体ブロック



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐7.5YR4/4	シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルト(明褐)大ブロックを多量含む。焼土を微量含む。炭化物粒を極微量含む。	9	にぶい黄褐10YR5/4	シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。下部にシルト(褐)を帯状に含む。礫を少量含む。
2	褐7.5YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルト(暗褐)大ブロックを多量含む。シルト(灰黄褐)大ブロックを含む。焼土を少量含む。炭化物粒を微量含む。	10	黒褐10YR2/2	シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。炭化物粒を微量含む。
3	褐7.5YR4/3	シルト	窯体崩落層(大別2層) 砂質シルト(暗)極大ブロック・シルト(灰黄褐)極大ブロックを多量含む。焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。	11	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。礫を含む。炭化物粒を微量含む。
4	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	窯体崩落層(大別2層) 粘土質シルト(褐10YR3/1)を極多量含む。砂質シルト(暗)中ブロック・焼土粒を多量含む。シルト(灰黄褐)中ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。	12	にぶい赤褐5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残滓。シルト(灰黄褐)中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。
5	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。砂質シルト(明黄褐)大ブロックを少量含む。焼土粒を微量含む。炭化物粒を極微量含む。	13	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを少量含む。炭化物粒・焼土粒を微量含む。
6	明赤褐5YR5/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層)	14	褐10YR4/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残滓。下部に礫を少量含む。
7	明赤褐5YR5/8	砂質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土質シルト(にぶい赤褐)中ブロック・砂質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。	15	黒褐7.5YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。シルト(黒褐10YR2/2)中ブロック・シルト(にぶい黄褐)中ブロックを微量含む。焼土小ブロックを微量含む。炭化物粒を極微量含む。
8	にぶい黄褐10YR4/3	砂質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。礫を含む。	16	黄灰2.5Y4/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。粘土質シルト(黒褐)ブロックを多量含む。砂質シルト(暗)極大ブロックを含む。炭化物粒を多量含む。焼土粒を微量含む。

第102図 8号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	8号窯跡	壁補 強材	軒平瓦	20.9+	19.8+	-	2.4	6.4	-	瓦当面:10YR6/1 顎面:10YR6/1 凹面:2.5GY 5/1 凸面:10YR 5/1	瓦当面:ヘラケズリ→ヘラ描き重弧文 顎面:縄叩き→ヘラ描き露歯文 凹面:糸切り痕→布目痕 凸面:縄叩き→一部ナデ 周縁:側面ヘラケズリ	G-140	32-5
2	8号窯跡	16	平瓦	37.2	18.5+	12.1+	1.9	-	-	凹面:N 5/0 凸面:N 6/0	凹面:布目痕→一部ヘラナデ 凸面:糸切り痕→縄叩き 周縁:ヘラケズリ	G-141	32-7

第103図 8号窯跡出土遺物(1)

燃烧部の端部に接して、前庭部として把握できる落ち込みを確認した。燃烧部と前庭部の接合する部分が焚口と考えられる。

床面・壁面の被熱状況は灰白色硬化し、窯体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。

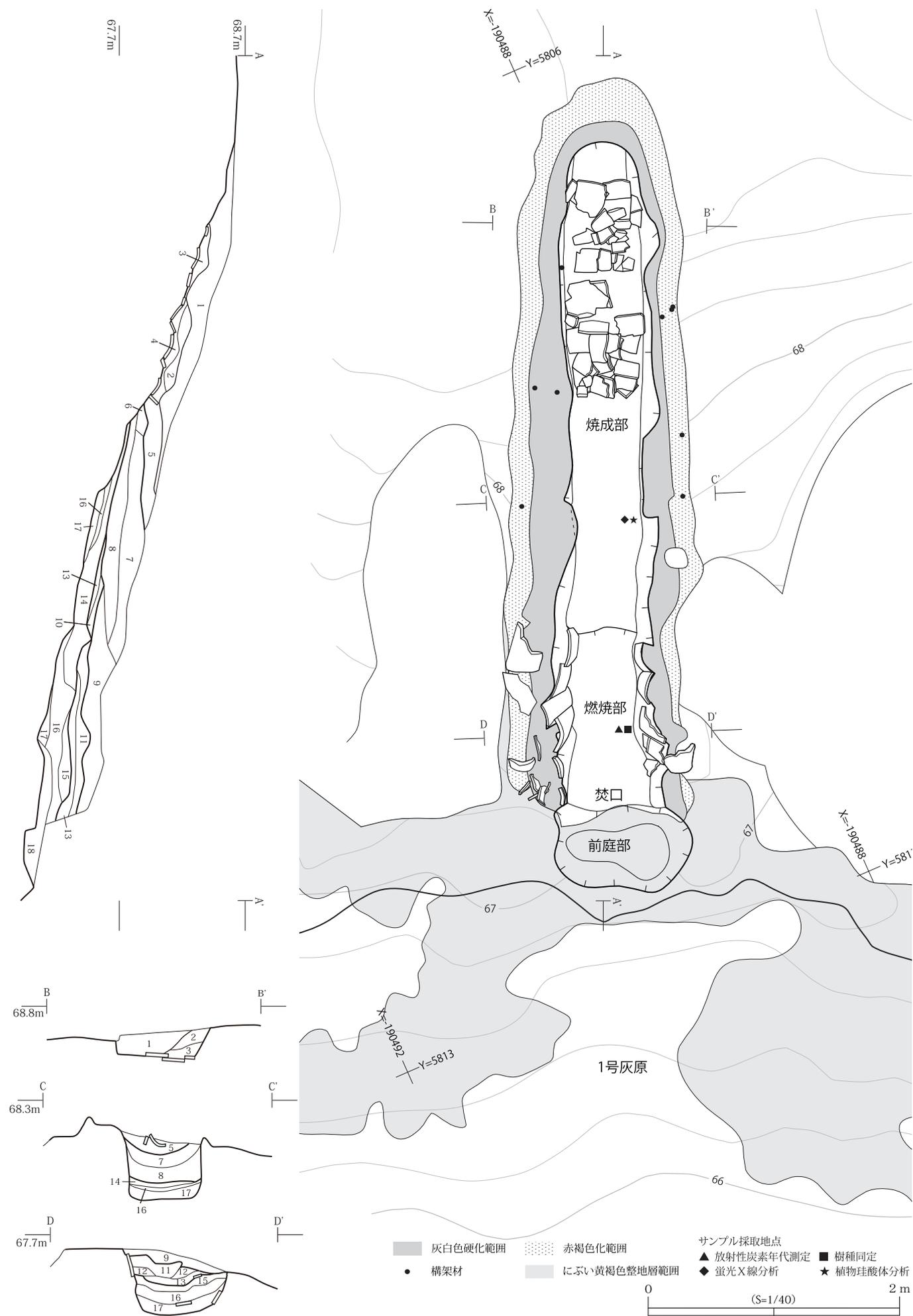


番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	8号窯跡	3	平瓦	25.6+	7.8+	-	2.6	-	-	凹面：5Y 5/1 凸面：10YR 5/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	G-142	32-3
2	8号窯跡	1	平瓦	30.1+	14.1+	-	2.1	-	-	凹面：N 4/0 凸面：10YR 4/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	G-143	32-8

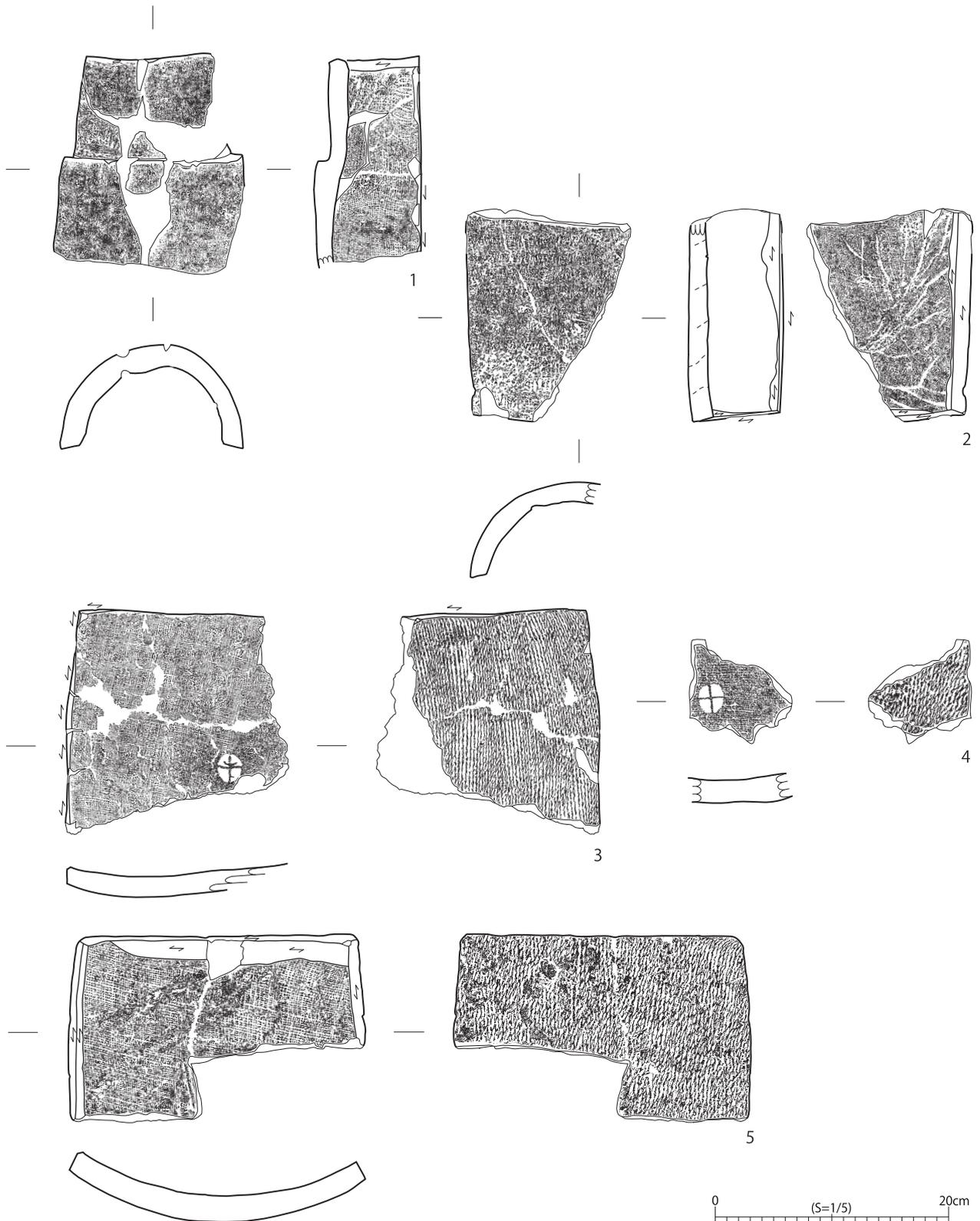
第104図 8号窯跡出土遺物(2)

9号窯跡土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐10YR4/4	シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルト(明黄褐)中ブロック・砂質シルト(灰黄褐)極大ブロックを含む。焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。	10	にぶい黄褐10YR5/4	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。焼土中ブロックを含む。
2	黒褐10YR3/1	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。砂質シルト(明黄褐)極大ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。	11	明褐7.5YR5/6	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。焼土粒を多量含む。下部に砂質シルト(にぶい黄褐)大ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。
3	褐7.5YR4/4	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。砂質シルト(灰黄褐)中ブロックを含む。焼土中ブロック・炭化物粒を微量含む。	12	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。炭化物粒を含む。焼土粒を少量含む。
4	にぶい黄褐10YR5/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。粘土質シルト(にぶい黄褐)10YR5/4)中ブロックを多量含む。炭化物粒を少量含む。	13	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。シルト(褐)中ブロックを含む。
5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。砂質シルト(明黄褐)大ブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒を少量含む。	14	オリーブ褐2.5Y4/3	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。中部にシルト(灰黄)を帯状に含む。礫を微量含む。
6	明褐7.5YR5/6	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。焼土粒を微量含む。	15	明褐10YR3/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。焼土中ブロックを多量含む。
7	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。砂質シルト(にぶい黄褐)小ブロックを含む。炭化物粒・焼土粒を含む。	16	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。下部に砂質シルト(黄褐)中ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。
8	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。砂質シルト(灰黄褐)大ブロックを微量含む。焼土(明褐)中ブロックを含む。	17	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。粘土(にぶい黄褐)中ブロックを少量含む。焼土粒を微量含む。
9	黒褐10YR3/1	シルト	燃料残滓層(大別2層) 窯体の残滓。シルト(にぶい黄褐)中ブロック・砂質シルト(灰黄)大ブロックを微量含む。焼土粒を含む。	18	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別2層) 燃料の残滓。炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。



第105図 9号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	9号窯跡	8	丸瓦	19.1 玉9.2	- 玉13.6	15.4 玉10.9 (11.4)	2.3 玉1.8	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：10YR 7/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-041	32-9
2	9号窯跡	1	丸瓦	18.4+ 玉-	5.3+ 玉-	-	1.7 玉-	-	-	凹面：2.5Y 6/2 凸面：10YR 6/2	凹面：粘土組痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ、工具刺突痕 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「ト」	F-042	33-1 105
3	9号窯跡	3	平瓦	19.4+	-	15.8+	1.8	-	-	凹面：10YR 4/1 凸面：2.5YR 4/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：押印⊕カ	G-144	33-2 99
4	9号窯跡	1	平瓦	9.0+	8.8+	-	2.2	-	-	凹面：2.5YR 5/2 凸面：7.5YR 6/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 凹面：押印⊕カ	G-145	33-3 99
5	9号窯跡	1	平瓦	16.2+	-	23.8	2.3	-	-	凹面：10YR 6/2 凸面：10YR 6/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 粘土付着 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラガキ解説不明	G-146	33-4 106

第106図 9号窯跡出土遺物

燃烧部に伴う構架材は、確認されなかった。

【前庭部】 焚口前面で確認した、長軸 1.1m、短軸 75cm、深さ 10cm、楕円形の土坑状の落ち込みである。燃烧部の堆積土と類似していること、位置関係から前庭部とした。

【堆積層】 大別 3 層、細別 18 層を確認した。大別 1 層：流入堆積層。大別 2 層：窯体崩落層。大別 3 層：流入堆積層。C～E 期の焼成部・燃烧部に広がる燃料残滓層。A・B 期の焼成部・燃烧部に広がる燃料残滓層。

【灰原】 燃烧部・前庭部の堆積土と 1 号灰原の堆積土が類似していること、相互の位置関係が近接していることから、1 号灰原の一部が本窯跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、須恵器、土師器が出土している。総破片数は 102 点であり、5 点を図示した。大別 1 層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器、大別 2 層から丸瓦・平瓦・土師器・須恵器が出土している。床面直上からは、焼台として使用した丸瓦が出土している。

### 10 号窯跡 (SO10) (第 107～109 図・第 6 表)

【確認状況】 調査区西部の東側斜面、B-2、C-2・3 グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は良好とはいえないが、焼成部・燃烧部・前庭部を確認した。焼成部の奥壁側上部は、後の攪乱により削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。本窯跡と北側に隣接する 9 号窯跡の窯体との間隔は 1.9m である。本窯跡はⅢ層を掘り込み、床面・壁面としている。壁面には、スサ入り粘土を貼っている。天井部は残存していない。前述した通り、7 号窯跡から 10 号窯跡にかけてⅢ層を主体とするにぶい黄褐色を示す整地層が認められる。本窯跡では燃烧部南側、前庭部のほぼ全面に認められる。

【窯体構造】 半地下式無階無段の窖窯である。

【規模】 前庭部を除いた全長 4.25m 以上、幅 90cm、残存壁高 50cm である。

【中軸線の方向】 N - 65° - W

【作業面数】 3 面 (A 期：構築面、B 期：4 層上面、C 期：2 層上面)

【煙出部】 削平され、残存していない。

【焼成部】 長さは 3.05m 以上、最大幅は 60cm、残存する壁高は 40cm である。床面には凹凸は認められず、17°の角度で傾斜する。側壁は、上部が開いて立ち上がる。焼台は、凸面を上にした丸瓦・平瓦を 3 枚横位に並べ、1 列としている。焼台の列は長さ 0.5m の間に 2 列が確認されている。

床面・壁面の被熱状況は、下部では赤色化し、その他は灰白色硬化している。窯体周囲は、灰白色硬化、赤褐色化している。

焼成部に伴う構架材は、7ヶ所で検出した。構架材は、床面で 1ヶ所、北側壁外で 6ヶ所である。構架材は炭化し、直径は 1cm 前後で、横断面は円形である。

【燃烧部】 長さは 1.2m、最大幅は 90cm、残存する壁高は 50cm で、平面形は不整形である。A 期は構築面、B 期は A 期の堆積層 (4 層) 上面、C 期は B 期の堆積層 (2 層) 上面を床面としている。床面には凹凸は認められず、11°の角度で傾斜する。側壁の残存状況が悪く、詳細は不明であるが、南北両側壁は床面から垂直に立ち上がり、中位から上部で明瞭な屈曲を持たずに外傾気味に開くと考えられる。北側壁には平瓦の凹面を壁面に密着させ、垂直に立てている。

床面・壁面の被熱状況は灰白色硬化し、窯体周囲は灰白色硬化、赤褐色化している。

燃烧部に伴う構架材は、3ヶ所で検出した。構架材は、南側壁外で 1ヶ所、南側壁内で 2ヶ所である。構架材は炭化し、直径は 1cm 前後で、横断面は円形である。

【前庭部】 焚口前面で確認した、長軸 1.4m、短軸 90cm、深さ 10cm、楕円形の土坑状の落ち込みである。

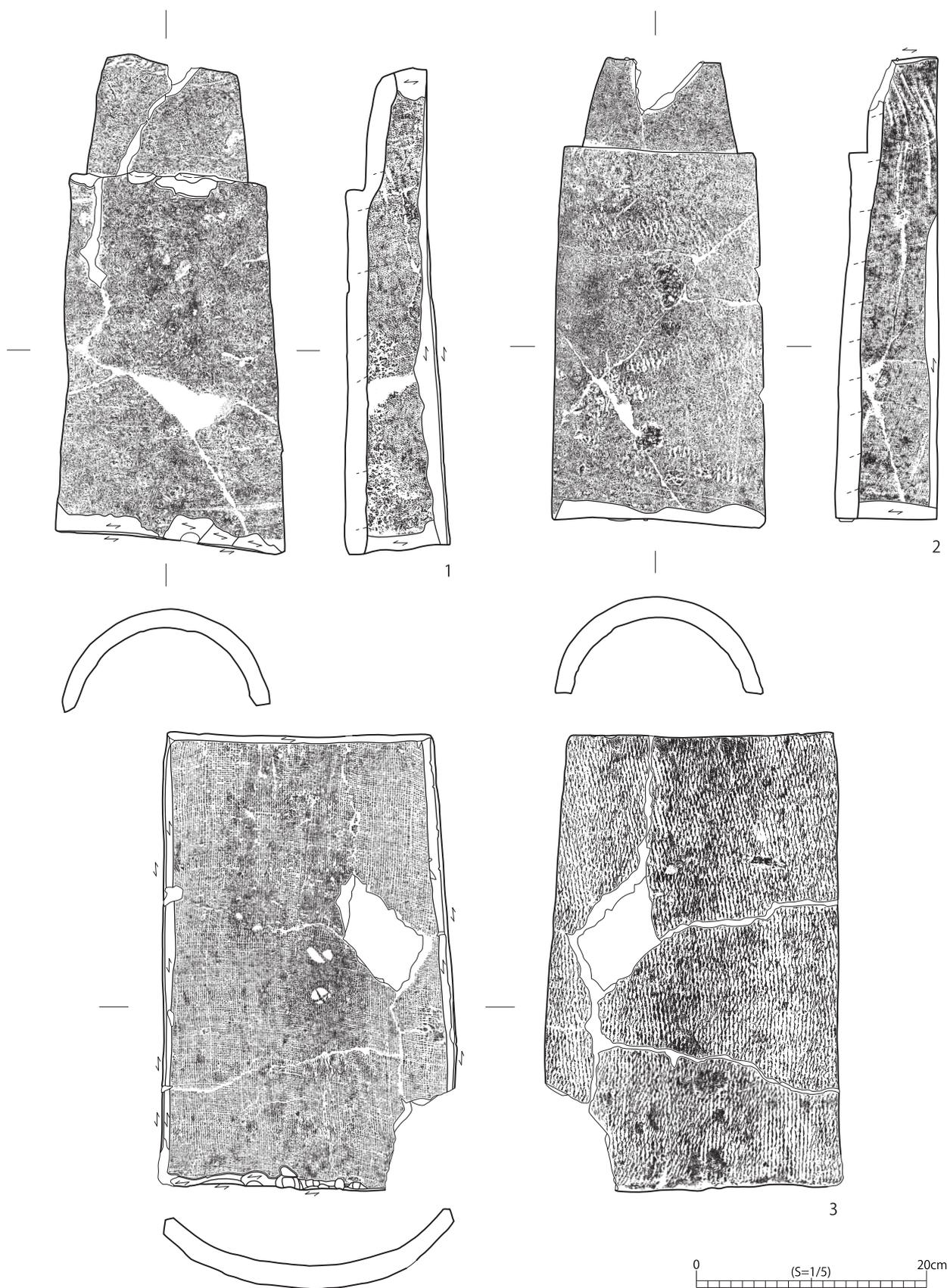


灰白色硬化範囲
  赤褐色化範囲
  構架材
  にぶい黄褐色整地層範囲

0 2 m (S=1/40)

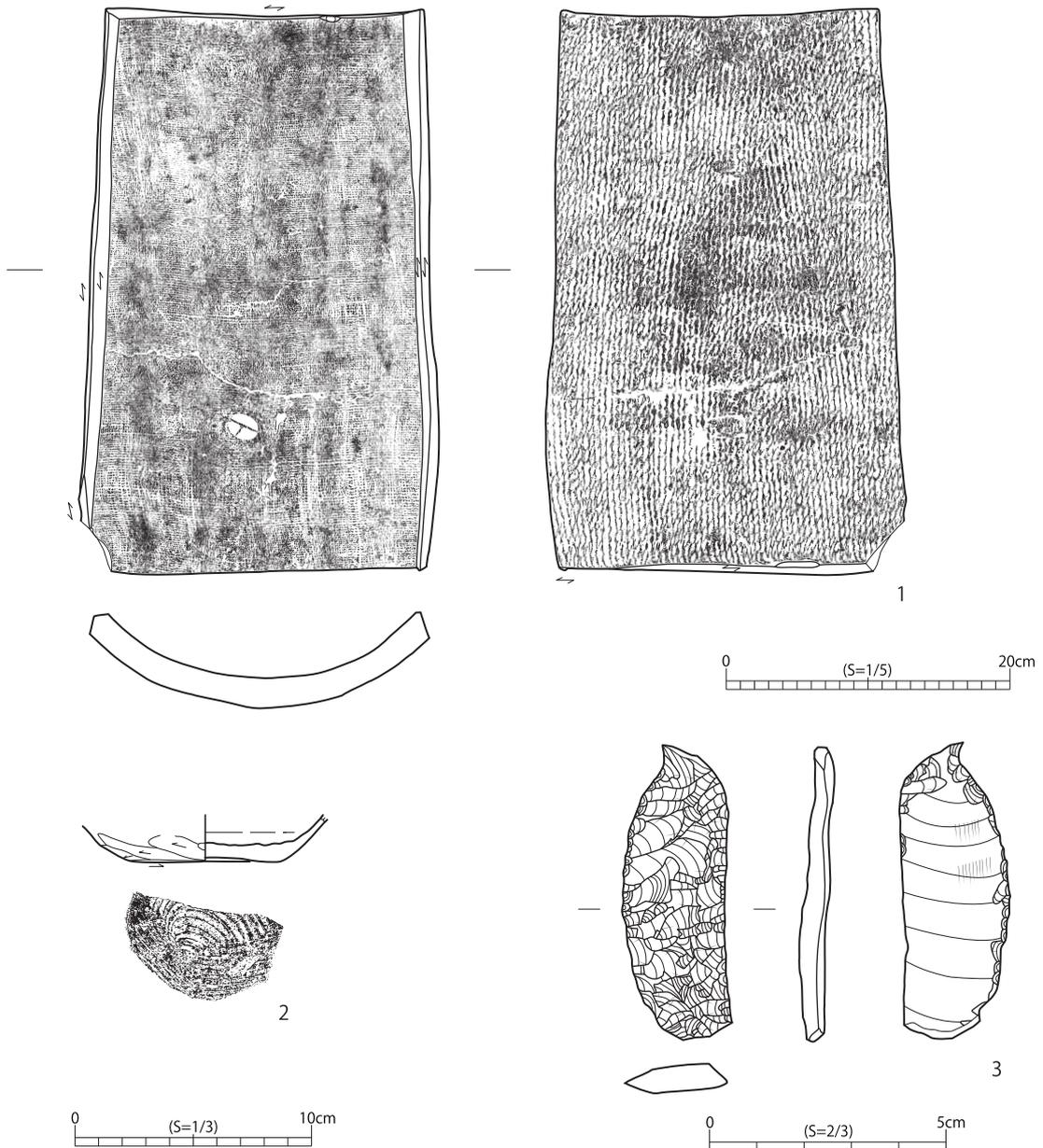
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 燃料の残滓。砂質シルト(灰黄)小ブロックを少量含む。焼土中ブロックを多量含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	4	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	燃料残滓層(大別1層) 窯体の残滓。上部・下部にシルト(暗褐)大ブロックを極多量含む。焼土粒を含む。炭化物粒を少量含む。中部に砂質シルト(褐灰)を帯状に含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 窯体の残滓。焼土大ブロックを多量含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	5	灰黄褐10YR4/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 窯体の残滓。炭化物粒を少量含む。礫・焼土粒を微量含む。下部に粘土質シルト(にぶい黄褐)を帯状に含む。
3	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 燃料の残滓。砂質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。	6	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 燃料の残滓。炭化物層 炭化物中ブロックを多量含む。

第107図 10号窯跡平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	10号窯跡	壁補 強材	丸瓦	44.0 玉10.4	20.0 玉14.0	16.9 玉11.4	1.7 玉1.9	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：10YR 6/1	凹面：粘土紺痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：ヘラケズリ	F-043	33-5
2	10号窯跡	壁補 強材	丸瓦	41.2 玉7.9	17.9 玉13.4	16.2 玉9.8	1.9 玉1.2	-	-	凹面：5Y 6/1 凸面：10YR 6/2	凹面：粘土紺痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 融着 周縁：ヘラケズリ	F-044	33-6
3	10号窯跡	2	平瓦	40.3 (25.6)	18.5 (25.6)	22.8	2.1	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：2.5Y 6/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：押印 ⊕ ⊙	G-147 99	33-7 99

第108図 10号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	10号窯跡	2	平瓦	40.3	22.2 (24.7)	22.3	2.2	-	-	凹面：5YR 6/1 凸面：5YR 6/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→狭端面圧痕 凹面：押印 ⊕	G-148	34-1 100
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版		
2	10号窯跡	4	須恵器 坏	-	6.1	(2.0)	-	外面：10YR7/2 内面：10YR7/2	外面：ロクロナデ→下半手持ヘラケズリ 底部：回転糸切り→周縁手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-005	33-8		
3	10号窯跡	6	剥片石器 石匙	6.3	2.3	0.6	9.0	-	石材：珪質頁岩	K-002	33-9		

第109図 10号窯跡出土遺物(2)

燃烧部の層位と類似していること、位置関係が近接していることから前庭部とした。

【堆積層】 大別1層、細別6層を確認した。大別1層：A～C期の焼成部・燃烧部に広がる燃料残滓層。

【灰原】 燃烧部・前庭部の堆積土と1号灰原の堆積土が類似していること、相互の位置関係が近接していることから、1号灰原の一部が本窯跡の灰原であると考えられる。

【出土遺物】 丸瓦・平瓦及び、須恵器、土師器、石匙が出土している。総破片数は78点で、6点を図示した。大別1層から丸瓦・平瓦・須恵器・土師器・石匙が出土している。床面直上から焼台が出土している。

## 灰 原

### 1号灰原 (SQ1) (第110～113図)

調査区の西側斜面、B・C-3・4グリッドに位置する。北側は、調査区外へ延びる。堆積土は、13・15号土坑の一部と、1号溝・14号土坑の全面を覆う。範囲は、長軸14.2m以上、短軸7.0mである。平面形は不整形である。断面観察より、新期・古期の2時期に分けられる。

堆積土は大別5層、細別13層を確認した。堆積層から新期・古期の燃料残滓層が認められる。大別1層：周囲からの流入堆積層。大別2層：新期の燃料残滓層。大別3層：新期・古期間における周囲からの流入堆積層。大別4層：古期の燃料残滓層上層。大別5層：古期の燃料残滓層下層。層厚は、新期が40～70cm、古期が10～50cmである。

遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦、硯・須恵器・土師器が出土している。総破片数は1051点で、13点を図示した。大別2層から軒丸瓦・丸瓦・平瓦、大別4層から軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・硯・須恵器・土師器、大別5層から丸瓦が出土している。大別1・3層から遺物は出土していない。

## 溝

### 1号溝 (SD1) (第115図・第7表)

調査区の北側斜面、B・C-4グリッドに位置する。北側から南方向に、直線的に延びる。1号灰原の直下で確認した。規模は長さ2.70m、幅40cm、深さ5cmである。底面には凹凸が見られず、ほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。断面形は「U」字形である。堆積土は、灰黄褐色粘土質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、堆積土から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は4点である。抽出・図示できるものはない。

## 土 坑

### 1号土坑 (SK1) (第115図・第8表)

調査区の北側斜面、C-5グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、直径1.15mの円形である。深さは25cmである。底面は凹凸があり、斜面と同じ方向に傾斜している。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。

遺物は出土していない。

### 4号土坑 (SK4) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、E-8グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸70cm、短軸50cmの楕円形である。深さは35cmである。底面は平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。

遺物は、1・2層から平瓦が出土している。総破片数は3点で、図示できるものはない。

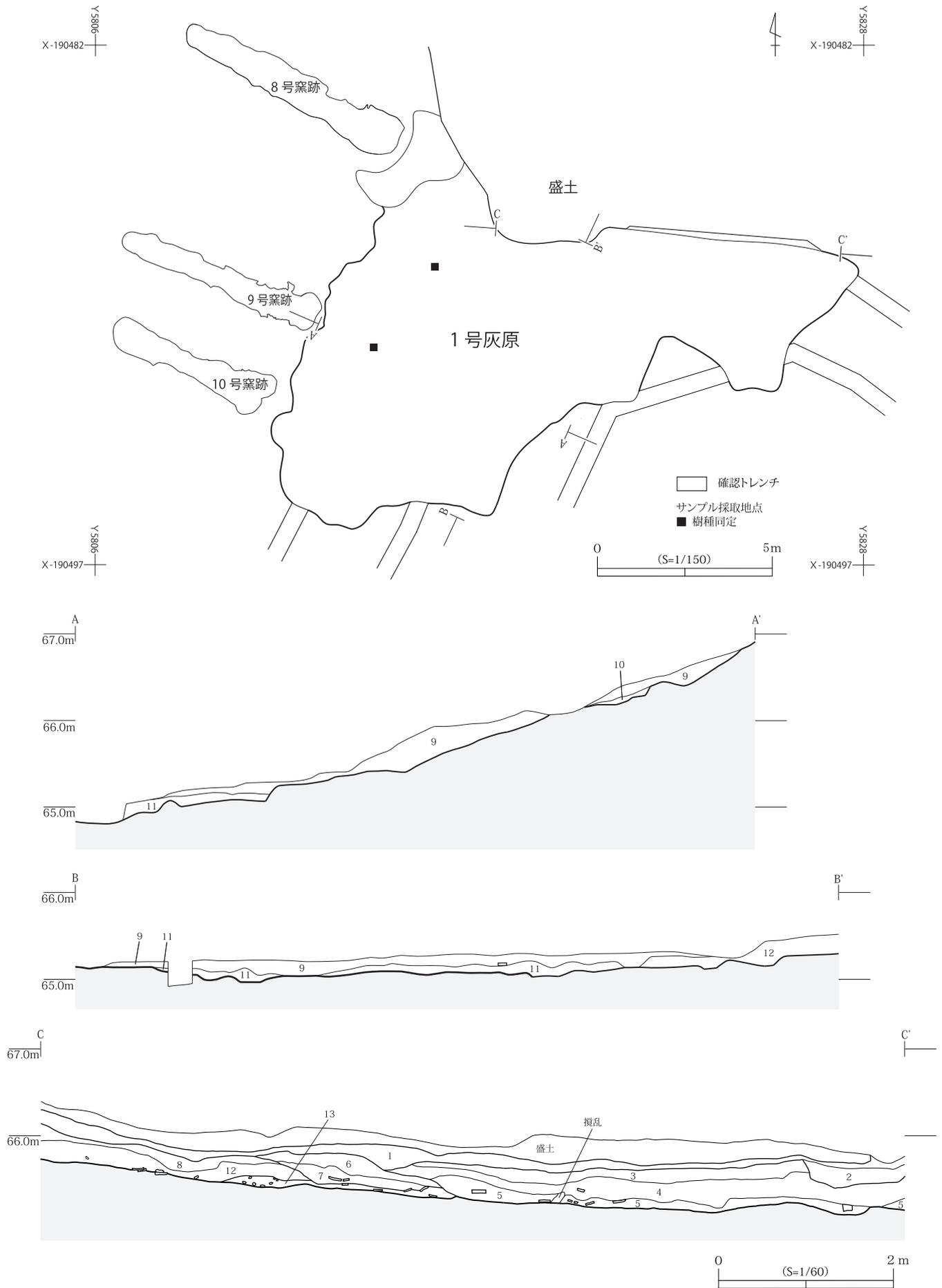
### 6号土坑 (SK6) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、H-7グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.0m、短軸60cmの不整形である。深さは30cmである。底面は凹凸があり、斜面と同じ方向に緩やかに傾斜している。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は暗褐色砂質シルトの単一層であり、流入堆積層である。

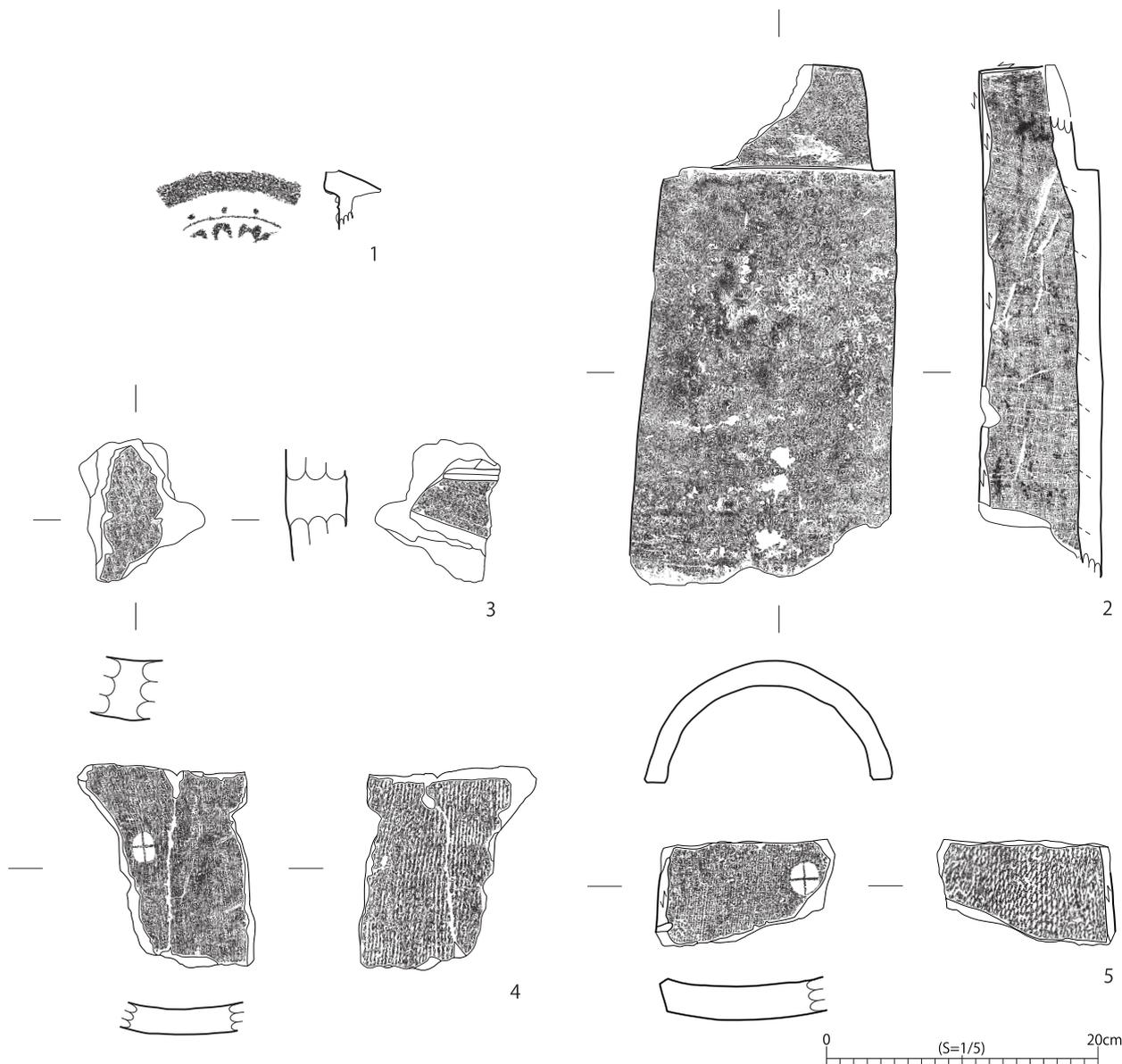
遺物は、堆積土から平瓦が出土している。総破片数は3点で、図示できるものはない。

### 8号土坑 (SK8) (第115図・第8表)

調査区の東側斜面、G-6グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸95cm、短軸70cmの楕円形である。深さは15cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。



第110図 1号灰原平面図・土層断面図

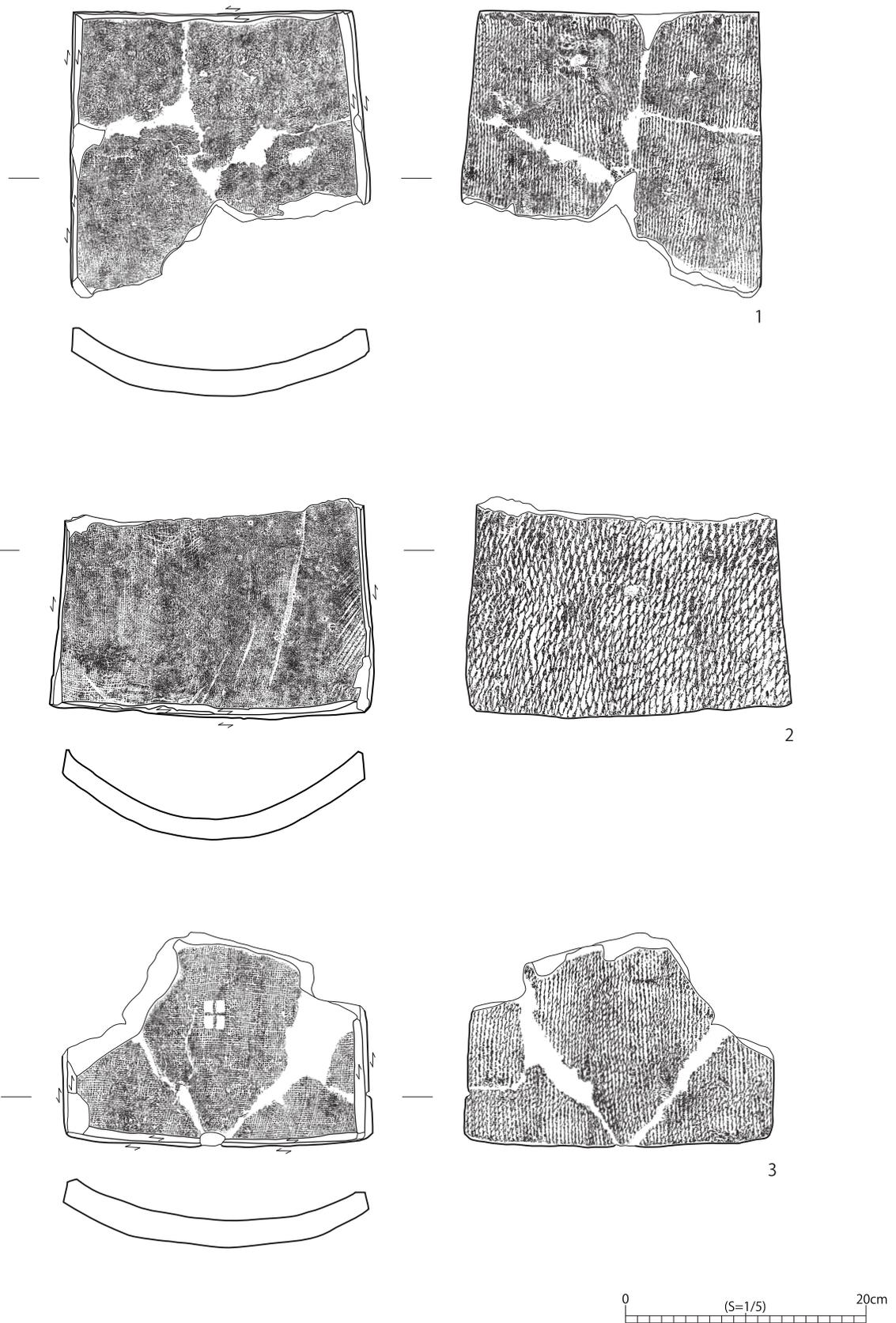


番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原	4	軒丸瓦	4.2+	-	-	-	4.3+	2.0	瓦当面表：2.5Y 5/1 凸面：2.5Y 6/1	瓦当面：范 瓦当面裏：剥離 凸面：ヘラケズリ→ナデ	F-045	34-2
2	1号灰原	9	丸瓦	38.7 玉7.6	- 11.8+	15.8 (17.0) 玉4.2+	1.9 玉1.7	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 5/0	凹面：粘土紺痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-046	34-6
3	1号灰原	9	軒平瓦	10.6+	8.5+	-	4.4	-	-	顎面：7.5Y 4/2 凹面：2.5Y 5/1	瓦当面：欠損 顎面：ナデ→ヘラ描き沈線 凹面：布目痕→ナデ	G-149	34-3
4	1号灰原	9	平瓦	15.1+	12.3+	-	2.0	-	-	凹面：10YR 6/1 凸面：10YR 6/1	凹面：布目痕→ナデ 凸面：縄叩き	凹面：押印⊕	G-150 34-4 99
5	1号灰原	5	平瓦	7.9+	12.4+	-	1.5	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：10YR 5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面ヘラケズリ	凹面：押印⊕	G-151 34-5 99

第111図 1号灰原出土遺物(1)

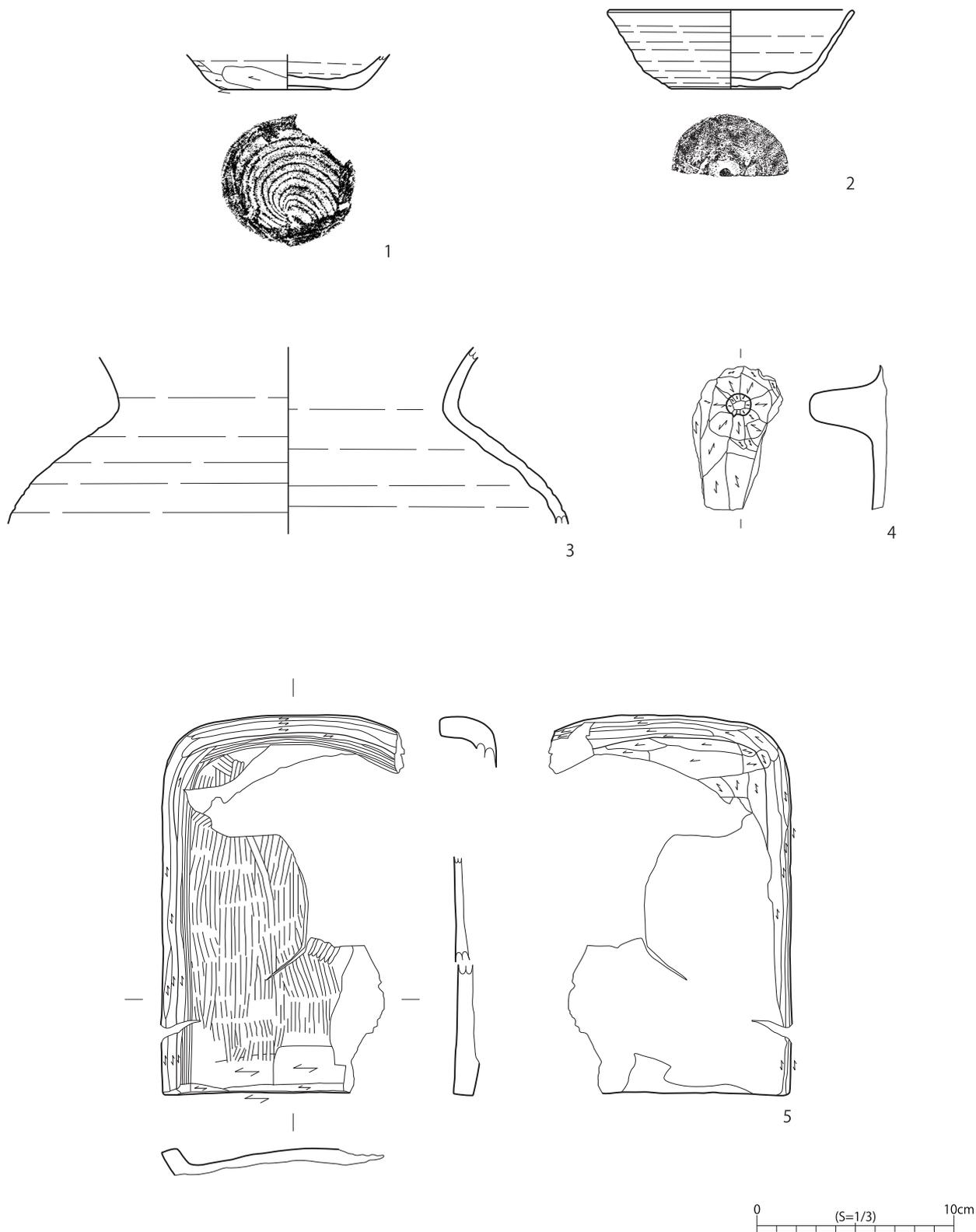
1号灰原土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 腐植土層 現代の整地以前の表土。	8	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別4層) 炭化物粒を極量含む。
2	黒10YR2/2	粘性シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物粒を極微量含む。	9	黒褐10YR2/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別4層) 炭化物層を含む。粘土(黄褐2.5Y5/6) 極大ブロックを少量含む。砂質シルト(黄褐2.5Y5/3)中ブロックを微量含む。炭化物粒を含む。焼土中ブロックを少量含む。
3	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 炭化物粒・礫を微量含む。	10	褐7.5YR4/6	砂質シルト	燃料残滓層(大別4層) 焼土大ブロックを極多量含む。炭化物粒を極微量含む。
4	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 炭化物粒を微量含む。	11	暗褐10YR3/3	粘土質シルト	燃料残滓層(大別4層) 粘土(黄褐)大ブロックを含む。
5	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 炭化物粒・焼土粒を含む。礫を少量含む。	12	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別4層) 焼土粒を含む。中部～下部に砂質シルト(にぶい黄)中ブロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。
6	灰黄褐10YR4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 炭化物粒を極微量含む。	13	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	燃料残滓層(大別5層) 炭化物粒を少量含む。
7	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 炭化物粒を微量含む。				



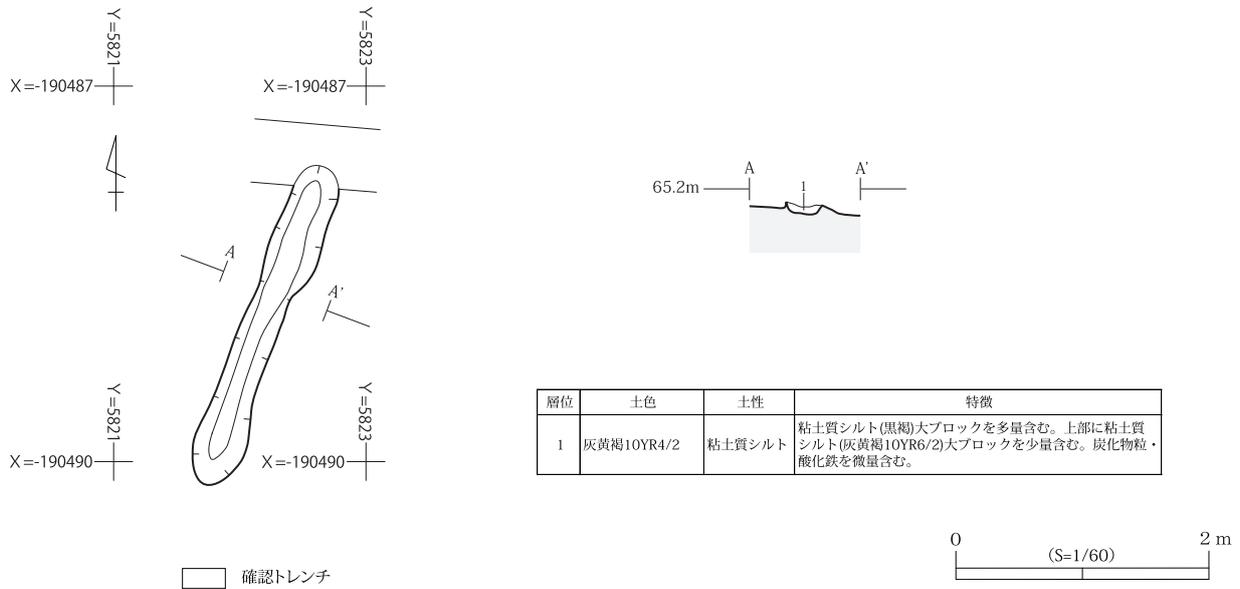
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原	9	平瓦	24.1+	-	23.2	2.2	-	-	凹面：N 5/0 凸面：N 4/0	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	G-152	34-7
2	1号灰原	9	平瓦	18.7+	26.2	-	2.1	-	-	凹面：10YR 4/1 凸面：10YR 5/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	G-153	34-8
3	1号灰原	9	平瓦	18.1+	25.6	-	2.5	-	-	凹面：2.5Y 6/1 凸面：2.5Y 6/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：押印	G-154	35-1 99

第112図 1号灰原出土遺物(2)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号灰原	9	須恵器 環	-	6.6	(2.6)	-	外面：7.5YR5/1 内面：7.5YR5/1	外面：ロクロナデ→下半手持ヘラケズリ 底部：回転糸切り→周縁手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-007	34-10
2	1号灰原	9	須恵器 環	(10.3)	6.0	4.1	-	外面：N5/0 内面：N5/0	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-008	34-11
3	1号灰原	9	須恵器 囊	-	-	残存高 9.6	-	外面：10YR5/1 内面：10YR5/1	外面：平行タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ	E-009	34-12
4	1号灰原	9	須恵器 碗	(7.3)	(4.6)	(3.9)	-	碗面：2.5Y5/1 裏面：2.5Y5/1	碗面：欠損 脚部：ヘラケズリ 裏面：ヘラケズリ	E-010	34-13
5	1号灰原	9	須恵器 碗	20.0	(12.4)	(2.9)	-	碗面：10YR5/1 裏面：10YR5/1	碗面：ヘラケズリ→ナデ 裏面：ヘラケズリ	E-006	34-9

第113図 1号灰原出土遺物(3)



第114図 1号溝平面図・土層断面図

堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、出土していない。

**9号土坑 (SK9) (第115図・第8表)**

調査区の東側斜面、G-6グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。西側は、削平のため残存していない。平面形は、長軸 1.30m、短軸 55cmの不整形である。深さは 25cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、流入堆積層である。

遺物は、出土していない。

**10号土坑 (SK10) (第115図・第8表)**

調査区の東側斜面、H・I-7グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸 50cm、短軸 45cmの楕円形である。深さは 20cmである。底面には凹凸が見られる。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は明褐色砂質シルトの単一層で、炭化物を極めて多量に含む。人為的な堆積の可能性が考えられる。

遺物は、出土していない。

**11号土坑 (SK11) (第116・117図・第8表)**

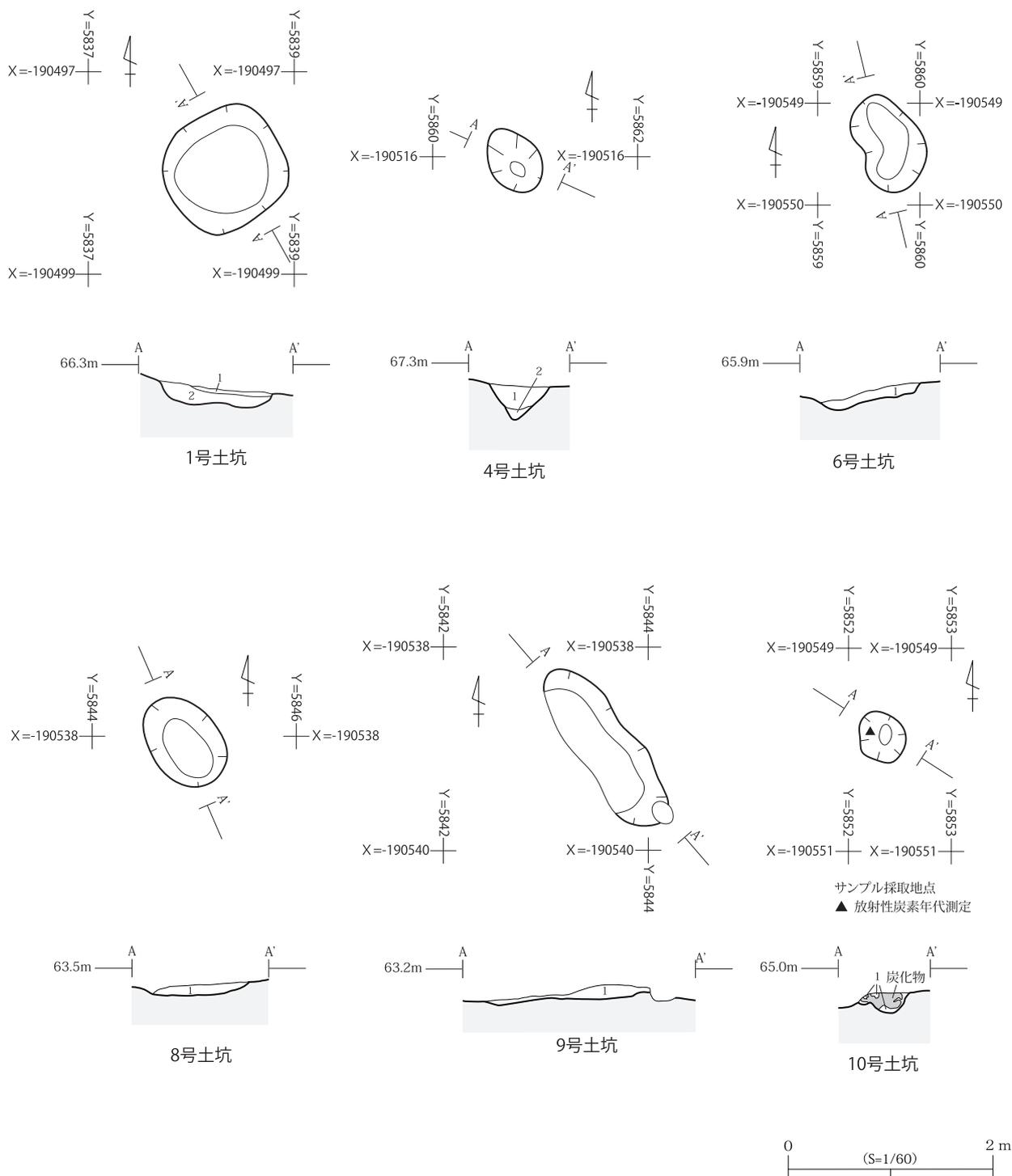
調査区の東側斜面、H-7グリッドに位置する。1号窯跡と重複しており、本遺構が新しい。平面形は、長軸 2.40m、短軸 1.50mの楕円形である。深さは 65cmである。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は大別4層、細別7層を確認した。大別1層：流入堆積層。大別2層：焼土。大別3層：流入堆積層。大別4層：焼土である。

遺物は、大別1層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は 214点で、4点を図示している。

**12号土坑 (SK12) (第116図・第8表)**

調査区の西側斜面、B-2グリッドに位置する。17号土坑と重複しており、本遺構が新しい。平面形は、長軸 1.55m、短軸 50cmの不整形である。深さは 15cmである。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単一層で、焼土を多量に含む。

遺物は、堆積土から平瓦及び土師器が出土している。総破片数は 12点で、図示していない。



1号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	黒褐10YR3/2	砂質シルト	砂質シルト(にぶい黄褐)を含む。礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	シルト質粘土	中～下部に砂質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを含む。

8号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	礫を含む。

4号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	砂質シルト(暗褐)小・中ブロックを多量含む。礫を微量含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	炭化物粒を微量含む。

9号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	礫を少量含む。

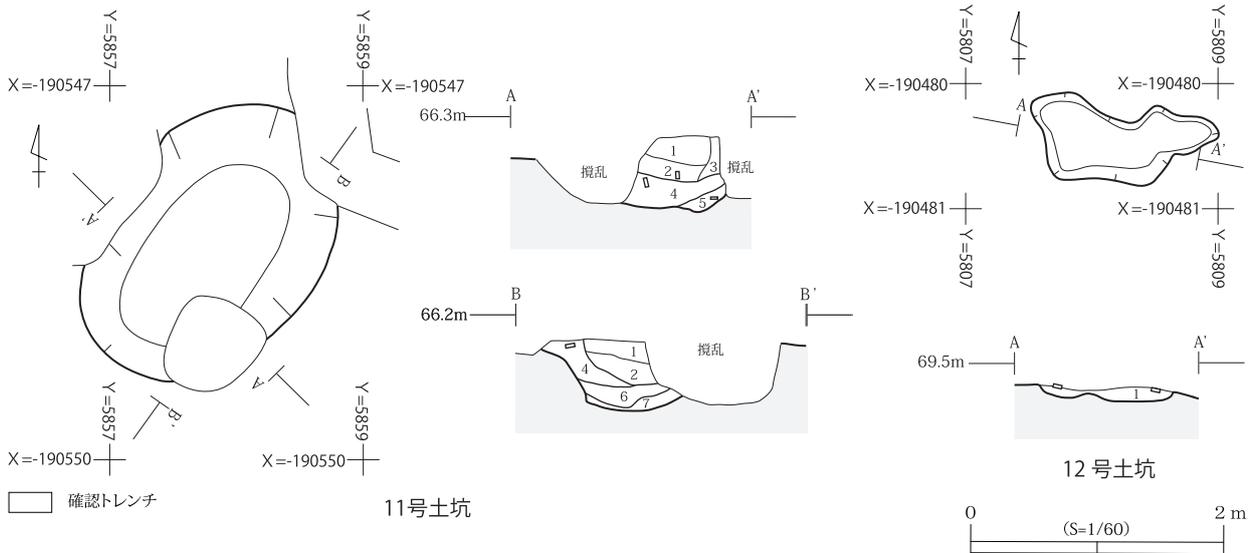
6号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	暗褐10YR3/3	砂質シルト	下部に砂質シルト(明黄褐)を帯状に含む。礫を少量含む。

10号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	明黄褐10YR6/6	砂質シルト	炭化物大・極大ブロックを極多量含む。

第115図 1・4・6・8～10号土坑平面図・土層断面図



11号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 礫を少量含む。	5	褐7.5YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 焼土小ブロック・炭化物粒を少量含む。
2	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土中ブロックを含む。礫を少量含む。	6	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 礫を含む。焼土小ブロックを少量含む。
3	黄褐10YR5/6	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土(にぶい黄褐)中ブロックを多量含む。礫を少量含む。	7	にぶい赤褐5YR4/4	粘土質シルト	焼土層(大別4層) 粘土質シルト(にぶい黄褐・灰黄褐)中ブロックを含む。
4	にぶい赤褐5YR4/4	粘土質シルト	焼土層(大別2層) 焼土小ブロック・礫を多量含む。				

12号土坑

層位	土色	土性	特徴
1層	にぶい黄褐10YR5/4	シルト	焼土大ブロックを多量含む。焼土中ブロックを少量含む。炭化物粒・礫を微量含む。

第116図 11・12号土坑平面図・土層断面図

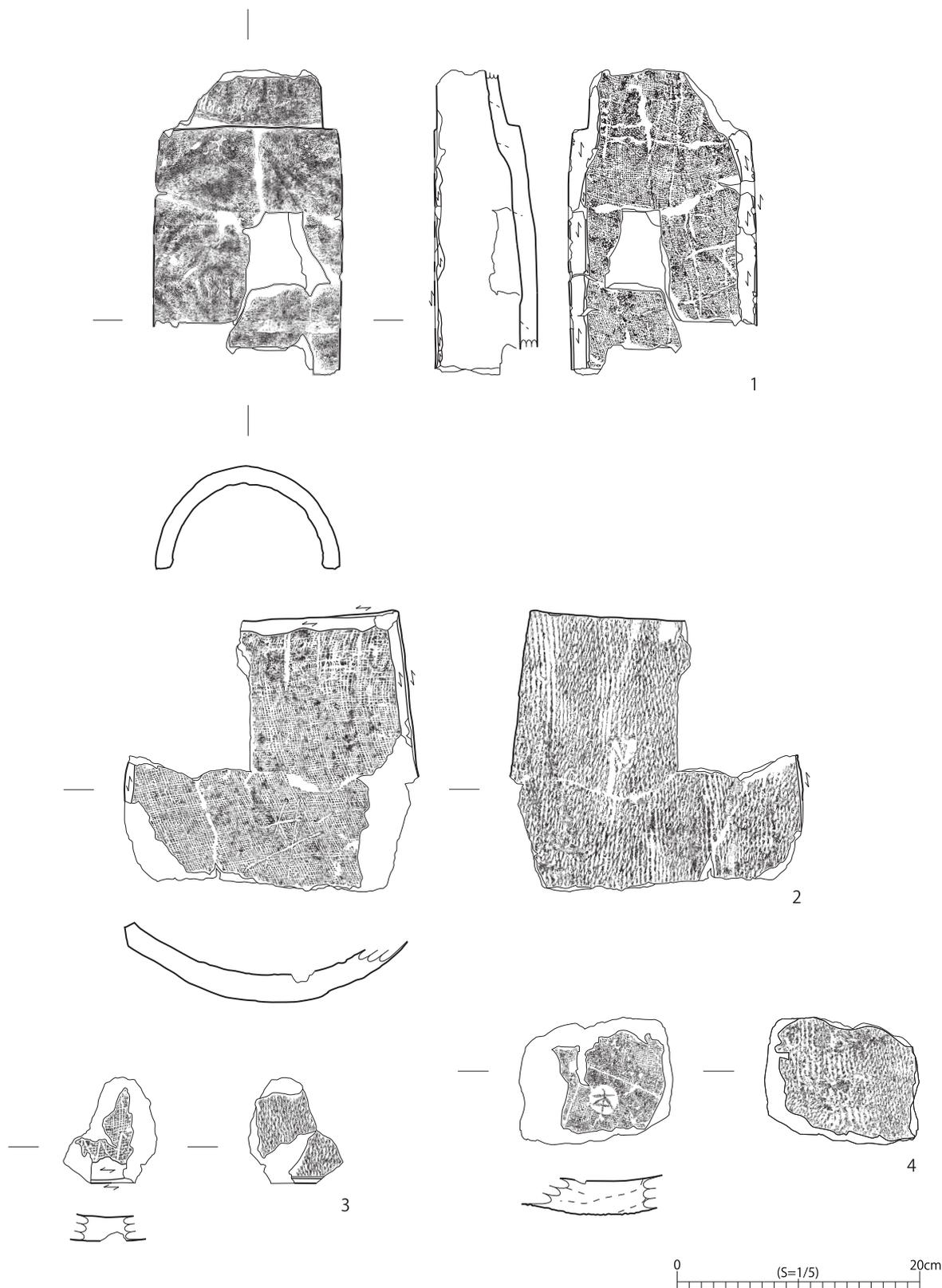
13号土坑 (SK13) (第118～121図・第8表)

調査区の西側斜面、B-2・3グリッドに位置する。1号灰原と重複関係にあり、灰原の下面で確認した。平面形は、長軸4.15m、短軸2.75mの楕円形である。深さは1.05mである。底面は斜面と同じ方向に緩やかに傾斜する。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。東壁と西壁の外側には、それぞれ溝が付設されている。東側の溝は、長さ1.30m、幅20cm、深さ20cmで、西側の溝は長さ2.60m、幅0.30m、深さ0.15mである。底面には、直径40cm、深さ5cmのピットがあり、直径10cmの柱痕跡が認められる。堆積土は大別5層、細別9層に分けられる。大別1～3層は流入堆積層で、大別2層中には灰白色火山灰が極めて多量に混入する。大別4層は炭化物層で、極めて多量の遺物を含む。大別5層は流入堆積層で、炭化物粒を含んでいる。

遺物は細別1～9層及び東・西側の溝から、丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器・土師器が出土している。総破片数は1293点で、11点を図示した。

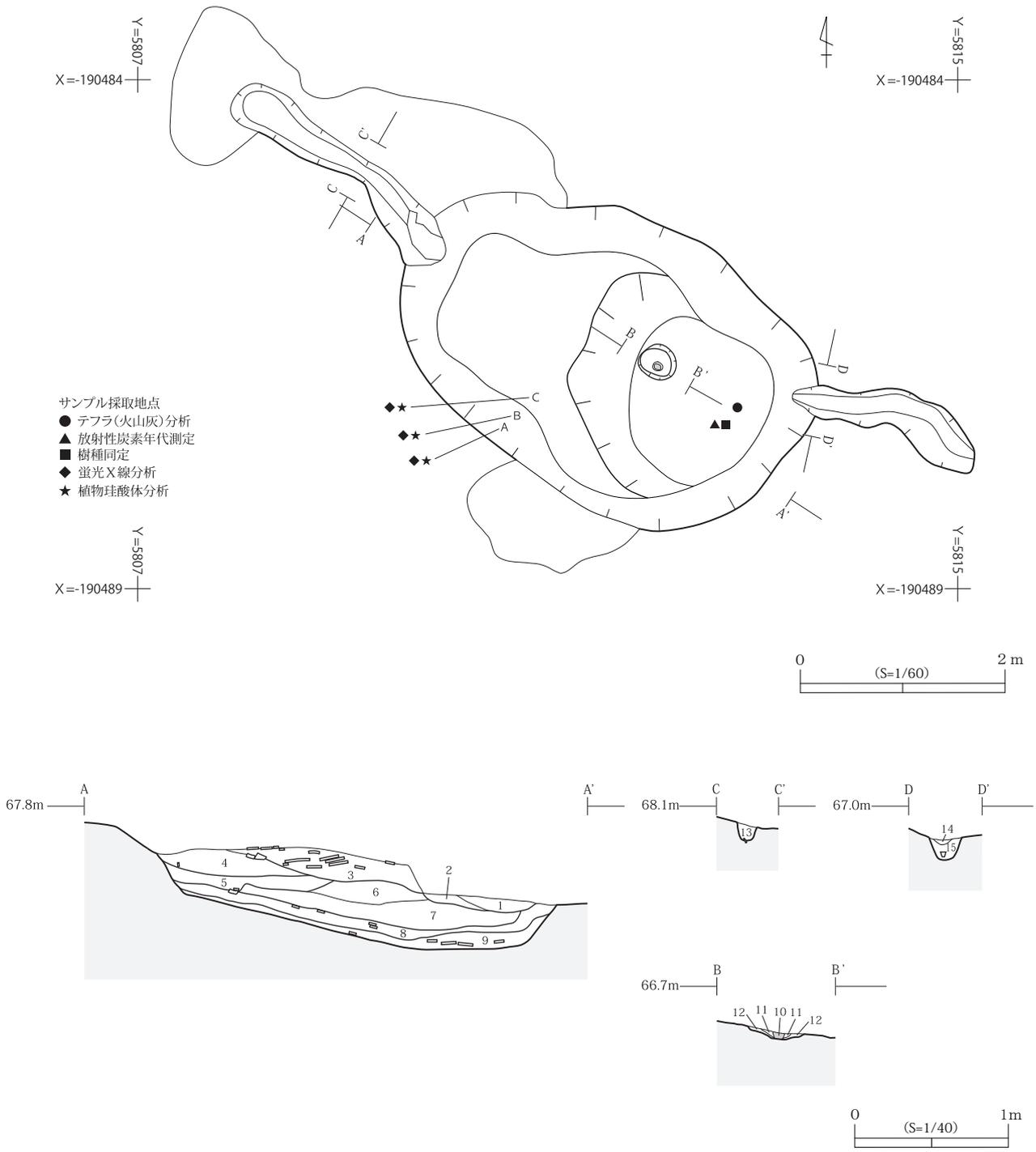
14号土坑 (SK14) (第122～124図・第8表)

調査区の西側斜面、C-3グリッドに位置する。1号灰原と重複している。平面形は、楕円形と楕円形が結合したような形である。2基の土坑が重複していることも考慮したが、灰原の堆積土によって完全に覆われている状況が同様であること、平面上では切り合い関係を認めることができなかつたこと、底面直上の堆積土(6層)が同一であることから、単独の遺構と判断した。規模は長軸5.35m、短軸2.0m、深さは1.0mである。北側の楕円形部分は長軸2.70m、短軸2.00m、深さは70cmで、南側の楕円形部分は長軸2.80m、短軸2.65m、深さは1.0mである。底面に凹凸は認められず、斜面と同じ方向に緩やかに傾斜している。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は6層に分けられ、すべて流入堆積層である。1層：皿層ブロックを極多量、火山灰ブロックをやや多量に含む黒褐色砂質シルト。2・3層：黒色砂質シルト・暗褐色の砂質シルト。4層：炭化物層。5層：暗灰黄色の粘土質土。6層：炭化物層。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	11号土坑	1	丸瓦	23.9+ 玉4.8+	- 玉12.4+	13.6 (14.6) 玉-	1.6 玉1.2	-	-	凹面：N5/0 凸面：10YR5/1	凹面：粘土紺痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「井」	F-047	35-2 101
2	11号土坑	1	平瓦	23.4+	-	12.8 (22.0) 玉-	2.3	-	-	凹面：2.5Y 5/1 凸面：N5/0	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「井」	G-155	35-3 101
3	11号土坑	1	平瓦	8.7+	1.3+	-	2.1	-	-	凹面：2.5Y 4/1 凸面：2.5Y5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：広端面ヘラケズリ 凹面：小口付近ヘラ描き波状文	G-156	35-4
4	11号土坑	1	平瓦	10.7+	10.6+	-	2.9	-	-	凹面：10YR 5/1 凸面：5YR5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：押印㊦ ヘラ書き「×」	G-157	35-5 99

第117図 11号土坑出土遺物



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にふい黄褐色10YR6/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物粒・焼土を微量含む。粘土質シルト(黒褐色)を帯状に含む。	9	灰黄褐色10YR6/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 酸化鉄を多量含む。炭化物粒を含む。
2	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘土質シルト(にふい黄褐色)小ブロックを微量含む。	10	褐色10YR4/1	粘土質シルト	ピット柱材痕跡 砂質シルト(にふい黄褐色)小ブロックを少量含む。焼土大ブロックを多量含む。
3	黒褐色10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 上部に砂質シルト(にふい黄褐色)大ブロックを少量含む。焼土粒を微量含む。炭化物粒を極微量含む。	11	褐色10YR5/1	粘土質シルト	ピット柱痕跡 粘土質シルト(灰黄褐色)小ブロックを多量含む。炭化物粒を含む。
4	黒10YR2/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) シルト(にふい黄褐色)大ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。	12	浅黄2.5YR7/4	粘土質シルト	ピット掘り方理土 粘土質シルト(浅黄褐色)大ブロックを多量含む。一部はグライ化する。酸化鉄を多量含む。
5	褐色10YR4/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 灰白色火山灰(にふい黄褐色)極大ブロックを極多量含む。炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。	13	にふい黄褐色10YR6/4	砂質シルト	流入堆積層 砂質シルト(浅黄褐色)小ブロック・炭化物粒・酸化鉄を微量含む。
6	にふい黄褐色10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒を多量含む。砂質シルト(にふい黄褐色10YR5/4)中ブロックを含む。炭化物粒を少量含む。	14	にふい黄褐色10YR7/3	粘土	流入堆積層 炭化物粒を多量含む。粘土質シルト(明褐色)中ブロックを少量含む。
7	灰黄褐色10YR4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 砂質シルト(にふい黄褐色10YR5/4)中ブロック・炭化物粒・焼土粒を多量含む。	15	灰黄褐色10YR5/2	シルト質砂	流入堆積層 炭化物粒を多量含む。シルト質砂(灰オリブ)中ブロックを少量含む。酸化鉄を微量含む。
8	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 炭化物粒 粘土質シルト(にふい黄褐色)中ブロックを含む。炭化物粒・焼土粒を多量含む。				

第118図 13号土坑平面図・土層断面図



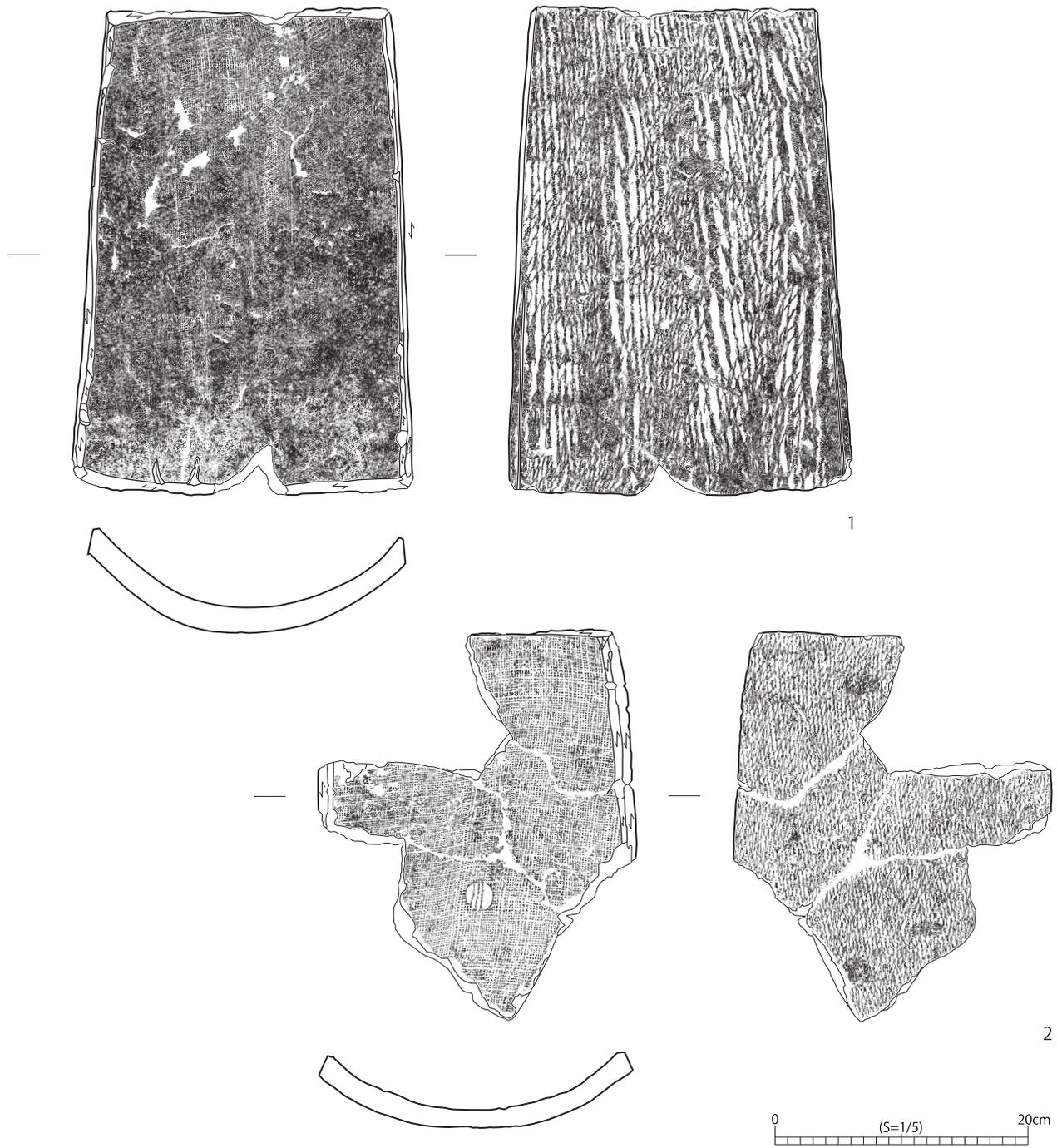
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	13号土坑	8	丸瓦	25.7+ 玉7.2	- 玉14.4	17.1 玉11.2	1.9 玉2.0	-	-	凹面：N4/O 凸面：N4/O	凹面：粘土縦痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 融着 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-048	35-6
2	13号土坑	西側 排水溝	平瓦	40.8	6.9+	8.3+	2.4	-	-	凹面：N5/O 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→圧痕 凹面：ヘラ書き「Sカ」	G-158	35-7 105

第119図 13号土坑出土遺物(1)

遺物は、1・2・4・6層から軒丸瓦・丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は407点で、8点を図示した。

15号土坑 (SK15) (第125～127図・第8表)

調査区の北側斜面、C-4グリッドに位置する。北側で1号灰原と接しているが、他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸5.0m、短軸1.65mの中央が括れた長楕円形である。深さは45cmである。底面は、西から東に緩やかに傾斜する。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。1層：灰白色火山灰層。2層：炭化物ブロックを含む。



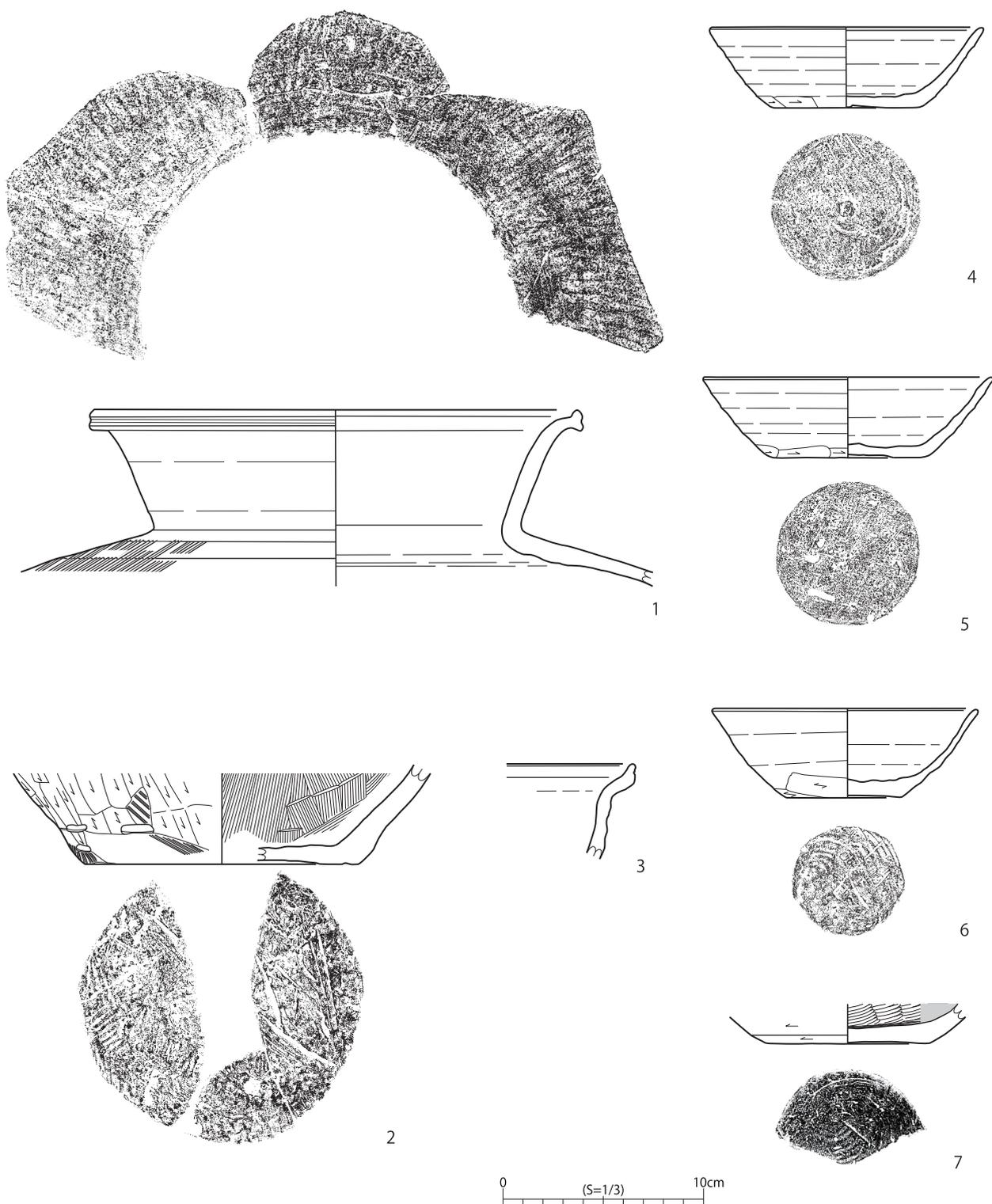
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	13号土坑	8	平瓦	39.0	22.8 (27.4)	22.6	2.2	-	-	凹面：10YR6/2 凸面：10YR4/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：ヘラケズリ→一部ナデ→側面・広端面圧痕	G-159	35-8
2	13号土坑	1	平瓦	31.1+	-	10.8 (23.3)	1.8	-	-	凹面：N5/0 凸面：N5/0	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：押印㊦	G-160	36-1 100

第120図 13号土坑出土遺物(2)

遺物は、2層から丸瓦・軒平瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は316点で、8点を図示した。  
16号土坑 (SK16) (第128・129図・第8表)

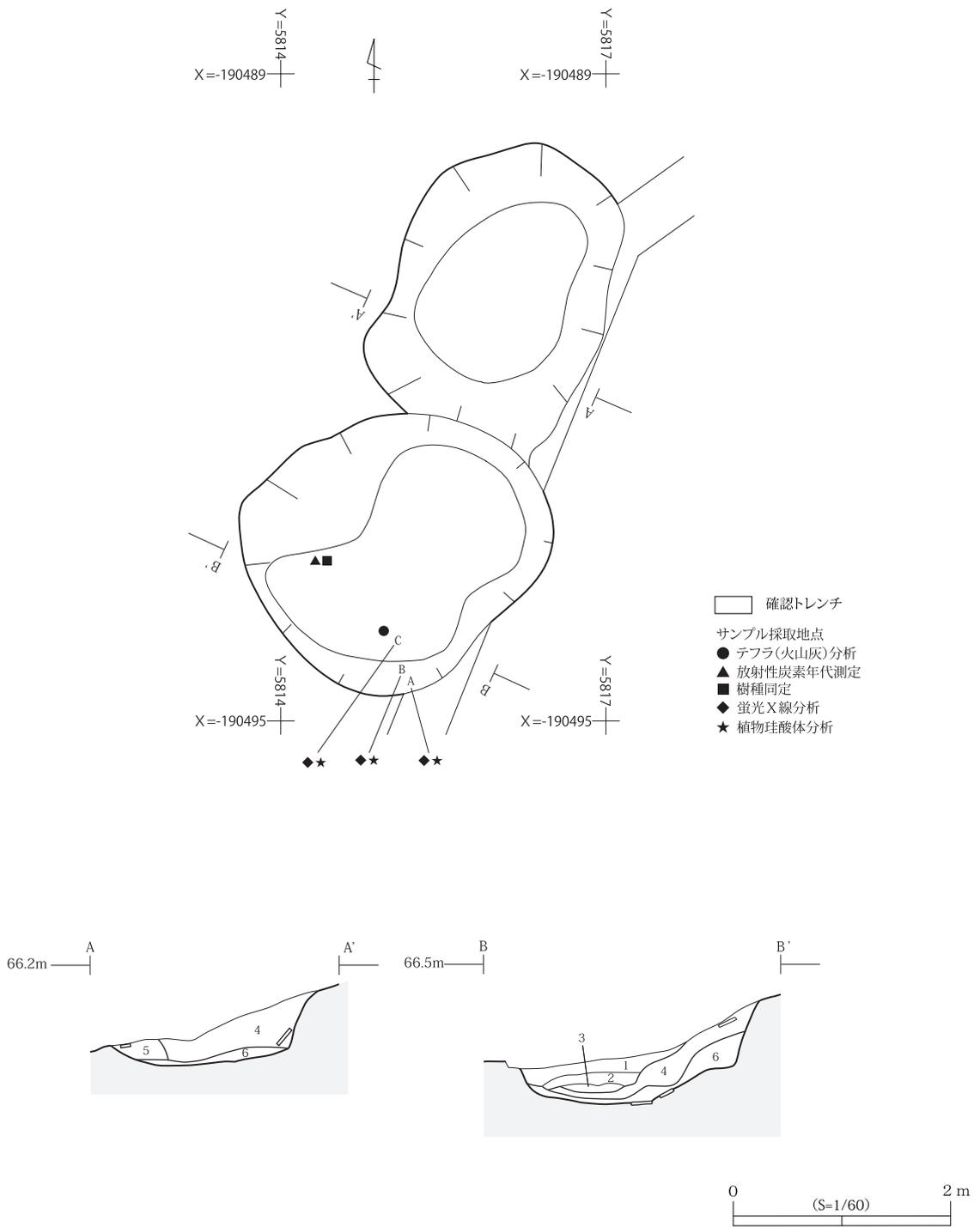
調査区の西側斜面、A-3グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。北側及び東側は、調査区外に延びる。平面形は、円形あるいは楕円形を基調としたものと思われる、長さ2.90m以上、深さ85cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、全て流入堆積層である。

遺物は、1層及び床面直上から丸瓦・平瓦及び須恵器が出土している。総破片数は55点で、2点を図示した。



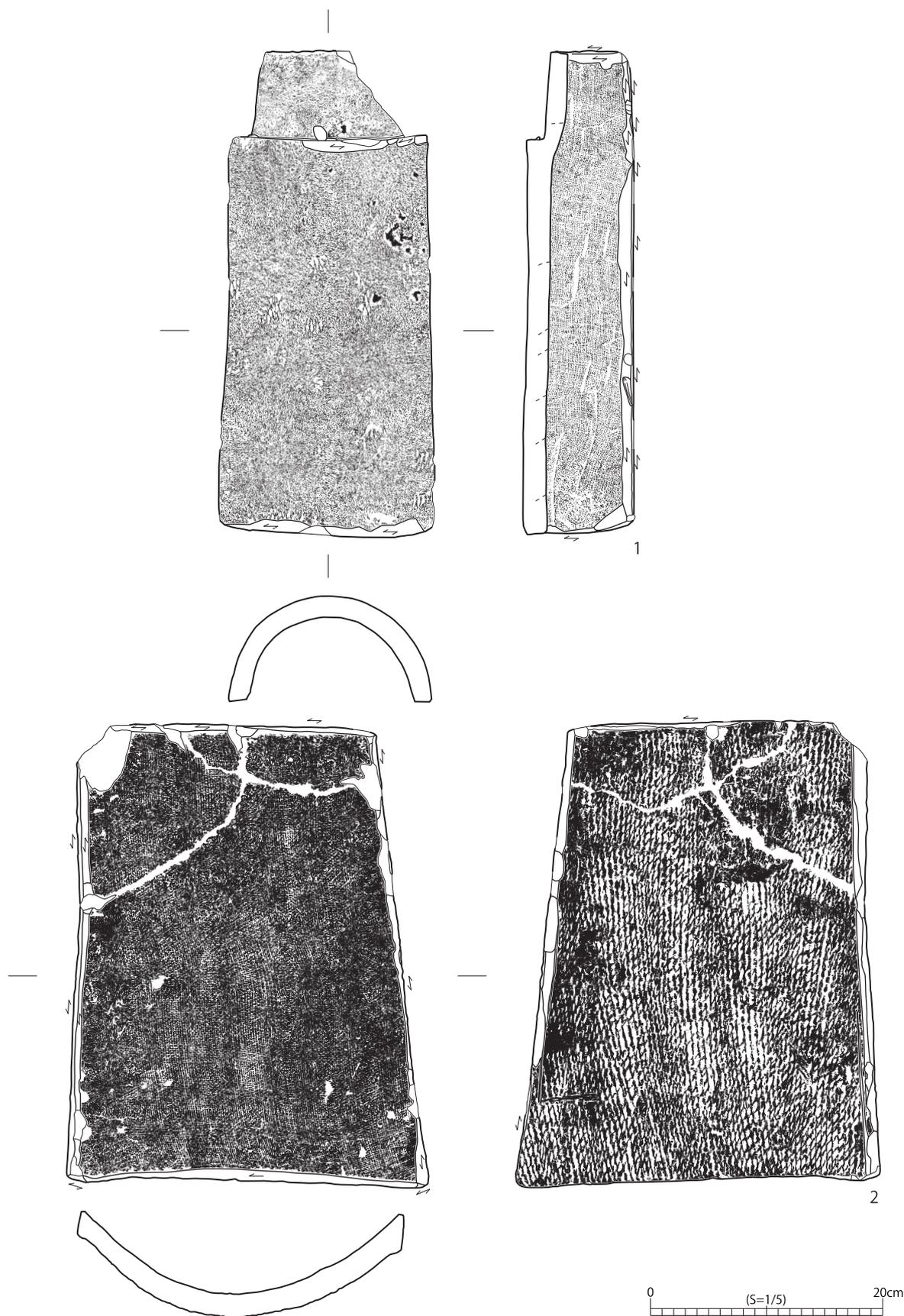
番号	遺構名 クリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	13号土坑	8	須恵器 甕	(24.0)	-	(9.0)	-	外面：2.5Y5/1 内面：7.5YR5/2	外面：口縁部ロクロナデ 体部タタキ→ロクロナデ 内面：ナデ	E-011	35-9
2	13号土坑	8	須恵器 甕	-	13.6	(5.0)	-	外面：5Y6/1 内面：2.5Y5/1	外面：タタキ→ヘラケズリ・ナデ 底部：ヘラケズリ→ナデ 内面：ヘラナデ	E-012	35-11
3	13号土坑	2	須恵器 甕	-	-	(4.8)	-	外面：10R4/1 内面：7.5Y5/1	外面：ロクロナデ 内面：ロクロナデ	E-013	35-10
4	13号土坑	8	須恵器 杯	(13.5)	(7.6)	4.0	-	外面：10YR7/2 内面：10YR6/1	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-014	36-3
5	13号土坑	8	須恵器 杯	(13.5)	(7.1)	4.1	-	外面：5Y7/1 内面：10YR7/1	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-015	36-4
6	13号土坑	1	須恵器 杯	13.1	5.7	4.5	-	外面：10YR7/2 内面：10YR7/2	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラケズリ 底部：回転糸切り→手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ	E-016	36-5
7	13号土坑	1	土師器 杯	-	(8.0)	(1.8)	-	外面：7.5YR5/4 内面：N3/0	外面：回転ヘラケズリ 底部：回転糸切り→回転ヘラケズリ 内面：ヘラミガキ→黒色処理	D-003	36-2

第121図 13号土坑出土遺物(3)



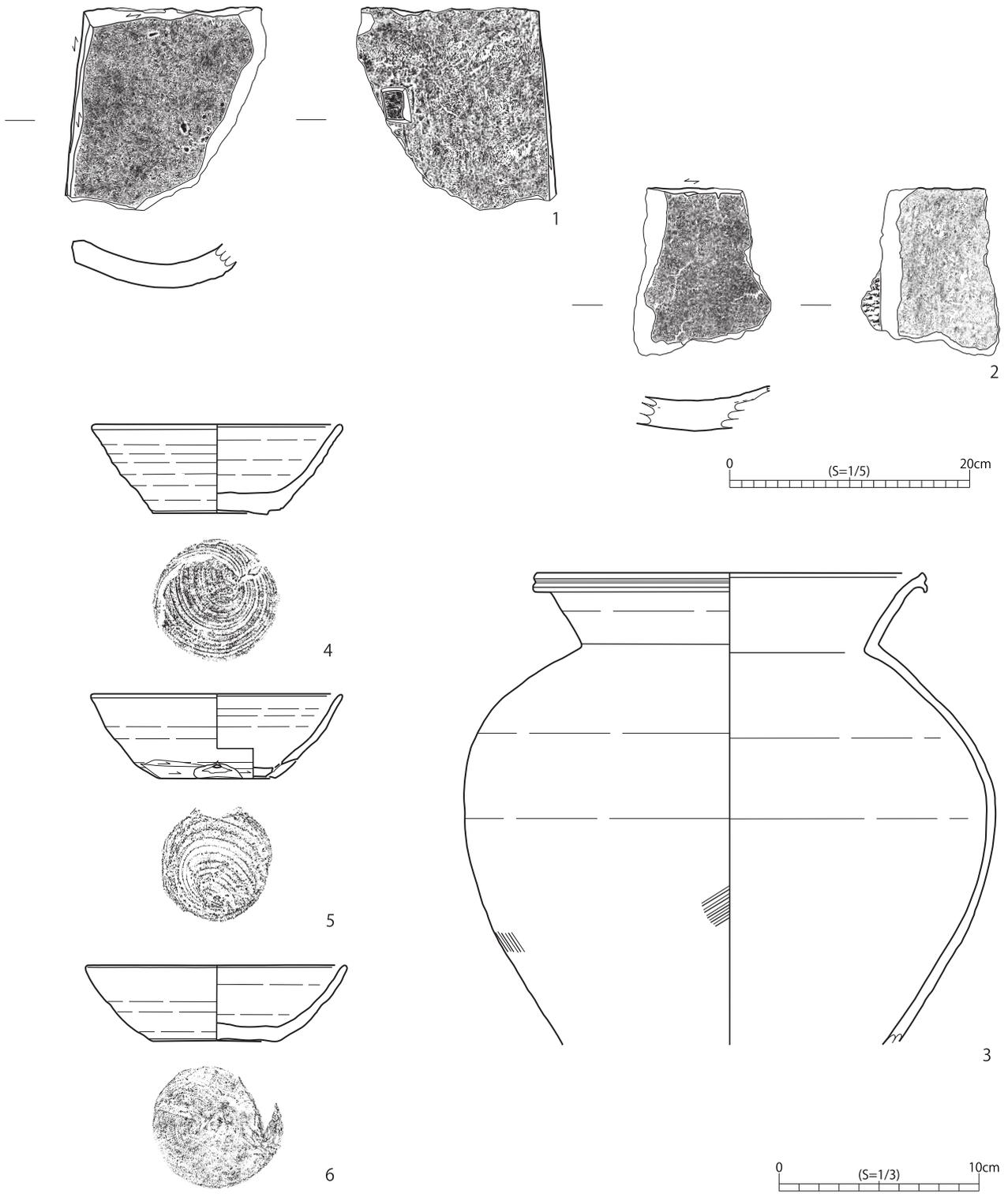
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐10YR3/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルト(にぶい黄褐)極大ブロックを極多量含む。火山灰(明黄褐)中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。	4	黒10YR2/1	粘土質シルト	燃料残滓層(大別2層) 炭化物粒を多量含む。焼土粒を少量含む。
2	黒10YR2/1	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物粒・焼土粒を少量含む。礫を微量含む。	5	暗灰黄2.5Y4/2	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 粘土質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを微量含む。
3	暗褐7.5YR3/4	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒・炭化物粒を少量含む。	6	黒10YR2/1	砂質シルト	燃料残滓層(大別4層) 炭化物大ブロックを極多量含む。粘土質シルト(黄褐)中ブロックを少量含む。

第122図 14号土坑平面図・土層断面図



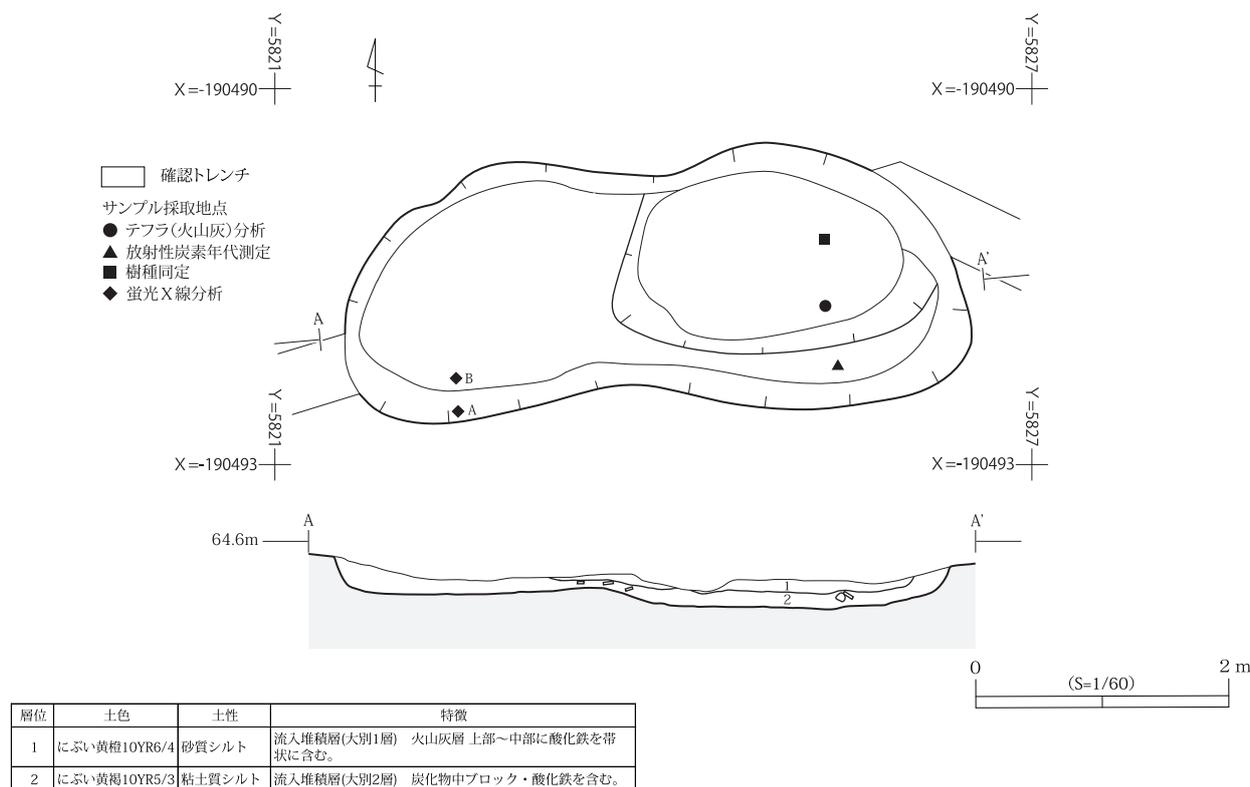
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	14号土坑	1	丸瓦	42.2 玉7.6	18.4 玉13.0+	16.7 玉7.2+	1.9 玉1.6	-	-	凹面：10YR4/1 凸面：2.5 Y 5/1	凹面：粘土組痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 融着 周縁：ヘラケズリ→側面圧痕	F-049	36-6
2	14号土坑	6	平瓦	34.0	30.8	22.7 (25.3)	2.3	-	-	凹面：10R5/1 凸面：10YR4/1	凹面：糸切り痕→布目痕 周縁：ヘラケズリ→側面・狭端面圧痕 凸面：縄叩き→圧痕 凹形台圧痕	G-161	36-8

第123図 14号土坑出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	14号土坑	4	平瓦	17.1+	-	14.8+	2.3	-	-	凹面：2.5Y6/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：ナデケシ 凸面：縄叩き→ナデケシ 周縁：側面・狭端ヘラケズリ→狭端面圧痕 凸面：方形突出	G-162	36-9
2	14号土坑	1	平瓦	14.1+	-	8.0+	2.6	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：2.5Y6/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→粘土重ね→縄叩き→ナデ 自然釉 周縁：狭端面ヘラケズリ	G-163	36-10
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 長さ(cm)	重さ (g)	色調		成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
3	14号土坑	底面 直上	須恵器 甕	(19.2)	-	(23.6)	-	外面：10YR6/1 内面：N5/0	外面：口縁部ロクロナデ 体部タタキ→ロクロナデ 内面：ロクロナデ		E-017	36-14	
4	14号土坑	2	須恵器 坏	(12.4)	5.6	4.5	-	外面：10YR6/1 内面：10YR5/1	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ		E-018	36-11	
5	14号土坑	2	須恵器 坏	(12.1)	5.8	4.3	-	外面：5Y6/1 内面：5Y6/1	外面：ロクロナデ→手持ヘラケズリ 底部：回転糸切り→周縁手持ヘラケズリ 内面：ロクロナデ 体部下半に穿孔		E-019	36-12	
6	14号土坑	1	須恵器 坏	(12.8)	(6.3)	3.8	-	内面：N5/0 外面：N5/0	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ		E-020	36-13	

第124図 14号土坑出土遺物(2)



第125図 15号土坑平面図・土層断面図

17号土坑 (SK17) (第128・130・131図・第8表)

調査区の西側斜面、A・B-2・3グリッドに位置する。12号土坑と重複しており、本遺構が古い。平面形は、長軸2.8m、短軸2.5mの楕円形である。深さは50cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急角度で立ち上がる。堆積土は5層に分けられ、すべて流入堆積層である。2層に灰白色火山灰を多量に含む。

遺物は、1・3・4・5層から丸瓦・平瓦及び須恵器・土師器が出土している。総破片数は147点で、3点を図示した。

18号土坑 (SK18) (第132・133図・第8表)

調査区の西側斜面、B-3グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.90m、短軸1.70mの楕円形である。深さは55cmで、断面形は上部が開く「U」字形である。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から急激に立ち上がる。東壁下には溝が付設されている。長さ3.20m、幅45cm、深さ15cmである。堆積土は4層に分けられ、すべて流入堆積層である。1・2層は灰白色火山灰が混入する。

遺物は、1・4層から平瓦が出土している。総破片数は12点で、1点を図示した。

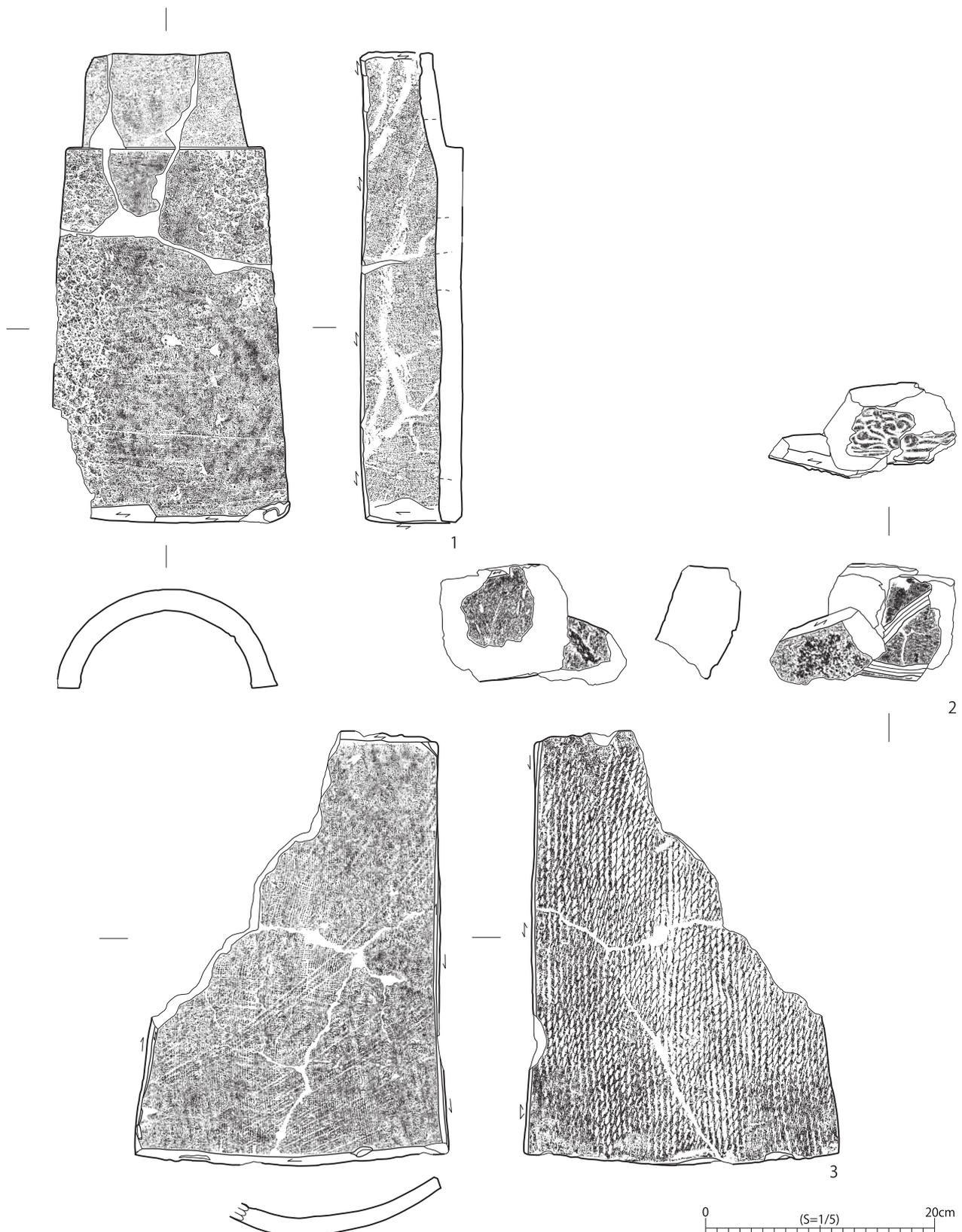
19号土坑 (SK19) (133・134図・第8表)

調査区の東側斜面、I-7グリッドに位置する。南・西側は攪乱で削平されている。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸2.50m以上、短軸2.15m以上の方形を基調としたものと考えられる。深さは50cmである。底面は、凹凸が著しい。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分けられ、1・3層は流入堆積層、2層は瓦が多量に混入する焼土層である。

遺物は、1・2層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は147点で、3点を図示した。

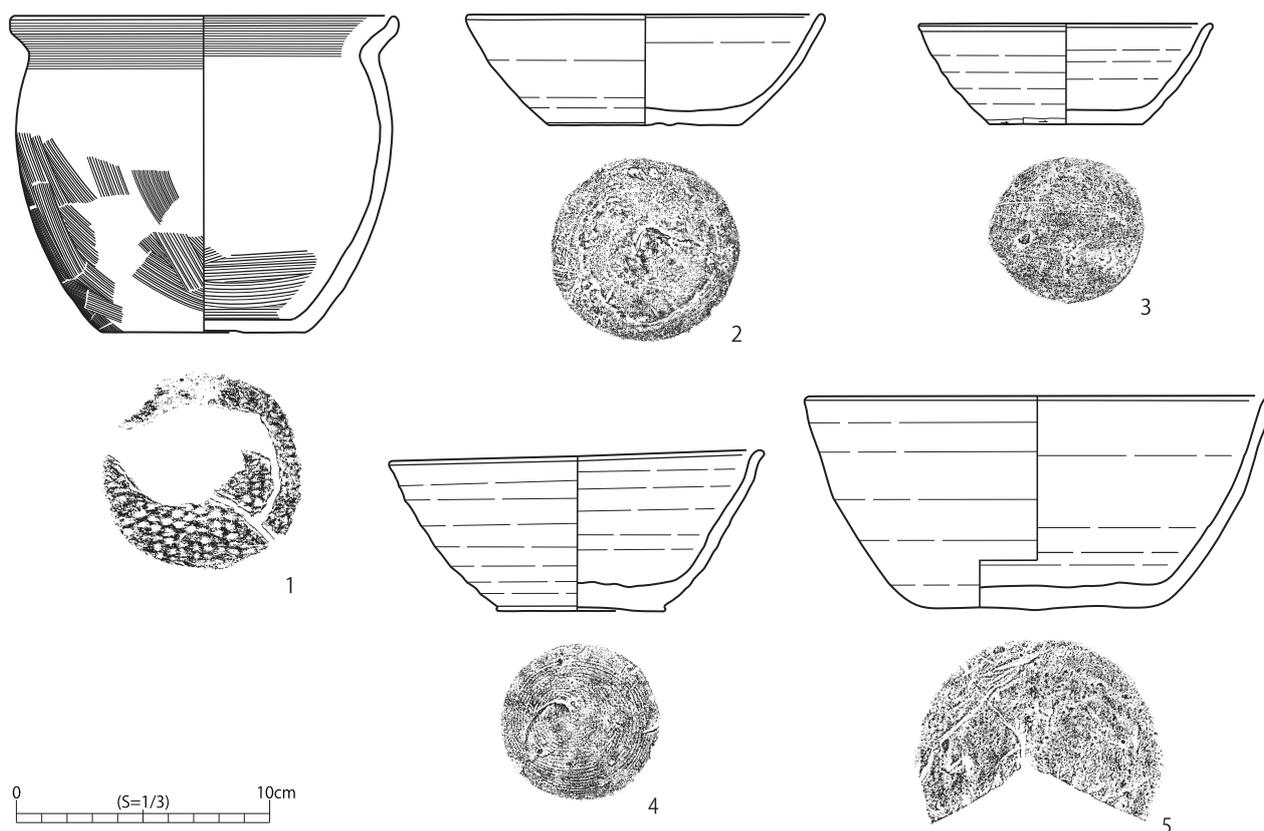
20号土坑 (SK20) (第135・136図・第8表)

調査区の東側斜面、E-6グリッドに位置する。中央上部で3号窯跡排水溝(3号溝)と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったもので、



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	15号土坑	2	丸瓦	41.5 玉8.3	17.3 (21.2) 玉14.6	17.2 玉11.9	2.4 玉1.6	-	-	凹面：10R5/1 凸面：N4/O	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ→一部ヘラケズリ 周縁：ヘラケズリ	F-050	36-7
2	15号土坑	2	軒平瓦	10.0+	10.9+	-	-	-	3.5 (4.5)	瓦当面：N6/O 凹面：7.5YR5/1 凸面：2.5Y6/1	瓦当面：範 凹面：布目痕→ナデ 凸面：縄叩き→ナデケシ→ヘラ描き沈線 平瓦と融着	G-164	37-1
3	15号土坑	2	平瓦	38.3	27.5	8.5+ (22.0)	1.5	-	-	凹面：N5/O 凸面：N5/O	凹面：糸切り痕→布目痕→ナデ 凸面：糸切り痕→縄叩き 凹型台庄痕 周縁：ヘラケズリ→広端面庄痕	G-165	37-3

第126図 15号土坑出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	15号土坑	2	土師器 甕	(15.0)	8.0	12.6	-	外面：5YR5/4 内面：7.5YR5/3	外面：口縁部ヨコナデ 体部上半摩擦、中位～下半ハケメ 内面：口縁部ヨコナデ 体部上半摩擦、下半ハケメ 底部：ムシロ状圧痕	C-001	37-5
2	15号土坑	2	須恵器 杯	(14.0)	(7.7)	4.5	-	外面：5YR7/4 内面：7.5YR6/3	外面：ロクロナデ 底部：ヘラ切り→ナデ 内面：ロクロナデ	E-021	37-6
3	15号土坑	2	須恵器 杯	(11.5)	(6.1)	4.1	-	外面：N6/O 内面：N6/O	外面：ロクロナデ→下端手持ヘラズリ 底部：切り離し不明→手持ヘラズリ 内面：ロクロナデ	E-022	37-7
4	15号土坑	2	須恵器 杯	14.7	6.5	6.5	-	外面：N6/O 内面：N5/O	外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	E-023	37-8
5	15号土坑	2	須恵器 壺	(18.2)	(8.6)	8.5	-	外面：N5/O 内面：N5/O	外面：ロクロナデ 底部：切り離し不明→ナデ 内面：ロクロナデ 底部：突出	E-024	37-9

第127図 15号土坑出土遺物(2)

本遺構が新しい。平面形は、長軸 4.35m、短軸 2.95m のやや不整な楕円形である。深さは 75cm である。底面は凹凸が見られる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 5 層に分けられ、すべて流入堆積層である。2 層には灰白色火山灰が流入している。

遺物は、2 層から丸瓦・平瓦・棟平瓦及び土師器が出土している。総破片数は 71 点で、2 点を図示した。

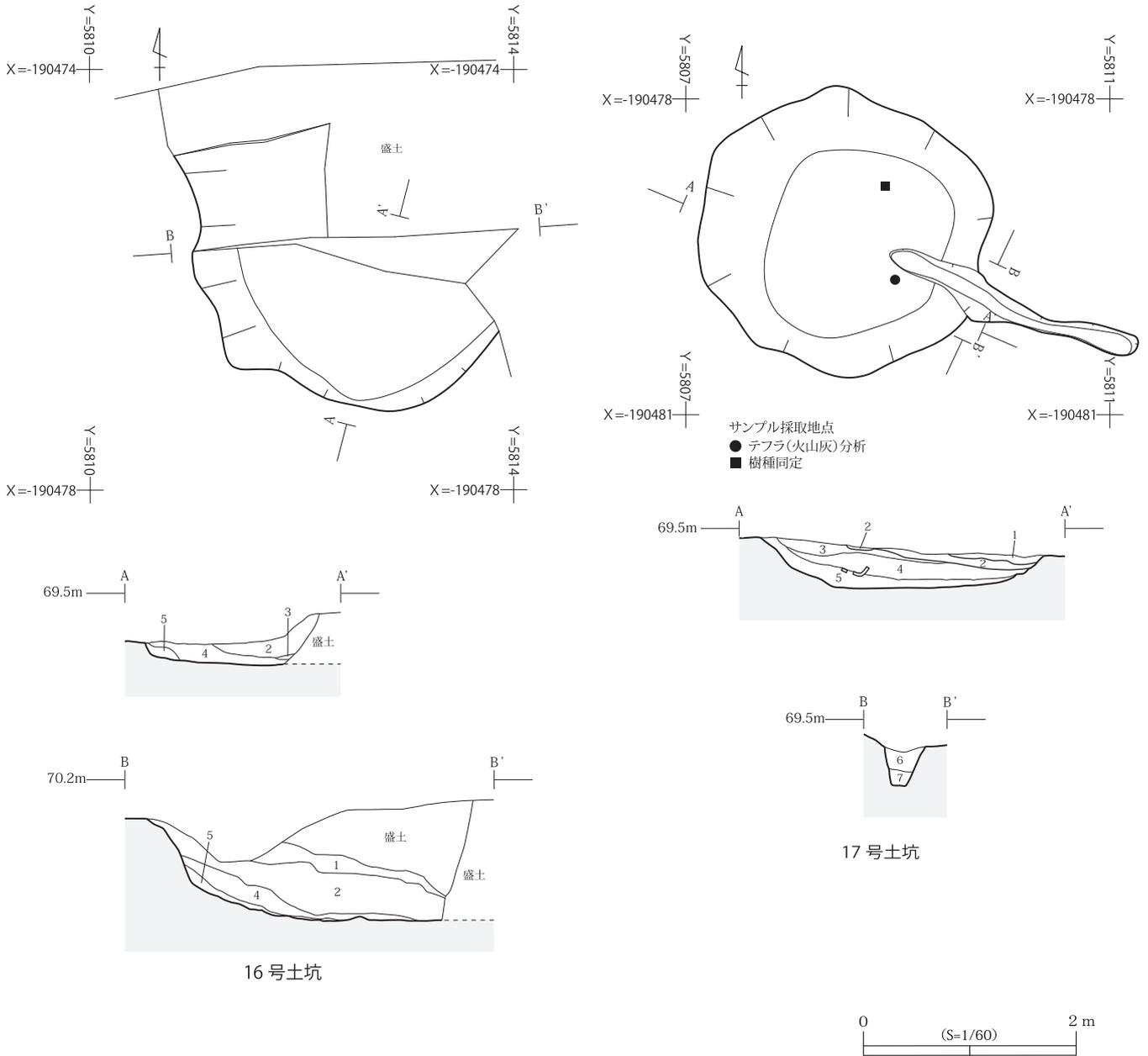
21号土坑 (SK21) (第 135 図・第 8 表)

調査区の東側斜面、E-7 グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。南側部分は残存していない。平面形は、長軸 1.55m、短軸 1.20m 以上の楕円形を基調としたものである。深さは 25cm である。底面はほぼ平坦であるが、東側に低い段を有する。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 2 層に分けられる。1 層は炭化物ブロックを多量に含む。2 層は焼土層である。

遺物は、1 層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は 4 点で、図示できるものはない。

22号土坑 (SK22) (第 137・138 図・第 8 表)

調査区の東側斜面、E-6・7 グリッドに位置する。南側で 3 号窯跡排水溝 (3 号溝) と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったものであり、本遺構が新しい。平面形は、長軸 4.35m、短軸 3.75m の不整形である。深さは 55cm である。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は 3 層に分けられ、すべて流入堆積層である。2 層には灰白色火山灰が流入している。



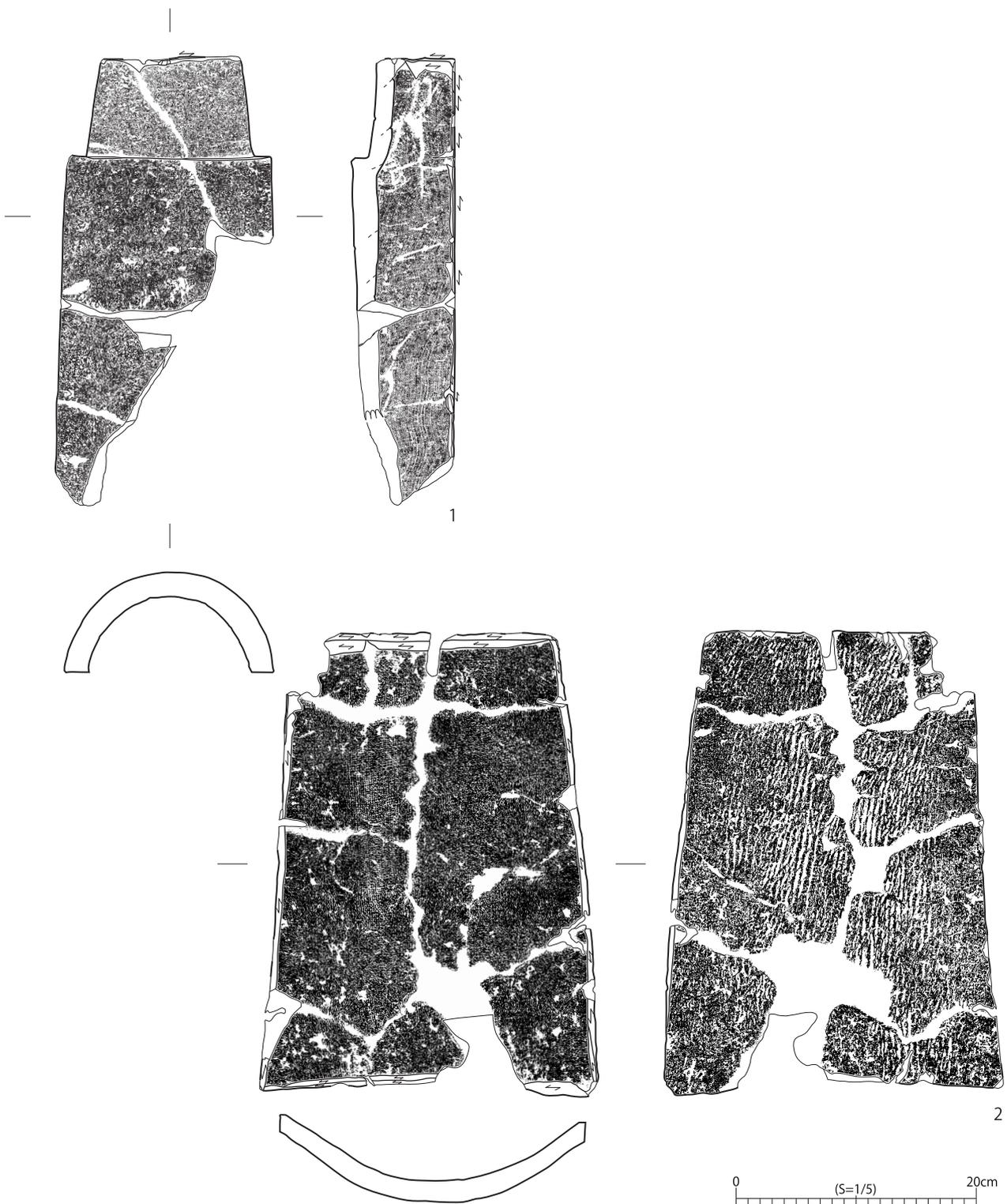
16号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR4/3	砂質シルト	流入堆積層 粘土質シルト(にぶい黄褐)中ブロックを多量含む。炭化物粒・焼土粒・礫を微量含む。	4	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層 焼土大ブロック・焼土極大ブロックを少量含む。砂質シルト(浅黄)中ブロック・炭化物粒を微量含む。上部に粘土質シルト(暗褐)を帯状に含む。
2	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層 上部に粘土(にぶい黄褐)極大ブロックを多量・酸化鉄を多量含む。焼土粒を含む。粘土(明黄褐)を少量含む。	5	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層 焼土粒を微量含む。炭化物粒を極微量含む。
3	灰黄褐10YR6/2	粘土質シルト	流入堆積層 酸化鉄を多量含む。炭化物粒を微量含む。				

17号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黒褐10YR3/1	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) シルト(明黄褐)小ブロックを少量含む。灰白色火山灰(にぶい黄)小ブロックを微量含む。	5	褐10YR4/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 粘土質シルト(明黄褐)大ブロックを含む。粘土(浅黄)小ブロック・粘土質シルト(にぶい黄)小ブロックを微量含む。焼土極大ブロック・酸化鉄大ブロックを少量含む。炭化物中ブロックを極微量含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別2層) 下部に灰白色火山灰(にぶい黄)大ブロックを極多量含む。炭化物粒を微量含む。	6	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	流入堆積層 粘土質シルト(にぶい黄褐)小ブロックを少量含む。炭化物粒・酸化鉄を微量含む。
3	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 炭化物中ブロックを含む。焼土中ブロックを少量含む。酸化鉄大ブロックを微量含む。	7	明黄褐10YR6/6	砂質シルト	流入堆積層 炭化物粒・酸化鉄を微量含む。
4	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 下部に酸化鉄を少量、焼土極大ブロック・炭化物粒を微量含む。				

第128図 16・17号土坑平面図・土層断面図



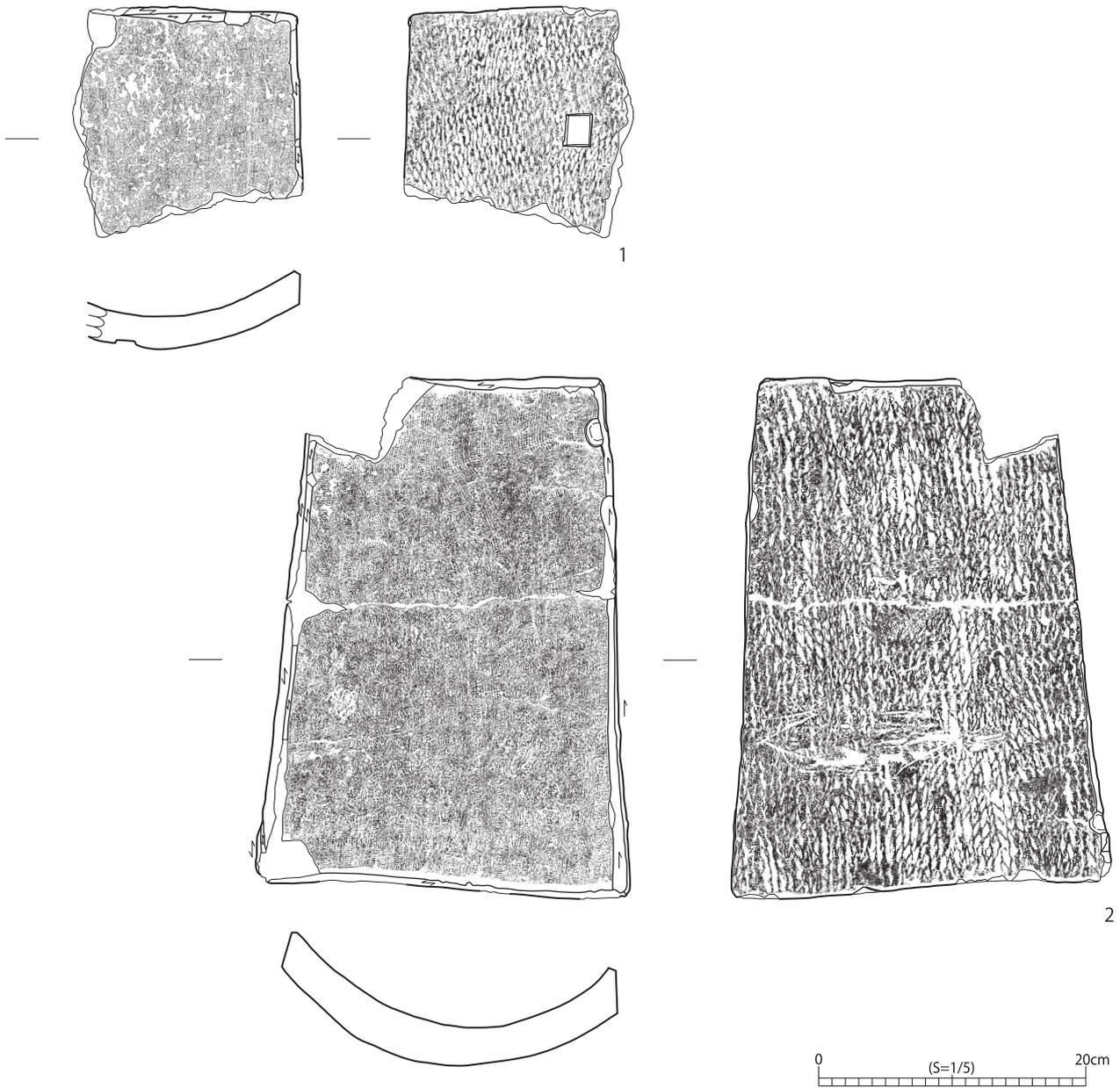
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	16号土坑	底面 直上	丸瓦	35.0+ 玉8.3	- 玉14.2	16.8 玉11.4	2.2 玉1.6	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：粘土紺痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→圧痕	F-051	37-2
2	16号土坑	底面 直上	平瓦	39.0	27.2 (28.4)	17.2 (22.3)	1.9	-	-	凹面：N5/0 凸面：N6/0	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：ヘラケズリ	G-166	37-4

第129図 16号土坑出土遺物

遺物は、1・3層から丸瓦・平瓦・及び土師器が出土している。総破片数は37点で、1点を図示した。

#### 24号土坑 (SK24) (第137図・第8表)

調査区の東側斜面、D-7・8グリッドに位置する。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は、長軸1.8m、短軸70cmの隅丸長方形である。深さは35cmである。底面はほぼ平坦である。底面・壁面は、被熱している。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	17号土坑	4	平瓦	17.4+	-	11.2+	2.5	-	-	凹面：N5/0 凸面：N5/0	凹面：布目痕→ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凸面：方形圧痕	G-167	37-10
2	17号土坑	1	平瓦	39.0	27.1 (28.2)	14.2 (21.8)	3.2	-	-	凹面：10YR6/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→一部ナデ、圧痕 周縁：ヘラケズリ→側面・狭端面圧痕	G-168	38-1

第130図 17号土坑出土遺物(1)

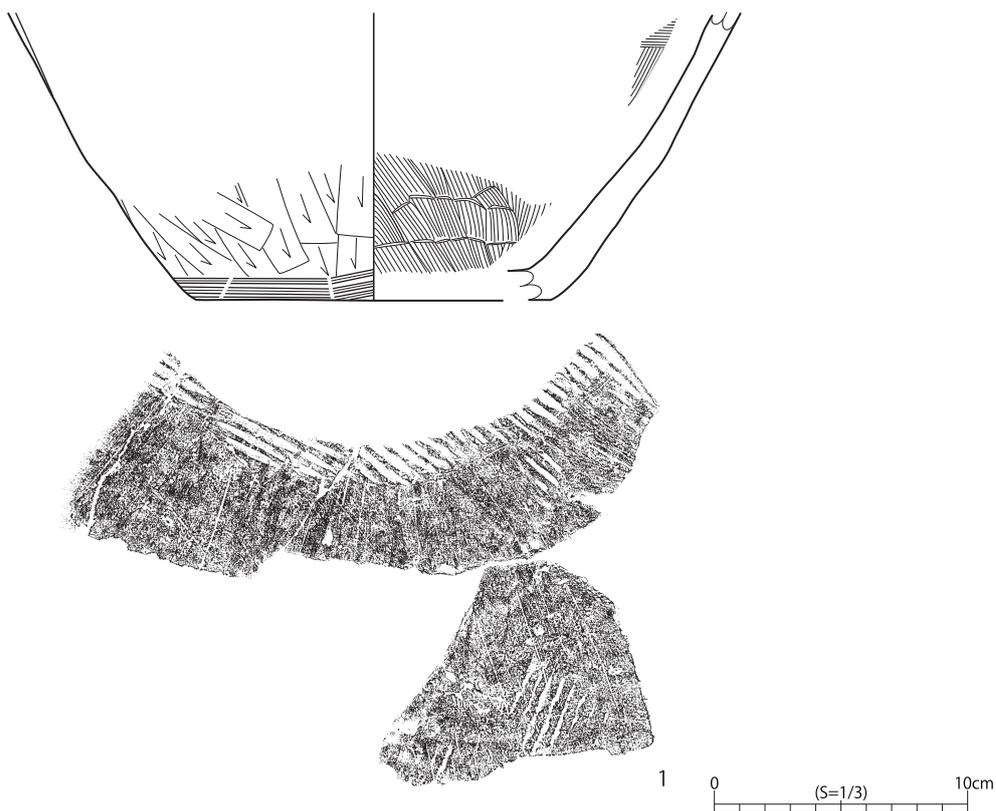
壁面は、底面から直立気味に立ち上がり、南東側壁は内湾して立ち上がる。堆積土は5層に分けられる。1・2層は流入堆積層。3・5層は炭化物層。4層は焼土層である。

遺物は、出土していない。

25号土坑 (SK25) (第139・140図・第8表)

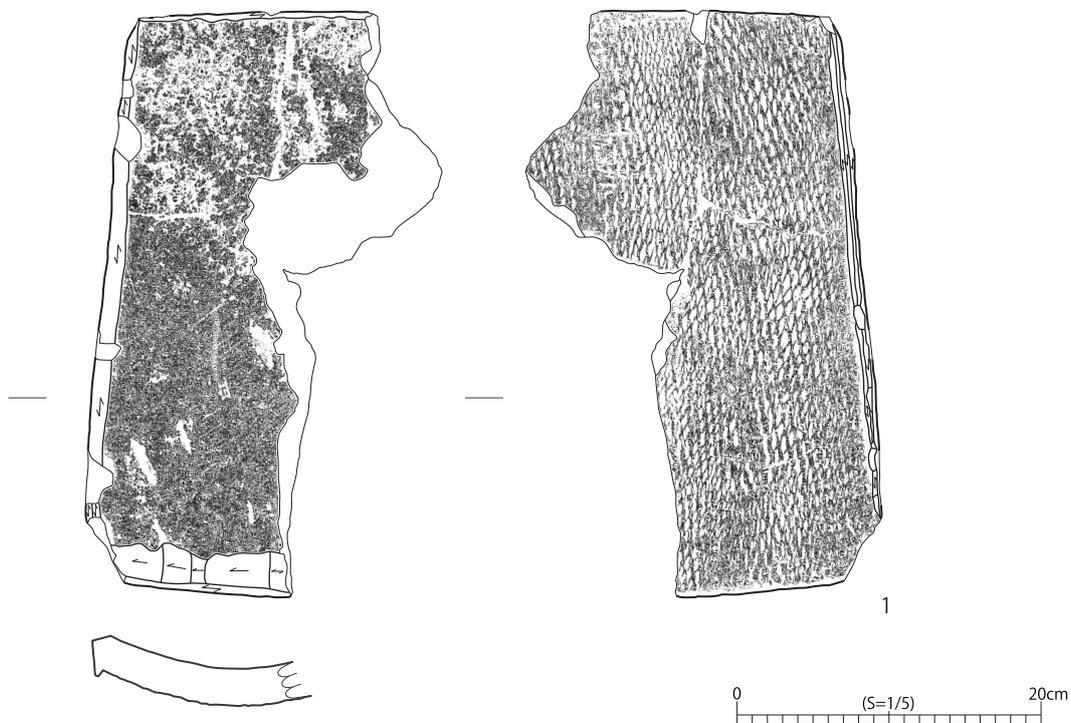
調査区の東側斜面、G・H-7グリッドに位置する。1号窯跡排水溝(2号溝)と重複しており、排水溝の堆積土除去中に確認した。本遺構は、排水溝が埋まる途中で掘り込まれ、最終的に排水溝と同時に埋まったもので、本遺構が新しい。平面形は、長軸3.7m、短軸2.8mの不整形である。深さは50cmである。底面はほぼ平坦である。壁面は、底面から緩やかに立ち上がる。堆積土は2層に分けられ、ともに流入堆積層である。1層には灰白色火山灰層が多量に流入する。

遺物は、1層から丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は45点で、3点を図示した。



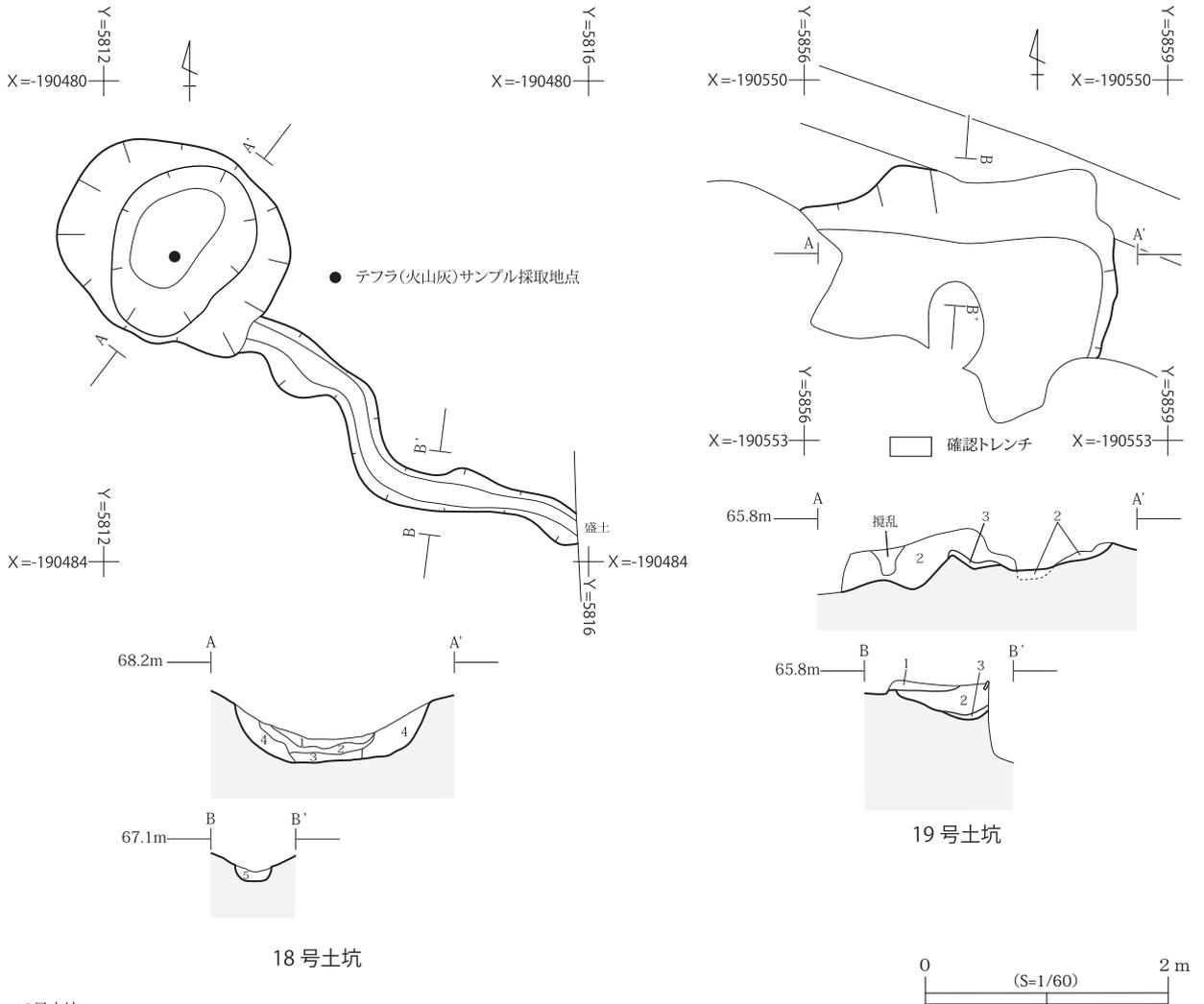
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	17号土坑	4	須恵器 甕	-	14.0	(11.5)	-	外面：7.5YR4/1 内面：10R5/1	外面：タタキ→ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	E-025	37-11

第131図 17号土坑出土遺物(2)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	18号土坑	4	平瓦	38.9	11.1+	14.5+	2.5	-	-	凹面：N5/0 凸面：N/6/0	凹面：糸切り痕→布目痕→ナデ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕 周縁：ヘラケズリ→側面圧痕	G-169	38-4

第132図 18号土坑出土遺物



18号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄2.5Y6/4	シルト	流入堆積層 火山灰層	4	にぶい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	流入堆積層 酸化鉄を多量含む。焼土粒を少量含む。礫を微量含む。
2	にぶい黄橙10YR6/4	粘土質シルト	流入堆積層 火山灰混入層 火山灰(にぶい黄)極大ブロックを多量含む。酸化鉄を少量含む。炭化物粒を微量含む。	5	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	流入堆積層 酸化鉄を少量含む。炭化物粒を微量含む。
3	灰5Y6/1	粘土質シルト	流入堆積層 礫を少量含む。酸化鉄を微量含む。				

19号土坑

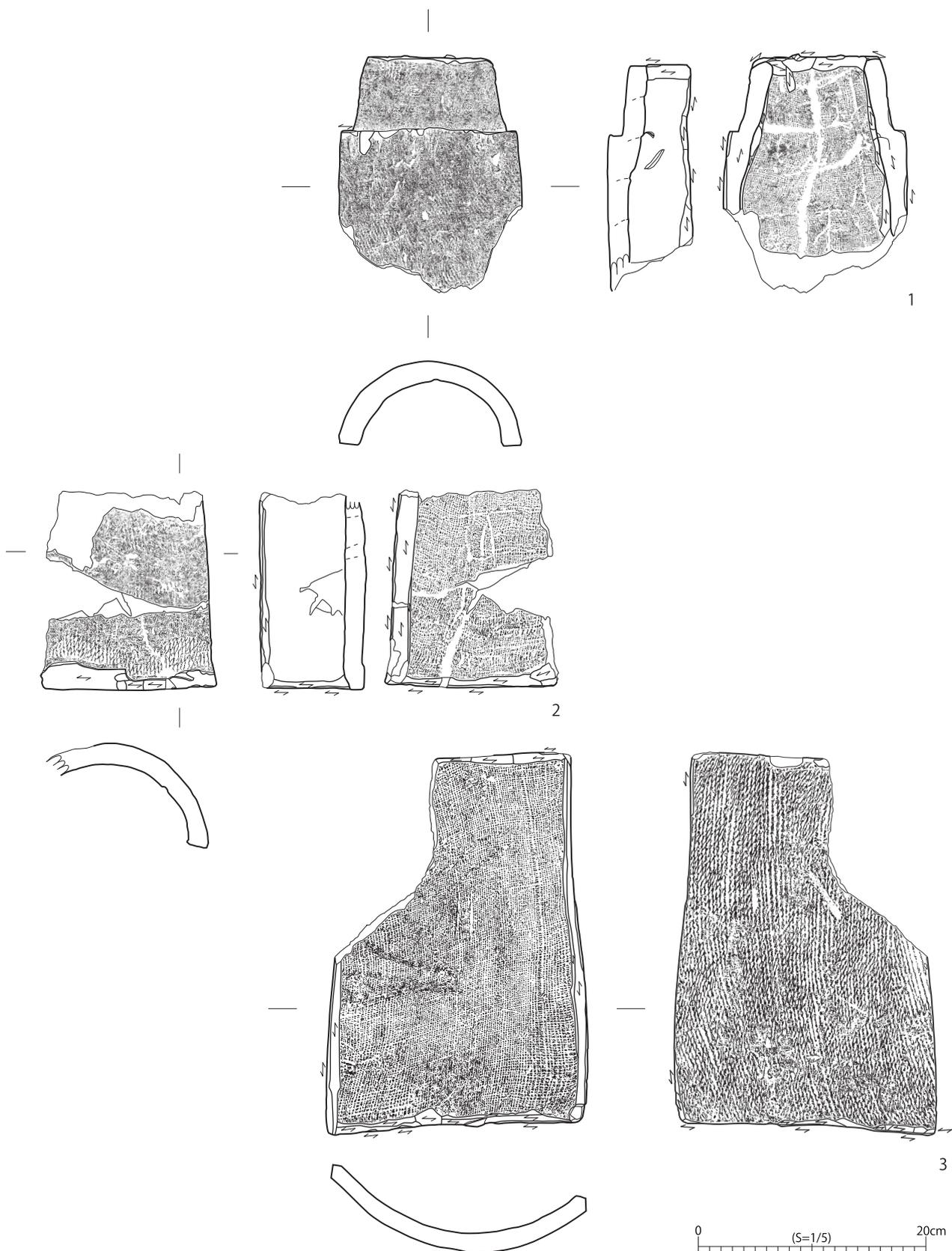
層位	土色	土性	特徴
1	明黄褐10YR6/6	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 礫を含む。
2	明褐7.5YR5/8	砂質シルト	焼土層(大別2層) 下部に砂質シルト(明黄褐)大ブロックを多量含む。礫を少量含む。
3	明黄褐10YR6/6	粘土	流入堆積層(大別3層) 明瞭な混入土・混入物なし。

第133図 18・19号土坑平面図・土層断面図

ピット (第139・141図・第9表)

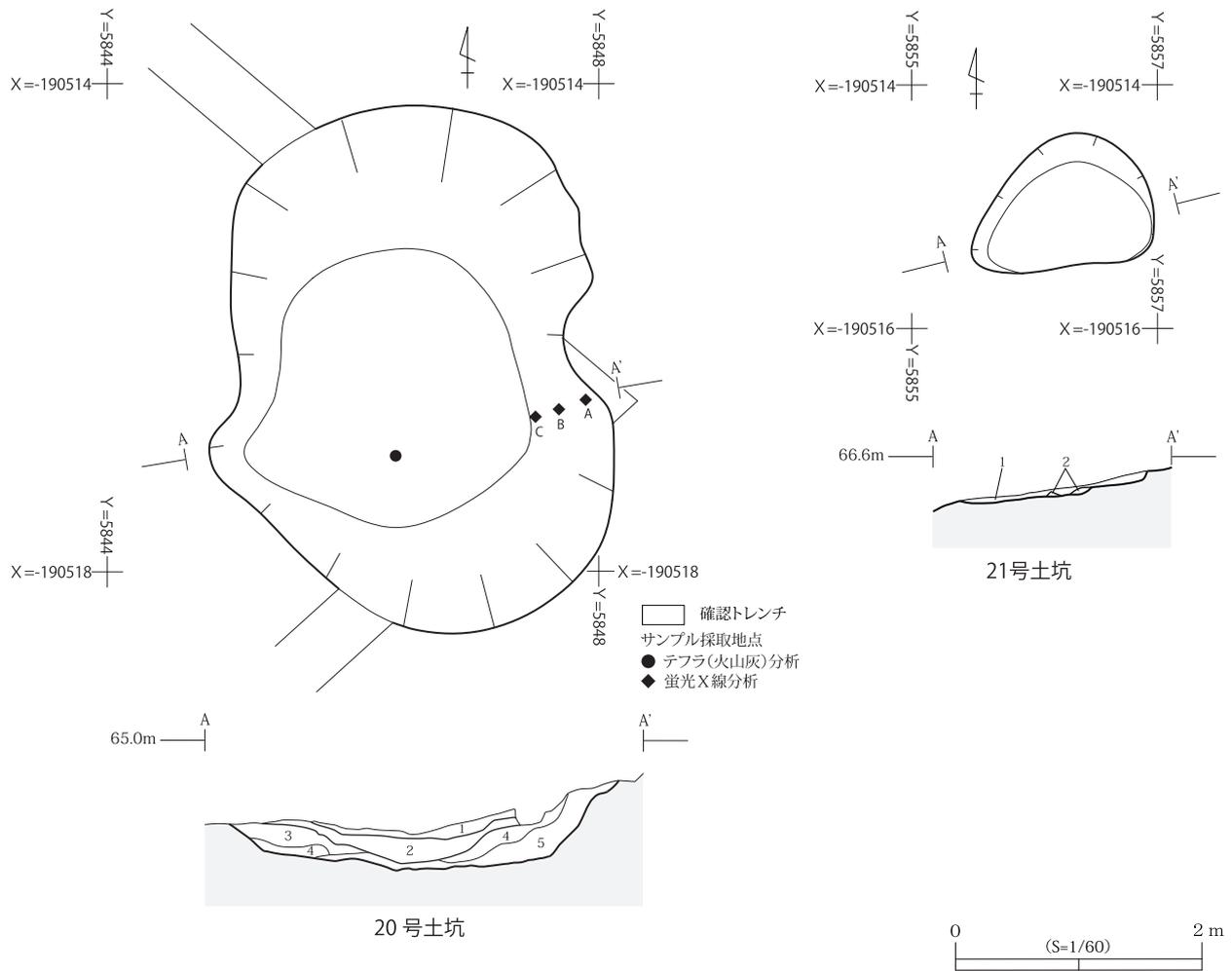
新堤地区で、確認したピットは5基である。

ピットは、調査区の東側斜面から4基(ピット5・6・10・15)、西側斜面から1基(ピット1)を確認した。他の遺構との重複関係は認められない。平面形は一定しておらず、円形・楕円形・不整楕円形・不整形の各形状が認められる。規模は、長軸0.25～0.85m、短軸0.25～0.6mで、均一性は認められないが、深さは、0.1～0.25mと浅い。5基中の4基の底面は、ほぼ平坦であるが、ピット15のみ、凹凸が認められる。壁面は、底面から緩やかに立ち上がっている。堆積土はいずれも単一層で、柱痕跡は認められない。遺物が出土しているのは、西側斜面で調査したピット1のみであり、1層から平瓦が出土している。総破片数は2点で、1点を抽出・図示した。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	19号土坑	2	丸瓦	21.1+ 玉6.5	- 玉13.5	15.4 玉10.9 (11.4)	2.1 玉1.8	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：7.5YR7/4	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「キカ」	F-052	38-3 105
2	19号土坑	2	丸瓦	17.2+ 玉-	15.2+ 玉-	-	1.9 玉-	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：7.5YR7/4	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：ヘラ書き「下」	F-053	38-6 105
3	19号土坑	2	平瓦	33.0	22.5	9.2 (19.3)	1.8	-	-	凹面：N4/O 凸面：7.5YR5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→広端・狭端面圧痕 凹面：ヘラ書き「11」	G-170	38-5 102

第134図 19号土坑出土遺物



20号土坑

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色10YR5/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 一部グライ化。礫を少量含む。	4層	にぶい黄褐色	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 酸化鉄を極多量含む。礫を含む。
2	にぶい黄褐色10YR7/4	砂質シルト	流入堆積層(大別2層) 火山灰層(黒褐)と互層をなす。	5層	にぶい黄褐色10YR6/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 粘土(にぶい黄褐色10YR7/3)と互層をなす。酸化鉄・礫を含む。炭化物粒を微量含む。
3	にぶい黄褐色10YR7/4	粘土質シルト	流入堆積層(大別3層) 酸化鉄を極多量含む。礫を含む。				

21号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐色10YR4/3	砂質シルト	燃料残滓層(大別1層) 炭化物中・大ブロックを多量含む。焼土粒を微量含む。
2	褐7.5YR4/6	砂質シルト	焼土層(大別2層) 焼土小・中ブロックを多量含む。

第135図 20・21号土坑平面図・土層断面図

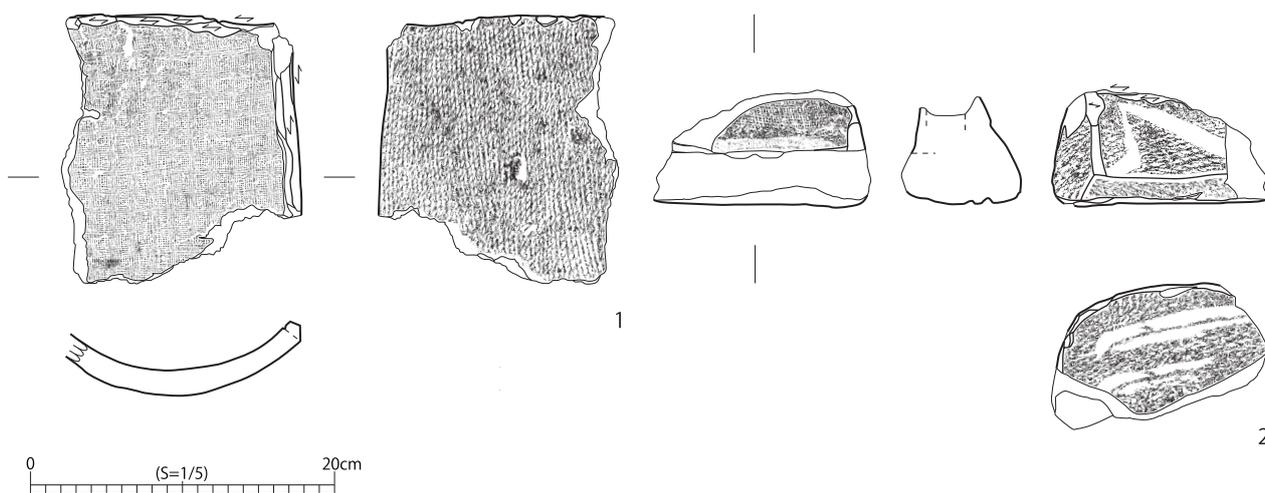
### 瓦集中部 (第 142 ~ 150 図)

新堤地区で確認した瓦集中部は 11 ケ所である。調査区の東側斜面から 8 ケ所、北側斜面から 3 ケ所を確認した。瓦は表土直下から出土しており、掘り込みや特別な堆積土は認められない。瓦が集中する範囲の平面形は、楕円形・不整楕円形・長楕円形・不整長楕円形・不整形と一定しない。規模は、長軸 0.5 ~ 4.65 m、短軸 0.3 ~ 2.9 m である。

それぞれの瓦集中部から出土した遺物の破片数は、11 ~ 458 点と一定しない。瓦集中部全体からは、軒丸瓦・丸瓦・平瓦、土師器が出土している。総破片数は、1,225 点で、19 点を図示した。

### 遺構外出土遺物 (第 153 ~ 160 図)

表土・攪乱・風倒木痕から軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・棟平瓦・鬼瓦・硯・土師器・土師器・須恵器・石器・石製品(砥石)・陶器・近世瓦が出土した。総破片数は 22,198 点で、43 点を図示した。



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	20号土坑	2	平瓦	17.9+	-	13.2+	1.8	-	-	凹面：7.5R5/1 凸面：10R5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→狭端面圧痕 側面：粘土貼付	G-171	38-7
2	20号土坑	2	棟平瓦	7.8+	13.9+	-	-	6.6+	7.3	瓦当面：2.5Y5/1 頸面：5Y5/1 凹面：10YR6/1	瓦当面：縄叩き→范 頸面：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文 凹面：布目痕→ユビナデ 周縁：側面縄叩き	H-018	38-2

第136図 20号土坑出土遺物

### 新堤地区の遺物

新堤地区で出土した遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・道具瓦などの瓦類と、土師器・須恵器・硯がある。瓦類は軒丸瓦 12 点・丸瓦 6,882 点・軒平瓦 17 点・平瓦 29,480 点・道具瓦 58 点（隅切瓦 2 点・棟平瓦 20 点・鬼瓦 36 点）の計 36,449 点である。窯内出土は丸瓦 1,362 点・軒平瓦 3 点・平瓦 5,940 点・棟平瓦 9 点・鬼瓦 4 点の計 7,318 点である。出土瓦の大部分が平瓦であり、全体の 80.1%を占めている。以下、図示遺物を中心にそれぞれの特徴を述べていく。なお、瓦の分類は『多賀城跡』（1982）に準拠した。

#### 〔 軒 丸 瓦 〕

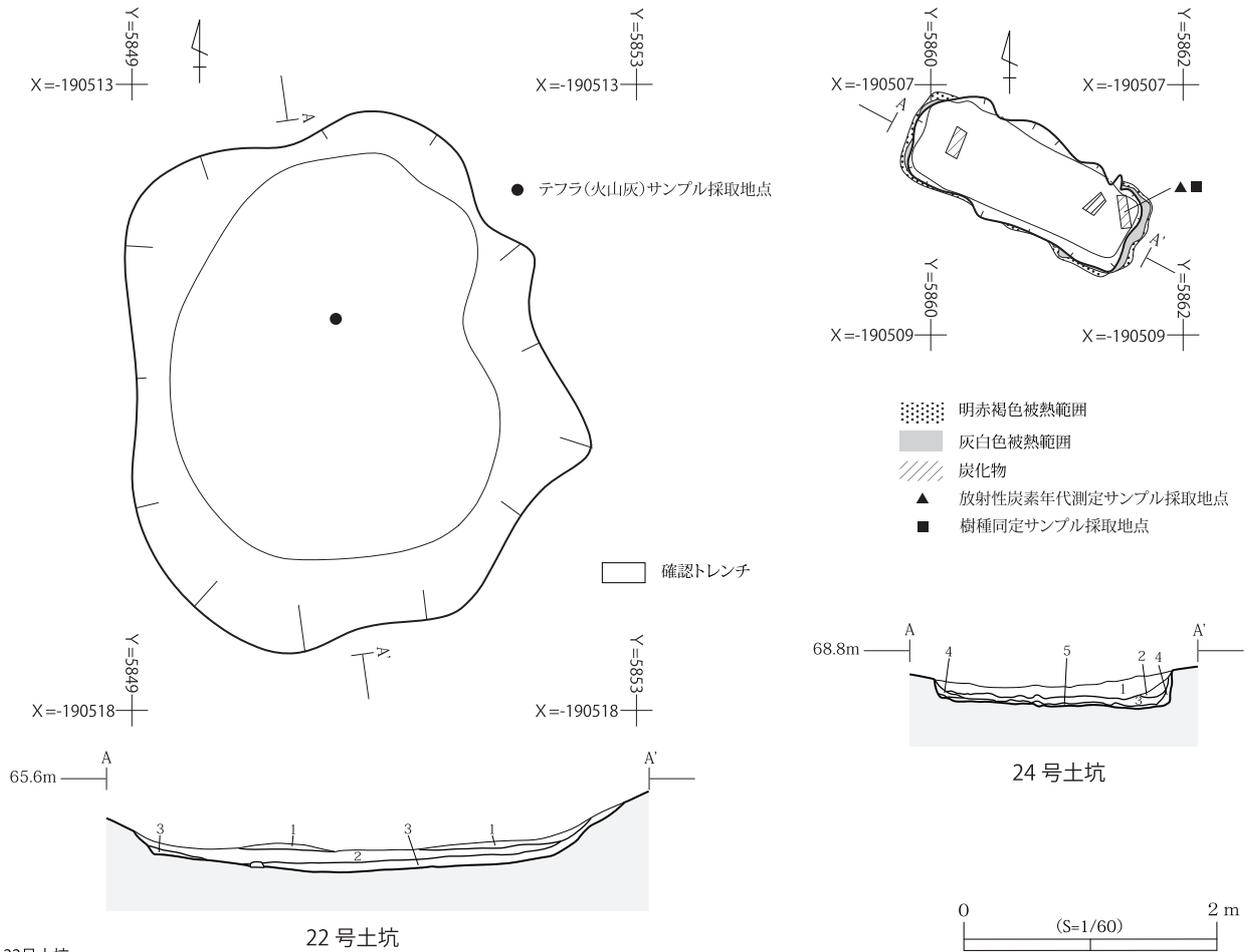
軒丸瓦の総破片数は 12 点で、7 点図示した。瓦類全体の 0.03%である。今回与兵衛沼窯跡で出土した軒丸瓦は、瓦当文様により、3 種に分類でき、重弁蓮華文をⅠ類、細弁蓮華文をⅡ類、重圏文をⅢ類とした。そのうち新堤地区では、Ⅱ類が出土している。1 号灰原で 4 点、14 号土坑で 1 点、瓦集中部 10 で 1 点、谷で 4 点、表土で 2 点出土しているが、窯内からは出土していない。その中の 3 点は、周縁部などの小破片で瓦当面が残存していない。

#### 軒丸瓦Ⅱ類 a

20 葉細弁蓮華文軒丸瓦である。9 点出土し、1 点図示した（第 153 図 1）。Ⅱ類は 20 葉の軒丸瓦Ⅱ類 a と 12 葉軒丸瓦Ⅱ類 b に分類され、新堤地区からは軒丸瓦Ⅱ類 a が出土している。中房が二重の圏線で仕切られ、蓮子構成は 1+5、周縁蓮子は円形で蓮弁の外側に圏線がめぐらされ、その外側に 18 ヶの珠文が配された軒丸瓦である。側面、裏面は、ヘラケズリのちナデ調整で、丸瓦部は、粘土紐作り、ヘラナデ調整である。瓦当と丸瓦との接着方法は、いわゆる印籠接ぎである。瓦当裏面に溝を刻み、丸瓦を押し込んだ後ナデ調整して接着している。

#### 〔 丸 瓦 〕

粘土紐作りの丸瓦である。断面形は半円形をし、凸面は縄タタキのちナデ、凹面は布目、周縁・側面にヘラケズリ調整がみられる。今回与兵衛沼窯跡で出土した丸瓦は無段のものⅠ類と、有段のものⅡ類に分類できるが、新堤地区ではⅡ類のみが出土している。丸瓦は総破片数が 6,882 点を数え、60 点図示した。瓦類全体の 18.9%を占めている。窯内からは、1 号窯跡で 368 点、3 号窯跡で 503 点、4 号窯跡で 47 点、5 号窯跡で 211 点、6 号窯跡で



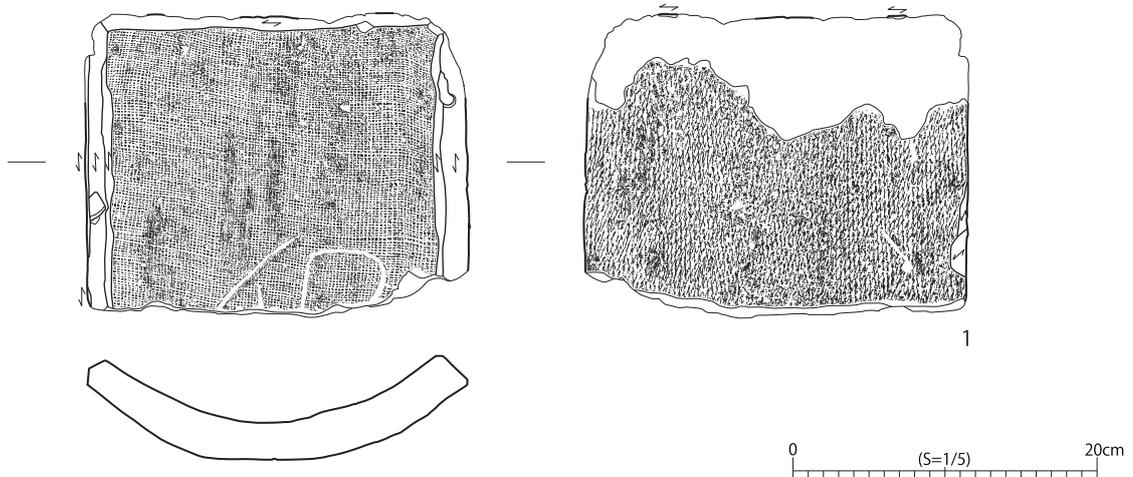
22号土坑

層位	土色	土性	特徴
1	明黄褐10YR6/6	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルト(黒褐)小・中ブロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。焼土粒を極微量含む。
2	明黄褐10YR6/6	シルト	流入堆積層(大別2層) 火山灰(にぶい黄褐)と互層をなす。

24号土坑

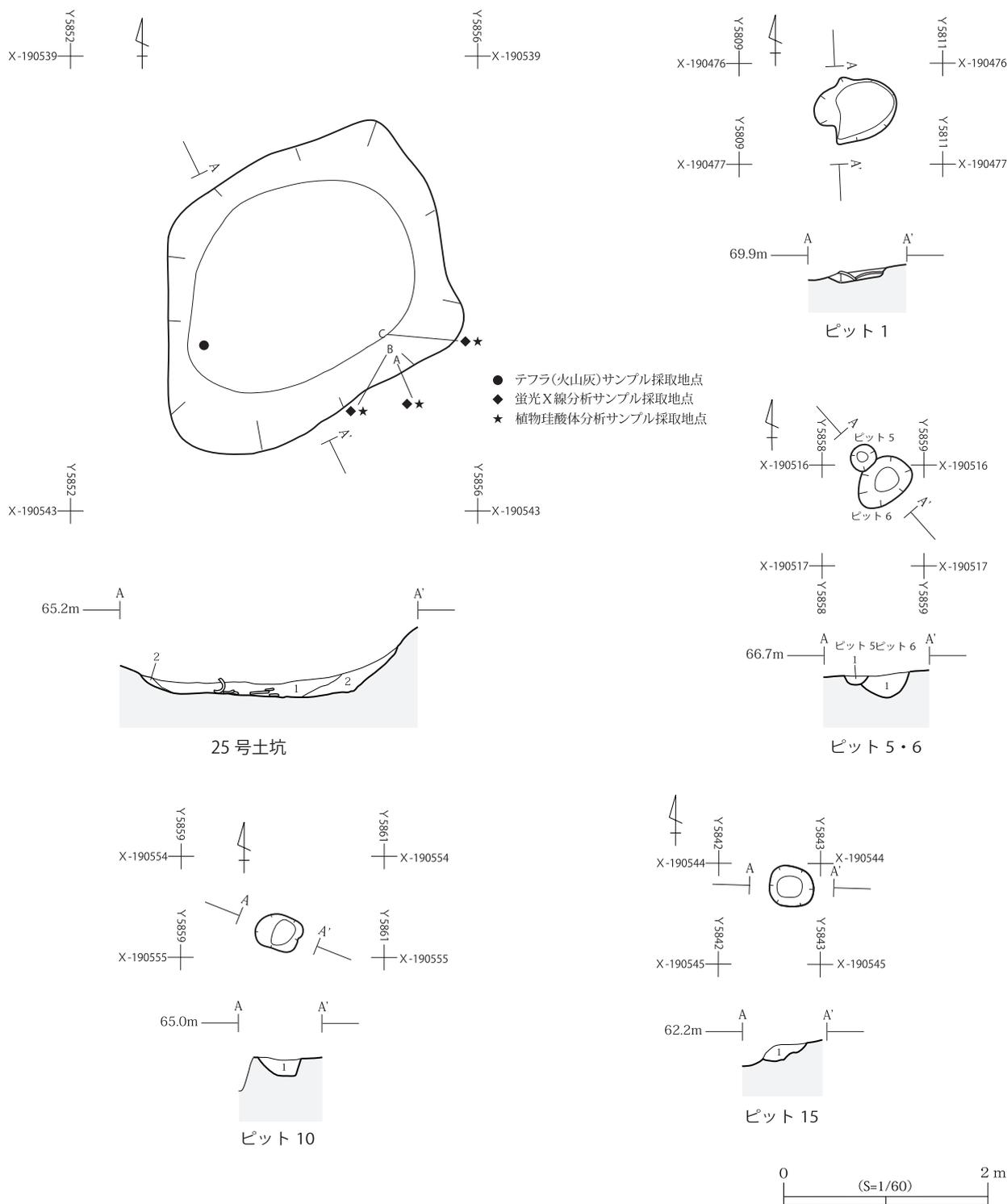
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 粘土質シルト(にぶい黄褐10YR5/4) 小ブロックを微量含む。炭化物極小・小・中ブロックを含む。礫を微量含む。焼土粒を極微量含む。	3	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別2層) 砂質シルト(明黄褐)中・大ブロックを少量含む。焼土粒を極微量含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	粘土質シルト	流入堆積層(大別1層) 炭化物小・中ブロックを少量含む。焼土粒を極微量含む。	4	明赤褐5YR5/8	砂質シルト	焼土層(大別3層) 砂質シルト(褐)小ブロックを含む。
				5	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別4層) 焼土粒を微量含む。

第137図 22・24号土坑平面図・土層断面図



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 faced 長(cm)	瓦当 faced 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	22号土坑	2	平瓦	20.3+	-	16.5 (25.0)	3.0	-	-	凹面: 5YR6/6 凸面: 5YR6/6	凹面: 糸切り痕→布目痕 凸面: 縄叩き 周縁: 側面・狭端面へラケズリ→側面圧痕 凹面: へラ書き「伊」	G-172	38-8 103

第138図 22号土坑出土遺物



25号土坑				ピット6			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	黄褐10YR5/6	砂質シルト	流入堆積層(大別1層) 上部に灰白火山灰(にふい黄粉)中・大・極大ブロックを多量含む。礫を微量含む。	1	にふい黄褐10YR5/4	粘土質シルト	シルト(暗黄褐)小ブロックを微量含む。炭化物粒を含む。上部に礫を極微量含む。
2	黄褐10YR5/6	砂質シルト	流入堆積層(大別2層) 礫を微量含む。底面直上に焼土粒・ブロックを微量含む。				

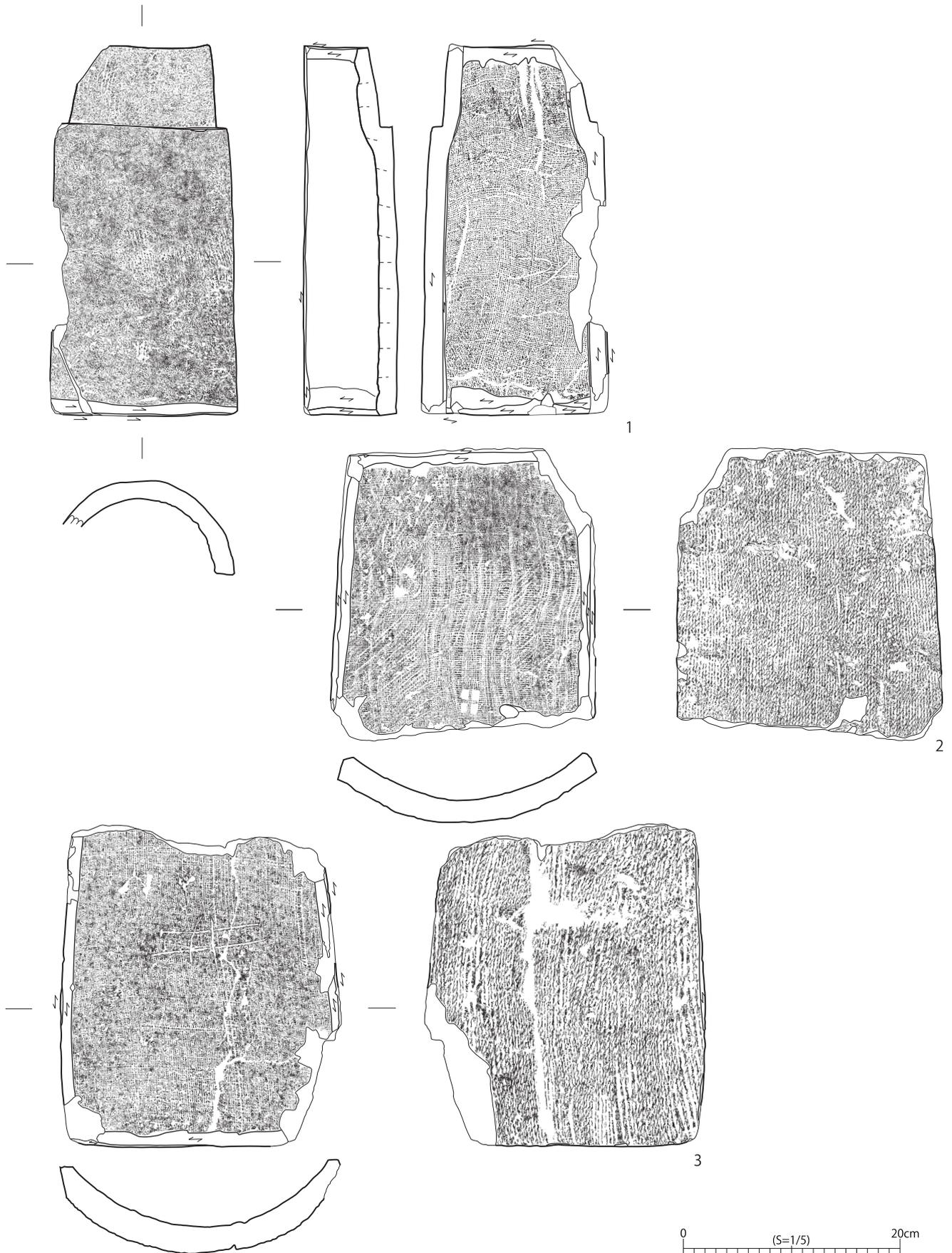
  

ピット1				ピット10			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐7.5YR4/4	粘土質シルト	焼土中ブロックを多量含む。炭化物粒を微量含む。	1	にふい黄褐10YR5/4	砂質シルト	礫を極微量含む。上部に炭化物粒を極微量含む。

ピット5				ピット15			
層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	褐10YR4/4	砂質シルト	砂質シルト(にふい黄褐)を少量含む。炭化物粒を微量含む。	1	黄褐10YR5/6	粘土質シルト	粘土質シルト(にふい黄褐)ブロックを少量含む。上部に礫を極微量含む。

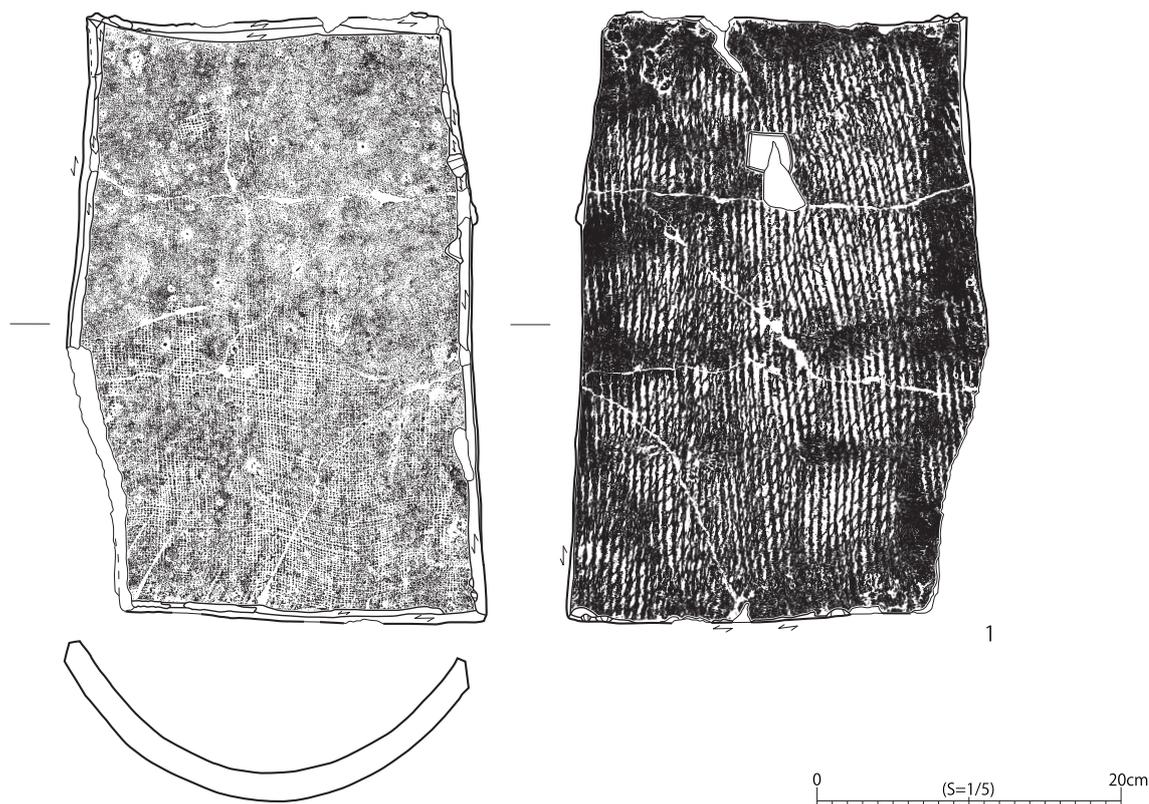
第139図 25号土坑、ピット1・5・6・10・15平面図・土層断面図



0 (S=1/5) 20cm

番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	25号土坑	2	丸瓦	34.6 玉7.4	16.1 玉13.5	15.2(15.7) 玉9.2 (11.4)	1.8 玉1.8	-	-	凹面：7.5YR4/2 凸面：2.5Y4/1	凹面：粘土縞痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「伴」	F-054	39-1 102
2	25号土坑	2	平瓦	27.3+	-	17.9 (22.7)	2.5	-	-	凹面：7.5YR4/2 凸面：7.5YR5/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：押印田	G-173	39-2 99
3	25号土坑	2	平瓦	30.0+	17.7 (25.2)	-	2.7	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「井」	G-174	39-3 101

第140図 25号土坑出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	ピット1	1	平瓦	38.8	21.5 (27.6)	22.2 (22.9)	2.4	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 織着 周縁：ヘラケズリ→側面・広端面圧痕 織着 凸面：方形圧痕	G-175	39-4

第141図 ピット1出土遺物

182点、8号窯跡で4点、9号窯跡で25点、10号窯跡で22点出土している。そのほかの遺構からは、1号窯跡排水溝（2号溝）で183点、3号窯跡排水溝（3号溝）で143点、1号灰原で172点、1号溝で1点、11号土坑で41点、13号土坑で157点、14号土坑で65点、15号土坑で47点、16号土坑で6点、17号土坑で5点、19号土坑で39点、20号土坑で8点、21号土坑で1点、22号土坑で5点、25号土坑で4点、瓦集中部2で8点、瓦集中部4で4点、瓦集中部5で1点、瓦集中部6で17点、瓦集中部7で3点、瓦集中部8で227点、瓦集中部9で1点、瓦集中部10で10点、瓦集中部11で3点、谷で250点、表土で4,119点出土している。

〔軒平瓦〕

新堤地区から出土した軒平瓦は破片総破片数が17点で、15点図示した。瓦類全体の0.05%である。今回与兵衛沼窯跡で出土した軒平瓦は瓦当文様により4種に分類され、重弧文をⅠ類、均整唐草文をⅡ類、連符文をⅢ類、単波文をⅣ類とした。そのうち新堤地区では、Ⅰ～Ⅳ類が出土している。窯内からは、3号窯跡で3点、8号窯跡で1点出土している。その他の遺構からは、1号灰原で1点、15号土坑で1点、谷で4点、表土で7点出土している。

軒平瓦Ⅰ類

重弧文軒平瓦である。8号窯跡の南側壁の構築材として用いられていたものである（第103図1）。ヘラ描きにより二重弧文を施している。平瓦部は、1枚作り、凸面縄タタキ、凹面ナデ調整の瓦である。瓦当部と平瓦との接着方法は、平瓦に顎部をのせ叩いて接着している。顎部の縄タタキは横位で、平瓦部との境を2本のヘラ描き沈線で区画し、ヘラ描き鋸歯文を施している。

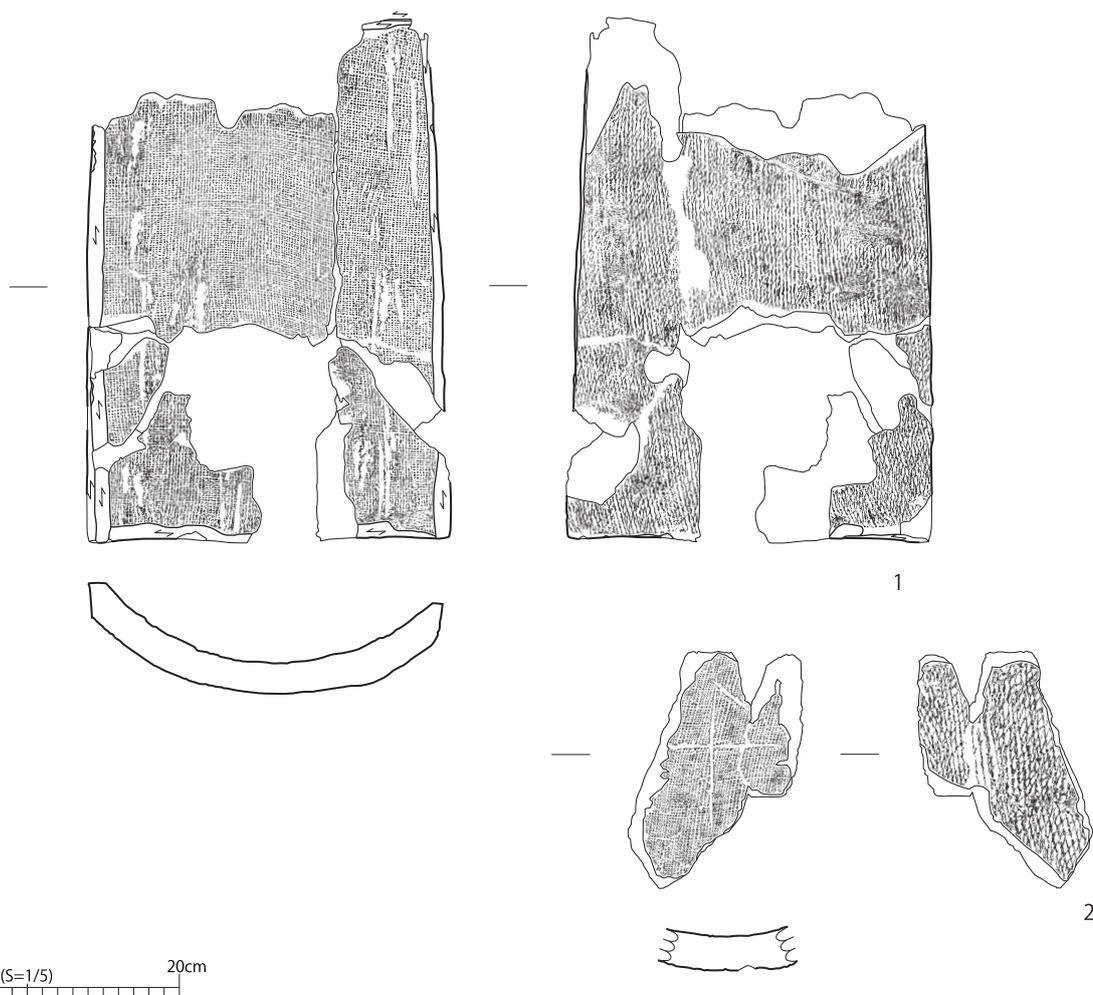


番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部2 F9区	-	平瓦	34.8	22.6 (23.7)	20.8	2.5	-	-	凹面：2.5YR5/2 凸面：2.5YR5/2	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：ヘラ書き「井」	G-176	40-1 101
2	瓦集中部2 F9区	-	平瓦	34.1	13.2 (22.3)	14.6 (19.0)	2.4	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：糸切り痕→布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「有」	G-177	40-3 102

第142図 瓦集中部2出土遺物

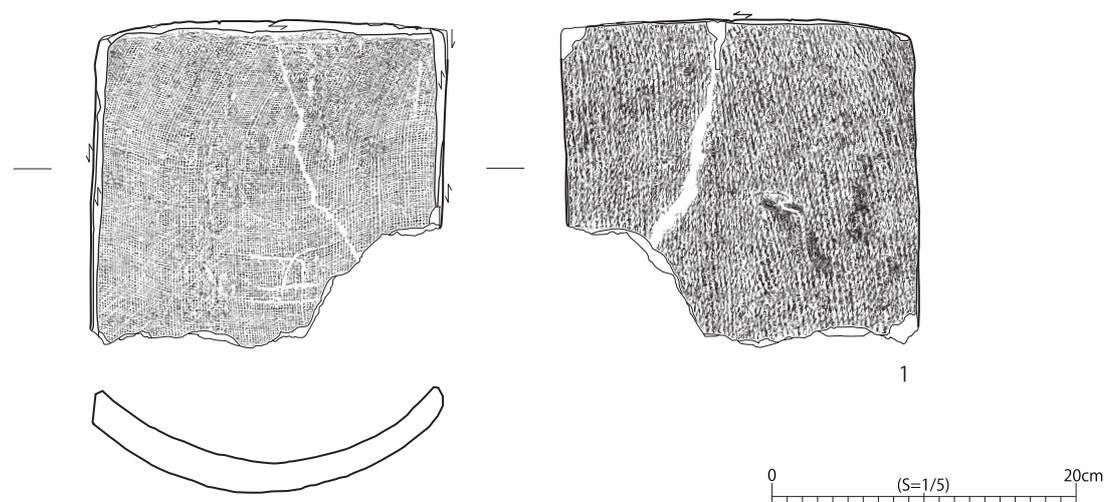
軒平瓦Ⅱ類

均整唐草文軒平瓦である。15号土坑で1点、表土で4点の合計5点が出土している（第126図2、第153図7・8、第154図1・2）。筭によって瓦当面に施文された軒平瓦である。文様を囲む線が上下2線で、左右2線のをa、上下1線で左右2線のをbとした。ここで出土したものは、文様を囲む線が上下は1線のもので、左右については欠損のため不明である。顎面が残存しているものは、すべてヘラ描きによって平瓦部との境を沈線で区画し、鋸歯文を施している。顎部と平瓦の接着方法は、平瓦に斜格子ヘラキザミを入れ、貼り付けて叩いているも



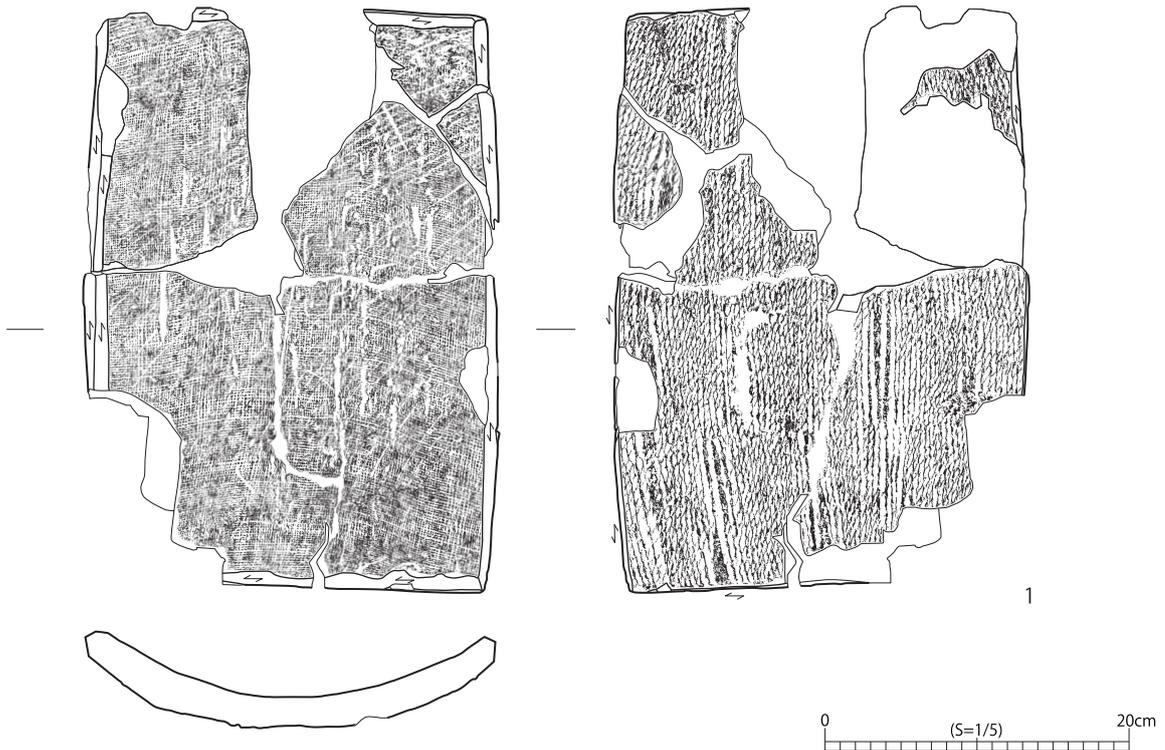
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部3 F8区	-	平瓦	34.9	23.7	1.9 (22.1)	3.0	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：2.5YR6/4	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：ヘラケズリ	G-178	40-5
2	瓦集中部3 F8区	-	平瓦	14.7+	11.5+	-	2.5	-	-	凹面：2.5YR5/3 凸面：2.5YR6/3	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 凹面：ヘラ書き「ト」	G-179	40-2 105

第143図 瓦集中部3出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部4 F9区	-	平瓦	21.8+	-	21.3 (22.9)	2.3	-	-	凹面：10YR5/2 凸面：10YR6/2	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「安」	G-180	40-4 104

第144図 瓦集中部4出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部5 E8区	-	平瓦	38.9	15.7 (25.9)	19.0 (25.4)	2.7	-	-	凹面：5YR7/4 凸面：10YR6/3	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ	G-181	41-1

第145図 瓦集中部5出土遺物

のを1点確認している。顎部の縄タタキは、縦位でナデ消さないものが1点、横位でナデ消されるものが2点確認できる。多くが融着している。

軒平瓦Ⅲ類

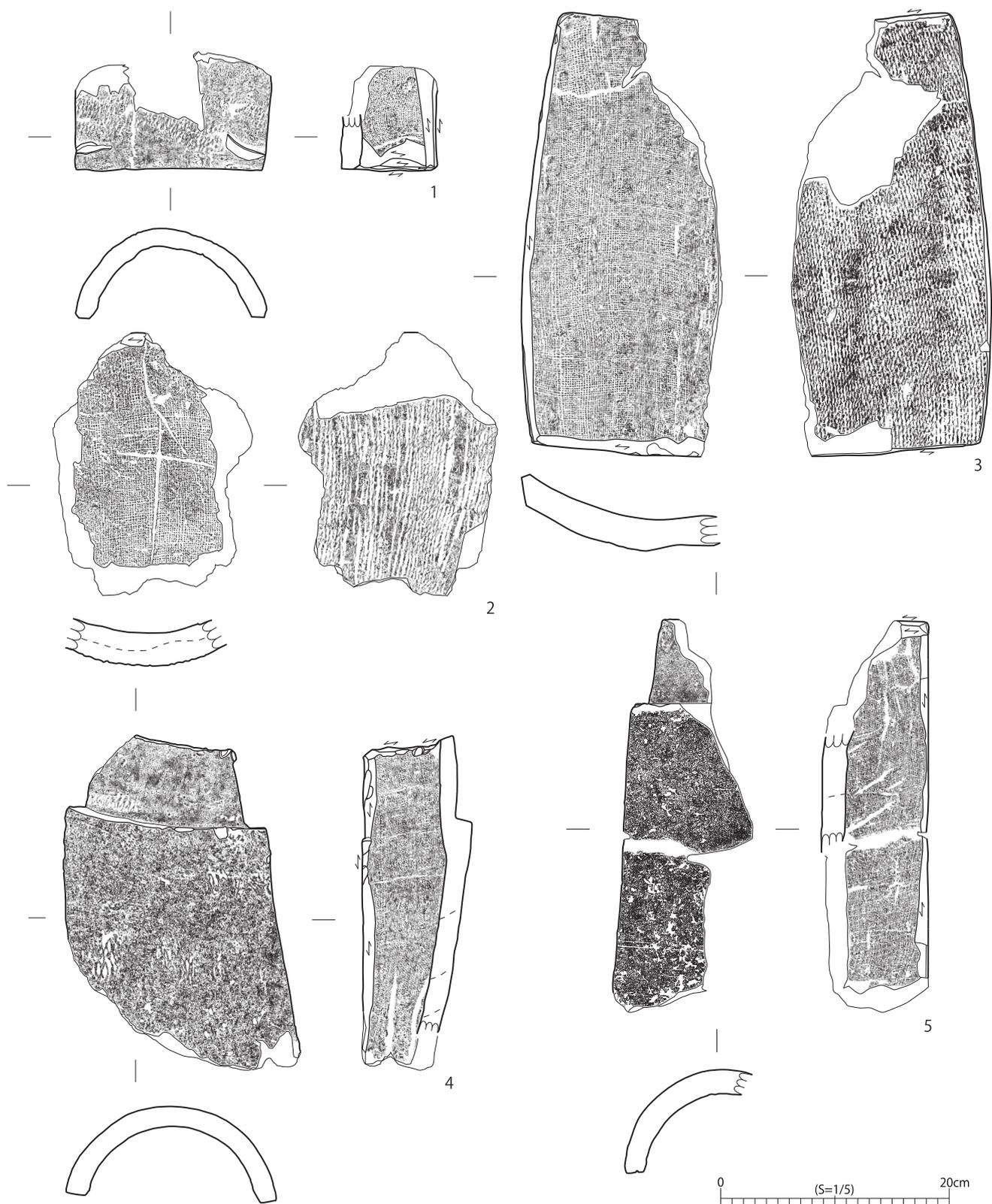
連符文軒平瓦である。谷で2点出土し、1点図示した(第151図5)。筈によって瓦当文様を施した軒平瓦である。3ヶの珠文を左下から隆線で結んだものを並べている。筈は瓦当面より一回り小さい。瓦当面は、無調整で横位の縄タタキ目を残している。顎面も無調整で、縦位の縄タタキ目を残し、無文である。凹面には、ヘラ描きによって2本の沈線が施される。

軒平瓦Ⅳ類

単波文軒平瓦である。3号窯跡で3点、谷で2点、表土で1点の合計6点が出土し、5点図示した(第64図3、第65図1、第151図6・7、第153図6)。ヘラ描きにより波状文を施した軒平瓦である。鋸歯文に近いものも2点ある。瓦当面は、無調整で縦位の縄タタキ目を残すもの、一部ヘラナデ調整によって縄タタキ目をナデ消しているが横位の縄タタキ目を残すもの、全面をヘラケズリ調整するものがみられる。顎面・平瓦部凸面は一部がナデ消されるものの縦位の縄タタキ目を残すものが多い。顎面にヘラ描きによって波状文を施すもの、凹面にヘラ描きによって沈線が施されるものもある。

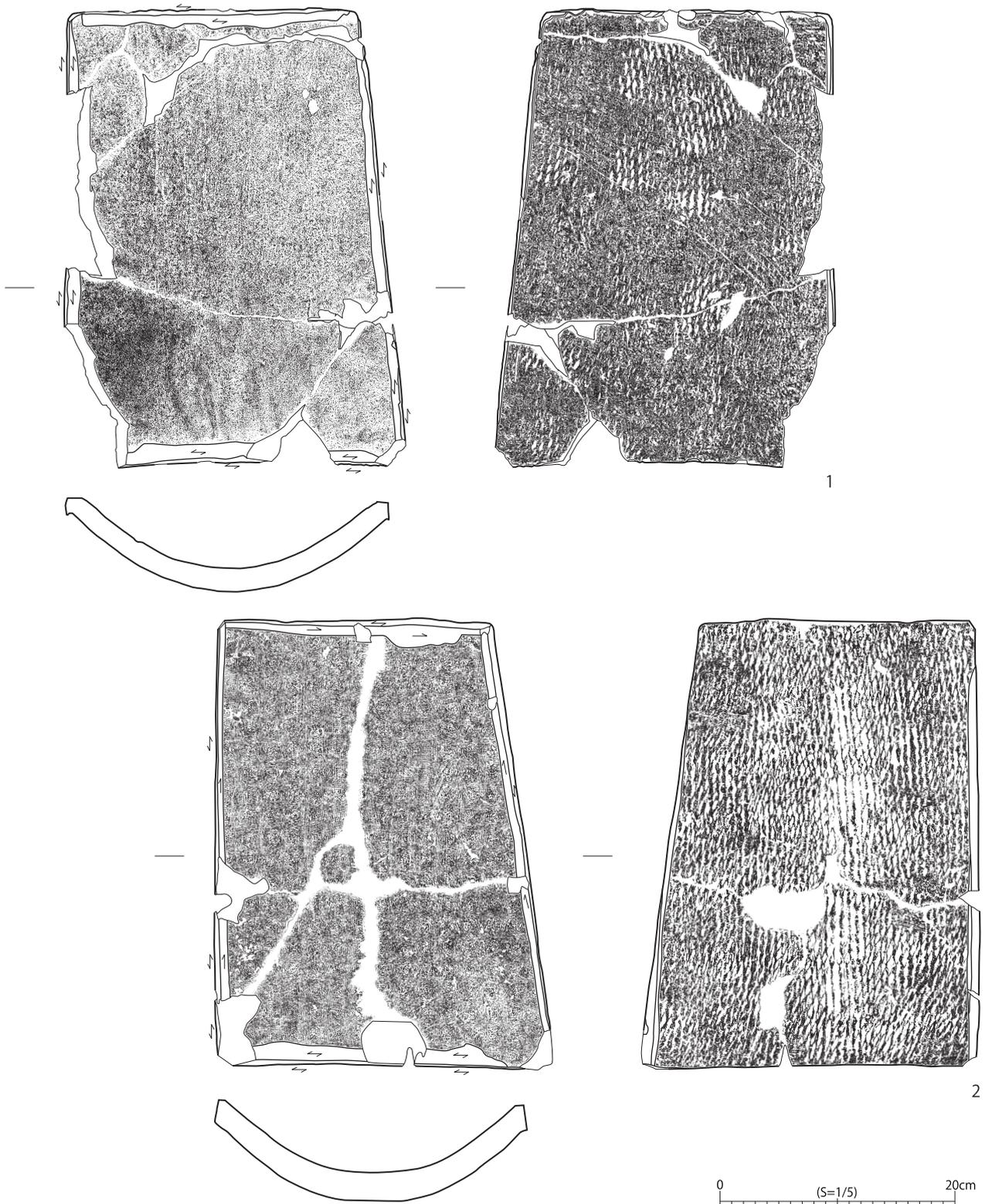
[ 平 瓦 ]

1枚作りの平瓦である。今回与兵衛沼窯跡で出土した平瓦は、成形調整により4種に分類できる。Ⅰ類は凸面：縄タタキのち布目・平行タタキ、凹面：布目のちナデ、Ⅱ類は凸面：縄タタキのち布目・縄タタキ・ナデ、凹面：布目のちナデ、Ⅲ類は凸面：縄タタキのち凹形台圧痕・タタキツブレ、凹面：布目のちナデ、Ⅳ類は凸面：縄タタキ、凹面：布目である。新堤地区ではⅢ類・Ⅳ類が出土している。平瓦は総破片数が29,480点を数え、201点図示し



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部6 E8区	-	丸瓦	10.5+ 玉-	16.3 玉-	-	1.8 玉-	-	-	凹面：5YR6/4 凸面：5YR6/4	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：粘土紐痕→縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ	F-055	41-2
2	瓦集中部6 E8区	-	平瓦	23.2+ 玉-	-	1.3+ 玉-	3.0 玉-	-	-	凹面：5YR6/4 凸面：5YR6/4	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：狭端面ヘラケズリ 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：ヘラ書き「本」	G-357	41-3 105
3	瓦集中部6 E8区	-	平瓦	39.2	14.8+	5.5+	2.8	-	-	凹面：7.5YR6/4 凸面：7.5YR6/3	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ	G-182	41-4
4	瓦集中部9 B5区	-	丸瓦	19.6+ 玉7.5	- 玉14.6	17.4 玉8.8 (11.5)	1.8 玉1.5	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→圧痕	F-059	43-2
5	瓦集中部7 B5区	-	丸瓦	34.2+ 玉7.5	- 玉5.5+	6.7+ 玉2.6+	2.2 玉-	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：N5/0	凹面：粘土紐痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-057	41-5

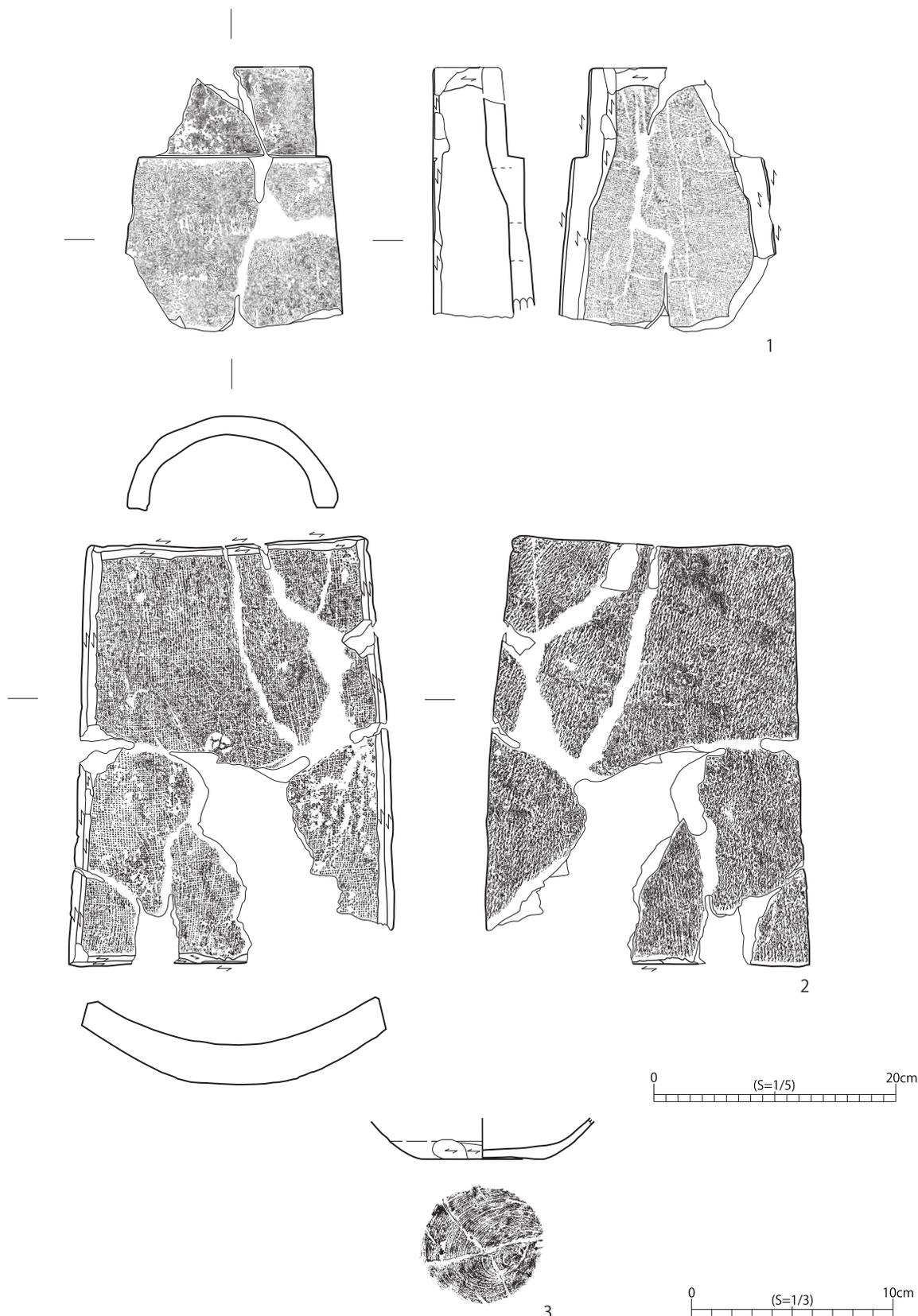
第146図 瓦集中部6・7(1)・9出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部7 B5区	-	平瓦	39.4	23.0 (29.3)	24.9	2.0	-	-	凹面：2.5Y6/1 凸面：10YR6/1	凹面：糸切り痕→布目痕→ナデ 周縁：ヘラケズリ 凸面：糸切り痕→縄叩き 凹型台圧痕	G-183	42-1
2	瓦集中部7 B5区	-	平瓦	38.9	26.0 (28.8)	23.0 (23.5)	2.5	-	-	凹面：N4/O 凸面：N4/O	凹面：布目痕→一部ナデ 周縁：ヘラケズリ 凸面：縄叩き 凹型台圧痕	G-184	42-2

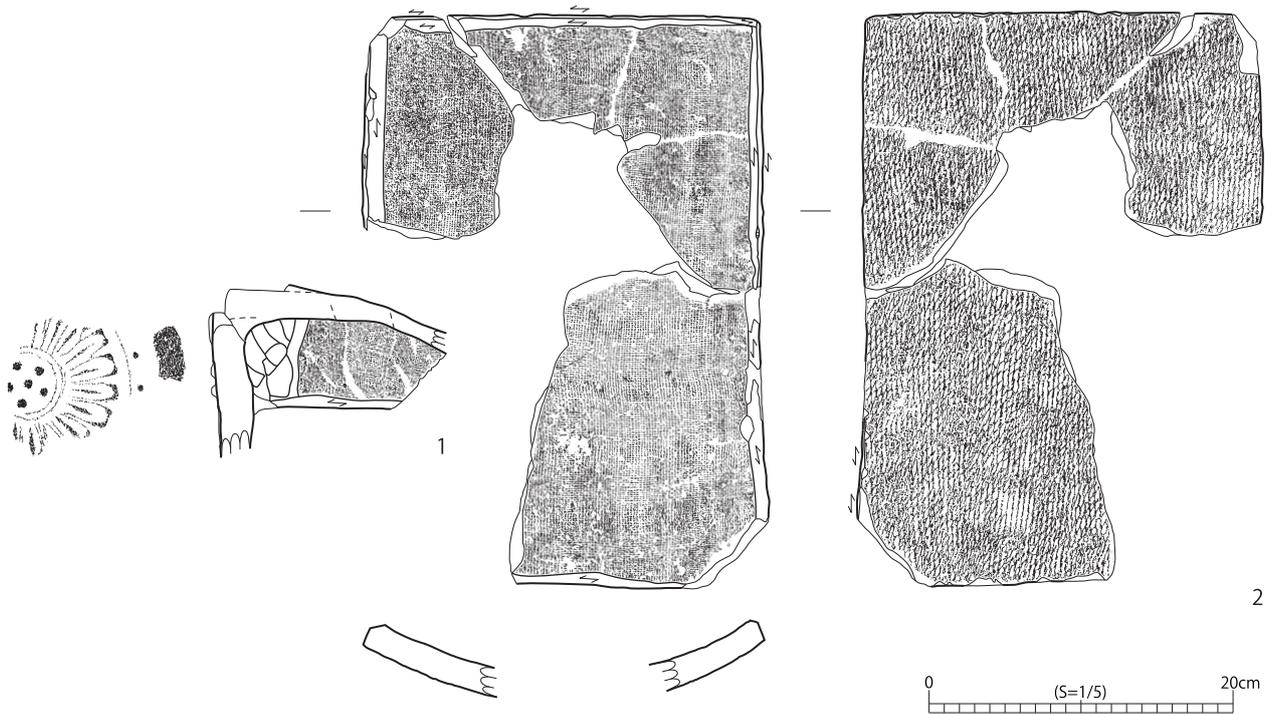
第147図 瓦集中部7出土遺物(2)

た。瓦類全体の80.9%を占めている。窯内からは、1号窯跡で2,613点、3号窯跡で2,510点、4号窯跡で24点、5号窯跡で138点、6号窯跡で467点、7号窯跡で34点、8号窯跡で56点、9号窯跡で57点、10号窯跡で41点出土している。そのほかの遺構からは、1号窯跡排水溝(2号溝)で628点、3号窯跡排水溝(3号溝)で599



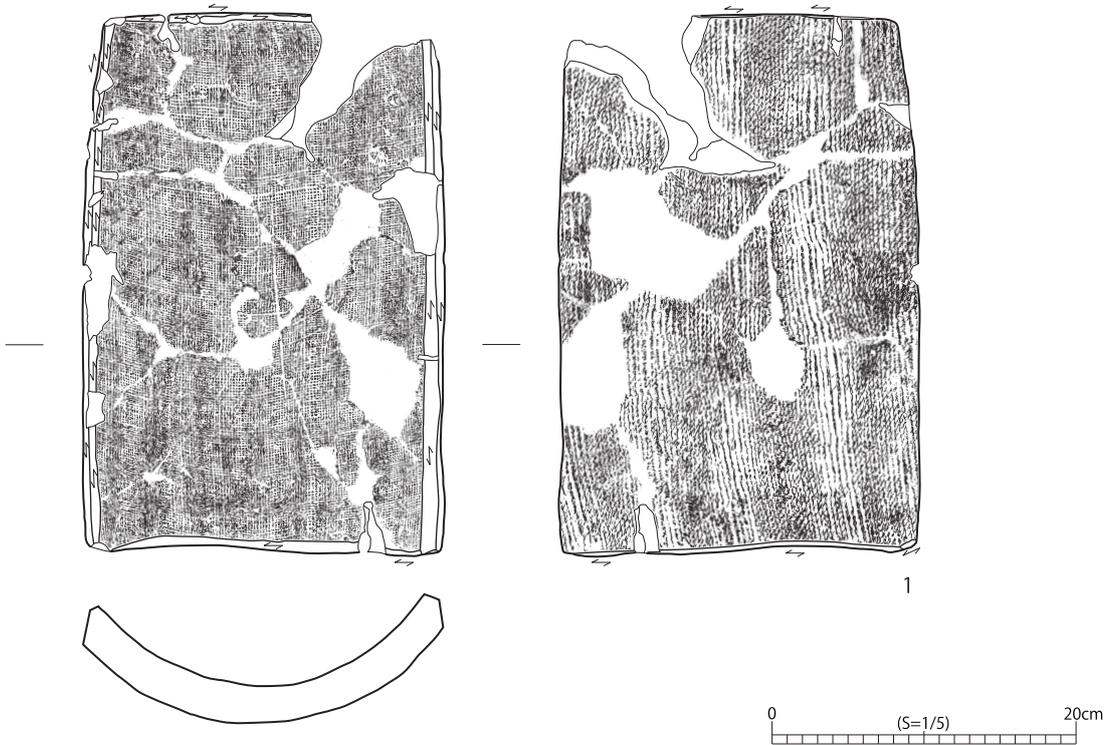
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当 長(cm)	瓦当 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部8 F8区	-	丸瓦	22.0+ 玉7.4	- 玉13.1+	15.8 玉6.4+	1.6 玉1.6	-	-	凹面：7.5YR6/4 凸面：7.5YR6/4	凹面：粘土組織→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き「1」	F-058	43-1 104
2	瓦集中部8 F8区	-	平瓦	34.9	14.7 (26.7)	23.1	3.2	-	-	凹面：5YR6/4 凸面：5YR6/4	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ヘラナデ 周縁：ヘラケズリ 凹面：押印㊦ ヘラ書き解説不明	G-185	42-3 99
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調		成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
3	瓦集中部8 F8区	-	土師器 環	-	(6.0)	(2.0)	-	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR5/3	外面：ロクロナデ→下端一部手持ヘラケズリ 底部：回転糸切り 内面：ロクロナデ	D-011	43-5		

第148図 瓦集中部8出土遺物



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部 10 B4区	-	軒丸瓦	15.7+	-	-	-	9.9+	2.7	瓦当面表：10YR 5/1 瓦当面裏：5Y 6/1 凹面：2.5Y 5/1 凸面：2.5Y 5/1	瓦当面：筵 瓦当面裏面：ナデ 凹面：粘土組織→布目痕→ユビナデ 凸面：ヘラナデ 側面：ヘラケズリ	F-060	43-6
2	瓦集中部 10 B4区	-	平瓦	38.0	10.8 (25.2)	24.3 (25.6)	1.9	-	-	凹面：7.5R5/1 凸面：7.5R5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ	G-186	43-3

第149図 瓦集中部10出土遺物



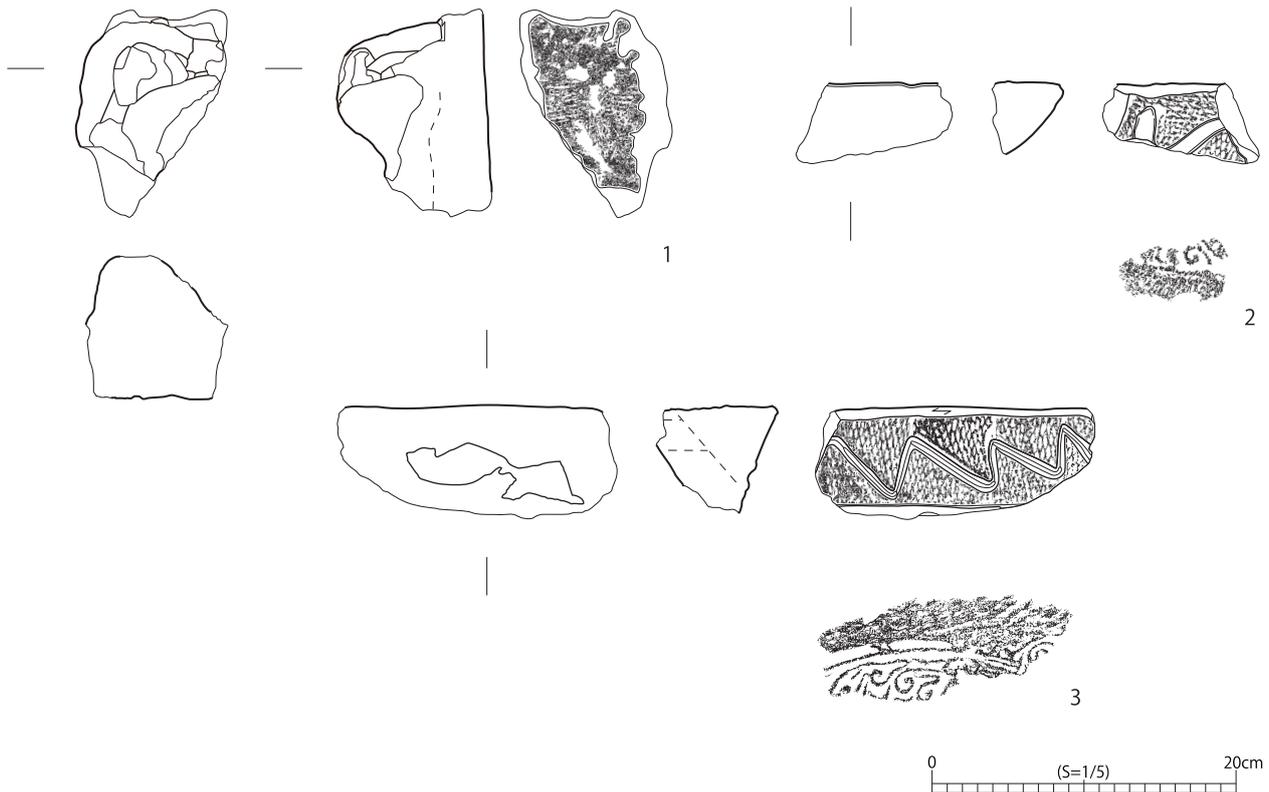
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	瓦集中部 11 E7区	-	平瓦	36.0	23.3	12.3 (21.6)	2.7	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ	G-187	43-4 102

第150図 瓦集中部11出土遺物



番号	遺構名 クリット	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	谷	6	軒丸瓦	10.3+	-	-	-	12.9+	2.6	瓦当面表：10YR6/1 瓦当面裏：2.5Y5/1 凹面：10YR6/1 凸面：10YR6/1	瓦当面：範 瓦当面裏：ナデ 凹面：布目痕→ナデ 凸面：ヘラナデ 周縁：側面ヘラケズリ	F-061	43-7
2	谷	3	軒丸瓦	5.3+	6.5+	-	-	2.8+	-	瓦当面表：2.5Y6/1 凸面：10YR6/1	瓦当面表：範 瓦当面裏：印籠つぎ 凸面：ヘラナデ	F-062	43-8
3	谷	3	軒丸瓦	4.5+	-	-	-	3.3+	-	瓦当面表：10YR6/1 凸面：10YR6/1	瓦当面表：範 瓦当面裏：印籠つぎ 凸面：ヘラナデ	F-063	43-9
4	谷	3	軒丸瓦	7.8+	-	-	-	17.5 (19.9)	3.1	瓦当面表：N6/0 瓦当面裏：N6/0 凹面：N5/0 凸面：N6/0	瓦当面表：範 瓦当面裏：印籠つぎ→ヘラナデ 凹面：ヘラナデ 凸面：ヘラナデ 周縁：側面ヘラケズリ	F-064	43-10
5	谷	6	軒平瓦	6.3+	11.5+	-	-	4.7+	4.7	瓦当面：5Y 3/1 顎面：10YR 4/1 凹面：10YR 4/1	瓦当面：縄叩き→範 顎面：縄叩き 凹面：布目痕→ヘラ描き沈線 周縁：ヘラケズリ	G-188	43-11
6	谷	6	軒平瓦	5.4+	11.1+	-	-	-	2.4	瓦当面：10R 5/1 凹面：10R 5/1	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ描き沈線 顎面：欠損 凹面：布目痕 周縁：ヘラケズリ	G-189	43-12
7	谷	6	軒平瓦	16.1+	5.8+	-	-	4.1	2.7	瓦当面：2.5Y 5/1 顎面：10R 4/1 凹面：10R 4/1 凸面：5YR 4/1	瓦当面：縄叩き→ヘラナデ→ヘラ描き波状文 顎面：縄叩き→ヘラ描き波状文 凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→ナデ 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラガキ解説不明	G-190	43-13 106

第151図 谷出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	谷	6	鬼瓦	13.9+	9.4+	-	9.8	-	-	表面：10YR6/3 裏面：10YR5/3	表面：ナデ→ヘラ工具痕 裏面：ハケメ→ナデ 部位：左類	H-019	44-1
2	谷	6	棟平瓦	4.7+	-	-	-	5.6+	-	瓦当面：10YR 4/1 顎面：7.5YR 5/1	瓦当面：縄叩き→范 顎面：縄叩き→ヘラ描き沈線	H-020	44-2
3	谷	6	棟平瓦	7.9+	17.9+	-	-	7.3+	-	瓦当面：N5/0 顎面表：N5/0 顎面裏：N5/0	瓦当面：縄叩き→范(二重押し) 顎面：縄叩き→ヘラ描き波状文 顎面裏：ナデ	H-021	44-3

第152図 谷出土遺物(2)

点、1号灰原で773点、1号溝で3点、3号土坑で5点、4号土坑で3点、6号土坑で3点、11号土坑で173点、12号土坑で10点、13号土坑で581点、14号土坑で286点、15号土坑で167点、16号土坑で48点、17号土坑で121点、18号土坑で12点、19号土坑で108点、20号土坑で61点、21号土坑で3点、22号土坑で29点、25号土坑で41点、ピット1で2点、瓦集中部1で30点、瓦集中部2で184点、瓦集中部3で142点、瓦集中部4で7点、瓦集中部5で31点、瓦集中部6で179点、瓦集中部7で29点、瓦集中部8で208点、瓦集中部9で11点、瓦集中部10で66点、瓦集中部11で40点、谷で1,386点、表土で17,571点出土している。

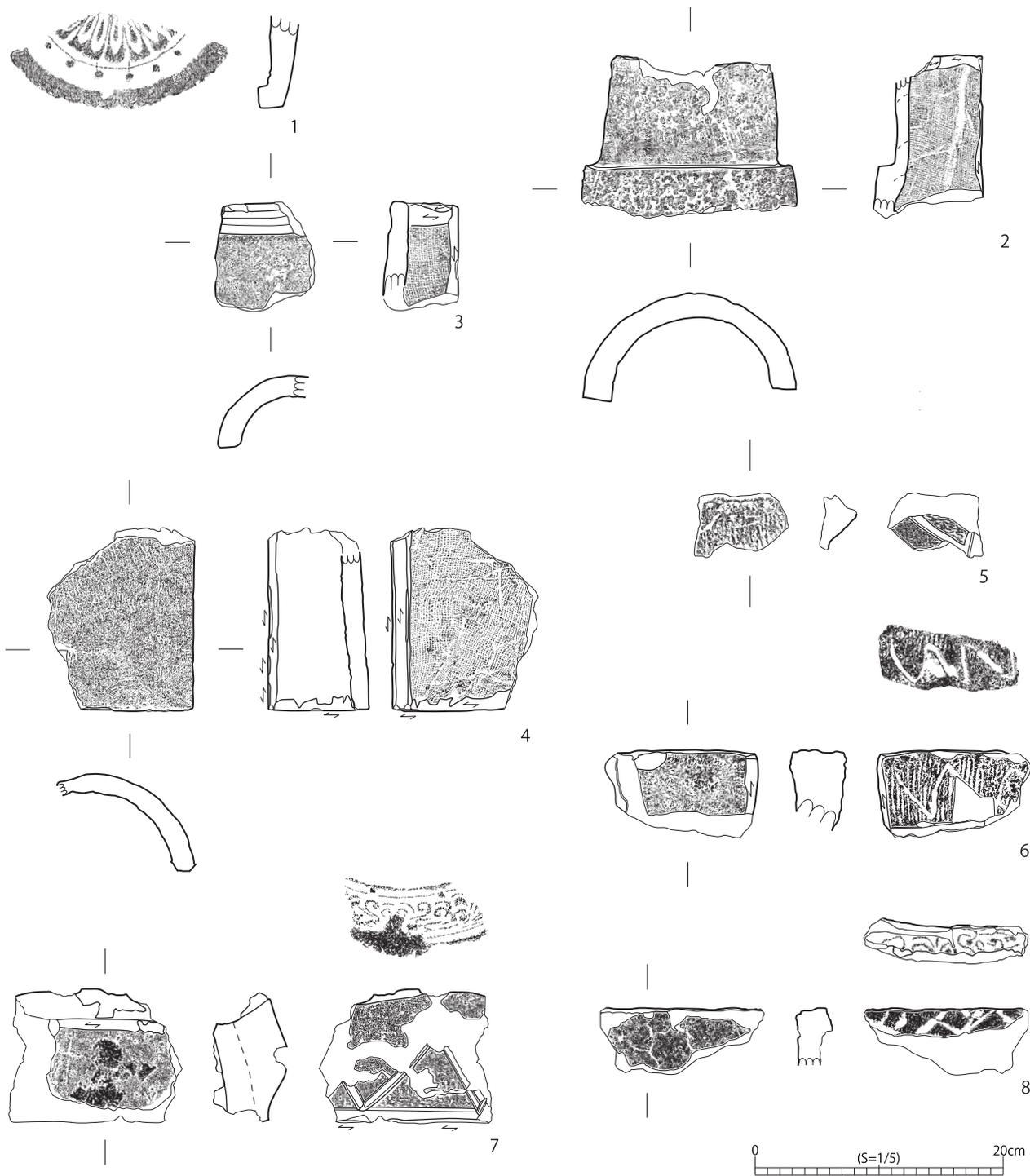
Ⅲ類は、7・8号窯跡、1号灰原、14～16・18号土坑、瓦集中部7、谷、表土から出土している。14号土坑では凸面に方形突出のあるもの、17号土坑・ピット1では凸面に方形圧痕のあるものがみられる。また、多くの瓦の周縁に円形や棒状の圧痕がみられる。

〔 道具瓦 〕

道具瓦は総破片数58点出土した。棟平瓦20点、鬼瓦36点、隅切瓦2点で、瓦類全体の0.2%を占めている。窯内からは、1号窯跡で4点、3号窯跡で9点出土している。その他の遺構からは、1号窯跡排水溝(2号溝)で6点、3号窯跡排水溝(3号溝)で12点、谷で3点、表土で23点出土している。

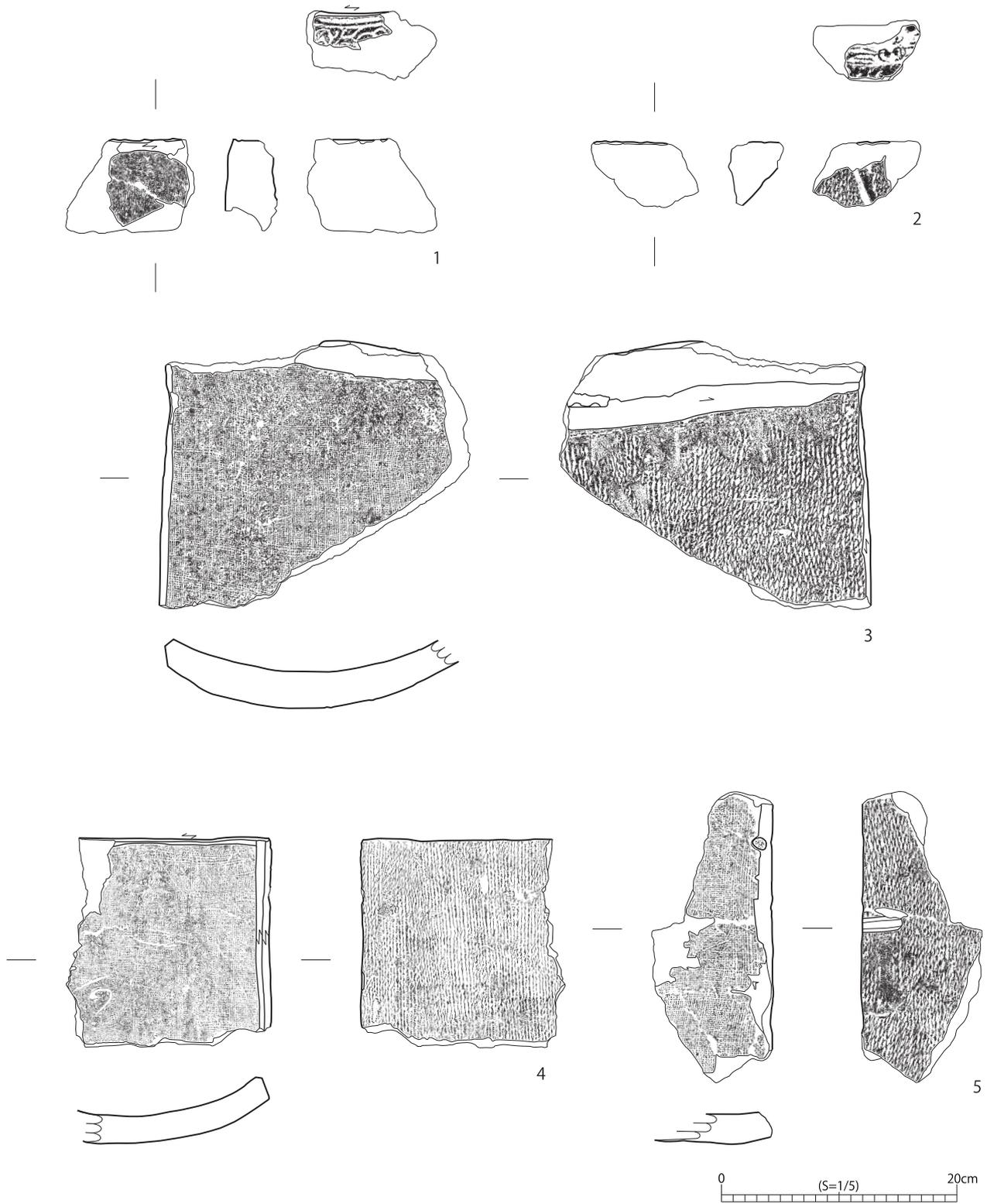
棟平瓦

棟平瓦は20点出土し、12点図示した(第41図1・3、第79図2～4、第80図2・第136図2、第152図2・3、第158図5～7)。1号窯跡で4点、3号窯跡で5点、20号土坑で1点、谷で2点、表土で8点出土している。



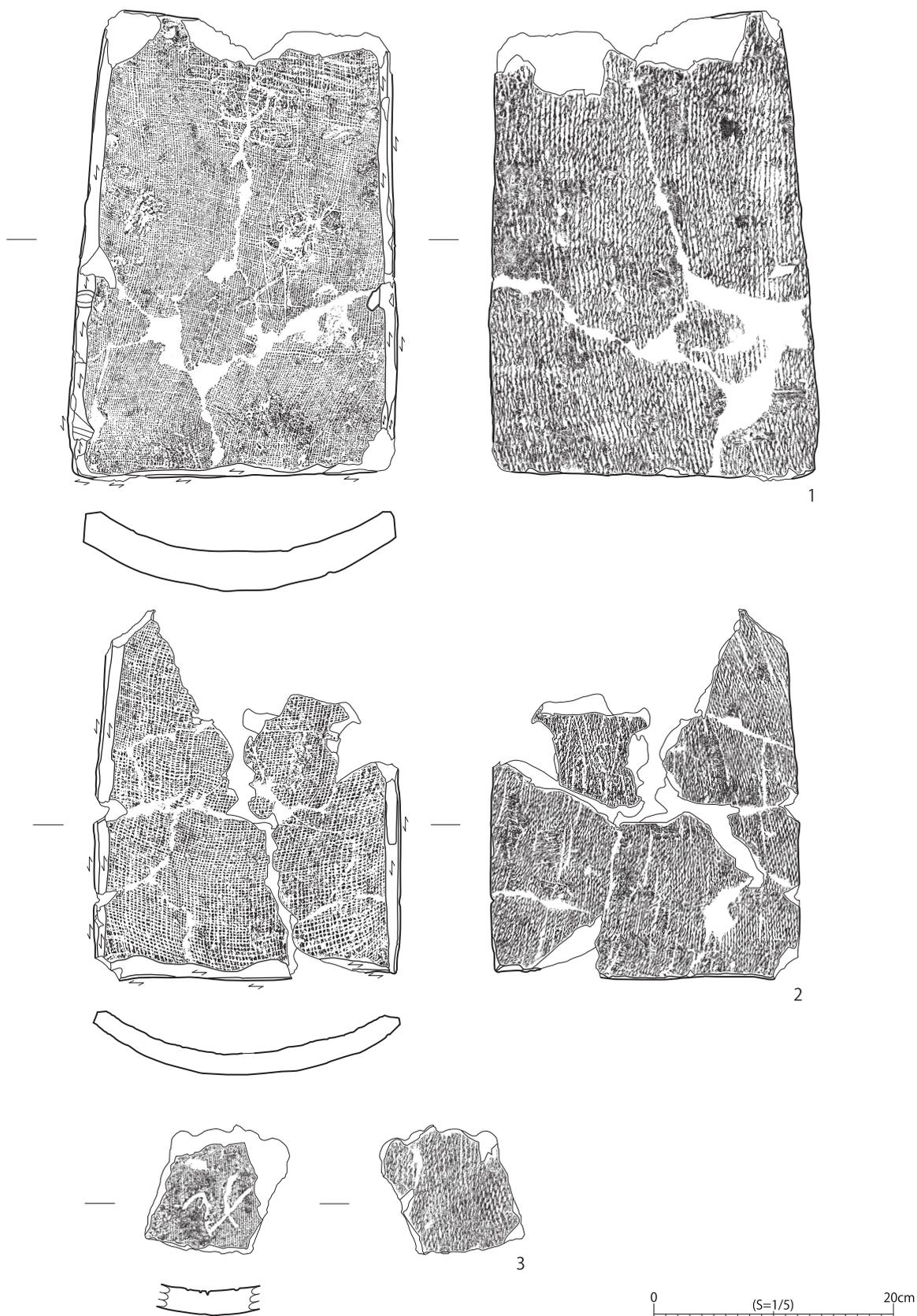
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	C3区	表土	軒丸瓦	-	-	-	-	7.5+	2.2	瓦当面表：2.5Y 6/1 瓦当面裏：2.5Y 6/1	瓦当面表：范、周縁ヘラケズリ→ナデ 瓦当面裏：ヘラケズリ→ナデ	F-065	44-4
2	C5区	風倒 木痕	丸瓦	13.4+ 玉9.0	14.7	16.6 玉12.4	2.4 玉1.1	-	-	凹面：N4/0 凸面：N5/0	凹面：粘土組痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	F-066	44-7
3	I7区	表土	丸瓦	8.8+ 玉2.5	- 玉6.2+	6.2+ 玉4.2+	1.9 玉1.2	-	-	凹面：5YR5/1 凸面：10R5/2	凹面：粘土組痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ、小口はナデで段差を 形成 周縁：ヘラケズリ	F-067	44-5
4	G7区	表土	丸瓦	14.9+ 玉-	8.7+ 玉-	-	1.8 玉-	-	-	凹面：10Y R5/1 凸面：10YR5/1	凹面：粘土組痕→布目痕 凸面：縄叩き→ロクロナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	F-068	44-6 106
5	E7区	表土	軒平瓦	5.2+	7.2+	-	-	0.9+	-	顎面：10YR 6/1	顎面：縄叩き→ナデケシ→ヘラ描き鋸歯文カ 凹面：欠損 剥離面：縄叩き転写	G-191	44-10
6	F6区	表土	軒平瓦	7.2+	11.2+	-	-	4.5	-	瓦当面：2.5YR4/1 顎面：2.5YR4/1 凹面：5YR4/1	瓦当面：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文 顎面：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文 凹面：糸切り痕→布目痕 周縁：側面ヘラケズリ	G-192	44-8
7	C3区	表土	軒平瓦	10.9+	12.3+	-	-	5.3	-	瓦当面：10YR5/1 顎面：10YR5/1 凹面：10YR5/1	瓦当面：范 藏着 顎面：縄叩き→ナデケシ→ヘラ描き鋸歯文 自然釉 凹面：布目痕 自然釉・藏着	G-193	44-9
8	C3区	表土	軒平瓦	5.5+	12.6+	-	2.8	2.0	-	瓦当面：2.5Y6/1 凹面：N5/0 凸面：N5/0	瓦当面：范 自然釉 凹面：ナデ 自然釉 凸面：欠損、顎面との接合面にヘラキザミ 自然釉	G-194	44-12

第153図 遺構外出土遺物(1)



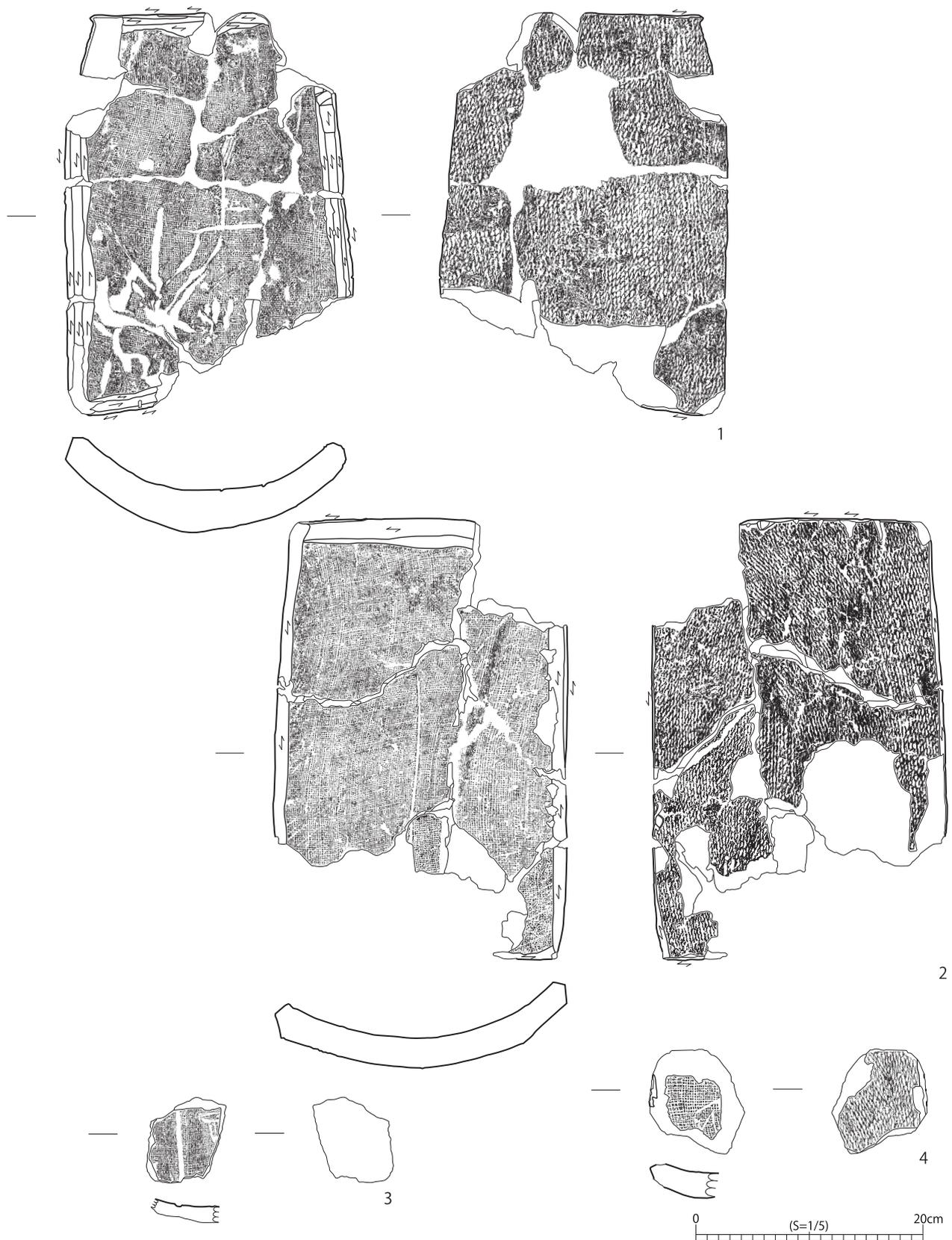
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
1	C4区	表土	軒平瓦	8.1+	6.6+	-	-	2.4+	-	瓦当面：7.5YR5/1 凹面：10YR5/1 凸面：7.5YR5/1	瓦当面：范 凹面：布目痕→ナデ 凸面：顎面剥離 周縁：ヘラケズリ	G-195	44-13	
2	F6区	表土	軒平瓦	5.8+	6.3+	-	-	4.2+	-	瓦当面：7.5YR5/1 顎面：7.5YR5/1 凹面：7.5YR5/1	瓦当面：縄叩き→范 顎面：縄叩き→ヘラ描き沈線 凹面：剥離	棟平瓦の可能性あり	G-196	44-11
3	F7区	表土	軒平瓦	22.9+	21.9+	-	3.2	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：N4/0	瓦当面：欠損 凹面：布目痕→接合面ナデ 凸面：縄叩き→ヘラケズリ 周縁：側面ヘラケズリ	顎面：貼付粘土残存	G-197	44-14
4	C5区	風倒 木痕	平瓦	18.0+	-	16.1+	2.5	-	-	凹面：10YR6/1 凸面：10YR6/1	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	凹面：ヘラ書き「のカ」	G-198	44-15 104
5	G6区	表土	平瓦	24.9+	10.3+	-	2.6	-	-	凹面：10YR4/1 凸面：2.5Y4/1	凹面：糸切り痕→布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 側面：粘土剥離	凹面：ヘラ書き 解説不明	G-199	44-16 105

第154図 遺構外出土遺物(2)



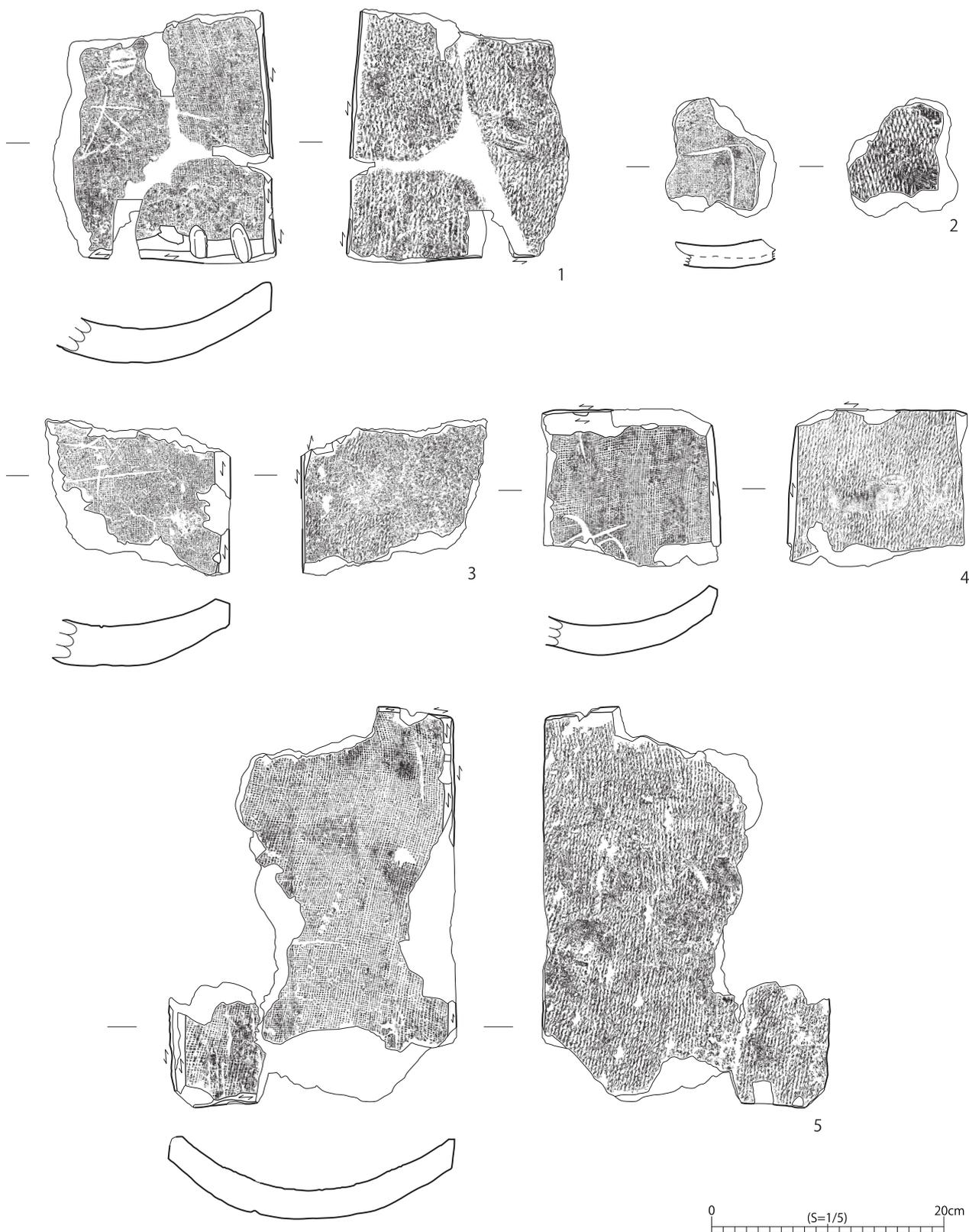
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	E7区	表土	平瓦	39.7	25.4 (27.9)	4.6 (23.9)	3.3	-	-	凹面：5YR6/4 凸面：2.5YR6/4	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：ヘラケズリ→側面圧痕 凹面：ヘラ書き「廿カ」	G-200	45-1 105
2	E6区	表土	平瓦	31.2+	23.4 (25.5)	-	2.1	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：7.5YR5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：ヘラケズリ→一部ナデ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-201	45-2 106
3	E7区	表土	平瓦	11.0+	12.1+	-	2.1	-	-	凹面：7.5YR6/3 凸面：5YR6/3	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：ヘラ書き「九」	G-202	44-17 103

第155図 遺構外出土遺物(3)



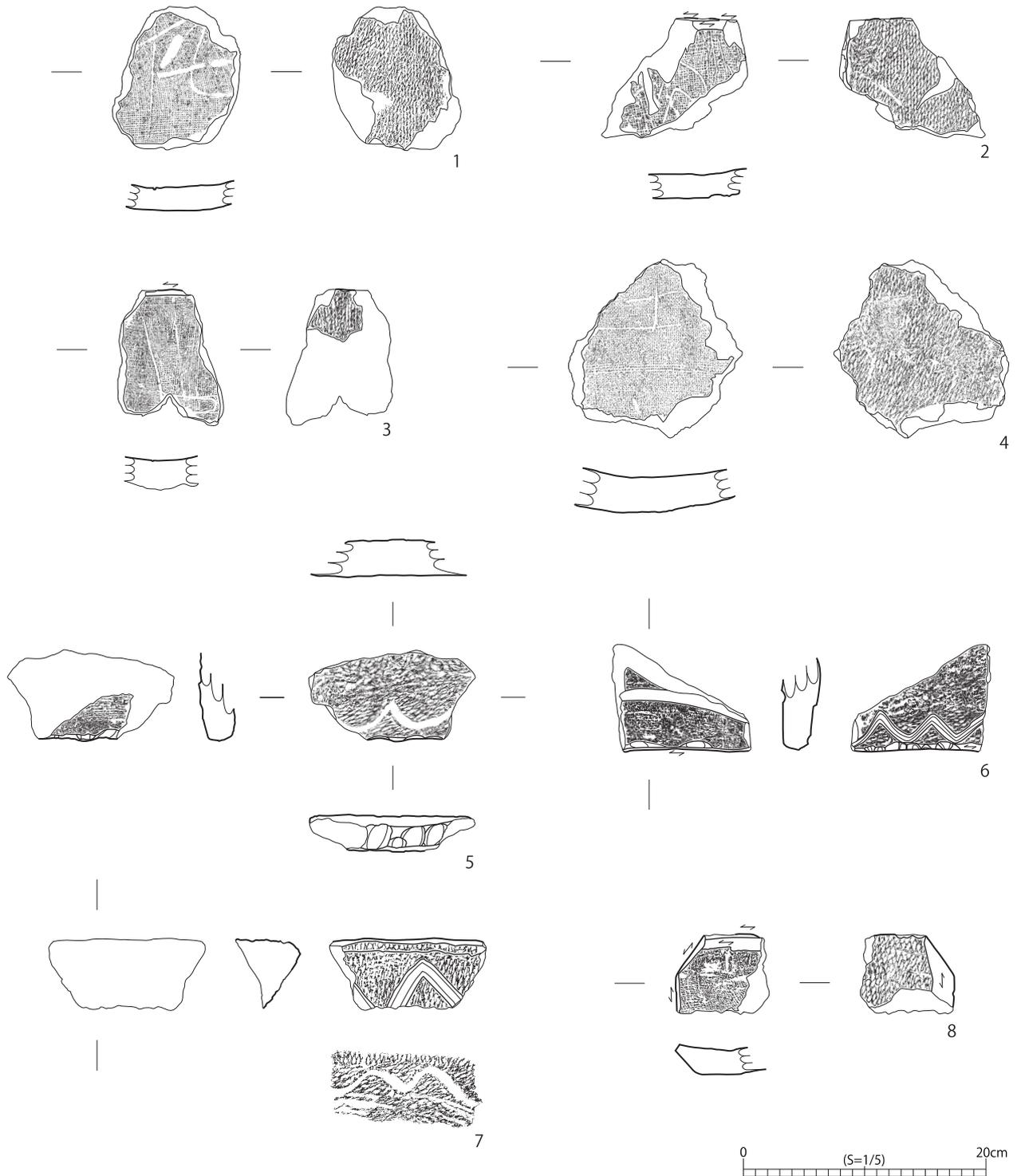
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	E7区	表土	平瓦	35.8	5.7 (25.3)	12.7 (23.3)	3.8	-	-	凹面：5YR5/2 凸面：7.5YR5/1 周縁：ヘラケズリ	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→一部ナデ 凹面：ヘラ書き「上」	G-203	45-3 104
2	E8区	表土	平瓦	38.8	3.2 (25.3)	14.7 (22.4)	2.7	-	-	凹面：7.5YR5/3 凸面：7.5YR5/2 周縁：ヘラケズリ→側面・狭端面圧痕	凹面：糸切り痕→布目痕 凹型台圧痕 凸面：縄叩き 凹面：ヘラ書き「下」	G-204	46-1 104
3	I8区	表土	平瓦	7.4+	6.1+	-	1.4	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目痕 凸面：欠損 凹面：ヘラ書き解読不明	G-205	46-2 106
4	H7区	表土	平瓦	9.1+	8.2+	-	2.3	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：2.5 Y 5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-206	46-3 105

第156図 遺構外出土遺物(4)



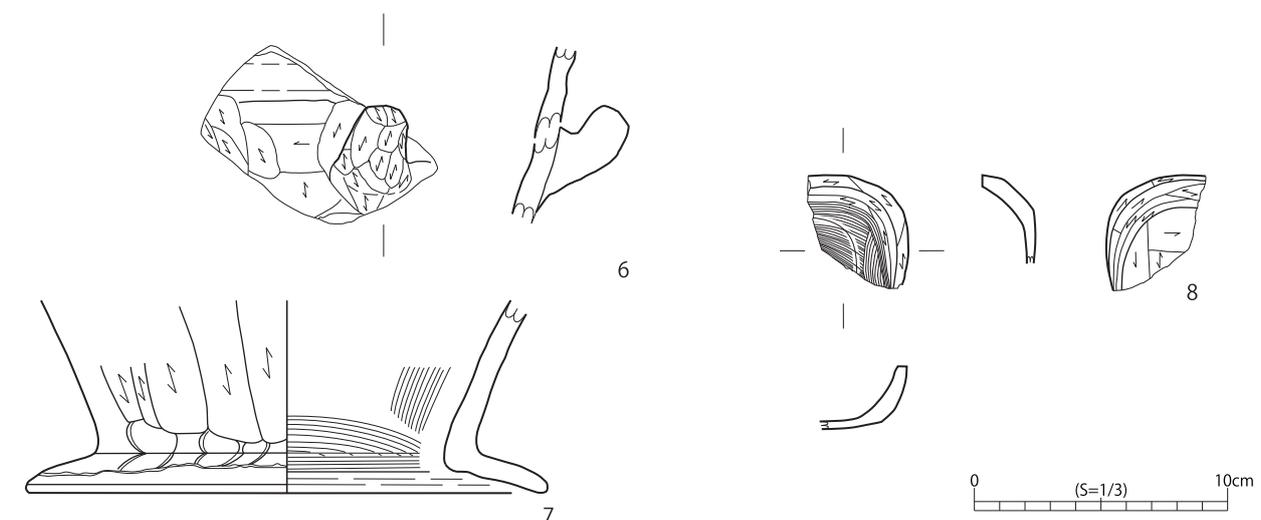
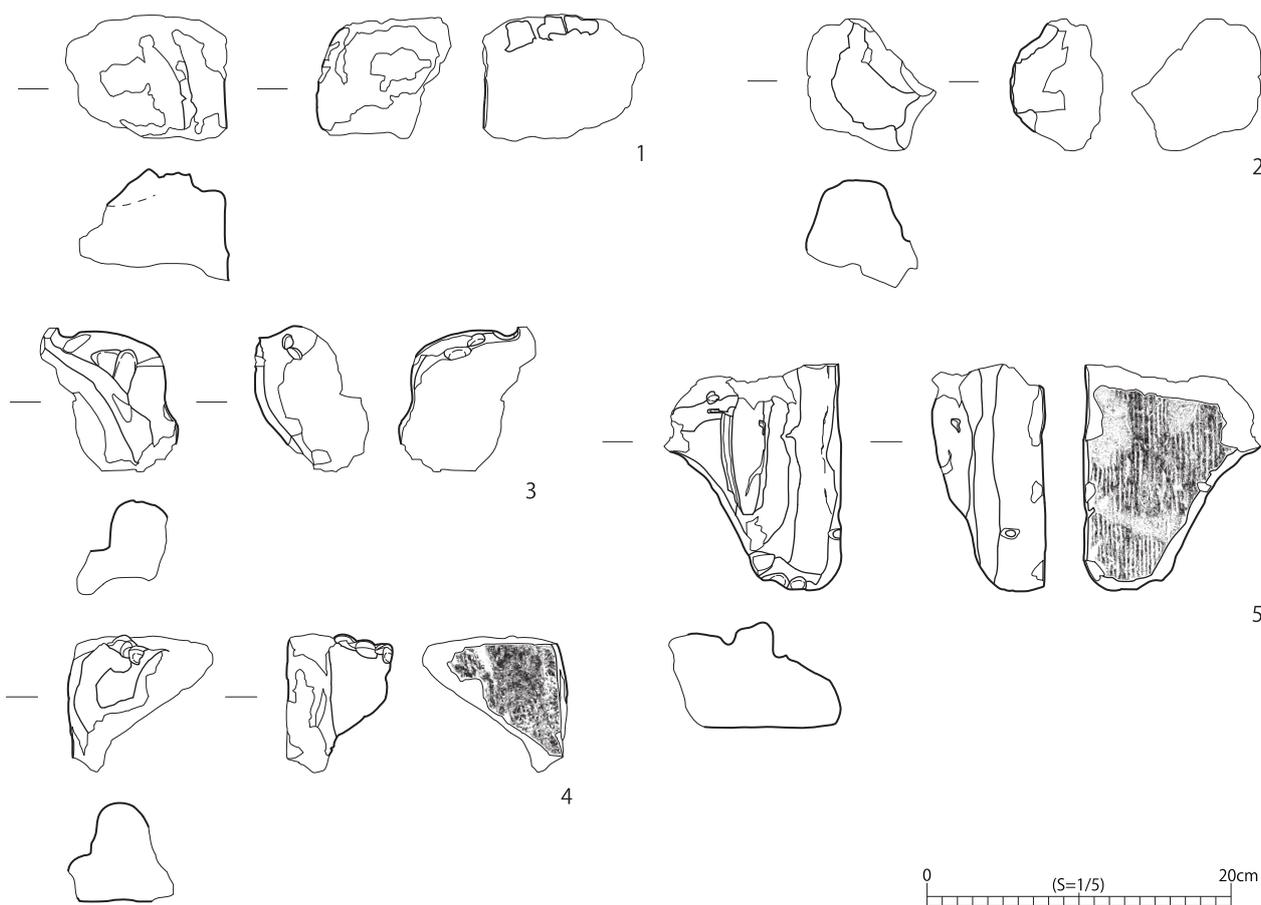
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	F7区	表土	平瓦	221.1+	16.3+	-	3.2	-	-	凹面：10YR5/2 凸面：5YR6/1	凹面：布目痕→広端面ナデ 凸面：縄叩き 周縁：側面・広端面ヘラケズリ→広端面圧痕 凹面：押印⊕ ヘラ書き「大」	G-207	46-5 100
2	G6区	表土	平瓦	9.6+	7.4+	-	2.0	-	-	凹面：5YR5/2 凸面：5YR5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：ヘラ書き「1」×2	G-208	46-4 104
3	H6区	表土	平瓦	13.6+	15.4+	-	3.7	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-209	46-6 106
4	H7区	表土	平瓦	13.7+	-	11.4+	2.6	-	-	凹面：7.5YR5/1 凸面：7.5YR5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-210	46-7 106
5	H7区 H8区	表土	平瓦	34.0	4.0 (24.6)	6.3 (24.7)	2.9	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕→一部ナデ 凸面：縄叩き→半裁竹管状の刺突痕 周縁：ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-211	46-8 106

第157図 遺構外出土遺物(5)



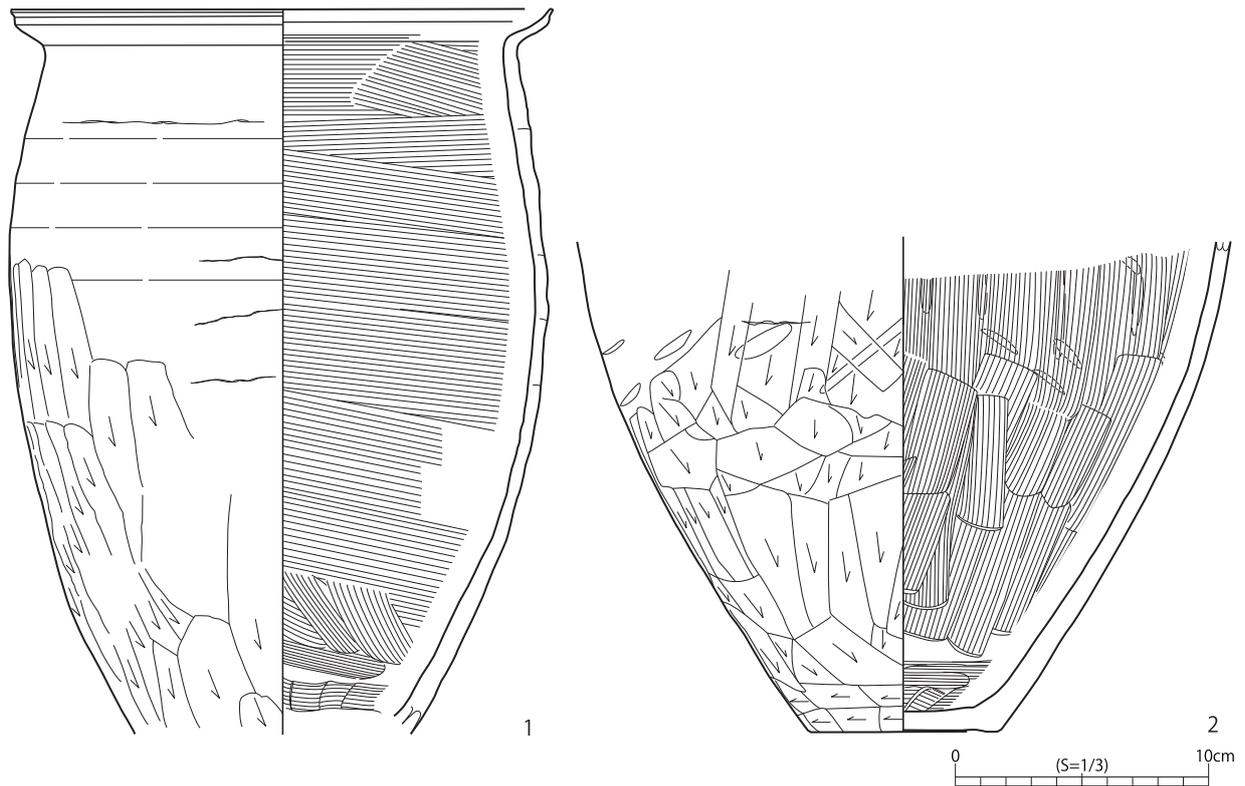
番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	H8区	表土	平瓦	11.9+	10.6+	-	2.0	-	-	凹面：10YR5/1 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 凹面：ヘラ書き解読不明	G-212	46-9 103
2	H8区	表土	平瓦	9.9+	-	5.1+	2.0	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：狭端面ヘラケズリ 凹面：ヘラ書き解読不明	G-213	46-10 106
3	I8区	表土	平瓦	11.3+	-	3.3+	2.4	-	-	凹面：2.5Y5/1 凸面：2.5Y5/1	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：狭端面ヘラケズリ 断面：たたら粘土貼り合せ痕 凹面：ヘラ書き解読不明	G-214	46-11 106
4	I8区	表土	平瓦	14.8+	13.8+	-	3.2	-	-	凹面：7.5YR5/2 凸面：7.5YR5/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き→一部ナデ 凹面：ヘラ書き「エカ」	G-215	46-12 106
5	E6区	表土	棟平瓦	-	-	-	-	垂7.0+	垂2.6	瓦当面表：10YR5/1 瓦当面裏：2.5Y5/2	瓦当面表：縄叩き→ヘラ描き波状文 瓦当面裏：ハケメ、ナデ 下端面圧痕	H-022	46-13
6	E7区	表土	棟平瓦	-	-	-	-	垂9.0+	垂3.2	瓦当面表：5Y 5/1 瓦当面裏：10YR 5/2	瓦当面表：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文、下端面圧痕→ヘラケズリ 瓦当面裏：ハケメ→ユビナデ、下端面圧痕→ヘラケズリ	H-023	47-1
7	F6区	表土	棟平瓦	6.0+	12.4+	-	-	5.3+	-	瓦当面：10R 5/1 顎面：10R 5/1	瓦当面：縄叩き→ヘラ描き波状文 顎面：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文	H-024	47-2
8	F6区	表土	隅切瓦	6.6+	-	4.7+	2.1	-	-	凹面：7.5YR5/2 凸面：10YR6/2	凹面：布目痕 凸面：縄叩き 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ	H-025	47-3

第158図 遺構外出土遺物(6)



番号	遺構名 クリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	F6区	表土	鬼瓦	7.4+	-	-	9.6+	-	-	表面：5YR 4/2 裏面：欠損	表面：ナデ 裏面：欠損 側面：ナデ 部位：不明	H-026	47-4
2	F7区	表土	鬼瓦	8.7+	-	-	7.2+	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：欠損	表面：ナデ 裏面：欠損 部位：頬	H-027	47-5
3	F7区	表土	鬼瓦	9.5+	-	-	5.8+	-	-	表面：10YR 6/4 裏面：欠損	表面：ヘラナデ→ユビナデ→ヘラ工具痕 裏面：欠損 部位：不明	H-028	47-6
4	F7区	表土	鬼瓦	9.0+	-	-	6.5	-	-	表面：7.5YR 7/3 裏面：7.5YR 6/3	表面：ヘラケズリ→ユビナデ→ヘラ工具痕 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ナデ 粘土板に粘土貼付 部位：不明	H-029	47-7
5	H6区	表土	鬼瓦	15.0+	-	-	7.4	-	-	表面：10YR 6/3 裏面：7.5YR 6/2	表面：ヘラナデ→ナデ→ヘラ工具痕、端面圧痕 裏面：ハケメ→ナデ 側面：ケズリ、ナデ 粘土板に粘土貼付 部位：牙	H-030	47-8
番号	遺構名 クリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調		成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版	
6	G9区	表土	土師器 甗	把手3.4	-	把手 1.8	-	外面：7.5YR5/4 内面：7.5YR5/4	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	外面：ロクロナデ→ヘラケズリ 把手：ヘラケズリ 内面：ナデ	D-004	47-11	
7	F8区	表土	土師器 甗	-	(20.4)	(7.6)	-	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	外面：7.5YR5/3 内面：7.5YR5/4	外面：体部ヘラケズリ→粘土貼付後ナデ 底部ロクロナデ 内面：体部ナデ 底部ロクロナデ	D-005	47-12	
8	C3区	表土	須恵器 甗	(4.6)	(3.9)	2.5	-	外面：N4/0 裏面：N5/0	外面：ヘラケズリ→ナデ 裏面：ヘラケズリ	外面：ヘラケズリ→ナデ 裏面：ヘラケズリ	E-027	47-9	

第159図 遺構外出土遺物(7)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	C5区	風倒 木痕	土師器 甕	(21.4)	-	(34.3)	-	外面：7.5YR6/6 内面：7.5YR5/4	外面：口縁部～体部中位ロクロナデ、下半ケズリ 内面：口縁部ロクロナデ、体部ヘラナデ	D-006	47-10
2	B3区	-	土師器 甕	-	7.6	(18.5)	-	外面：7.5YR6/3 内面：7.5YR6/4	外面：ヘラケズリ 底部：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	D-007	47-13

第160図 遺構外出土遺物(8)

形態は、軒平瓦の瓦当部が平瓦の凸面側端部に取り付き、半分が平瓦部凹面側に突出するものである。瓦当部と平瓦の接着方法は、軒平瓦と同様に平瓦に顎部をのせ叩いて接着している。瓦当面の文様は、一部を重複させて上下2段に均整唐草文を押している。範は軒平瓦Ⅱ類と同じである。文様を囲む線上下が1線のもので、左右を囲む線が1線か2線かで、a・bに細分されるが、左右の文様が確認できる3点はすべて1線であることから、軒平瓦Ⅱ類bと分類した。顎面に近い上半に第158図7は波状文を、第78図3は鱗状の文様を、第41図1・3、第79図2・4、第80図2、第158図5・6は下半に波状文を施している。下面は、ヘラケズリおよび指オサエによって整形される。裏面は、布目のちハケメ調整され、さらにヘラケズリもしくはナデ調整されるものがみられる。顎面には判別できるもののほとんどにヘラ描きによって波状文が施されている。なかには鋸歯文に近いもの(第158図7)、稲妻状の文様(第136図2)もある。また、第151図3は平瓦部との境を沈線で区画している。顎面・瓦当面とも調整はほとんど施されておらず、全面に縄タタキ目が残る。縄タタキ目の方向は、顎面は縦位、瓦当面は斜位が多い。平瓦部はⅣ類が取り付けられている。

### 鬼瓦

鬼瓦は36点出土し、16点図示した(第52図4、第80図1、第84図4～6、第85図1～5、第152図1、第159図1～5)。3号窯跡で4点、1号窯跡排水溝(2号溝)で6点、3号窯跡排水溝(3号溝)で12点、谷で1点、表土で13点出土している。形態は、下端部に半円形の削り込み(第84図5・第161図5)があり、顔面のそれぞれの部位の起伏が顕著である。確認できる部位は、眉部が1ヶ所、眼部2ヶ所、頬部4ヶ所、鼻部2ヶ所、牙部6ヶ所であり、3個体以上であることがわかる。断面の観察から、粘土塊を付け加えながらある程度平坦に整えた後、顔面の各部分を貼り付けるもの(第84図5・第159図4)と、当初から粘土板を用い、その上に顔面の各部分を貼り付けるもの(第84図6、第85図1・2・4、第152図1、第159図1・5)が認められる。表面はへ

ラケズリのち粗雑なナデ、裏面及び側面はハケメのちナデによって仕上げられている。

#### 隅切瓦

隅切瓦は2点出土している。いずれも表土から出土しており、1点図示した(第158図8)。

平瓦Ⅳ類の狭端の隅を小さく切り落としたものである。

#### 〔文字瓦〕

文字瓦は、丸瓦・平瓦の凸面・凹面に押印・ヘラ書きによって記名されたものである。2,905点出土し、202点図示した。瓦類全体の8.0%を占めている。

#### 押印瓦

押印瓦は221点出土し、51点図示した。窯内からは、1号窯跡で30点、1号窯跡排水溝(2号溝)で5点、3号窯跡で43点、3号窯跡排水溝で5点、6号窯跡で10点、9号窯跡で1点、10号窯跡で2点出土している。そのほかの遺構からは、1号灰原で4点、11号土坑で2点、13号土坑で4点、19号土坑で1点、25号土坑で3点、瓦集中部で4点、谷で6点、表土・攪乱で101点出土している。「田」・「⊕」・「⊗」・「⊙」・「⊚」・「⊛」・「⊜」(内部は陽刻)・「⊝」・「⊞」・「⊟」・「⊠」・「⊡」の12種類と、その他に部分的にのみ残存し、押印の全体形が判らないものがあり、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅳ類にみとめられる。

#### ヘラ書き瓦

ヘラ書き瓦は2,684点出土し、151点図示した。窯内からは、1号窯跡で344点、1号窯跡排水溝(2号溝)で119点、3号窯跡で383点、3号窯跡排水溝(3号溝)で83点、5号窯跡で9点、6号窯跡で17点、7号窯跡で2点、9号窯跡で2点出土している。そのほかの遺構からは、11号土坑で25点、13号土坑で3点、19号土坑で25点、20号土坑で6点、22号土坑で3点、25号土坑で6点、瓦集中部で106点、谷で27点、表土・攪乱で1,516点出土している。

「有」・「×」・「乙」・「丁」・「七」・「大」・「丸」・「伊」・「川」・「伴」・「岩カ」・「井」・「安」・「テ」・「の」・「ル」・「上」・「上工」・「田」・「弓」・「キ」・「し」・「瓦」・「土」・「女カ」・「本カ」・「春部カ」・「九」・「子」・「人」・「ト」・「リ」・「川」・「井カ」・「キ」の36種類あり、丸瓦Ⅱ類、平瓦Ⅳ類に認められる。

#### 〔土師器〕

土師器は、坏・甕・甑が出土している。総破片数496点出土している。9点図示した。非ロクロ成形の土師器は、13号土坑で75点、15号土坑で10点、谷で1点、表土で42点の計128点出土し、2点を図示した。ロクロ成形の土師器は、1号窯跡で12点、3号窯跡で13点、4号窯跡で1点、5号窯跡で13点、9号窯跡で5点、10号窯跡で7点、1号灰原で10点、2号溝で4点、3号溝で20点、12号土坑で2点、13号土坑で83点、14号土坑で2点、15号土坑で4点、17号土坑で13点、20号土坑で1点、22号土坑で3点、瓦集中部8で23点、谷で3点、表土で149点の計368点出土し、7点を図示した。第127図1は、非ロクロ成形の土師器甕である。平底の底部から体部へ内湾気味に外傾して立ち上がり、上半で内湾気味に頸部にいたる。頸部は屈曲しており、口縁部は短く外傾し、口唇部はわずかに立ち上がっている。調整は、内・外面ともに口縁部ヨコナデ、体部上半ヨコナデ、体部下半ハケメである。底面にはムシロ状圧痕がみられる。いわゆる「近夷郡」の土器の特徴がみとめられる。8世紀第4四半期のものである。第121図7の坏は、ロクロ成形の土師器坏である。底部は回転糸切りのち回転ヘラケズリ、外面は回転ヘラケズリ調整、内面はヘラミガキのち黒色処理されるものである。第148図3はロクロ成形の土師器坏である。底部が回転糸切り離し無調整、外面は体部下端が手持ちヘラケズリされるものである。



## 〔須恵器〕

須恵器は、坏・埴・甕・瓶が出土している。総破片数は953点で、23点図示した。1号窯跡で1点、3号窯跡で10点、4号窯跡で2点、6号窯跡で3点、7号窯跡で5点、9号窯跡で15点、10号窯跡で7点、1号灰原で83点、2号溝で4点、3号溝で20点、13号土坑で397点、14号土坑で53点、15号土坑で87点、16号土坑で1点、17号土坑で8点、谷で13点、表土で268点出土している。坏は、12点図示した。底部が回転糸切り離し無調整のもの4点（第80図4、第124図4、第127図4）、底部が回転糸切り離しののち外面体部下端が手持ちヘラケズリ調整されるもの4点（第109図2、第113図1、第121図6、第124図5）、底部が切り離し不明で、底面が手持ちヘラケズリ調整されるもの1点（第113図2）、ヘラケズリ調整が底面と体部下端に及ぶもの3点（第121図4・5、第127図3）、底部がヘラ切り離しののち底面がナデ調整されるもの2点（第124図6、第127図2）がある。埴は1点図示した。第127図5は底部が切り離し不明で、底面がナデ調整されるものである。第124図5は大部下端に穿孔されているものである。甕は1点図示した。第99図5は、体部の破片である。瓦との融着痕があり、焼台として用いられたと考えられる。瓶は1点図示した。第41図4は体部の破片で、内・外面がナデ調整される。胎土の緻密さ、色調から東海諸窯の製品である可能性がある。

## 〔 硯 〕

硯は10点出土している。3点を図示した。1号灰原で8点、表土で2点出土している。第113図5は、前方部がやや弧状をなし、両側辺が直線的な形状である。硯面と縁の境をナデ調整したのち、硯面・縁・裏面ともにヘラケズリ調整される。第159図8も同様の形状のものと考えられる。硯面および硯面と縁の境をナデ調整したのち、縁・裏面ともにヘラケズリ調整される。

第113図4は、脚部の破片である。ヘラケズリ調整によって多角錐状に仕上げている。

## 〔その他の遺物〕

その他の遺物は、21点（石器9点、石製品4点、1号窯跡の焚口の袖石に用いられたと考えられる礫1点、陶器6点、近世瓦1点）出土している。2点図示した。

第109図3は、剥片石器（石匙）である。流入によるものと考えられる。

第52図5は、石製品（砥石）である。砥面は3面で、使用痕とみられる細擦痕がみられる。表面には鉄製工具の刃部を研いだ際についたと考えられる痕跡、および製作の際の打突痕が残る。

## 第3節 まとめ

## 遺 物

- ・窯跡からは、丸瓦Ⅱ類、軒平瓦Ⅰ～Ⅳ類、平瓦Ⅳ類、棟平瓦（瓦当面文様は軒平瓦ⅡB類b）が出土している。また、窯跡以外から軒丸瓦Ⅱ類、軒平瓦ⅡB類・Ⅲ類、平瓦Ⅲ類が出土している。これらは丸瓦Ⅱ類は多賀城丸瓦ⅡB類、軒平瓦Ⅰ類は多賀城710、軒平瓦Ⅱ類Bは多賀城721、軒平瓦Ⅲ類は多賀城920、軒平瓦Ⅳ類は多賀城921、平瓦Ⅲ類は多賀城平瓦ⅡB類、平瓦Ⅳ類は多賀城平瓦ⅡC類にあたる。
- ・平瓦は、1枚作りで、凸面が縄タタキ・凹面台圧痕、凹面に糸切り痕・布目・ナデがみられる平瓦Ⅲ類と、凸面が縄タタキ、凹面に布目がみられ、凹面・凸面ともに調整が全く認められない平瓦Ⅳ類がある。窯跡の構築材として用いられている平瓦の観察によって、7～10号窯跡は平瓦Ⅲ類が、1・3・4～6号窯跡は平瓦Ⅳ類が多いことを確認している。前述したとおり、平瓦Ⅲ類が多賀城平瓦ⅡB類、平瓦Ⅳ類が多賀城平瓦ⅡC類に一致する

ことから、前者は多賀城Ⅲ期、後者は同Ⅳ期に位置づけられると考えられる。

- ・棟平瓦は、日本国内において本窯跡および多賀城跡からのみ出土している。これに類似するものが、朝鮮半島の統一新羅時代（689～935年）の都であった大韓民国慶尚北道慶州市内の複数の遺跡から発見されており、古代朝鮮との関係が窺われる。また、『日本三代実録』貞観12年9月15日の項にみえる「復興のために瓦造りに長けた新羅人を陸奥国に配属した」という記事に符号する可能性があり、日本古代史研究上、極めて重要な発見である。

## 遺 構

### 〔窯跡〕

- ・遺構は、すべて表土直下のⅢ層上面で確認した。
- ・遺構は、調査区を南北に走る谷を取り巻く傾斜面で検出した。
- ・窯跡群は、位置関係等から見て3群に分けることができる。調査区の中央から東寄り付近で南側に下る谷の西側にある斜面を選地している半地下式無階無段の窖窯群（7～10号窯跡）、谷の北側の斜面を選地している半地下式有階無段の窖窯群（4～6号窯跡）、谷の東側の斜面を選地している半地下式有牀式の平窯群（1・3号窯跡）である。
- ・東北地方における半地下式有牀（ロストル）式平窯は、神明社窯跡A地点（蟹沢中瓦窯跡、多賀城Ⅱ期）に次ぐ2例目の確認である。
- ・各窯跡の窯体構造・中軸線の方向・規模をはじめとして、出土遺物・灰原の状況などからみて、それぞれの群内では同時操業の可能性を窺える。ただし、群毎に同時操業を考えられるかは不明である。
- ・窯跡は、全てⅢ層を掘り込み、床面・壁を構築したうえで天井を架構したと考えられる。後世の削平のため、上部施設（煙出部・天井部）は残存していない。
- ・今回調査した窯跡からは須恵器が出土しているが、歪み、ヒビなどがなく、出土量が極めて少ないこと、出土した層位などから考えて、全ての窯跡は瓦専用窯であったと考えられる。
- ・1・3・7～9号窯跡の窯体片の中には、幅3cmの溝状の圧痕がみられた。天井架構のための構架材痕とみられる。また、窯体の壁内外からⅢ層に刺さった状態で、炭化材を確認している。径1cmと細く、確認位置からも直接天井架構に伴うかは不明であるが、これまでの報告例から構架材の可能性はある。
- ・燃料残滓層の互層を操業の一単位と考えた場合、ほとんどの窯跡は複数回の操業であると考えられる。
- ・窯跡に付属する灰原は、1・3～6号窯跡で確認した。7～10号窯跡は、位置関係等から1号灰原がこれらの窯跡に付属すると考えられる。7～10号窯跡から排出された燃料残滓などが、灰原のどの部分に相当するのかは不明である。
- ・5号窯跡の灰原の下からは灰白色火山灰が検出されたが、灰原から自然傾斜面に移行する部分であり、灰原から流出した燃料残滓が上部に堆積したものと考えられる。
- ・1号窯跡の整地層下から、窯跡の可能性の考えられる被熱変化した土層範囲を検出した。1号窯跡に直接かかわるものであるのか、全く別の窯跡であるのかは不明である。
- ・平窯の構築手順は、1・3号窯跡の調査によって以下のように考えることができる。
  - ① 窯体周辺の整地、排水溝の掘削、窯体掘り方の掘削が行われる。相互の前後関係は不明である。整地は、Ⅲ層黒色化部分の上に行われており、整地以前に表土化していたことが理解される。
  - ② 奥壁部の瓦を積む。両側壁と、奥壁に施されている瓦積みの新旧関係から判断できる。
  - ③ 両側壁の瓦を積む。両側壁と、隔壁に施されている瓦積みの新旧関係から判断できる。両側壁と隔壁

の瓦の位置が一致しておらず、両側壁と隔壁は一体化していない。従って、焼成部・燃烧部の両側壁は同時に構築されたと考えられる。

- ④ 分焰牀の瓦を積む。奥壁に瓦が密着しており、奥壁から燃烧部に向って分焰牀を積み上げている。
- ⑤ 通焰孔を構築する。隔壁設置部分の分焰牀上部に、完形の平瓦を並べ、通焰孔を形成する。
- ⑥ 隔壁を構築する。通焰孔上部に構築。隔壁の詳細な構築技術は、後述する。

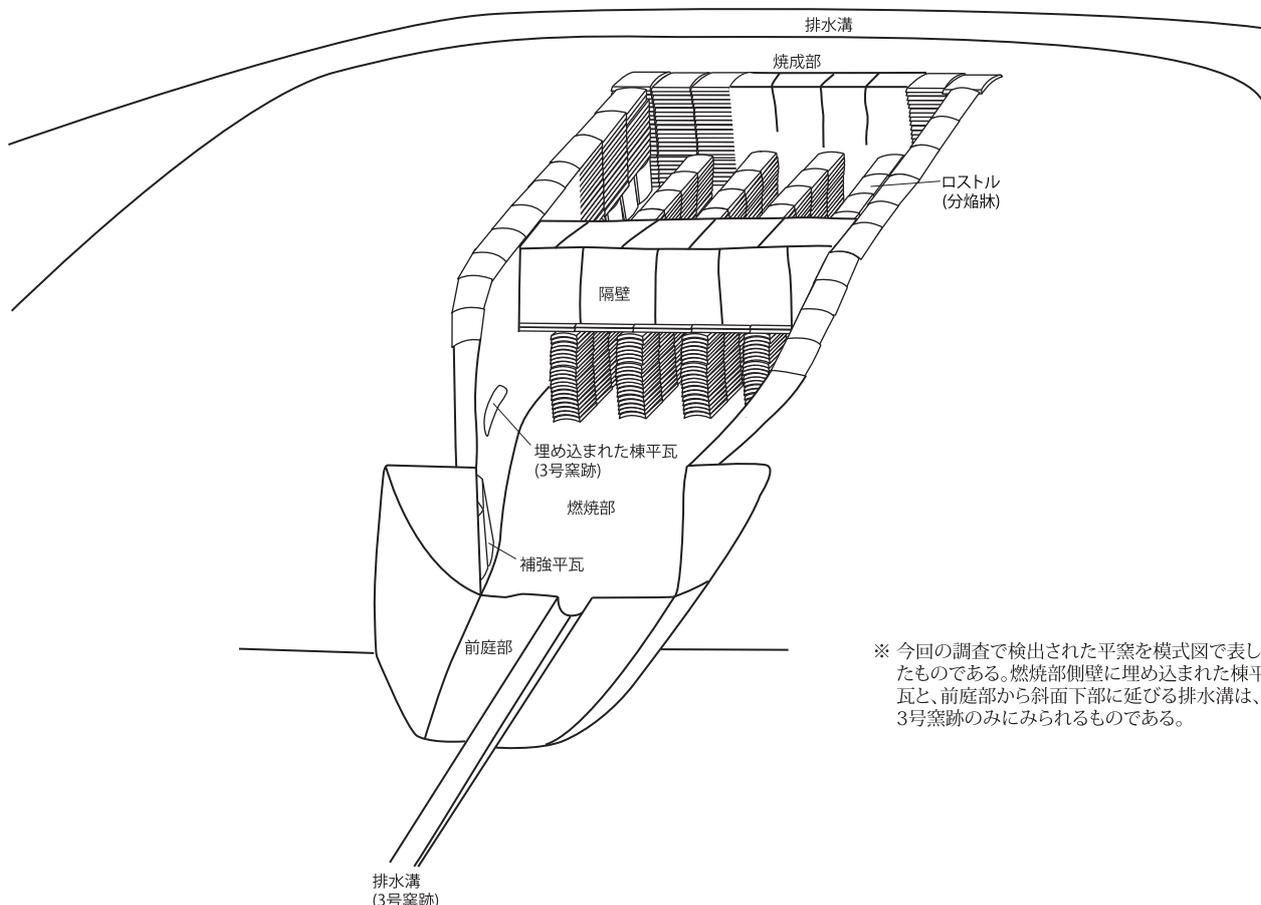
・平窯の隔壁の構築に関しては、1・3号窯跡の調査によって以下の手順で行われることが理解できた。

- ① 分焰牀と焰道上部に完形の平瓦とスサ入り粘土を積み重ね、通焰孔を形成する。
- ② 通焰孔上部に重ねた平瓦とスサ入り粘土の上に、板で作られた型枠状の部材を設置する。
- ③ 型枠状の部材の中にスサ入り粘土と瓦の破片を混ぜたものを、3～4回に分けてほぼ水平に入れ、隅々まで粘土が行き渡るように押しならす。

隔壁の燃烧部側表面には、粘土が完全には一体化せず、ほぼ水平方向の不連続な面を確認した。

#### 〔その他の遺構〕

- ・13・14号土坑は、灰原が上部を覆っている。それぞれの堆積土中からは、灰白色火山灰が確認されている。土坑に灰白色火山灰が堆積した後に、灰原からの堆積土の流出により、上部が覆われたと考えられる。
- ・24号土坑は、炭化物やⅢ層の被熱範囲から、何らかの焼成作業を行った遺構と考えられるが、遺構に伴う遺物が出土せず、詳細は不明である。
- ・瓦集中部は、窯跡よりも標高の高い部分に位置しており、今回調査した窯跡に伴うか否かは不明である。



※ 今回の調査で検出された平窯を模式図で表したものである。燃烧部側壁に埋め込まれた棟平瓦と、前庭部から斜面下部に延びる排水溝は、3号窯跡のみにみられるものである。

新堤地区 平窯模式図

第5表 平窯一覽表

遺構名	グリッド		主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部壁高(m)
1号窯跡	G-7、H・I6~8		N-88° -E	2	9.27	1.1	2.21	1.35
焼成部傾斜角(°)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	口幅	通焰口	時期
8	2.7	1.62	1.5	1	1.02	6	7	多賀城Ⅳ期
備考：構築材痕あり、排水溝(SD2)								
遺構名	グリッド		主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)	焼成部壁高(m)
3号窯跡	E・F-5~8、G-5~7		N-73° -W	5	13	1.22	2.1	1.29
焼成部傾斜角(°)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	口幅	通焰口	時期
12	2.1	1.51	1.42	2	1.09	6	7	多賀城Ⅳ期
備考：構築材痕あり、排水溝(SD2)								

第6表 窖窯一覽表

遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
4号窯跡	D-5・6		有階無段	N-56° -E	2	5.24	3.02	0.64
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.42	上部8° 下部25°	0.22	0.69	0.45	0.5	3	0.43	多賀城Ⅳ期
備考：奥壁あり、焼台あり、構築材あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
5号窯跡	C-6・D-5・6		有階無段	N-56° -E	3	6.0	3.22	0.71
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.49	17	0.39	1.12	0.51	0.58	10	0.51	多賀城Ⅳ期
備考：奥壁あり、焼台あり、構築材あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
6号窯跡	C-4・5		有階無段	N-61° -E	5	6.3	4.0	0.58
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.5	上部24° 下部13°	0.2	1.2	0.56	0.62	11	0.6	多賀城Ⅳ期
備考：奥壁あり、焼台あり、構築材あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
7号窯跡	A・B-3		無階無段	N-66° -W	1	4.8以上	4.33	0.52
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.4	22	-	0.45以上	0.51	0.39	10	-	多賀城Ⅲ期
備考：奥壁あり、焼台あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
8号窯跡	B-2・3		無階無段	N-64° -w	2	6.9	5.12	0.79
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.58	21	-	1.82	0.69	0.58	3	0.61	多賀城Ⅲ期
備考：奥壁あり、構築材あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
9号窯跡	B-2・3、C-3		無階無段	N-66° -W	5	5.3以上	3.9以上	0.62
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.55	上部20° 下部14°	-	1.4	0.69	0.52	11	0.81	多賀城Ⅲ期
備考：奥壁あり、焼台あり、構築材あり								
遺構名	グリッド		構造(半地下式)	主軸方向	操業面数	全長(m)	焼成部長(m)	焼成部幅(m)
10号窯跡	B-2、C-2・3		無階無段	N-65° -W	3	4.25以上	3.05以上	0.6
焼成部壁高(m)	焼成部傾斜角(°)	有階部高(m)	燃焼部長(m)	燃焼部幅(m)	燃焼部壁高(m)	燃焼部傾斜角(°)	焚口幅(m)	時期
0.41	17	-	1.17	0.88	0.52	11	0.81	多賀城Ⅲ期
備考：焼台あり、構築材あり								

第7表 溝一覽表

遺構名	グリッド	走行方向	全長(m) × 上端(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	時期
1号溝	B・C-4	N-0°	2.7×0.41×0.05	直線・「U」	-

第8表 土坑一覽表

遺構名	グリッド	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	底面	時期
1号土坑	C-5	N-61° -W	1.15×1.15×0.25	円形・浅い皿形	傾斜・起伏	-
4号土坑	F-8	N-62° -W	0.72×0.49×0.35	楕円形・「V」字形	平坦	-
6号土坑	H-7	N-18° -W	1.1×0.6×0.3	不整形・「U」字形	傾斜・凹凸	-
8号土坑	G-6	N-54° -W	0.95×0.72×0.15	楕円形・「U」字形	平坦	-
9号土坑	G-6	N-54° -W	1.32×0.55×0.25	不整形・「U」字形	平坦	-
10号土坑	H・I-7	N-34° -W	0.52×0.43×0.2	楕円形・「U」字形	凹凸	-
11号土坑	H-7	N-56° -E	2.39×1.48×0.65	楕円形・「U」字形	凹凸	-
12号土坑	B-2	N-87° -E	1.55×0.5×0.15	不整形・「U」字形	凹凸	-
13号土坑	B-2・3	N-60° -W	4.15×2.75×1.05	楕円形・「U」字形	傾斜	-
14号土坑	C-3	N-67° -E	5.35×2.02×1.0	不整形・「U」字形	傾斜	-
15号土坑	C-4	N-90° -E	5.02×1.65×0.45	楕円形・浅い皿形	傾斜・起伏	-
16号土坑	A-3	N-90° -E	2.9以上×2.65以上×0.85	-・箱形	平坦	-
17号土坑	A・B-2・3	N-64° -W	2.81×2.52×0.5	楕円形・皿形	平坦	-
18号土坑	B-3	N-56° -W	1.88×1.71×0.55	楕円形・「U」字形	平坦	-
19号土坑	I-7	N-77° -W	2.5以上×2.15以上×0.5	- - -	凹凸	-
20号土坑	E-6	N-77° -W	4.35×2.95×0.75	楕円形・皿形	凹凸	-
21号土坑	E-7	N-76° -W	1.55×1.2×0.25	楕円形・浅い皿形	平坦	-
22号土坑	E-6・7	N-72° -E	4.35×3.75×0.55	不整形・皿形	平坦	-
24号土坑	D-7・8	N-62° -W	1.79×0.7×0.35	隅丸長方形・箱形	平坦	-
25号土坑	C・H-7	N-60° -E	3.7×2.8×0.5	不整形・皿形	平坦	-

第9表 ピット一覽表

遺構名	グリッド	長軸方向	長軸(m) × 短軸(m) × 深さ(m)	平面形・断面形	柱痕	時期
ピット1	A-2・3	N-84° -E	0.85×0.6×0.15	不整形・皿形	なし	-
ピット5	E-7	N-42° -W	0.25×0.25×0.1	円形・「U」字形	なし	-
ピット6	E-7	N-49° -W	0.6×0.4×0.25	楕円形・「U」字形	なし	-
ピット10	I-7・8	N-68° -W	0.45×0.35×0.2	不整形楕円形・「U」字形	なし	-
ピット15	H-6	N-85° -W	0.45×0.4×0.2	楕円形・皿形	なし	-

## 第3章 蟹沢地区西地点

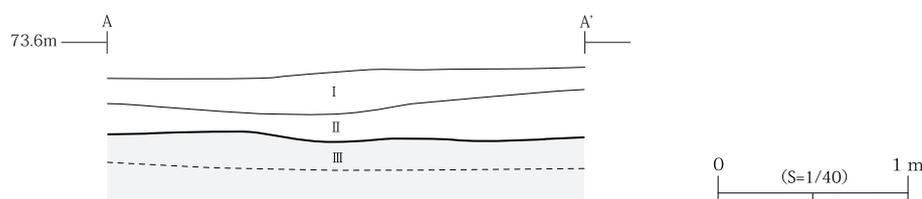
### 第1節 基本層序と自然地形

調査区は、東西に延びる丘陵を谷が南北に開析する地形であり、調査区の南側には分岐する谷がある。遺構は丘陵頂部付近のやや平坦な面、谷部へと向かう丘陵斜面、谷部に位置する。

#### 基本層序

基本層序は以下の通りである。

- I層：黒褐色（10YR3/2）シルト層である。木の根・木の葉を含む丘陵斜面全域に分布する表土層である。
- II層：灰黄褐色（10YR4/2）砂質シルトの層で、谷部へと向かう丘陵斜面の一部に堆積する。
- III層：にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の砂質シルトで、径2～10mm程度の礫を含む地山である。  
下層は、にぶい黄褐色（10YR4/3）～明黄褐色（10YR6/6）の粘土質シルトとなる。丘陵頂部付近では、さらに下層の白色粘土質シルト・凝灰岩質砂岩が露出しているところがある。



第161図 基本層序(蟹沢地区西地点遺構配置図A-A')

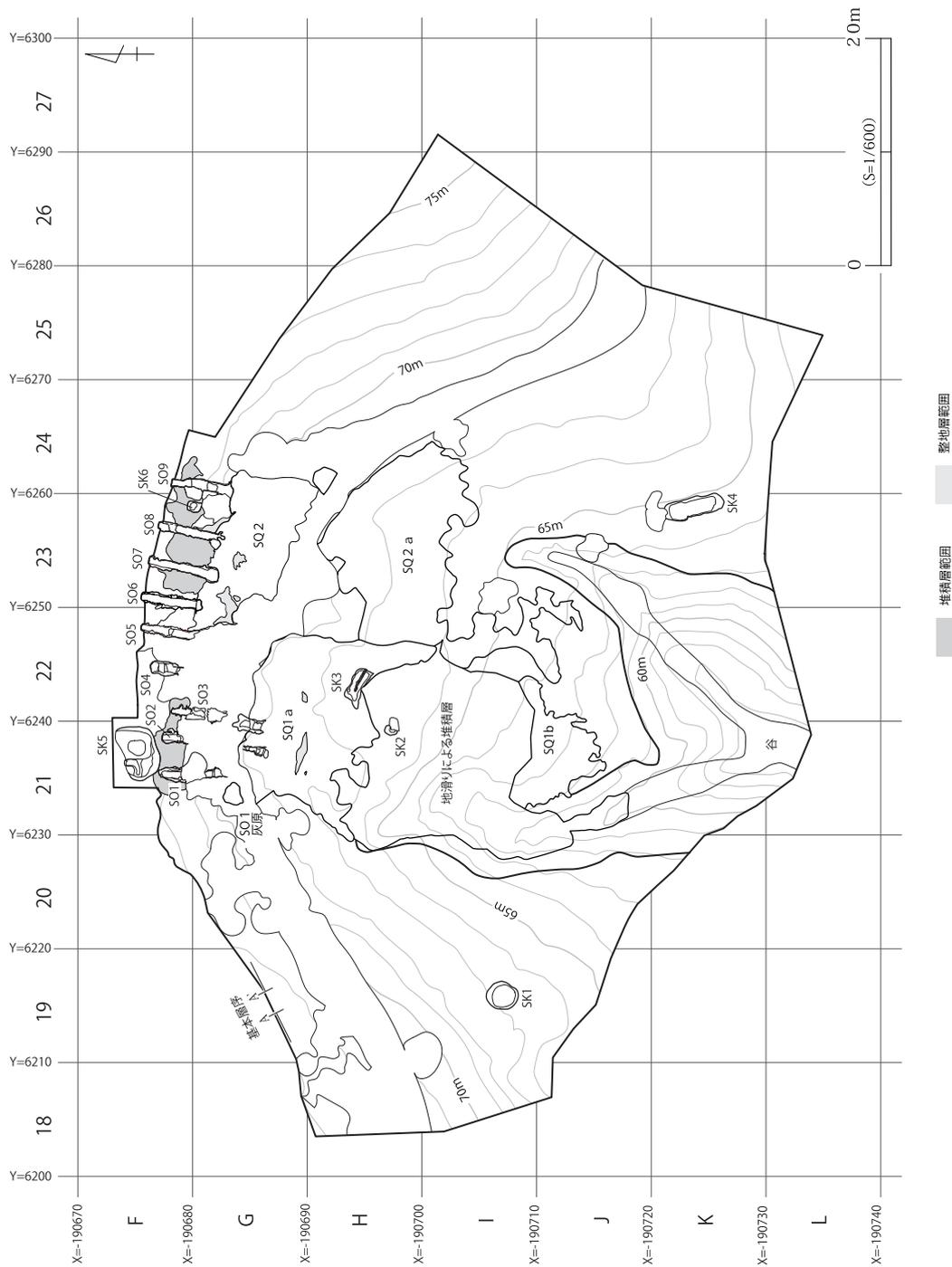
#### 地滑り (第207・208図)

調査区北部の南斜面から谷にかけて、大きくIII層が移動している。これは、円弧滑りと呼ばれるもので、斜面が円形土塊として迫出してくるものである。北はF-21・22グリッド、南はJ-21グリッド、幅はH～J-20～22グリッドに及ぶ。この土塊移動は、滑落した斜面では空間をつくり、迫出した部分では崩れて堆積がみられる。これらが、北部斜面では1～5号窯跡と1号灰原aの崩落としてみられ、迫出しの堆積は1号灰原bを覆う堆積と谷の堆積としてみられる。また、円弧滑りした土塊の上面では、地滑りによる堆積層や2・3号土坑を確認している。

#### 谷 (第162・163図)

谷は、調査区南側のI・J-20、H～L-21、J～L-22、I～K-23グリッドに所在する。

南から北へ延びる谷で、K・L-21・22グリッドで北東側、北西側に分岐し、H-21・J-23グリッドに谷頭を持つ。谷の北側では1～9号窯跡が営まれ、その南側にあった灰原が地滑りによって流出し、それらの流出土が谷に堆積している。北東側に分かれる谷は規模が小さく、北西側に分かれる谷は規模が大きい。北東側に分かれる谷の規模は、長さ25m以上、上端幅6～15m、深さは最深6m以上である。北東側の谷の堆積土の厚さは、谷頭付近で50～60cm、Cラインで2m以上、K・L-21・22グリッド付近で4m以上である。北西側に分かれる谷の規模は、長さ40m以上、上端幅5～9m、深さは3mである。北西側の谷の堆積土の厚さは、谷頭付近で約90cm、Bラインで約80cm、Cラインで約2m、K・L-21・22グリッドでは底面を確認することができなかったために不明である。北東側の谷の断面形はいわゆる箱形である。底面は滑らかであるが、K-22・J-23グリッドの2ヶ所で上流と下流を分ける急激な段を有している。段差はK-22グリッドで約3m、J-23グリッドで約1mである。小規模な、円形劇場形地形(註)を示しているものと考えられる。北西側の谷の断面形は鈍角に開く「V」字形である。底面は滑らかであるが、

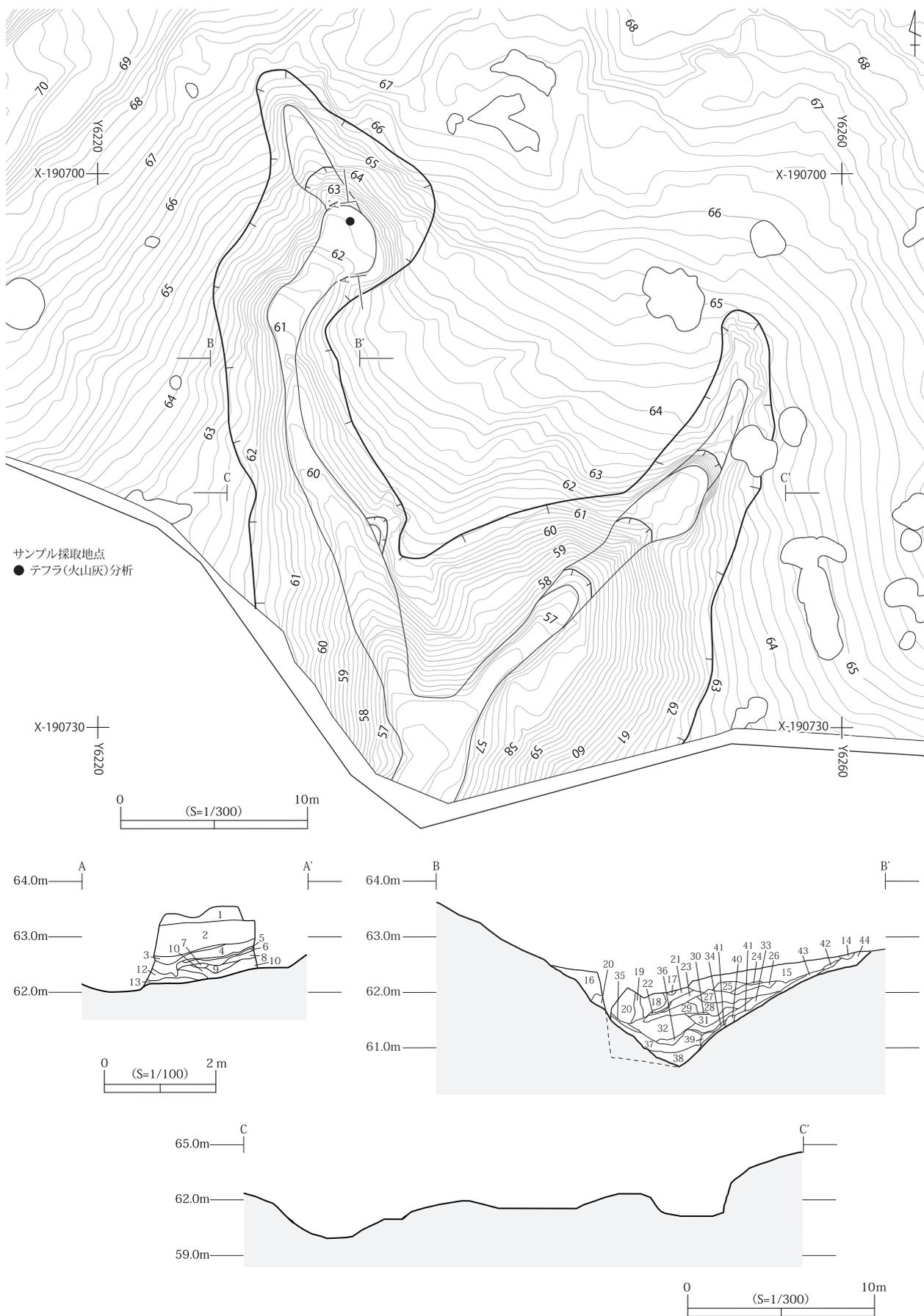


第162図 蟹沢地区西地点遺構配置図

I-21 グリッドで上流と下流を分ける急激な段を有している。小規模な、円形劇場形地形を示す J-21 グリッドよりも南側では、地形的な制約のため底面を検出することができなかった。

(註) 東北学院大学教養学部地域構想学科松本秀明教授より、現地をみていただいた際に「このような地形を円形劇場型地形とよぶ」とのご教示を得た。

堆積土は A ラインでは 13 層、B ラインでは 31 層に分けられる。すべて周囲からの流入土である。A ラインと B ラインでは堆積状況が異なり連続しないが、A ライン 2 層と B ライン 38 層は 1 号灰原 b 由来の層として捉えている。地滑りに起因する土層は 1 層である。5 層で灰白色火山灰を確認した。2 層からは、比較的多くの遺物が出土している。下層の谷の堆積土で丸瓦・平瓦が出土している。総破片数は 26 点で、図示はしていない。



第163図 谷平面図・断面図

谷土層観察表

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR6/4	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。炭化物粒を少量含む。	23	褐灰10YR7/3	砂質シルト	凝灰岩ブロック・マンガン粒を含む。
2	黒10YR2/2	砂質シルト	炭化物ブロックをごく多量含む。焼土粒・凝灰岩ブロックを少量含む。	24	灰白10YR7/1	シルト	
3	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。	25	灰白10YR7/1	シルト	炭化物粒を少量含む。
4	褐灰10YR6/1	シルト	凝灰岩ブロックを含む。焼土ブロックを微量含む。	26	灰黄褐10YR4/2	シルト	炭化物粒・凝灰岩ブロックを含む。
5	灰白10YR8/1	火山灰	凝灰岩ブロックを少量含む。	27	にぶい黄褐10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。
6	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩粒を少量含む。礫を微量含む。	28	灰黄褐10YR6/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
7	灰白10YR7/1	砂質シルト	礫を含む。凝灰岩粒を微量含む。	29	褐灰10YR6/1	砂質シルト	凝灰岩粒を少量含む。
8	褐灰10YR6/1	砂質シルト	酸化鉄・凝灰岩粒を少量含む。	30	褐灰10YR4/1	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。
9	灰黄褐10YR6/2	砂質シルト	凝灰岩ブロック・礫を少量含む。酸化鉄を微量含む。	31	にぶい黄褐10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
10	灰白10YR7/1	砂質シルト	酸化鉄を含む。	32	にぶい黄褐10YR7/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
11	灰黄褐10YR6/2	砂礫	礫を多量含む。凝灰岩ブロックを少量含む。	33	にぶい黄褐10YR7/3	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。
12	褐灰10YR5/2	砂質シルト	礫を微量含む。	34	灰白10YR8/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。礫を少量含む。
13	灰白10YR8/2	砂質シルト	礫を少量含む。	35	褐灰10YR6/1	砂質シルト	褐色シルトブロックを含む。凝灰岩ブロックを少量含む。
14	黒褐10YR3/1	砂質シルト	焼土粒・炭化物を微量含む。	36	褐灰10YR4/1	砂質シルト	焼土粒・凝灰岩ブロックを微量含む。
15	明黄褐10YR7/6	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。酸化鉄を少量含む。	37	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを多量含む。礫を微量含む。
16	にぶい黄褐10YR7/3	砂質シルト	凝灰岩ブロック・マンガン粒を含む。	38	黒褐10YR3/1	砂質シルト	炭化物粒を極多量含む。凝灰岩ブロックを少量含む。
17	褐灰10YR5/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを少量含む。炭化物粒を微量含む。	39	灰白10YR8/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。
18	黄橙10YR8/6	砂質シルト	マンガン粒を微量含む。	40	暗褐10YR3/3	砂質シルト	焼土粒を少量含む。炭化物粒を微量含む。
19	褐7.5YR4/3	砂質シルト	凝灰岩ブロックを微量含む。	41	灰黄褐10YR6/2	砂質シルト	
20	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロックを含む。炭化物粒を微量含む。	42	褐灰10YR6/1	砂質シルト	
21	灰白10YR7/1	砂質シルト	凝灰岩ブロック・礫を少量含む。炭化物粒を微量含む。	43	褐灰10YR6/1	砂質シルト	炭化物粒を微量含む。焼土粒を極微量含む。
22	灰褐7.5YR4/2	砂質シルト	凝灰岩ブロックを微量含む。	44	にぶい黄褐10YR7/3	砂質シルト	炭化物粒・凝灰岩ブロックを多量含む。有機物ブロックを極微量含む。

## 第2節 蟹沢地区西地点の遺構と遺物

### 蟹沢地区西地点の遺構

蟹沢地区西地点で確認した遺構は、窖窯9基・土坑6基の総計15基である。

本調査区は地滑りの影響を受け、窯跡の一部が崩落している。遺構は、Ⅱ層下面の堆積層上面・整地層上面・Ⅲ層上面で確認した。堆積層は、窯跡群周辺にのみ存在する焼土粒を特徴とするにぶい黄褐色シルトを主体とする層で、窯跡群を覆っている。窯跡内流入堆積土と近似する層である。

窯跡は調査区の中央を南北に延びる谷の北側、南斜面上方に9基並んで位置している。

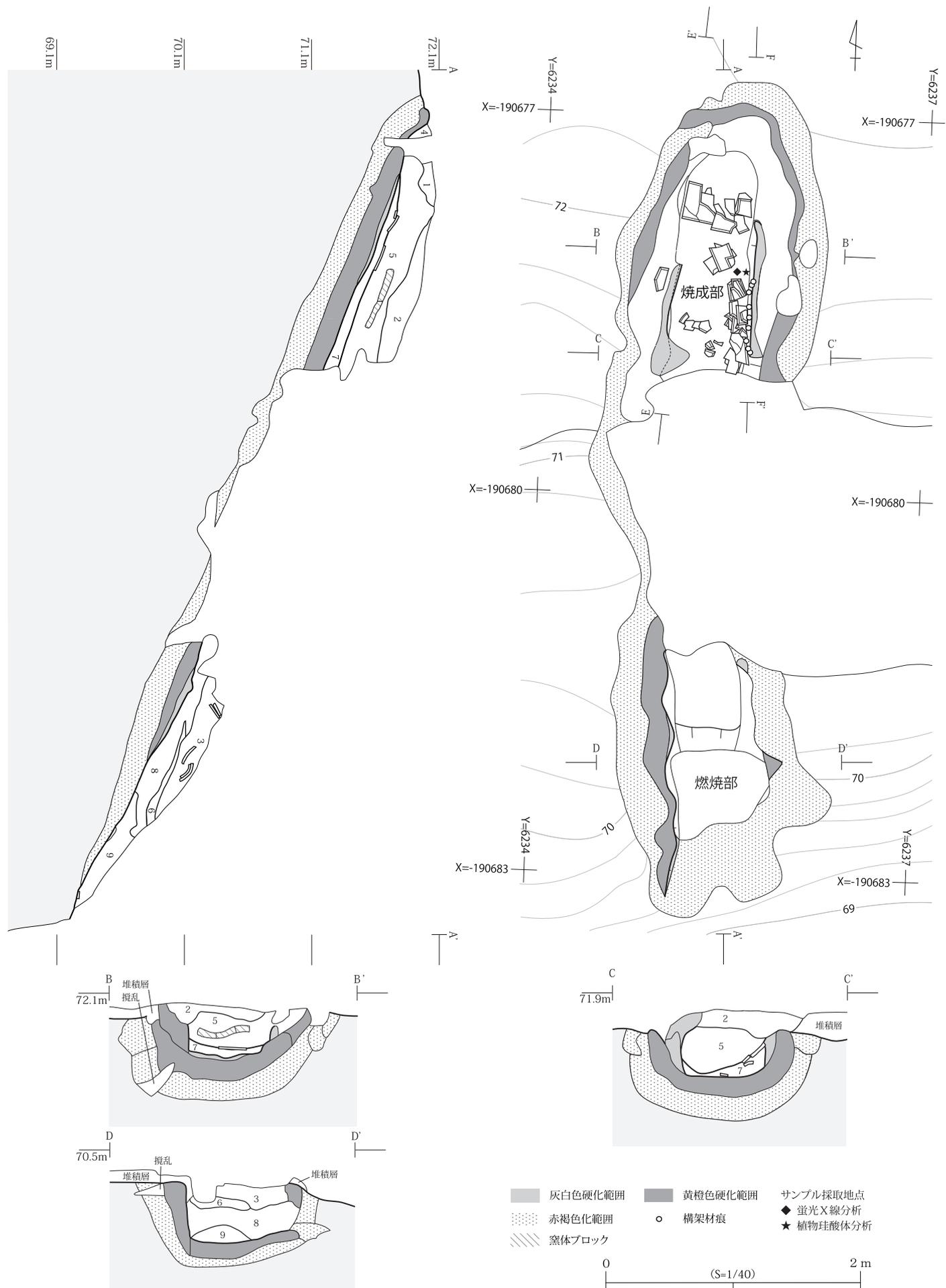
土坑は、窯の位置する北部南斜面に2基、斜面の下に2基、谷の西斜面に1基、東斜面に1基位置している。

### 窯 跡

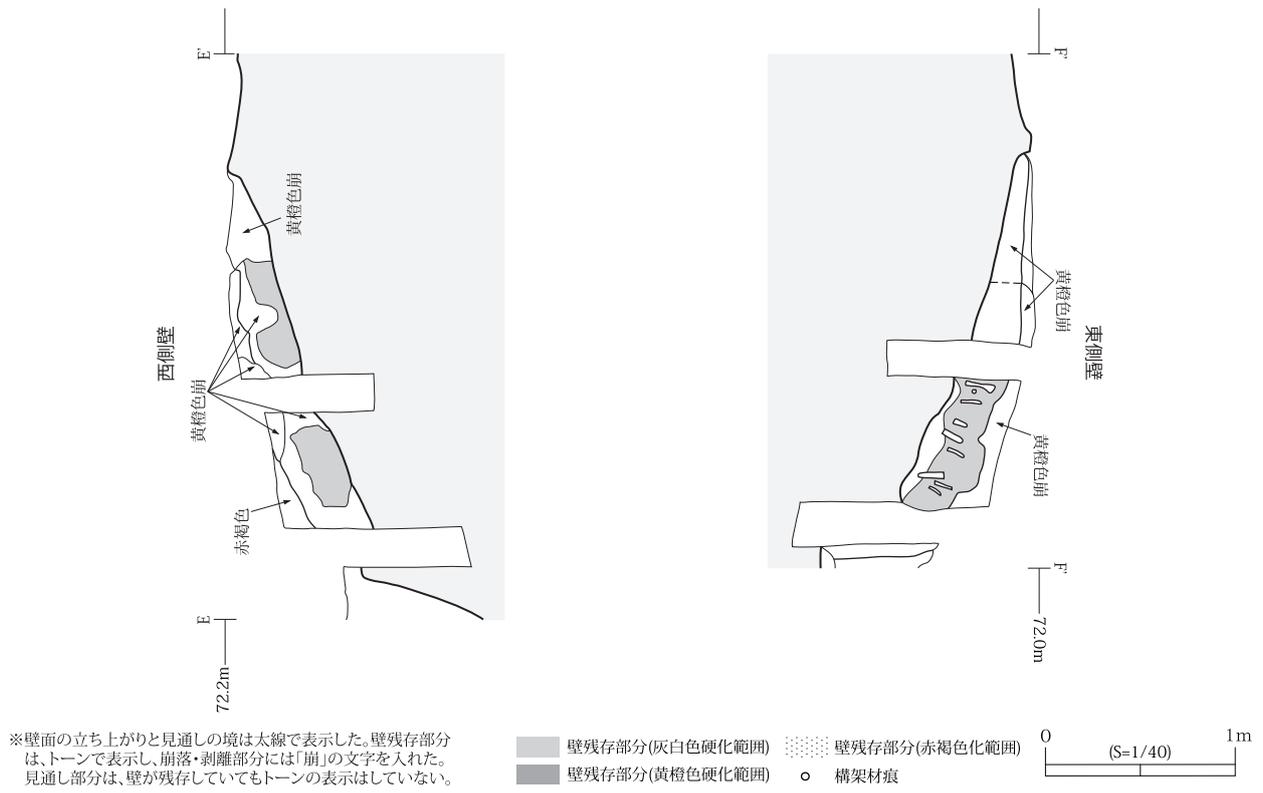
調査区の中央を南北に延びる谷の北側、南斜面上方に9基並んで位置している。確認面は、窯跡を覆う堆積層上面、整地層上面、Ⅲ層上面であるが、構築面は整地層およびⅢ層上面である。構造が確認できた窯は半地下式無階無段の窖窯である。上端部は後世の削平を受け、西側の5基は地滑りで崩落している。東側の4基は焼成部上部を欠くものの残存状態は比較的良好である。構築材は新堤地区・蟹沢地区東地点と異なり残存しないが、多数の構築材痕跡を確認した。ここで堆積層とした層は、窯跡群の周辺に存在し、窯の構築面（Ⅲ層・整地層）を覆う層である。西側の1～3号窯跡周辺と東側の7～9号窯跡周辺の2ヶ所で確認した。範囲は、西側は東西8.6m、南北3m、厚さ20cm、東側は南北12m、東西5m、厚さ15cmである。明黄褐色（7.5YR5/6）シルトを主体とし、炭化物粒と焼土粒を極めて多量に含む。この層が窯体を覆っていたために、構築面より上部の構造を明らかにすることができた。遺物は、軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・隅切瓦・土師器・須恵器が出土した。総破片数は8816点で、26点を図示した（第238図）。

#### 1号窯跡（S01）（第164～167図・第11表）

【確認状況】 調査区北部の南斜面、F-21グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、煙出口から焼成部にかけては後世の削平を受け、焼成部から燃焼部・前庭部にかけて地滑りにより崩落し東にずれる。原位置をとどめているのは、焼成部の一部分のみである。他の遺構との重複関係はなく、隣接する東側の2号窯跡との間隔は2.25mである。



第164図 1号窯跡平面図・土層断面図



層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒を少量含む。	6	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。
2	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒を少量含む。	7	暗青灰10B G 4/1	粘土	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残滓。スサを含む。
3	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒を少量含む。	8	暗青灰10B G 4/1	粘土	燃料残滓層(大別3層) 窯体の残滓。スサを含む。
4	褐7.5YR4/3	シルト	窯内堆積層(大別2層) 焼土粒を多量含む。	9	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別3層) 燃料の残滓。
5	褐7.5YR4/3	シルト	窯内堆積層(大別2層) 焼土粒を多量含む。				

第165図 1号窯跡側面図

【窯体構造】 半地下式無段の窖窯である。(階は地滑りにより不明)

【規模】 残存長 1.8m、幅 65cm、壁高 45cmである。

【中軸線の方向】 N - 4° - E

【作業面数】 2面 (A期:構築時床面、B期:細別7層上面)

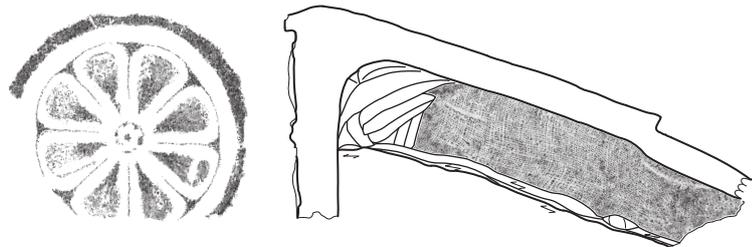
【煙出部】 削平され残存していない。

【焼成部】 壁面が大きく崩落しているが、平面形は長方形である。規模は残存長 1.8 m、最大幅 65cm、残存壁高 45cmである。床面は、2面確認した。B期は7層上面に遺物がのることから最終作業面として捉えた。その下面に構築時の床面がありA期とした。B期の床面は凹凸があり、20°の角度で傾斜する。不規則で明確ではないが、部分的に平瓦が斜面に対して横位に並ぶ箇所が認められ、焼台の列と考えられる。A期床面は凹凸があり、21°の角度で傾斜する。崩壊面の可能性もある。側壁は上部で内湾し、最上部はスサ入り粘土で構築された天井に続いていく。壁面は凹凸が多く、西壁上部では、斜面に対して平行に指ナデの痕跡が認められた (写真 21-10)。

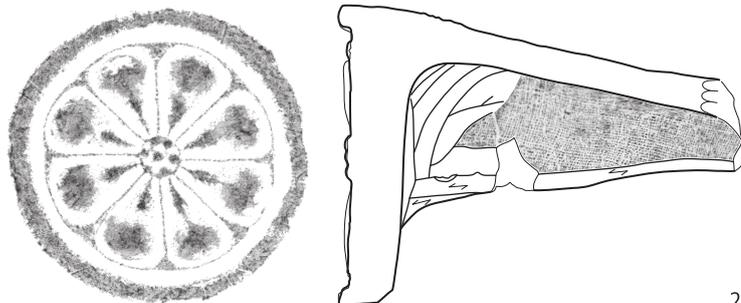
東壁で床面から壁面に沿って上部に伸びる 8本の半円形状の圧痕を確認した (写真 21-11)。構架材痕と考えられる。圧痕1本の幅は 4cm、長さ 14 ~ 32cmを測る。西壁では認められない。焼成部中央の西壁の灰白色硬化範囲の状況から、天井は壁上部からスサ入り粘土で構築されていたのを確認した。

被熱状況は、残存する壁・床面は灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(3cm)、黄褐色硬化 (20cm)、赤褐色化 (20cm) の状況を確認した。そのうち赤褐色化部分では、構築面に接する上部 20cmでは変色が見られた。また、壁の灰白色硬化と黄褐色硬化の間には、断面形が「レ」字状の焼成ひずみによる落ち込みが認められた。

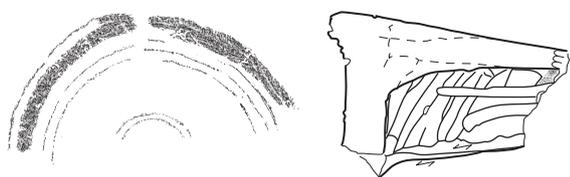
地滑りで崩落した窯体の床面は凹形にややくぼみ、26°の角度で傾斜する。壁面は残存状態の良好な西壁では垂



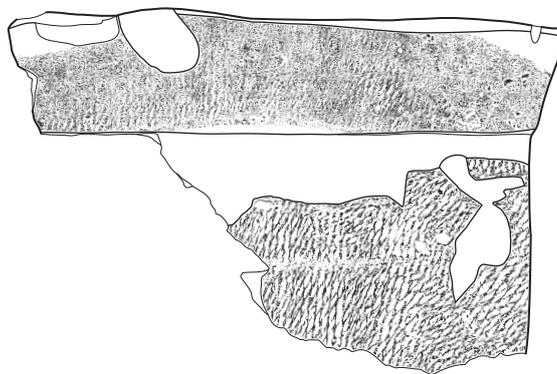
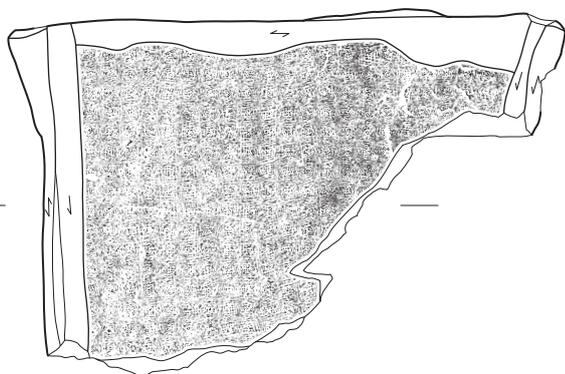
1



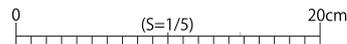
2



3

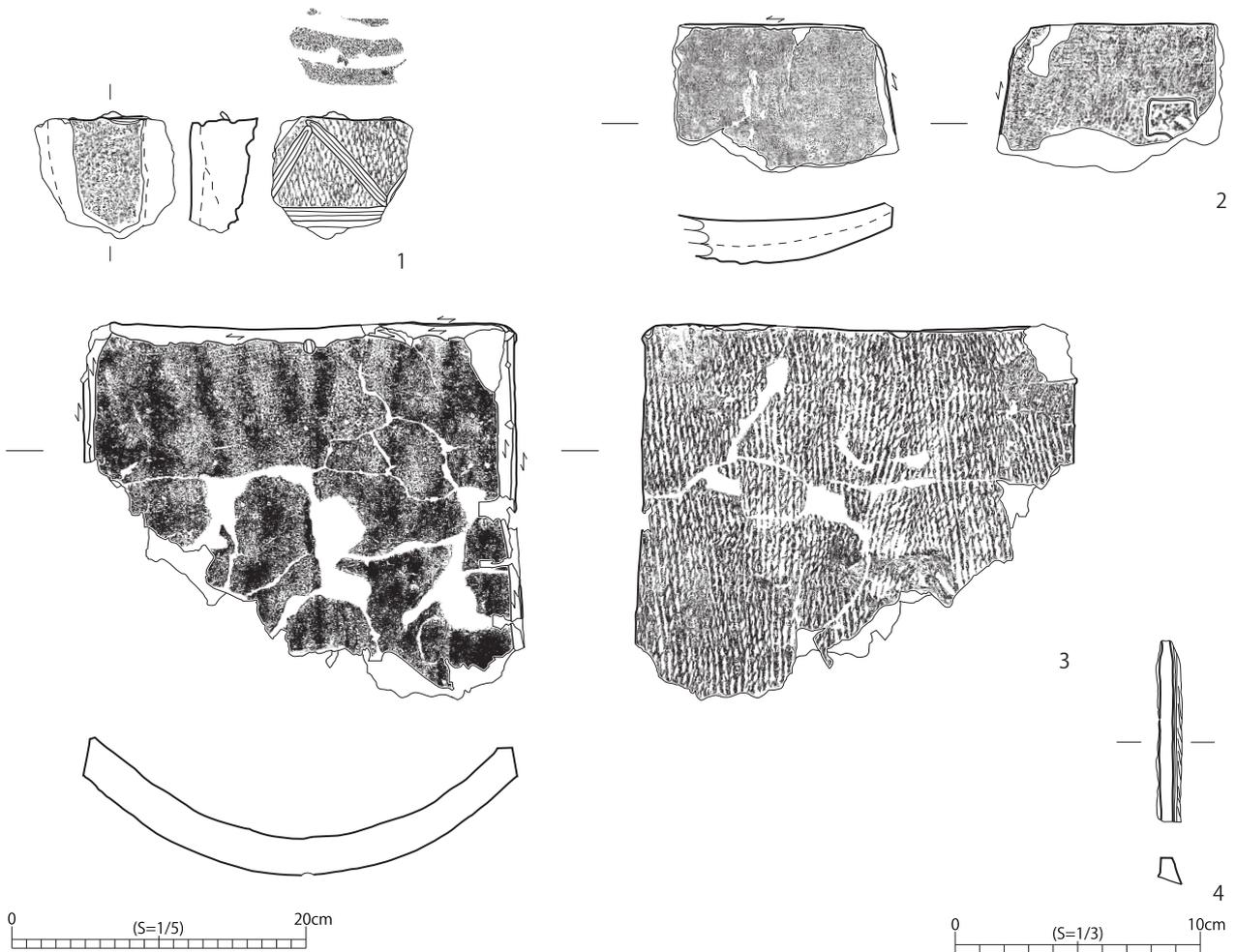


4



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号窯跡	6	軒丸瓦	36.9+	-	-	2.7 玉2.3	16.1+	3.9	瓦当面表:2.5Y 6/1 瓦当面裏:N 5/0 凹面: N 4/0 凸面: 10YR 5/1	瓦当面表: 範 瓦当面裏:ヘラケズリ→ナデ 凹面:粘土継痕→布目痕→ナデ 凸面:ロクロナデ→ヘラケズリ、ヘラナデ、頂部キザミメ状圧痕 周縁:ヘラケズリ→圧痕	F-069	47-15
2	1号窯跡 灰原	2	軒丸瓦	26.7+	-	-	2.3	19.8	3.9	瓦当面表:7.5YR4/1 瓦当面裏:5YR4/1 凹面:10YR5/1 凸面:10YR 6/1	瓦当面: 範 瓦当面裏:ヘラケズリ→ナデ 凹面:粘土継痕→布目痕→ユビナデ 凸面:ヘラケズリ→ナデ、頂部キザミメ状圧痕 周縁:ヘラケズリ→ナデ	F-070	47-14
3	1号窯跡 灰原	2	軒丸瓦	15.8+	-	-	1.4	11.0+	3.9	瓦当面:5YR 4/1 凹面:2.5Y 5/1 凸面:7.5YR 5/1	瓦当面: 範→圧痕 瓦当面裏:印籠つぎ→ナデ 凹面:布目痕→ヘラナデ→ユビナデ 凸面:ヘラケズリ→ヘラナデ 周縁:ヘラケズリ 接合面:キザミメ転写	F-071	48-1
4	1号窯跡	6	軒平瓦	25.0+	36.6	-	2.8	7.1	-	瓦当面:10R 5/1 顎面:N 5/0 凹面:2.5YR 4/1 凸面:N 4/0	瓦当面: 範 顎面:縄叩き→ナデ 凹面:糸切り痕→布目痕→ナデ 凸面:縄叩き→ナデ 周縁:側面・広端面ヘラケズリ	G-216	48-3

第166図 1号窯跡出土遺物(1)



番号	遺構名 グリッド	層位	種別	最大長 (cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	厚さ (cm)	瓦当面 長さ(cm)	瓦当面 厚さ(cm)	色調	成形・調整 備考	登録 番号	写真 図版
1	1号窯跡 灰原	1	軒平瓦	8.5+	9.0+	-	-	4.6	-	瓦当面：10YR 6/2 顎面：2.5Y 5/1 凹面：5Y 5/2	瓦当面：ヘラケズリ→ヘラ描き重弧文 顎面：縄叩き→ヘラ描き鋸歯文 凹面：自然釉のため不明 周縁：ヘラケズリ	G-217	48-2
2	1号窯跡	5	平瓦	10.1+	-	12.7+	2.9	-	-	凹面：2.5YR 4/1 凸面：5YR 4/1	凹面：ナデケシ 凸面：縄叩き→ナデ 周縁：側面・広端面ヘラケズリ 凸面：方形突出 床面直上(7層上面)出土	G-218	48-5
3	1号窯跡	5	平瓦	25.9+	-	26.9 (28.8)	2.7	-	-	凹面：5YR5/3 凸面：10YR5/1	凹面：布目痕→ナデ 凸面：縄叩き→一部ナデ→圧痕 周縁：側面・狭端面ヘラケズリ→狭端面圧痕 床面直上(7層上面)出土	G-219	48-4
番号	遺構名 グリッド	層位	種別 器形	口径 長さ(cm)	底径 幅(cm)	器高 厚さ(cm)	重さ (g)	色調	成形・調整	登録 番号	写真 図版		
4	1号窯跡	3	須恵器 甗	(7.4)	-	1.0	-	外面：7.5R4/2 内面：10R4/2	硯面：周縁ヘラケズリ→ナデ 内面：欠損	E-028	48-6		

第167図 1号窯跡出土遺物(2)

直に立ち上がるが、天井の構架材、構架材痕は認められなかった。残存する壁・床面は灰白色硬化し、壁面は凹凸である。

【 燃 焼 部 】 地滑りで崩落していた。残存する平面形は方形である。残存長 1.4m、最大幅 70cm である。床面は緩い段が認められるが、構造的に有階なのか、崩落によるものなのか不明である。40°の角度で傾斜する。壁は東側は崩落し、西側で残存するが、構架材痕は認められなかった。一部で平瓦が並べられた痕跡があるが、多くは散在し焼台の列は確認できなかった。

被熱状況は、壁は灰白色硬化していたが、床面は大きく崩落し、斑状に残存する部分はやや灰白色硬化している。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化(1cm)、黄橙色硬化(12cm)、赤褐色化(15cm)の状況を確認した。

【 前 庭 部 】 地滑りにより崩落し不明である。

【 堆 積 層 】 崩落していない焼成部では、大別3層、細別9層を確認した。大別1層は焼土粒を含むにぶい黄褐色シルトの窯体崩壊後の流入堆積層、大別2層は天井崩落材・焼土粒を多量に含む褐色シルトの窯体崩落層、

大別3層は暗褐色スサ入り粘土と黒色シルトの燃料残滓層である。そのうち、大別3層上面では瓦が確認でき、燃料残滓の黒褐色シルトが堆積していることから床面と考え、最終操業面とした（B期）。また、大別3層下面にも構築時の床面（A期）があることから操業面2面を確認した。

【灰原】 崩落した窯体の両側に黒色シルト層を確認した。東側は地滑りの黄褐色シルトで覆われ、南北45cm、東西1m、厚さ50cmの範囲で確認した。西側は窯体より1m離れたところに土坑状に残存している。南北1.55m、東西2m、厚さ50cmの範囲である。これらの層は崩落涯下の1号灰原aに続くと思われる。

【出土遺物】 軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・熨斗瓦・硯が出土した。総破片数は186点で、8点を図示した。大別1層より風字硯、大別2層より重弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、大別3層上面より凸面に方形突出のある平瓦が出土している。また、灰原3層より重弁蓮華文軒丸瓦、重圈文軒平瓦が出土している。

## 2号窯跡（SO2）（第168～171図・第11表）

【確認状況】 調査区北部の南斜面、F-21グリッドに位置する。Ⅲ層上面で確認した。残存状態は悪く、煙出部から焼成部にかけて後世の削平を受け、焼成部から燃焼部・前庭部も地滑りにより大きく2段に崩落している。焼成部の一部のみが、原位置をとどめている。崩落した窯体は西にずれ、崩落涯の底まで落ちている。Ⅲ層を床面とし、壁と天井をスサ入り粘土で構築している。他の遺構との重複関係はなく、隣接する窯との間隔は西側の1号窯跡で2.25m、東側の3号窯跡で1.5mである。

【窯体構造】 半地下式無段の窖窯である。（地滑りのため階は不明）

【規模】 残存長1.7m、幅60cm、壁高45cmである。

【中軸線の方向】 N - 1° - E

【操業面数】 2面（A期構築時床面、B期細別6層上面）

【煙出部】 削平されて残存していない。

【焼成部】 平面形は、長方形である。残存長1.7m、最大幅60cm、残存壁高45cmである。床面は2面確認した。B期は、6層上面に遺物がのることから最終操業面と捉えた。6層は窯体崩落層で、床に還元面がないので床の崩壊土ともとれるが、下面の床硬化面をA期とした。B期床面は凹凸があり、22°の角度で傾斜する。一部で瓦が並べられた痕跡があるが、焼台の列は明確ではない。床面の内部から中軸線に対して斜行する材の痕跡を検出した。A期床面は凹凸があり、22°の角度で傾斜する（写真22-6）。崩落面の可能性もある。壁のほとんどは崩落しているが、残存部ではほぼ垂直に立ち上がり、上部で内湾し天井に続いている。構架材痕は確認されなかった。天井は側壁上部からスサ入り粘土で構築されており、堆積土中に崩落した厚さ約5cmのドーム状の天井部が検出された（写真22-2）。被熱状況は床面の灰白色硬化の範囲は少なく、黄橙色硬化の部分が多くを占める。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化（6cm）、黄橙色硬化（15cm）、赤褐色化（15cm）している状況を確認した。

【燃焼部】 地滑りで崩落しているが形状を保っている。平面形は、焚口側がやや開く方形をしている。残存長1.8m、最大幅70cmである。床面は凹凸がみられ、21°の角度で傾斜する。壁面は西側は内湾し、東側では外側に開いている。構架材痕は確認されなかった。

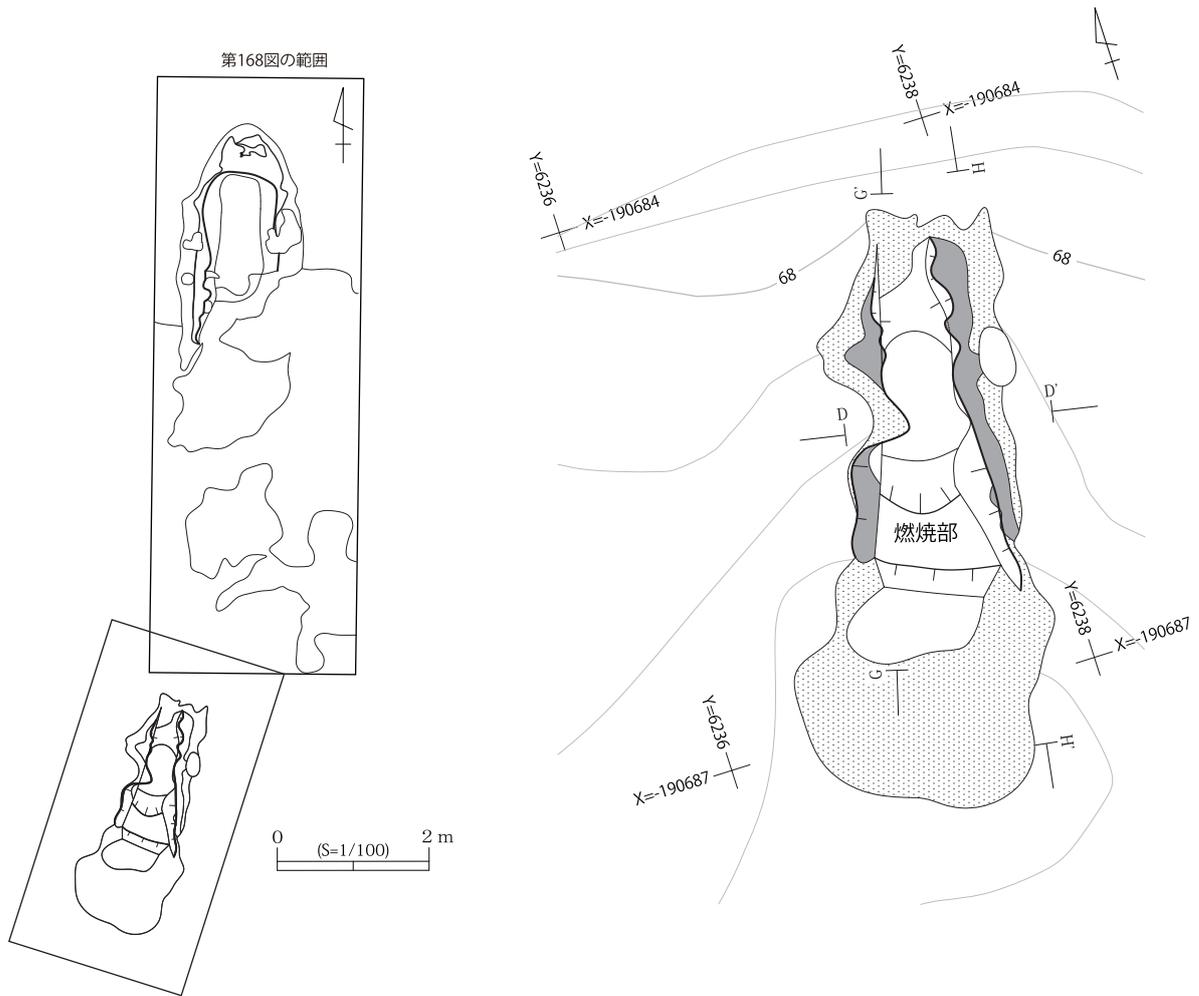
被熱状況は、床面の灰白色硬化の範囲は少なく黄橙色硬化面が多くを占め、壁は灰白色硬化が多くを占めている。窯体の断ち割り調査では、内側から外側へ灰白色硬化（15cm）、黄橙色硬化（4cm）、赤褐色化（4cm）している状況を確認した。

【前庭部】 窯体が崩落していたため残存していない。

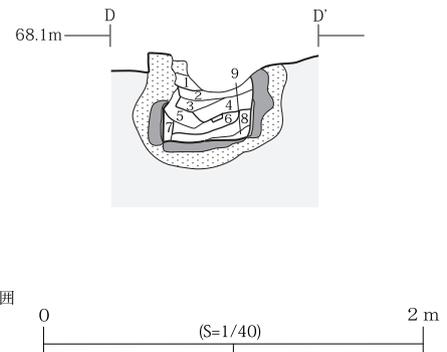
【堆積層】 崩落していない焼成部では、大別2層、細別6層を確認した。大別1層は焼土粒を多量に含むにぶい黄褐色シルトの流入堆積土、大別2層は天井崩落材、焼土粒を多量に含む褐色シルトとスサ入り粘土の窯



第168図 2号窯跡平面図・土層断面図



2号窯跡検出状況



2号窯跡

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	流入堆積層(大別1層) 焼土粒を多量含む。被熱粘土ブロック粒を少量含む。	4	褐7.5YR4/6	粘土	窯体崩落層(大別2層) スサ入り粘土ブロックを多量含む。
2	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	窯体崩落層(大別2層)	5	褐7.5YR4/3	シルト	窯体崩落層(大別2層) 焼土粒を少量含む。
3	褐7.5YR4/6	粘土	窯体崩落層(大別2層) スサ入り粘土ブロックを多量含む。	6	褐10YR4/4	粘土	窯体崩落層(大別2層) スサを含む。

2号窯跡崩落部分

層位	土色	土性	特徴	層位	土色	土性	特徴
1	にぶい黄褐10YR5/4	砂質シルト	燃料残滓層(大別1層) 焼土粒を微量含む。シルト(灰黄褐)をごく微量含む。	6	褐10YR4/4	粘土質シルト	燃料残滓層(大別1層) 焼土粒・礫を微量含む。シルト(灰白)を極微量含む。
2	黒褐10YR2/2	シルト	燃料残滓層(大別1層) 炭化物を少量含む。粘土(灰黄褐)・焼土粒を微量含む。	7	黒褐10YR3/1	シルト	燃料残滓層(大別1層) 焼土粒・礫を微量含む。シルト(にぶい黄褐)をごく微量含む。
3	黒褐10YR3/2	シルト	燃料残滓層(大別1層) 焼土粒を微量含む。シルト(黒褐)をごく微量含む。	8	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別1層) 炭化物ごく多量含む。被熱粘土ブロック・シルト(灰白)を微量含む。
4	黒褐10YR3/2	シルト	燃料残滓層(大別1層) シルト(灰白)・焼土粒を微量含む。	9	黒10YR2/1	シルト	燃料残滓層(大別1層) 炭化物ごく多量含む。シルト(灰白)を少量含む。被熱粘土ブロックを微量含む。
5	にぶい黄褐10YR4/3	シルト	燃料残滓層(大別1層) 礫を少量含む。焼土粒をごく微量含む。				

第169図 2号窯跡燃焼部崩落部分平面図・土層断面図